

琵琶湖博物館業績目録

第 16 号

2011 年度

滋賀県立琵琶湖博物館 編

滋賀県立琵琶湖博物館

2012 年 8 月

Performance Records of the Lake Biwa Museum, No. 16

From April 2011 to March 2012

Edited by the Lake Biwa Museum (Chief editor: NAKATO, Yoko)

Published by the Lake Biwa Museum

Oroshimo-cho 1091, Kusatsu, Shiga 525-0001, Japan

© Lake Biwa Museum, August 2012

All rights reserved

目 次

収録内容	3
館長		
篠原 徹	SHINOHARA, Toru	5
上席総括学芸員		
用田 政晴	YODA, Masaharu	9
高橋 啓一	TAKAHASHI, Keiichi	12
グライガー, マーク J.	GRYGIER, Mark Joseph	16
環境史研究担当		
山川千代美	YAMAKAWA, Chiyomi	22
里口 保文	SATOGUCHI, Yasufumi	25
草加 伸吾	KUSAKA, Shingo	29
奥村 浩匡	OKUMURA, Hirotada	32
橋本 道範	HASHIMOTO, Michinori	34
宮本 真二	MIYAMOTO, Shinji	37
楊 平	YANG, Ping	40
老 文子	OI, Fumiko	44
生態系研究担当		
松田 征也	MATSUDA, Masanari	47
桑原 雅之	KUWAHARA, Masayuki	51
八尋 克郎	YAHIRO, Katsuro	54
碓 登志之	HAZAMA, Toshiyuki	58
亀田佳代子	KAMEDA, Kayoko	61
芳賀 裕樹	HAGA, Hiroki	66
楠岡 泰	KUSUOKA, Yasushi	68
中井 克樹	NAKAI, Katsuki	72
芦谷美奈子	ASHIYA, Minako	82
榊永 一宏	MASUNAGA, Kazuhiro	84
スミス, ロビン J.	SMITH, Robin James	87
菅原 和宏	SUGAHARA, Kazuhiro	90
博物館学研究担当		
寺尾 尚純	TERAO, Naozumi	92
秋山 廣光	AKIYAMA, Hiromitsu	94
戸田 孝	TODA, Takashi	97
大塚 泰介	OHTSUKA, Taisuke	100
中藤 容子	NAKATO, Yoko	105

金尾 滋史	KANAO, Shigefumi	109
澤邊久美子	SAWABE, Kumiko	117
大依 久人	OHYORI, Hisato	120
藤橋 和弘	FUJIHASHI, Kazuhiro	123
嘱託員		
藤岡 千裕	FUJIOKA, Chihiro	126
山田 陽子	YAMADA, Yoko	128
渡邊 潤子	WATANEBE, Junko	130
名誉学芸員		
川那部 浩哉	KAWANABE, Hiroya	132
布谷 知夫	NUNOTANI, Tomoo	135
中島 経夫	NAKAJIMA, Tsuneo	139
前畑 政善	MAEHATA, Masayoshi	141
特別研究員		
天野 一葉	AMANO, Hitoha	143
植田 文雄	UEDA, Fumio	145
柏尾 珠紀	KASHIWAO, Tamaki	146
北村 美香	KITAMURA, Mika	147
黒岩 啓子	KUROIWA, Keiko	149
鈴木 隆仁	SUZUKI, Takahito	152
辻川 智代	TSUJIKAWA, Tomoyo	153
中井 大介	NAKAI, Daisuke	155
中野 正俊	NAKANO, Masatoshi	157
林 博通	HAYASHI, Hiromichi	158
牧野 厚史	MAKINO, Atsushi	159
朱 偉	ZHU, Wei	160
総合研究・共同研究による印刷物		162
2011 年度の研究活動をふりかえって		165

収録内容

1. この業績目録には、滋賀県立琵琶湖博物館の学芸職員および嘱託員、特別研究員等の2011年4月から2012年3月までの内容が収録されています。
2. この業績目録には、次の項目に該当する業績を収録しました。

一年間の研究

印刷物

- 【学術論文】
- 【専門分野の著作】
- 【一般向けの著作】
- 【これまでの業績集に掲載されていない著作】

研究活動に関する業績

- 【学会・研究会での発表】
- 【インターネットページでの公表】
- 【研究プロジェクト等への参加】
- 【学会等の役職・運営、論文の査読など】
- 【大学の講義・実習、学生の指導など】
- 【受賞など】

博物館事業に関する業績

- 【交流・サービス事業】
 - 琵琶湖博物館の主催行事
 - 他の博物館・機関等主催行事
 - 視察対応
 - メディアへの協力
- 【情報整備活動】
 - 琵琶湖博物館の活動
 - 他博物館・機関の活動
- 【資料整備活動】
 - 琵琶湖博物館の活動
 - 他博物館・機関の活動

【展示活動】

琵琶湖博物館の活動

他博物館・機関の活動

【企画調整活動】

【研究部関連事業】

館内の人事・館外活動等に関すること

【館内の人事】

【海外渡航】

【館外の活動】

印刷物

【学術論文】

篠原 徹・西谷 大 (2011) 野生植物と栽培植物の境界と生業との関係性. *国立歴史民俗博物館研究報告*, 164, 国立歴史民俗博物館, 千葉県: 7-33.

篠原 徹 (2012) 動植物をめぐる俗信とことわざと俳諧. *国立歴史民俗博物館研究報告*, 174, 国立歴史民俗博物館, 千葉県: 235-246.

【一般向けの著作】

篠原 徹 (2011) 自然科学の極北にある知. *HUMAN 知の森へのいざない*, 1, 人間文化研究機構, 角川学芸出版, 東京都: 94-98.

篠原 徹 (2011) 雑木林のなかの生活—日韓比較民俗自然誌への試み—. 小池淳一 代表, *平成21年度国立歴史民俗博物館 国際研究集会成果報告書 民俗のなかの植物—日韓比較の視点から—*, 国立歴史民俗博物館, 千葉県: 9-18.

鹿熊 勤・篠原 徹 (2011) 蓮 草津市立水生植物公園みずの森 漣文化が生んだ「観蓮」の面影を世界の水草とともに楽しむ. *サライ*, 5月号, 小学館, 東京都: 42.

篠原 徹 (2011) まえがき. 滋賀県立琵琶湖博物館 編, *生命の湖 琵琶湖をさぐる*, 文一総合出版, 東京都: 2-3.

篠原 徹 (2011) 日本探検「近江菅浦」がめざしたもの. *KAWADE 夢ムック文藝別冊 梅棹忠夫—地球時代の地の巨人—*, 河出書房新社, 東京都: 14-19.

篠原 徹 (2011) あたりまえの地名の不思議さ (全6巻推薦のことば). 黒田祐一 著, *身近な地名で知る日本*, 小峰書店, 東京都: パンフレット.

篠原 徹 (2011) 湖岸より 107 仲買の実態と金魚酒. *中日新聞*, 中日新聞社: 2011年4月30日.

篠原 徹 (2011) まえがき. *琵琶湖博物館研究調査報告 滋賀県のチョウ類の分布*, 27, 滋賀県立琵琶湖博物館: 1.

篠原 徹 (2011) はじめに. *琵琶湖博物館第19回企画展示 展示解説書「こまった! カワウ—生きものとのつき合い方—*」, 滋賀県立琵琶湖博物館: 4-5.

篠原 徹 (2011) 湖岸より 118 近江は俳諧・俳句の故郷. *中日新聞*, 中日新聞社: 2011年7月16日.

篠原 徹 (2011) ごあいさつ. *琵琶湖博物館年報*, 15, 滋賀県立琵琶湖博物館: 1-2.

篠原 徹 (2011) 湖岸より 129 東西二つの集落が関与. *中日新聞*, 中日新聞社: 2011年10月1日.

篠原 徹 (2011) ここだけの湖の話～琵琶湖博物館の研究室から～24 疎水から総合開発まで. *毎日新聞*, 毎日新聞社: 2011年10月6日.

篠原 徹 (2011) 記憶する世界と歩く世界—宮本常一の旅と思想—. *現代思想*, 15 (39), 青土社, 東京都: 120-132.

篠原 徹 (2011) ここだけの湖の話～琵琶湖博物館と世界のフィールドから～3 中国雲南省の生業と景観. *毎日新聞*, 毎日新聞社: 2011年11月17日.

篠原 徹 (2011) 湖岸より 140 彦根屏風とバックギャモン. *中日新聞*, 中日新聞社: 2011年12月17日.

篠原 徹 (2011) 琵琶湖と農と漁. *暮らしにあるほんとうの宝～琵琶湖の世界的価値についての報告書～*, 琵琶湖の世界的価値を考える会, 滋賀県企画調整課政策調整担当, 滋賀県: 31.

篠原 徹 (2012) 畏怖と共感の自然を詠む 総力特集東北大震災から一年 スペシャルエッセイ自然を詠む 人間を詠む. *俳句*, 3月号, 角川学芸出版, 東京都: 82-83.

篠原 徹 (2012) 湖岸より 150 湖東に残る条里の跡. *中日新聞*, 中日新聞社: 2012年3月3日.

篠原 徹 (2012) 動植物をめぐる俗語と俳諧. 花部英雄・松本孝三 編, *昔話を知る 語りの講座*, 三弥井書店, 東京都: 161-184.

篠原 徹 (2012) 島はいつも青春. 国立歴史民俗博物館 松尾恒一 編, 琉球弧—海洋をめぐるモノ・人、文化—, 岩田書院, 東京都: 149-152.

研究活動に関する業績

【学会・研究会での発表】

篠原 徹 (2011年4月15日) 里山をめぐる諸問題. 琵琶湖博物館研究セミナー, 琵琶湖博物館, 琵琶湖博物館 (滋賀県草津市), [講演].

篠原 徹 (2011年7月30日) 故郷の精神誌. 第63回日本民俗学会年会プレシンポジウム 文化的景観と原風景, 日本民俗学会, 琵琶湖博物館 (滋賀県草津市), [講演].

篠原 徹 (2012年3月9日) 大学共同利用機関と共同研究—問題発見型と問題解決型の共同研究をめぐる—. 第7回公開研究会, 神奈川大学国際常民文化研究機構 特色ある共同研究拠点の整備の推進事業 共同研究の有りかたの公開研究会, 神奈川大学横浜キャンパス (神奈川県横浜市), [講演].

【学会等の役職・運営、論文の査読など】

滋賀県立大学, 博士論文審査会, 審査, 1件.

【大学の講義・実習、学生の指導など】

2011年9月3日～5日, 熊本大学文学部地域科学特殊講義A (前期), 「民俗資料論」.

2011年12月12日, 龍谷大学国際文化学部観光経営論 (後期), 「不思議な場と時間—文化財・博物館そしてフィールドワーカー」.

博物館事業に関する業績

【交流・サービス事業】

琵琶湖博物館の主催行事

質問コーナー 2件、フロアトーク 4件, 琵琶湖博物館.

2011年4月29日～6月12日, ごあいさつ. ギャラリー展示「化石が語る350万年前の生きものたち」, 琵琶湖博物館, パネル.

2011年7月1日, 琵琶湖博物館お出かけ公開生放送「私の15年」, エフエム滋賀 e-radio R S 3 6 0 琵琶湖再発見事業・あさ、ひる、ばん 博物館を楽しもう!, 琵琶湖博物館, ラジオ出演.

2011年7月30日, 博物館実習, 琵琶湖博物館, 挨拶.

2011年11月13日, 琵琶湖博物館第19回企画展示「こまった! カワウ—生きものとのつきあい方—関連シンポジウム こまった! カワウ わかった?! カワウ—カワウと人の過去・現在・未来—, 琵琶湖博物館, 開会挨拶.

2011年11月28日, シーボルトコレクション国際会議, 琵琶湖博物館, 開会挨拶.

2011年12月4日, 淡海こどもエコクラブ活動交流会・表彰式, 琵琶湖博物館, オブザーバー・選考委員.

2011年12月23日, 滋賀県博物館協議会研修会「地域の宝は地域で守ろう! —文化財の現地保存を歴史から考える—」, 琵琶湖博物館, 挨拶.

2011年12月25日, 文化庁ミュージアム活性化支援事業 連携講座「琵琶湖 自然と文化」第1回『魚と人』, 安土城考古博物館 (近江八幡), 開会挨拶.

2012年1月21日, 文化庁ミュージアム活性化支援事業 連携講座「琵琶湖 自然と文化」第2回『太古の人と動物が来た道』, 琵琶湖博物館, 開会挨拶.

2012年2月4日, 新琵琶湖学セミナー「時空を超えて湖と人の関係性をみる」, 琵琶湖博物館, 開講挨拶.

2012年2月25日, 滋賀県の生活文化史—俳句にみる魚—, 新琵琶湖学セミナー, 琵琶湖博物館, 講演.

2012年3月6日、滋賀県博物館協議会研修会・情報交換会「東日本大震災における文化財レスキュー活動—民俗資料を中心に—」、琵琶湖博物館、開会挨拶。

他の博物館・機関等主催行事

2011年6月19日、農用林としての里山と暮らし、群馬歴史民俗研究会、創立30周年記念シンポジウム歴史・民俗からみる環境と暮らし、前橋市民文化会館（群馬県）、基調講演。
2011年6月22日、滋賀県の植生と暮らしの民俗・歴史、滋賀県教育委員会文化財保護課、滋賀県民俗行事まると調査員説明会及び講演会、琵琶湖博物館、講演。
2011年7月30日、第63回日本民俗学会年会プレシンポジウム 文化的景観と原風景、琵琶湖博物館、挨拶。
2011年7月31日、日本におけるネイティブ人類学／民俗学の成立文化運動1930年代～1960年代まで、国立民族学博物館共同研究会、琵琶湖博物館、コメント。
2011年8月6日、自然とむきあう、福崎町教育委員会、柳田國男50年祭・第32回山桃忌～町制55周年記念事業～柳田國男と福崎 シンポジウム 21世紀と柳田國男、福崎町文化センターエルデホール（兵庫県）、講演。
2011年8月29日、東北学院大学博物館実習、琵琶湖博物館、挨拶。
2011年9月16日、近江の暮らしと景観—俳諧・俳句にあらわれる造化—、滋賀県桜美会、第38回総会、草津エスピアホテル（草津市）、講演。
2011年11月22日、滋賀県試験研究機関研究発表会 琵琶湖流域の環境を追う～物質の流れに着目したアプローチ～、琵琶湖と滋賀県の環境に関する試験研究機関連絡会議、琵琶湖博物館、開会挨拶。
2012年1月14日、水辺の保全と琵琶湖の未来可能性、総合地球環境学研究所、第10回地球研地域連携セミナー、ピアザ淡海（大津市）、開会挨拶。

視察対応

2011年4月19日、外務省関西総領事館視察下見、挨拶。
2011年5月10日、外務省関西総領事館滋賀県視察、挨拶。
2011年5月20日、ミャンマー文化省考古・博物館・図書館局視察、挨拶。
2011年10月19日、ガボン人類科学研究所視察、挨拶。
2011年11月22日、台北駐日経済代表処・台湾国家科学委員会張副大臣、挨拶。
2011年11月24日、武庫川女子大学学生見学、挨拶。

メディアへの協力

2011年6月8日、京都新聞、取材ノートから 開館15年の琵琶湖博物館 展示どうリニューアル、インタビュー、(2011年5月31日取材)。
2011年8月18日、京都新聞、秋の虫 お題に一句 観察も 琵琶湖博物館ユニーク企画、(2011年8月9日取材)。
2011年10月15日、京都新聞、新聞大会 新聞にのぞむもの、インタビュー、(2011年9月15日取材)。

【資料整備活動】

琵琶湖博物館の活動

2012年1月19日、岡村喜明氏 化石・鉱物・岩石標本資料受贈（1998～2009）、琵琶湖博物館、感謝状贈呈。

【企画調整活動】

JICA 博物館学集中コース、開講式、挨拶、2011年7月20日、琵琶湖博物館。

館内の人事・館外活動等に関すること

【館外の活動】

尾瀬賞保護財団運営委員会、委員。

公益信託四方記念地球環境保全研究助成基金運営委員会, 委員.
家畜資源研究会, 個人会員.
環境省環境研究総合推進費第5研究分科会〈持続可能な社会・政策研究〉, 委員.
国立歴史民俗博物館, 名誉教授.
国立歴史民俗博物館総合展示第4室リニューアル委員会, 委員.
滋賀県基本構想審議会, 委員.
滋賀県博物館協議会, 会長.
滋賀県文化振興事業団, 個人会員.
生態人類学会, 会員.
総合研究大学院大学, 名誉教授.
日本学術振興会特別研究員等審査会, 委員.
日本民俗学会, 会員.
日本民俗学会第63回年会実行委員会, 委員長.
びわ湖クルーズ・ソーラーボート大会, 顧問.
琵琶湖統合研究推進会議, 委員.
琵琶湖の世界的価値を考える会, 委員.
兵庫県立歴史博物館運営懇話会, 座長.
滋賀県ミュージアム活性化推進委員会, 会長.

この数年間は、近江の前方後円墳を中心とする古墳時代首長墓と中世山岳寺院の研究、湖上交通史の考古学的研究や琵琶湖の民具資料を扱った考古民俗学的方法論の開発研究を中心的な研究テーマにしている。

2011年度は、特に古墳時代首長墓の実態を旧郡ごとに把握する中で琵琶湖をめぐる支配や領域をさぐる研究の成果として、高島市熊野本古墳群を主な素材に調査を進め、前期小型前方後円墳・前方後方形墳丘墓の史的位置に関する論文をとりまとめつつあるし、昨年度に調査した長浜市若宮山古墳の埴輪を中心とした史的位置を明らかにした論文は、『琵琶湖と地域文化』に掲載した。

また、館内共同研究者と共に行っている水環境施設に関わる民俗・社会学的調査研究成果の一環として、太湖水系における家船を琵琶湖との比較の中での評価した原著論文を公表した。その他、中日新聞の連載コラム『湖岸より』、毎日新聞連載コラム『ここだけの湖の話』のとりまとめや執筆も担当した。さらには、年度末に滋賀県琵琶湖環境部が中心となってまとめつつある『琵琶湖ハンドブック』改訂版の編集委員として、館内執筆項目のとりまとめと一部事項の執筆を行った。

10 数年間にわたって整理調査作業を行った琵琶湖博物館民具資料を用いた科学研究費補助金事業による方法論開発研究は最終年度となり、その成果は『民具を科学する』と題したギャラリー展示を開催し、その図録も共同研究者等とともにとりまとめることができた。また、新たに琵琶湖と中国・太湖の水環境施設の比較民俗調査の共同研究をはじめることになり、住民参加による生物総合調査法の開発研究の科研費事業では、中国・湖南省博物館等で比較研究のための調査を実施した。

その他、中国・洞庭湖・長江中流域での漁撈民俗調査、韓国国立中央博物館調査、愛媛県などにおける民具調査公開方法論研究も実施したし、何よりも東日本大震災に伴う派遣事業に従事する中で、残された文化財資料の保存の在り方についても考察することができた。

なお、一昨年度に刊行した著書『湖と山をめぐる考古学』の書評が、昨年は日本の考古学界を代表する機関誌『日本考古学』に掲載・紹介され、これまでに刊行した著書3冊すべての書評が、『民具研究』『考古学研究』『日本考古学』にそれぞれ載ったことになったが、さらに今年度は『季刊考古学』にも時枝務先生による書評が掲載された。

印刷物

【学術論文】

用田政晴（2011）太湖の家船と琵琶湖の「家船」．*淡海文化財論叢*，3，淡海文化財論叢刊行会：254-259.

用田政晴（2011）前期小形前方後円墳の史的位置．*琵琶湖と地域文化*（林博通先生退任記念論集），サンライズ出版：33-40.

用田政晴（2012）民具資料の整理－考古民俗学的方法論の試み－．*民具研究*，145，日本民具学会：51-60.

【専門分野の著作】

用田政晴（2012）民具を科学する．*民具を科学する-明治の絵図と現代の実測図から見た近江の民具-*，滋賀県立琵琶湖博物館：1.

用田政晴（2012）船の道具．*民具を科学する-明治の絵図と現代の実測図から見た近江の民具-*，滋賀県立琵琶湖博物館：18-21.

用田政晴（2012）民具研究の新しい試み．*民具を科学する-明治の絵図と現代の実測図から見た近江の民具-*，滋賀県立琵琶湖博物館：24.

【一般向けの著作】

用田政晴（2011）琵琶湖運河構想の歴史と本質．滋賀県立琵琶湖博物館 編，*生命の湖 琵琶湖をさぐる*，文一総合

出版，東京都：164-165.

用田政晴 (2011) ここだけの湖の話～琵琶湖博物館の研究室から～13 小谷城 最後の中世山城だった. *毎日新聞*, 毎日新聞社：2011年4月21日.

用田政晴 (2011) 湖岸より 108 はやぶさの奇跡に学ぶ. *中日新聞*, 中日新聞社：2011年5月7日.

用田政晴 (2011) 湖岸より 121 東日本大震災を生き抜いた古墳. *中日新聞*, 中日新聞社：2011年8月6日.

用田政晴 (2011) 湖岸より 131 琵琶湖と洞庭湖の歴史的関係. *中日新聞*, 中日新聞社：2011年10月15日.

用田政晴 (2011) ここだけの湖の話～琵琶湖博物館と世界のフィールドから～1 アジアの琴湖と琵琶湖. *毎日新聞*, 毎日新聞社：2011年10月20日.

用田政晴 (2011) 湖岸より 135 二つの博物館とその歴史的背景. *中日新聞*, 中日新聞社：2011年11月12日.

用田政晴 (2011) 湖岸より 141 民俗学と考古学の融合. *中日新聞*, 中日新聞社：2011年12月24日.

用田政晴 (2012) 湖岸より 151 道城と湖城 中世から近世へ. *中日新聞*, 中日新聞社：2012年3月10日.

用田政晴 (2012) 湖上交通史. *琵琶湖ハンドブック改訂版*, 滋賀県：50-51.

研究活動に関する業績

【学会・研究会での発表】

用田政晴 (2011年5月20日) 小谷城の体系的構造と史的評価. 琵琶湖博物館研究セミナー, 琵琶湖博物館, 琵琶湖博物館 (滋賀県草津市), [口頭発表].

【研究プロジェクト等への参加】

琵琶湖博物館申請専門研究「琵琶湖水系における古墳時代首長の領域と地域性」, (2011年度).

科学研究費補助金 (基盤 C) 「琵琶湖地域民具資料を用いた考古民俗学的方法論の開発研究と展示への試み」 (研究代表者：用田政晴), 研究代表者 (2008～2011年度).

科学研究費補助金 (基盤 C) 「琵琶湖と中国・太湖における水環境比較民俗論と成果展示の企画」 (研究代表者：楊平), 分担研究者 (2010～2014年度).

科学研究費補助金 (基盤 B 一般) 「地域住民による琵琶湖沿岸の<生命の賑わい>総合調査の方法論と具体的手法の確立」 (研究代表者：川那部浩哉), 分担研究者 (2010～2012年度).

アジア考古学研究機構「アジアの考古と民俗」研究代表者, (2011年度).

【学会等の役職・運営、論文の査読など】

アジア考古学研究機構, 代表.

【大学の講義・実習、学生の指導など】

2011年6月12・26日, 京都造形芸術大学, 「博物館学」.

2011年8月11日, 國學院大学, 「博物館学」.

2011年9月11日, 京都造形芸術大学, 「博物館学実習」.

2011年12月6日, 愛知学院大学, 「博物館学」.

博物館事業に関する業績

【交流・サービス事業】

琵琶湖博物館の主催行事

質問コーナー・フロアトーク, 琵琶湖博物館, 12件.

2012年2月18日, 佐和山城と松原内湖の史的位置, 新琵琶湖学セミナー, 琵琶湖博物館, 講演.

視察対応

2011年5月19日, 博物館案内, 文化庁調査官, 琵琶湖博物館.
2011年7月27日, 博物館案内, 帝産バス研修, 琵琶湖博物館.
2011年11月24日, 琵琶湖の船の話, 琵琶湖博物館.
2011年11月27日, 博物館案内, 大阪文学振興会, 琵琶湖博物館.
2012年1月31日, ギャラリー展示解説, 武蔵野美術大学, 琵琶湖博物館.

【情報整備活動】

琵琶湖博物館の活動

琵琶湖博物館学芸員個人ページ (用田政晴), 管理・運営, 更新多数.

【資料整備活動】

琵琶湖博物館の活動

考古資料整備, 分類・配架.
民具資料整備, 写真撮影.

【展示活動】

琵琶湖博物館の活動

琵琶湖博物館常設展示 (B展示室) 維持管理, 担当.
モーニングレクチャー, 講義, 4回.

【企画調整活動】

新任職員等研修, B展示室紹介, 2011年4月13日, 講師, 琵琶湖博物館.

館内の人事・館外活動等に関すること

【海外渡航】

2011年7月21日～24日, 韓国 (ソウル), 博物館調査.
2011年9月17日～22日, 中国 (湖南省・湖北省), 博物館・民俗調査.

本年度は、通常の業務の他にギャラリー展「化石が語る 350 万年前の生きものたち」を 4 月 29 日～6 月 12 日の間、地学研究室の他の学芸員とともに開催した。これは当初予定されていたギャラリー展が実行されなかったために、急遽この展示に変更されたものであるが、この機会に古琵琶湖層群下部の化石を長年に渡って収集されてきた故奥山茂美氏の化石が琵琶湖博物館に寄贈されたことを記念し、その成果をたたえる展示が実施できたことは、大変喜ばしいことであった。その他、地学関係の資料の寄贈も順次行われ受け入れを行っているが、その背景には博物館外部の地学関係者と琵琶湖博物館の地学担当学芸員との関係が順調に築かれていることが影響している。

博物館の中長期的な計画づくりは、2 か月に 1 回の会議を中心にして策定を行った。

中日新聞および毎日新聞への連載も昨年引き続き行った。新聞以外では、エフエム滋賀やびわ湖放送などの番組にも出演し、県民に琵琶湖地域や博物館の面白さを伝える努力をした。

研究面では、科学研究費補助金（基盤（C））「日本列島におけるヒト出現期の人間-環境系復元」が最終年になったことから、研究をまとめる作業を行った。また、科学研究費補助金（基盤（B））「地域住民による琵琶湖沿岸の<生命の賑わい>総合調査の方法論と具体的手法の確立」（研究代表者：川那部浩哉）の事務作業を行っていることから、県内の研究機関との統合研究推進の視点での作業も行った。その他、琵琶湖博物館の総合研究の代表者も務めていることから、研究の推進も行った。

印刷物

【学術論文】

- 岩瀬 彬・橋詰 潤・出穂雅実・高橋啓一・佐藤宏之（2011）日本列島における後期更新世後半の陸生大型哺乳動物の絶滅年代. *東京大学常呂実習施設研究報告*, 8, 東京大学：36-55.
- 岡村喜明・高橋啓一・里口保文・石田志朗・服部 昇・平尾藤雄・三矢信昭（2011）古琵琶湖層群から初のサイの足跡化石. *化石研究会会誌*, 44, 化石研究会：11-19.

【専門分野の著作】

- 岩瀬 彬・出穂雅実・高橋啓一（2011）後期更新世の動物関連文献（1）. *東京大学常呂実習施設研究報告*, 8, 東京大学：56-69.

【一般向けの著作】

- 高橋啓一（2011）ナウマンゾウは津軽海峡を泳いで渡ったか. 化石研究会 編, *化石から生命の謎を解く—恐竜化石から分子まで—朝日選書*, 朝日新聞出版, 東京都：134-149.
- 高橋啓一（2011）琵琶湖のまわりのゾウ化石は語る. 滋賀県立琵琶湖博物館 編, *生命の湖 琵琶湖をさぐる*, 文一総合出版, 東京都：8-10.
- 高橋啓一（2011）地球のリズムがおりなす動物の移り変わり. 滋賀県立琵琶湖博物館 編, *生命の湖 琵琶湖をさぐる*, 文一総合出版, 東京都：11-12.
- 高橋啓一（2011）島化がうみ出す固有な動物たち. 滋賀県立琵琶湖博物館 編, *生命の湖 琵琶湖をさぐる*, 文一総合出版, 東京都：12-13.
- 高橋啓一（2011）ここだけの湖の話～琵琶湖博物館の研究室から～14 350 万年前の化石一堂に 展示会開催. *毎日新聞*, 毎日新聞社：2011 年 5 月 12 日.
- 高橋啓一（2011）湖岸より 109 化石の世界に触れてみよう. *中日新聞*, 中日新聞社：2011 年 5 月 14 日.
- 高橋啓一（2011）湖岸より 120 邪馬台国は近江にあった？. *中日新聞*, 中日新聞社：2011 年 7 月 30 日.
- 高橋啓一（2011）湖岸より 130 自然の脅威と向き合う. *中日新聞*, 中日新聞社：2011 年 10 月 8 日.

- 高橋啓一 (2011) ここだけの湖の話～琵琶湖博物館と世界のフィールドから～2 古琵琶湖層群に残る過去. *毎日新聞*, 毎日新聞社: 2011年11月3日.
- 高橋啓一 (2012) 湖岸より 143 ヒトの来た道. *中日新聞*, 中日新聞社: 2012年1月14日.
- 高橋啓一 (2012) ここだけの湖の話～琵琶湖博物館と世界のフィールドから～7 人の輪で解明するシガゾウ. *毎日新聞*, 毎日新聞社: 2012年2月2日.
- 高橋啓一 (2012) 湖岸より 153 博物館の寄贈標本. *中日新聞*, 中日新聞社: 2012年3月31日.
- 中島経夫・高橋啓一 (2012) 水棲動物の化石. 滋賀県 編, *琵琶湖ハンドブック改訂版*, 滋賀県: 128-129.
- 高橋啓一 (2012) 陸棲動物の化石. *琵琶湖ハンドブック改訂版*, 滋賀県: 130-131.

研究活動に関する業績

【学会・研究会での発表】

- 北川博道・高橋啓一 (2011年6月5日) 北海道北広島市および青森県陸奥湾海底産出ゾウ科臼歯化石の同定の再検討. 化石研究会第29回総会・学術大会, 京都教育大学(京都府), [口頭発表].
- 高橋啓一 (2011年6月17日) 新たな標本がもたらした“不都合な事実”ー襟裳岬マンモスゾウの年代測定結果を考えるー. 琵琶湖博物館研究セミナー, 琵琶湖博物館(草津市), [口頭発表].
- 北川博道・高橋啓一 (2011年7月2日) 本邦下部ー中部更新統より産出する *Mammuthus* 化石の分類の再検討. 日本古生物学会2011年年会, 金沢大学(石川県), [口頭発表].
- 大石 徹・古山 隆・高橋啓一・荒川真司 (2011年9月27日) 竜骨の科学的調査について. 資源・素材2011秋季大会, 大阪府立大学(大阪府), [口頭発表].
- 高橋啓一 (2011年11月23日) 静岡、日本、世界のナウマンゾウ. 平成23年度自然史学会連合後援会, 清水テルサ(静岡県), [口頭発表].
- Takahashi, K., Izuho, M., and Iwase, A. (2011年11月30日) The transition and extinction of the Japanese large mammal fauna after MIS 3. Dual Symposia The Emergence and Diversity of Modern Human Behavior in Palaeolithic Asia & The 4th Annual Meeting of the Asian Palaeolithic Association, 国立科学博物館(東京都), [口頭発表].
- 高橋啓一 (2011年12月23日) 琵琶湖博物館の自然史資料(地学)の収集. 滋賀県博物館協議会平成23年度第1回研修会, 琵琶湖博物館(滋賀県), [口頭発表].

【研究プロジェクト等への参加】

- 琵琶湖博物館専門研究「多賀町に分布する石灰岩地域からの脊椎動物遺体の研究」, (2011年度).
- 琵琶湖博物館総合研究「琵琶湖の生物多様性の成立過程の解明」(研究代表者:高橋啓一), 研究代表者(2011~2015年度).
- 科学研究費補助金(基盤C)「日本列島におけるヒト出現期の人間ー環境系復元」(研究代表者:高橋啓一), 研究代表者(2009~2011年度).
- 科学研究費補助金(基盤B 一般)「地域住民による琵琶湖沿岸の<生命の賑わい>総合調査の方法論と具体的手法の確立」(研究代表者:川那部浩哉), 研究分担者(2010~2012年度).

【学会等の役職・運営、論文の査読など】

- 日本第四紀学会, 評議員, 2011年8月~2013年7月.
- 化石研究会, 事務局長, 2003年6月~2012年6月.
- Quaternary International, 査読, 1件.
- 国際第四紀学連合 INQUA 小委員会「東アジアにおける酸素同位体ステージ3の環境変動と考古学」(代表:小野 昭), 2007年度~.

博物館事業に関する業績

【交流・サービス事業】

琵琶湖博物館の主催行事

質問コーナー・フロアトーク，琵琶湖博物館，10件。

はしかけ運営，ほねほねくらぶ，担当。

2011年7月31日，夏休み自由研究講座（地学），講座，琵琶湖博物館，運営。

2011年8月8日，地学資料の整理実習，博物館実習，琵琶湖博物館，講師。

2012年1月21日，マンモスとマンモスハンター，文化庁ミュージアム活性化支援事業「琵琶湖 自然と文化」 連携講座第2回「太古の人と動物が来た道」，滋賀県ミュージアム活性化推進委員会，琵琶湖博物館，講演。

他の博物館・機関等主催行事

2011年5月3日，琵琶湖の化石たち，琵琶湖博物館学芸員トークイベント，大津パルコ，講師。

2011年7月21日，博物館のつくられ方，石部高等学校，夏季集中講義「琵琶湖探究」，琵琶湖博物館，講師。

2011年8月11日，滋賀県環境教育研究会，平成21年度滋賀県環境教育研究協議会，琵琶湖博物館，講師。

2011年12月3日・2012年1月21日，班での調べ学習への対応，立命館守山中学校，琵琶湖学習，琵琶湖博物館，指導・助言，2件。

2012年3月3日，琵琶湖の化石が教える地球のリズム，滋賀県立図書館，土曜サロン，滋賀県立図書館，講師。

2012年3月29日，スーパーサイエンスハイスクール研修，名古屋市立向陽高校，講師。

視察対応

2011年4月2日，琵琶湖博物館の運営説明，北九州市立自然史・歴史博物館館長。

2011年4月13日，琵琶湖博物館の展示説明，環境省副大臣。

2011年4月20日，琵琶湖博物館の展示説明，国立科学博物館理事。

2011年5月14日，琵琶湖博物館の運営・展示説明，三重県知事ほか。

2011年5月28日，ギャラリー展示説明，三重県立博物館サポートスタッフ。

2011年11月10日，琵琶湖博物館の展示説明，日本叙勲協会一行。

2011年12月18日，琵琶湖博物館の展示説明，滋賀絆アート支援プロジェクト。

メディアへの協力

2012年1月24日，エフエム滋賀，古代湖としての琵琶湖の歴史や化石からわかる県境の移り変わりについて，出演，（2012年1月24日スタジオ出演）。

2012年3月3日，びわ湖放送，県政週刊プラスワン，出演，（2012年3月2日収録）。

【情報整備活動】

琵琶湖博物館の活動

化石標本データベース公開，担当。

哺乳類標本データベース公開，担当。

【資料整備活動】

琵琶湖博物館の活動

化石資料，受入・貸出。

脊椎動物資料，受入・貸出。

【展示活動】

琵琶湖博物館の活動

2011年4月29日～6月12日 ギャラリー展「化石が語る350万年前の生きものたち」、展示制作。
モーニングレクチャー，講義，4回。

【企画調整活動】

新任職員等研修，博物館について・A展示室紹介，講師，2011年4月13日・19日，琵琶湖博物館。

館内の人事・館外活動等に関すること

【館内の人事】

2004年～，図書選定委員。

【館外の活動】

2009年7月28日～2012年3月31日，滋賀県立大学環境人材育成プログラム開発・実証委員会委員。

2010年2月14日～，NPO法人西日本自然史博物館ネットワーク理事。

2010年10月6日～2015年10月5日，高島市指定管理候補者選定委員。

In 2011 I was chief administrator of a new cooperative research project aimed at demonstrating groundwater faunal connections between Lake Biwa and the mountains surrounding it. There were collecting trips in the spring and fall to the limestone areas of Tago town and the beds of the Seri, Inukami, and Yasu rivers, and in early fall to various beaches around Lake Biwa. Wells were also sampled. A publicity program involving a television broadcast and a published leaflet in the museum's "Biwahaku dayori" series was started late in the fiscal year in order to get access to more wells. I hosted two carcinologists from Korea in connection with this project, and also an ichthyologist from Taiwan in connection with the museum's current comprehensive research project. I was invited to Korea and Taiwan to give lectures and to take part in field trips related to my work on aquatic crustaceans and on the micro-faunal aquatic diversity of the Lake Biwa area. My individual research was focussed on large branchiopod crustaceans of rice paddies. With survey help from the rice-paddy organism "Hashikake" group and outside volunteers, I showed that the Asian tadpole shrimp *Triops granarius* is distributed more widely in eastern Otsu city than we had thought. I presented "Hashikake" findings related to the causes of large branchiopod distribution at two international symposia. With an American colleague, I submitted a paper about the morphology and development of clam shrimp legs. I also was co-author of a review paper about clam shrimp larvae, now in press, but I failed to complete a review chapter on larvae of Ascothoracida for the same volume. Finally, as a member of the International Commission on Zoological Nomenclature, I voted and commented on many nomenclatural cases that were brought before the Commission. I also played a role in drafting an amendment to the International Code of Zoological Nomenclature to permit electronic-only publication of scientific names and nomenclatural acts.

2011年度は、新しい共同研究の研究代表者として、山と湖の地下水による動物学的なつながりを調べた。共同研究者と共に、春と秋に多賀町の石灰岩地から流れる芹川と犬上川、そして湖東地方の最も長い河川である野洲川の河川敷で地下水とその水に住む動物を採集し、秋には琵琶湖湖岸各地の砂浜の間隙水を調べた。井戸でのサンプリングも行なったが、もっと沢山の井戸を調べるために、12月に一般向けの印刷物「琵琶博だより」を出版し、3月にはびわこ放送のテレビ番組で広報活動を行った。本共同研究に参加してもらうために韓国の研究者二人へ依頼した。また、琵琶湖博物館の新しい総合研究のために台湾の魚類研究者も受け入れた。韓国と台湾の大学で発表と調査に参加するための依頼があり、それぞれ各1回、海外出張を行った。出張の内容は、甲殻類学（特に私の専門分類群である大型鰓脚類と囊胸類）および琵琶湖とその集水域の水生物の多様性に関するものであった。大型鰓脚類を中心とした専門研究として、「はしかけ」グループ、およびその他の参加者と共に水田におけるアジアカブトエビを調査し、その大津市内の分布域は以前より広いことが分かった。大型鰓脚類の分布の限界について、「はしかけ」グループのデータを国際シンポジウムで2回発表した。また、タマカイエビの脚の形態および個体発生による形の変化について、アメリカの共同研究者と共に学術論文を投稿した。カイエビ類の幼生について、総説論文の共著者になったが、同じ本で出版するはずの囊胸類の幼生に関する論文は、締め切りまでに執筆することが出来なかった。動物命名法国際審議会の委員として、審議会の細則の改正に関係し、審議会の前にもたらされる多くの命名法に関する案件について投票した。電子だけでの出版方法を動物命名の立場から可能にするための提案（国際動物命名規約の改正）の執筆に関する検討に参加した。

印刷物

【学術論文】

Blakemore, R. J. and Grygier, M. J. (2011) Unraveling some Kinki worms (Annelida, Oligochaeta, Megadrili,

【専門分野の著作】

- International Commission on Zoological Nomenclature (2011) OPINION 2273 (Case 3497). *Cyphon palustris* Thomson, 1855 (Insecta, Coleoptera): specific name conserved. *The Bulletin of Zoological Nomenclature*, 68 (2), 動物命名法国際審議会: 150–151 [特にグライガー委員の意見、p. 151].
- International Commission on Zoological Nomenclature (2011) OPINION 2275 (Case 3491). *Podargus cornutus* Temminck, 1822 (currently *Batrachostomus cornutus*; Aves, PODARGIDAE): specific name conserved by designation of a neotype. *The Bulletin of Zoological Nomenclature*, 68 (2), 動物命名法国際審議会: 154–155 [特にグライガー委員の意見、p. 155].
- International Commission on Zoological Nomenclature (2011) OPINION 2276 (Case 3479). *Cuvieronius* Osborne, 1923 (Mammalia, Proboscidea): usage conserved by designation of a type species. *The Bulletin of Zoological Nomenclature*, 68 (2), 動物命名法国際審議会: 156–158 [特にグライガー委員の意見、pp. 157–158].
- International Commission on Zoological Nomenclature (2011) OPINION 2277 (Case 3504). *Onthophagus rugulosus* Harold, 1886 (Coleoptera: SCARABAEIDAE): specific name conserved. *The Bulletin of Zoological Nomenclature*, 68 (3), 動物命名法国際審議会: 218–219 [特にグライガー委員の意見、p. 219].
- International Commission on Zoological Nomenclature (2011) OPINION 2283 (Case 3390). *Archaeopteryx lithographica* von Meyer, 1861 (Aves): conservation of usage by designation of a neotype. *The Bulletin of Zoological Nomenclature*, 68 (3), 動物命名法国際審議会: 230–233 [特にグライガー委員の意見、p. 233].
- International Commission on Zoological Nomenclature (2011) OPINION 2287 (Case 3513). *Chaetosoma* Westwood, 1851, *Apodasya* Pascoe, 1863 and CHAETOSOMATIDAE Crowson, 1952 (Insecta, Coleoptera): usage conserved. *The Bulletin of Zoological Nomenclature*, 68 (4), 動物命名法国際審議会: 303–305 [特にグライガー委員の意見、p. 304].
- International Commission on Zoological Nomenclature (2011) OPINION 2288 (Case 3517). LATRIDIIDAE Erichson, 1842 (Insecta, Coleoptera): precedence given over CORTICARIIDAE Curtis, 1829, and *Corticaria* Marsham, 1802: usage conserved by designation of *Corticaria furruginea* Marsham, 1802 as the type species. *The Bulletin of Zoological Nomenclature*, 68 (4), 動物命名法国際審議会: 306–308 [特にグライガー委員の意見、p. 307].
- International Commission on Zoological Nomenclature (2012) OPINION 2290 (Case 3523). *Callidea lateralis* Guérin-Méneville, 1838 (currently *Lamprocoris lateralis*; Insecta, Heteroptera): specific name conserved. *The Bulletin of Zoological Nomenclature*, 69 (1), 動物命名法国際審議会: 66–68 [特にグライガー委員の意見、p. 67].
- International Commission on Zoological Nomenclature (2012) OPINION 2292 (Case 3521). *Megaselia abdita* Schmitz, 1959, (Diptera, PHORIDAE): precedence given over *Aphiochaeta griseipennis* Santos Abreu, 1921 (currently *Megaselia griseipennis*). *The Bulletin of Zoological Nomenclature*, 69 (1), 動物命名法国際審議会: 72–74 [特にグライガー委員の意見、p. 73].

【一般向けの著作】

- マーク ジョセフ グライガー・西野麻知子 (2011) ヒメカイエビの一種. 滋賀県生きもの総合調査委員会 編, 滋賀県で大切にすべき野生生物 滋賀県レッドデータブック 2010 年版, サンライズ出版, 彦根市: 566.
- マーク J. グライガー (2011) カイエビ類と水田の関係. 滋賀県立琵琶湖博物館 編, 生命の湖 琵琶湖をさぐる, 文一総合出版, 東京都: 88–89.
- マーク J. グライガー (2011) 日本のカイエビ類の分布. 滋賀県立琵琶湖博物館 編, 生命の湖 琵琶湖をさぐる, 文一総合出版, 東京都: 90–91.
- マーク J. グライガー (2011) 「希少種」である滋賀県産ヒメカイエビの仲間. 滋賀県立琵琶湖博物館 編, 生命の湖 琵琶湖をさぐる, 文一総合出版, 東京都: 92–93.
- マーク J. グライガー・松田征也・ロビン J スミス (2011) 山と湖をつなぐ地下の水環境. 琵琶湖博だより, 6, 琵琶湖博

研究活動に関する業績

【学会・研究会での発表】

- マーク ジョセフ グライガー (2011年6月25日) 琵琶湖およびその集水域の生物学的多様性：分類学、形態と分子に基づく系統学。2011年度研究報告会，琵琶湖博物館（滋賀県草津市），[口頭発表]。
- マーク ジョセフ グライガー (2011年7月15日) 動物命名法国際審議会に提出された案件 (Case) に対するグライガー委員の投票と意見。琵琶湖博物館研究セミナー，琵琶湖博物館（滋賀県草津市），[口頭発表]。
- Grygier, M. J. (2011年9月11日) Large-scale changes in large branchiopod species distributions in Japan in recent decades. The 7th International Large Branchiopods Symposium (ILBS-7) 第七屆國際大型總足類動物研討會，國立臺灣大學（台北），[口頭発表]。
- Grygier, M. J. and Ferrari, F. D. (2011年9月11日) Trunk limb structure of the laevicaudatan clam shrimp *Lynceus biformis*. The 7th International Large Branchiopods Symposium (ILBS-7) 第七屆國際大型總足類動物研討會，國立臺灣大學（台北），[口頭発表]。
- Maeda, M., Kusuoka, Y., Grygier, M. J., Ohtsuka, T. and Lake Biwa Museum Hashikake Rice Field Organisms Survey Group (2011年9月11日) Evaluation of the effect of winter soil moisture on the distribution of large branchiopods in Shiga Prefecture, Japan. The 7th International Large Branchiopods Symposium (ILBS-7) 第七屆國際大型總足類動物研討會，國立臺灣大學（台北），[ポスター発表]。
- 前田雅子・Mark J. Grygier・楠岡 泰・大塚泰介・田んぼの生き物調査グループ (2011年12月18日) 田んぼのエビ類（大型總脚類）が分布する条件とは？。第2回琵琶湖地域の水田生物研究会，琵琶湖博物館（滋賀県草津市），[口頭発表]。
- Grygier, M. J. (2011年12月18日) 草津市片岡町における田んぼのエビ類（大型總脚類）の長期モニタリング。第2回琵琶湖地域の水田生物研究会，琵琶湖博物館（滋賀県草津市），[口頭発表]。
- Grygier, M. J. (2012年3月21日) Preliminary observations on diversity and habitat preference of microcrustaceans in ricefields of Shiga Prefecture, Japan. 日本生態学会第59回大会とEAFES第5回大会のEAFESシンポジウム「Hot spots in agriculture ecosystems: multi-scale heterogeneity and species interaction」，龍谷大学（滋賀県大津市），[口頭発表]。

【研究プロジェクト等への参加】

- 琵琶湖博物館専門研究「總脚類および顎脚類（甲殻類）の分類学、形態学に関する研究」，(2005～2011年度)。
- 琵琶湖博物館総合研究「琵琶湖の生物多様性の成立過程の解明」(研究代表者：高橋啓一)，副代表者 (2011～2015年度)。
- 琵琶湖博物館共同研究「山と湖をつなぐ地下水環境域」(研究代表者：マーク J. グライガー)，研究代表者 (2011～2012年度)。
- 科学研究費補助金(基盤 B 一般)「地域住民による琵琶湖沿岸の<生命の賑わい>総合調査の方法論と具体的手法の確立」(研究代表者：川那部浩哉)，分担者 (2010～2012年度)。
- 環境省委託研究「水田地帯の生物多様性再生に向けた自然資本・社会資本の評価と再生シナリオの提案. 2. 小型生物を重視した水田における種多様性の再検討」(研究代表者：夏原由博)，研究参画者 (2009～2011年度)。
- 科学研究費補助金(基盤 B)「間隙性ファウナの種多様性評価と生息の制限要因—陰性環境の生物多様性に光を当てる—」(研究代表者：塚越 哲)，分担者 (2011～2015年度)。
- (韓国) 国立生物資源館「Discovery of Indigenous Species from Korea」(研究代表者：Lee Woncheol)，助言委員会委員 (2011年度～)。

【学会等の役職・運営、論文の査読など】

The Crustacean Society, Journal of Crustacean Biology, Associate Editor, 査読, 8件。

Systematic Parasitology, Associate Editor, 査読, 1件.
日本動物分類学会, Species Diversity, Editorial Consultant.
日本ベントス学会, Japanese Journal of Benthology (日本ベントス学会誌), 編集委員 (English editor) .
日本付着生物学会, Sessile Organisms, 編集委員 (英語エディター) .
Zoological Institute, Russian Academy of Sciences, Zoosystematica Rossica, Editorial Board.
国立科学博物館, Bulletin of the National Museum of Nature and Science, Series A (Zoology), 編集委員.
動物命名法国際審議会, Bulletin of Zoological Nomenclature, 査読, 5件.
Muséum National d'Histoire Naturelle, Paris, Zoosystema, 査読, 1件.
Public Library of Science, PloS ONE, 査読, 1件.
Journal of Natural History, 査読, 1件.
Zoologischer Anzeiger, 査読, 1件.
Zootaxa, 査読, 1件.

【受賞など】

線虫類: *Tripyla grygieri* Gagarin, 2011 [*Biologiya Vnutrennikh Vod*, 2011 (4) : 36-40; 英訳 *Inland Water Biology*, 4(4) : 435-439], 新種の記載で献名される.

博物館事業に関する業績

【交流・サービス事業】

琵琶湖博物館の主催行事

質問コーナー・フロアトーク, 琵琶湖博物館, 10件.
はしかけ運営, 田んぼの生き物調査グループ, 副担当.
2011年5月14日, 魚の寄生虫を調べよう!, 博物館講座, 琵琶湖博物館, 講師.
2011年7月1日, はしかけ登録講座, 「田んぼの生き物調査グループ」の活動について, 紹介.
2011年8月3日, 各資料の実習 (甲殻類資料), 博物館実習, 琵琶湖博物館, 講師.

他の博物館・機関等主催行事

2011年10月15日, ミジンコとの出会い, おおつ市民活動学校, 琵琶湖博物館, 講師.

視察対応

2011年5月10日, 第5回関西領事館会合 (滋賀観察ツアー).
2011年10月28日, 第5回シーボルトコレクション国際会議の外国人参加者.
2011年11月10日, ミシガン州友好親善使節団.
2011年12月7日, JICA (第1回) 蚕業廃水処理技術 (A) コース.
2012年1月21日, JICA アジア地域上水道事業経営・人材育成セミナー.
2012年2月16日, ミシガン州立大学連合日本センタープログラムディレクターとセンター長.
2012年3月15日, ジンバブエ地域統合・国際協力省次官.

メディアへの協力

2011年5月10日, 琵琶湖には少なくとも1,769種の生物がいるとわかりました!, 資料提供.
2011年5月11日, 中日新聞, 動物1,235種を確認 琵琶湖ロシアの研究者が論文, (2011年5月10日取材).
2011年5月12日, 毎日新聞, 琵琶湖の動物2倍に日露研究グループ90年論文と比較1,235種確認, (2011年5月11日取材).
2011年5月13日, 京都新聞, 琵琶湖の生物1,769種 15年かけロシア人研究者ら調査微小動物分類で倍層「多様性裏付け」, (2011年5月10日取材).

2011年5月13日, 滋賀県の魚に寄生する二生吸虫の新種を発見!, 資料提供.
2011年5月24日, 毎日新聞, 寄生虫2新種発見 琵琶湖周辺日本初も4種, (2011年5月13日取材).
2011年7月10日, 読売新聞, 寄生虫新種琵琶湖流域で確認, (2011年5月13日取材).
2011年8月11日, 琵琶湖からコケムシ類の新種2種と初記録6種を発見!, 資料提供.
2011年8月13日, 京都新聞, 新種の寄生虫湖国で発見河川と水路の魚から, (2011年8月11日取材).
2011年8月17日, 産経新聞, 琵琶湖の生物1,769種確認 日露研究グループ動物は従来の2倍以上, (2011年5月17日, 8月16日取材).
2011年8月22日, 中日新聞, 新種のコケムシ発見 広瀬さんら琵琶湖で2種類, (2011年8月11日取材).
2011年9月13日, 京都新聞, 琵琶湖にコケムシ2新種 世界的珍種含む琵琶博発見, (2011年8月11日取材).
2012年3月3日, びわ湖放送, 県政週間プラスワン, 「知れば納得! 琵琶湖博物館」, (2012年2月22日, 23日取材と撮影).

【資料整備活動】

琵琶湖博物館の活動

標本受入, 無脊椎動物(昆虫, 貝類を除く), 21件, そのうち甲殻類276点, 貧毛類144点, その他の無脊椎動物25点.
標本の仮登録, 580点, そのうち甲殻類414点, ヒル143点, カニムシ16点, マミズクラゲ7点.
保存液交換・ラベル付け, 貧毛類標本3,080点.
貸出し, 長野県安曇野市在住の寄生虫学者, 二生類, 3点.
研究依頼期間延伸, 2件.

他湖博物館・機関の活動

標本寄贈, スミソニアン研究所国立自然史博物館, 韓国・台湾産のカイエビ類3点.

【展示活動】

琵琶湖博物館の活動

常設展示「琵琶湖博物館研究最前線」, パネル更新, 1件.
モーニングレクチャー, 講義, 4回.

【企画調整活動】

新任職員等研修, C展示室生き物コレクション(寄生虫), 講師, 2011年4月20日, 琵琶湖博物館.

【研究部関連事業】

琵琶湖博物館特別研究員(鈴木隆仁), 受け入れ担当.
琵琶湖博物館研究調査報告27号, 滋賀県のチョウ類の分布, 英文編集.
企画展関連シンポジウム, 全体進行, 2011年11月13日, 琵琶湖博物館.

館内人事、館外活動等に関すること

【海外渡航】

2011年6月29日~7月5日, 韓国, ハンヤン大学にて生物多様性の研究に関するセミナー(客員発表者として)およびテグ大学にて甲殻類ワークショップ(客員講師として), 水田における大型鰓脚類調査.
2011年9月6日~12日, 台湾, The 7th International Large Branchiopods Symposium (ILBS-7) 第七屆國際大型鰓足類動物研討會(客員発表者として)およびその関連の若手向けのワークショップ(客員講師として).

【館外の活動】

(米国) ロサンゼルス郡立自然史博物館資料・研究部 (無脊椎動物学研究科), 協力研究員.

(米国) スミソニアン研究所国立自然史博物館, 協力研究員.

動物命名法国際審議会, 委員.

研究テーマは、「新生代の大型植物化石の研究」とし、植物化石の分類学的な視点で化石植物群の組成解析による古植生の復元、古植物相の変遷、古環境などを明らかにすることを目的にしている。今年度は、共同研究「針葉樹トガサワラ属化石の生物地理変遷と生育環境の解明」(代表者)と、専門研究「メタセコイアとスイショウが優占する鮮新-更新世の湿地林環境」を軸に、野外調査と化石同定、タイプ標本との外部形態による比較作業、データ解析から論文作成等の研究活動を行った。専門研究の成果は、2011年7月24日～30日にオーストラリアのメルボルンで開催された第18回国際植物学会議(IBC)で「Paleovegetation of fossil wetland forests dominated by *Metasequoia* and *Glyptostrobus* from the lower Pleistocene Kobiwako Group, Japan」として一部発表した。また、後期鮮新世末の野洲川河床から産出したメタセコイアとスイショウが優占する化石林について、論文を作成し、共著者との調整中である。

その他、IPCXIII/IOPCIX2012(第13回国際花粉学会・第9回国際古植物学会合同大会)および日本地質学会大会での巡検準備を進めながら、次のような研究活動を行った。

- ・ 上部鮮新統古琵琶湖層群産材化石群集の解明

鮮新世の木本フローラを明らかにするため、古琵琶湖層群上野層、伊賀層産の材化石について、地質調査および材化石の試料採集を行った。材組織による詳細な分類学的研究用に上野層から31点、伊賀層から27点の材化石試料を採取した。将来的には葉や果実などの大型植物化石群集も併せて、生物多様性の観点から見たフローラの解析を行う予定である。福井県立恐竜博物館の学芸員と共同で調査研究を行っている。

- ・ 古琵琶湖層群産水生植物ヒシ属の果実化石と植物化石群集に関する研究

本研究は千葉大学大学院理学研究科修士課程の学生と共同で行っている。鮮新-更新統古琵琶湖層群では、新たな化石2種の発見とともに、大山田湖、甲賀湖に繁茂した化石種はすぐに消滅してしまうこと、また、古琵琶湖層群産ヒシ属果実化石は小型から中型、そして大型へと変化していること、その変化は、同層群の下位から上位にかけて、常緑広葉樹を含む暖帯型の植物相から落葉広葉樹主体の暖温帯型の植物相へ変化すること同調的であることが示された。

- ・ 中国山地東部の福地川上流に分布する福地泥炭層から産出した大型植物化石

約2万年前～7300年前に堆積した泥炭層から、総数50科62属92分類群を確認した。ブナ、イヌブナ、トチノキが優占し、常緑針葉樹のアスナロやカヤ属を含み、アワブキ属、サワグルミやシデ属、エゴノキ属、マタビ属などが随伴する温帯落葉広葉樹林が復元できた。なお、本研究は兵庫県立人と自然の博物館の学芸員と共同で調査研究を行っている。

印刷物

【専門分野の著作】

山川千代美・松本みどり(2012)特集「植物化石研究と植物系統学の進展」巻頭言. *化石研究会会誌*, 44(2): 45-46.

【一般向けの著作】

山川千代美(2011)古琵琶湖の時代の植物. 滋賀県立琵琶湖博物館 編, *生命の湖 琵琶湖をさぐる*, 文一総合出版, 東京都: 22-23.

山川千代美(2011)植物化石を調べてわかること. 滋賀県立琵琶湖博物館 編, *生命の湖 琵琶湖をさぐる*, 文一総合出版, 東京都: 24-25.

山川千代美(2011)化石林. 滋賀県立琵琶湖博物館 編, *生命の湖 琵琶湖をさぐる*, 文一総合出版, 東京都: 26-27.

- 山川千代美 (2011) 湖岸より 105 桜に復興の息吹願う. *中日新聞*, 中日新聞社: 2011年4月16日.
- 山川千代美 (2011) 湖岸より 114 梅雨の花 紫陽花. *中日新聞*, 中日新聞社: 2011年6月18日.
- 山川千代美 (2011) 湖岸より 127 生物多様性の重要性を認識. *中日新聞*, 中日新聞社: 2011年9月17日.
- 山川千代美 (2011) 湖岸より 136 メタセコイアの紅葉. *中日新聞*, 中日新聞社: 2011年11月19日.
- 山川千代美 (2011) 資料裏話 その2 植物化石の液浸標本. *琵琶博だより*, 6, 琵琶湖博物館: 2.
- 山川千代美 (2011) 湖岸より 146 植物の分類体系見直し進む. *中日新聞*, 中日新聞社: 2012年2月4日.
- 山川千代美 (2011) ここだけの湖の話～琵琶湖博物館と世界のフィールドから～8 古琵琶湖層の化石林. *毎日新聞*, 毎日新聞社: 2012年2月16日.
- 山川千代美 (2012) 植物の化石. *琵琶湖ハンドブック改訂版*, 滋賀県: 126-127.

研究活動に関する業績

【学会・研究会での発表】

- Yamakawa, C., Momohara, A., Matsumoto, M. and Nunotani, T. (2011年7月24日～30日) Paleovegetation of fossil wetland forests dominated by *Metasequoia* and *Glyptostrobus* from the lower Pleistocene Kobiwako Group, Japan. IBC2011XVIII,メルボルン(オーストラリア), [ポスター発表].
- 山川千代美 (2011年9月16日) シガゾウがいた頃の古植生復元ー滋賀県高島市安曇川河床の古琵琶湖層群産足跡化石に伴う植物化石からー. 琵琶湖博物館研究セミナー, 琵琶湖博物館, 琵琶湖博物館 (滋賀県草津市), [口頭発表].
- 若山雄之介・松本みどり・成瀬 元・山川千代美 (2011年11月5日) 古琵琶湖層群産化石ヒシ属の水理的挙動に関する研究. 日本植生史学会第26回大会, 弘前大学(青森県), [口頭発表].

【研究プロジェクト等への参加】

- 琵琶湖博物館専門研究「メタセコイアとスイショウが優占する鮮新ー更新世の湿地林環境」, (2011年度).
- 琵琶湖博物館総合研究「琵琶湖の生物多様性の成立過程の解明」(研究代表者:高橋啓一), 研究協力者(2011～2013年度).
- 琵琶湖博物館共同研究「針葉樹トガサワラ属化石の系統と生育環境の解明」(研究代表者:山川千代美), 研究代表者(2011～2013年度).

【学会等の役職・運営、論文の査読など】

- 第135回化石研究会学術大会講演会「植物化石研究と植物系統学の進展」, 2011年6月4日, 担当.
- 化石研究会会誌特集「植物化石研究と植物系統学の進展」, 第44巻第2号, 編集担当.

【大学の講義・実習、学生の指導など】

- 千葉大学理学研究科・地球生命圏科学専攻・地球科学コース修士課程(1名), 協力・指導.

博物館事業に関する業績

【交流・サービス事業】

琵琶湖博物館の主催行事

- 質問コーナー・フロアトーク, 琵琶湖博物館, 10件.
- 2011年8月3日, IPMおよび収蔵庫施設見学, 博物館実習, 琵琶湖博物館, 講師.
- 2011年10月16日, 化石観察会, 観察会, 甲賀市土山町鮎河, 担当, (雨天のため中止).
- 2011年12月21日, 文化庁ミュージアム地域活性化事業連携講座, 講座, 担当・司会.

他の博物館・機関等主催行事

2011年12月18日, 2012年1月21日, 班での調べ学習への対応, 立命館守山中学校, 琵琶湖学習, 琵琶湖博物館, 指導・助言.

2012年1月14日, 博物館の意義と特徴, 京都橘大学, 琵琶湖博物館, 講師.

メディアへの協力

2012年3月3日, びわこ放送, 県政週刊プラスワン, 「琵琶湖博物館」資料整備について説明.

【資料整備活動】

琵琶湖博物館の活動

寄贈資料の受入, 5件 (インドネシア産化石資料9件12点、コイ魚拓資料1点、古琵琶湖層植物化石標本10点、滋賀県産鉱物化石標本1,698点、民俗関係図書資料326点).

2012年1月19日, 感謝状贈与, 1件 (岡村喜明氏).

奥山茂美氏古琵琶湖層群産植物化石標本, 整理.

【展示活動】

琵琶湖博物館の活動

2011年4月29日～6月12日, ギャラリー展示「化石が語る350万年前の生き物たち」, 担当.

展示交流員と話そう, 内容指導.

【企画調整活動】

新任職員等研修, 収蔵庫周辺施設の見学, 2011年4月12日, 琵琶湖博物館, 講師.

【研究部関連事業】

企画展示関連シンポジウム, 運営, 2011年11月13日, 琵琶湖博物館.

地学研究発表会, 研究交流, 2011年10月2日・2012年2月13日, 滋賀大学サテライト, 担当.

新琵琶湖学セミナー, 研究発信, 2012年2月～2012年3月, 全5回, 琵琶湖博物館, 担当.

館内の人事・館外活動等に関すること

【館内の人事】

滋賀県ミュージアム活性化事業委員会 (文化庁), 連携講座担当.

【館外の活動】

2011年11月15日～2012年3月31日, 全国的な自然史系標本セーフティネット構築のためのワーキンググループ, 委員.

2012年2月7日～8日, 平成23年度千葉大学大学院理学研究科学位論文審査委員.

日本における鮮新-更新世の堆積層を対象に、挟在する火山灰から広域層序と過去の爆発的火山噴火活動について、堆積物から過去の堆積環境変化についてを研究対象としている。とくに最近では、堆積物からみた琵琶湖の環境変動史についての検討をすすめている。

今年度は、公表された論文はほとんどないが、過去に行った琵琶湖博物館の博物館資料に関する総合研究の総まとめとしての出版物が、東海大学出版会より出版された。また、これまでの古琵琶湖層群を含む日本の鮮新-更新統の広域層序のまとめを行い、日本の鮮新-更新統広域層序モデルを提案する論文を国際雑誌へ投稿中である。また、その他いくつかの論文を投稿した。

今年度行った外部資金による研究プロジェクトは、昨年度から引き続き行っている科学研究費補助金基盤研究(C)「ハイパーピクナル流堆積物の認定による琵琶湖地域の大規模洪水周期の解明」(研究代表者:里口保文)と、深海底掘削計画IODP「Expedition 333 NanTroSEIZE Stage 2 Input Coring 2 & Heat Flow」(研究代表者:Toshiya Kanamatsu & Pierre Henry)の乗船後研究の共同研究者として助成金を得た。科学研究費補助金では、琵琶湖の湖岸付近の堆積物および地域の歴史史料記述から、過去の大規模洪水の履歴を探るもので、主に安曇川河口沖および愛知川河口沖の堆積物を対象に検討を行った。また、IODP乗船後研究では、掘削されたボーリングコア試料に挟在する火山灰から陸域に分布する古琵琶湖層群などの地層中の火山灰との対比や過去の火山噴火活動履歴の研究を行っている。

展示事業では、来年度から始まるギャラリー展示「鉱物・化石展2012 湖国の大地に夢を掘る」を湖国もぐらの会の方々と共同で開催する準備を行っている。また、常設展示A展示室にておこなっている地域の人々による展示コーナーでは、湖国もぐらの会の方が展示を行うための協力をおこなった。また、琵琶湖博物館移動展示について、地学分野の展示物の制作を行い、一部では全体の調整を行うなどした。

その他、地域の方々と実施する地学研究発表会の運営などを、地学関係学芸職員と行ったほか、個人管理インターネットページで、博物館事業や、研究についての情報発信を行った。

印刷物

【学術論文】

岡村喜明・高橋啓一・里口保文・石田志朗・服部 昇・平尾藤雄・三矢信昭(2011)古琵琶湖層群から初のサイの足跡化石. *化石研究会誌*, 44: 11-19.

【専門分野の著作】

里口保文(2011)失われゆく資料の保存と利用法. 八尋克郎・布谷知夫・里口保文 編, *博物館でまなぶ 利用と保存の資料論*, 東海大学出版会, 神奈川県: 61-84.

里口保文(2011)あとがき. 八尋克郎・布谷知夫・里口保文 編, *博物館でまなぶ 利用と保存の資料論*, 東海大学出版会, 神奈川県: 153-154.

【一般向けの著作】

里口保文(2011)地層から過去の環境を読み取る. 滋賀県立琵琶湖博物館 編, *生命の湖 琵琶湖をさぐる*, 文一総合出版, 東京都: 14-15.

里口保文(2011)離れている地層中に「同じ時間」を探す. 滋賀県立琵琶湖博物館 編, *生命の湖 琵琶湖をさぐる*, 文一総合出版, 東京都: 16-17.

里口保文(2011)どこを掘っても火山灰. 滋賀県立琵琶湖博物館 編, *生命の湖 琵琶湖をさぐる*, 文一総合出版,

東京都：18-19.

里口保文 (2011) 琵琶湖は昔の火山噴火を記録してきた. 滋賀県立琵琶湖博物館 編, *生命の湖 琵琶湖をさぐる*, 文一総合出版, 東京都：20-21.

里口保文 (2011) 湖岸より 111 琵琶湖に火山灰が降る. *中日新聞*, 中日新聞社：2011年5月28日.

里口保文 (2011) ここだけの湖の話～琵琶湖博物館の研究室から～16 湖の生い立ちに迫る. *毎日新聞*, 毎日新聞社：2011年6月9日.

里口保文 (2011) 湖岸より 122 琵琶湖の底に埋まるもの. *中日新聞*, 中日新聞社：2011年8月13日.

里口保文 (2011) 湖岸より 133 琵琶湖はいつからある?. *中日新聞*, 中日新聞社：2011年10月29日.

里口保文 (2012) 湖岸より 144 想いを伝える化石たち. *中日新聞*, 中日新聞社：2012年1月21日.

里口保文 (2012) 琵琶湖のほとりで琵琶湖を探る. *近江から*, 創刊号, たねや近江文庫：56-57.

里口保文 (2012) 琵琶湖の生い立ち. *琵琶湖ハンドブック改訂版*, 滋賀県：122-123.

里口保文 (2012) トピック 琵琶湖は今も動いているか?. *琵琶湖ハンドブック改訂版*, 滋賀県：122-123.

研究活動に関する業績

【学会・研究会での発表】

里口保文・芳賀裕樹 (2011年8月26日) 琵琶湖湖底堆積物の砂層から検討する洪水イベント履歴. 日本第四紀学会2011年大会, 日本第四紀学会, 鳴門教育大学 (鳴門市), [ポスター発表].

里口保文 (2011年10月21日) 琵琶湖堆積物で検討する洪水履歴. 琵琶湖博物館研究セミナー, 琵琶湖博物館, 琵琶湖博物館 (滋賀県草津市), [口頭発表].

里口保文 (2011年10月25日) 琵琶湖博物館におけるとりくみについて. 滋賀地盤研究シンポジウム, KG-NET・関西圏地盤研究会・関西地質調査業協会・滋賀県立琵琶湖博物館, 琵琶湖博物館 (滋賀県草津市), [口頭発表].

【研究プロジェクト等への参加】

琵琶湖博物館専門研究「城陽礫層の層序と年代の解明」, (2011年度).

琵琶湖博物館総合研究「琵琶湖の生物多様性の成立過程の解明」(研究代表者：高橋啓一), 共同研究者 (2011年度～2015年度).

琵琶湖博物館共同研究「琵琶湖地域における堆積環境変化の広域性と古気候変化との関係」(研究代表者：里口保文), 研究代表者 (2011年度～2012年度).

科学研究費補助金 (基盤 C) 「ハイパーピクナル流堆積物の認定による琵琶湖地域の大規模洪水周期の解明」(研究代表者：里口保文), 研究代表者 (2010年度～2012年度).

IODP 乗船後研究委託「Exp. 333 NanTroSEIZE インพุットサイトにおけるリファレンス層序研究」(研究代表者：長橋良隆), 共同研究者 (2011年度).

【学会等の役職・運営、論文の査読など】

日本地質学会, 生涯教育委員会委員, 2011年度.

日本地質学会近畿支部, 幹事, 2009年～.

日本第四紀学会, 評議員, 2009年9月～.

日本第四紀学会, テフラ・火山研究委員会委員, 2011年度.

日本第四紀学会, 第四紀研究編集委員, 2007年9月～2011年8月.

博物館事業に関する業績

【交流・サービス事業】

琵琶湖博物館の主催行事

質問コーナー・フロアトーク，琵琶湖博物館，11 件。

2011 年 7 月 31 日，夏休み自由研究講座（地学），講座，琵琶湖博物館，実施補助。

2011 年 10 月 4 日，流れる水のはたらき（5 年生），学校連携，高島市（青柳小学校），講師。

2011 年 10 月 4 日，大地のつくりと変化（6 年生），学校連携，高島市（青柳小学校），講師。

他の博物館・機関等主催行事

2011 年 6 月 1 日，琵琶湖の成り立ちと岩石地層，武庫川女子大学附属中学校，体験学習，琵琶湖博物館，講師。

2011 年 7 月 9 日，琵琶湖の生い立ちとその調査方法，立命館守山中学校，琵琶湖学習，琵琶湖博物館，講師。

2011 年 7 月 21 日，琵琶湖の生い立ち。石部高等学校，夏季集中講義「琵琶湖探求」，琵琶湖博物館，講師。

2011 年 12 月 3 日・2012 年 1 月 21 日，琵琶湖の生い立ち。立命館守山中学校 1 年生，琵琶湖学習，琵琶湖博物館，
1 組 3 班・6 班担当。

視察対応

2011 年 5 月 22 日，琵琶湖博物館紹介，味噌蔵町公民館，琵琶湖博物館。

メディアへの協力

2011 年 5 月 20 日，びわ湖放送，キラりん滋賀，琵琶湖の生い立ちについて解説，（2011 年 5 月 10 日取材）。

2011 年 8 月 19 日，NHK，あなたが主役 50 ボイス～琵琶湖～，インタビュー対応，（2011 年 5 月 31 日取材）。

【情報整備活動】

琵琶湖博物館の活動

個人管理ページ，調整・更新・作成，多数。

【資料整備活動】

琵琶湖博物館の活動

関西空港ボーリングコア寄贈，受け入れ担当，約 4,000 件。

火山灰資料整理，一次整理，約 200 件。

【展示活動】

琵琶湖博物館の活動

2011 年 7 月～2012 年 1 月 22 日，A 展示室地域の人々による展示コーナー（長澤芳佑氏・大西浩吉氏による），展示替え対応。

2012 年 1 月 31 日～2012 年 6 月，A 展示室地域の人々による展示コーナー（川口 貢氏・飯村 強氏による），展示替え対応。

交流員と話そう，内容指導，2 件。

モーニングレクチャー，講義，4 回。

【企画調整活動】

研究審査委員会，担当。

研究部連絡調整，担当。

業績目録作成，担当。

移動展示製作，制作調整（副）。

移動展示，展示物製作，5 件。

移動展示，展示対応，2012 年 2 月 12 日，兵庫県公館。

県内学校へのアンケート，アンケート実施・集計・考察レポート作成，担当。

【研究部関連事業】

研究報告会，全体調整，2011年6月，琵琶湖博物館.

研究審査会，調整，2011年9月，琵琶湖博物館.

館内の人事・館外活動等に関すること

【館内の人事】

2011年度，展示リニューアル検討会議，メンバー.

2011年度，琵琶博だより編集委員会，委員.

前年秋に申請した科学研究費が通ったので、2011年度は6月下旬の春と、9月中旬の秋にモンゴル北部フブスグル湖流域に調査に出かけた。モンゴルでは、主として人為的な森林火災がこの2、30年来多発して毎年平均6万ヘクタールも焼失(FAO, 2002)しているが、シベリヤカラマツ林の火事後の再生が非常に悪い。その原因を探るため、火事跡の再生阻害要因実験を、以前試行したときより精緻化して設定し、データをとった。すなわち光の直射、種子供給、草本の存在、土壌リター層、倒木などの有無について4回繰り返して大規模に行なった。その結果はまだ解析中だが、面白い結果が出つつある。

また河川整備基金の助成を受けて、伐採実験を行なった対照流域での大雨時流出の解析では、伐採前から伐採8年後までの台風などによる大雨流出10例について、化学分析を行なって、硝酸態窒素の流出量を各大雨ごとに求めた。その結果、伐採後8年間の大雨による硝酸態窒素の流出量は伐採流域で対照流域の20.2倍となった。

2010年度は台風がほとんど上陸しなかったため、鹿による植生被害が河川水質に及ぼす影響を調べるために必要なまとまった降雨が、比較を行なった生杉ブナ林と菅並ブナ林の両流域に降らなかった。そこで、2011年8月末～9月初めに来襲し、近畿南部で大きな被害を出した台風12号についても一度両流域で観測を行なった。その結果、両流域でも200～300mmの雨が降り、ほぼ同じ降雨強度の雨について比較したところ、鹿害のある流域はない流域に比較して浮遊懸濁物質(SS)が10倍ほど多い結果となった。

2013年の春に行なうギャラリー展のため、滋賀県植物誌の元になった橋本忠太郎氏の標本を整理している。緊急雇用の援助を受け、データの不完全なものも含め琵琶湖博物館が預かっている橋本氏の植物標本は2万1000点あまりにのぼる事が明らかになった。この中には、今では琵琶湖から絶滅してしまったと考えられるガシャモクなどの標本も含まれる。

事業では企画調整課で、新任職員研修、博物館実習、年報、要覧の編集を主担当で、広報、移動博物館の一部も分担担当した。

印刷物

【専門分野の著作】

草加伸吾 (2012) 平成23年度 鹿による植生被害が河川水質に及ぼす影響基礎調査. 滋賀県高島市: 10-11.

【一般向けの著作】

草加伸吾 (2011) 吉良先生との思い出つれづれ. 関西自然保護機構会誌, 33(2): 102-103.

草加伸吾 (2011) 森林の水質調節機能と森林管理. 琵琶湖ハンドブック改訂版, 滋賀県: 102-103.

研究活動に関する業績

【学会・研究会での発表】

草加伸吾 (2011年10月22日) 森林からの水環境負荷: 望ましい森林管理の方法とは? 「琵琶湖流域の環境を追う～物質の流れに着目したアプローチ～」. 平成23年度滋賀県試験研究機関研究発表会, 琵琶湖博物館 (滋賀県草津市), [口頭発表].

草加伸吾 (2011年6月17日) モンゴル北部フブスグル湖流域における倒木遮蔽更新仮説の検証—土壌水分環境に及ぼす倒木の影響. 琵琶湖博物館研究セミナー, 琵琶湖博物館, 琵琶湖博物館 (滋賀県草津市), [口頭発表].

草加伸吾 (2012年2月19日) 平成24年度滋賀県植物研究会総会・発表会. 琵琶湖博物館 (滋賀県草津市), [企画・

運営].

【研究プロジェクト等への参加】

琵琶湖博物館専門研究「森林伐採後の硝酸形成に影響する環境条件の解明と斜面での硝酸流出過程の探求」(2011年度).

琵琶湖博物館共同研究「モンゴル北部森林被害(火災・蛾食害)跡再生困難地での「倒木遮蔽更新」仮説の検証と再生促進手法の開発」(研究代表者:草加伸吾, 研究代表者(2011~2012年度).

琵琶湖博物館共同研究「山と湖をつなぐ環境域」(研究代表者:マーク J. グライガー), 研究分担者(2011~2012年度).

科学研究費補助金(基盤 B)「モンゴル北部森林火災跡再生困難地での「倒木遮蔽更新」仮説の検証と再生促進法の開発」(研究代表者:草加伸吾), 研究代表者(2011~2013年度).

河川整備基金助成事業「森林渓流水の水質形成機構とノンポイント評価—特に大雨時流出の解析に関する研究」(研究代表者:草加伸吾), 研究代表者(2011年度).

博物館事業に関する業績

【交流・サービス事業】

琵琶湖博物館の主催行事

質問コーナー・フロアトーク, 琵琶湖博物館, 12回.

はしかけ運営, 緑のくすり箱, 担当.

2011年5月7日, 朽木で春を見つけよう!, 琵琶湖博物館フィールド観察会, 高島市朽木森林公園くつきの森・滋賀県高島市, NPO 麻生里山センター・琵琶湖博物館はしかけ緑のくすり箱共催, 講師.

2011年7月31日, 植物標本の採集と作り方, 調べ方, 夏休み自由研究講座, 琵琶湖博物館, 講師.

2011年8月2日, 屋外展示で増えた植物, ヤナギの分布, 自然調査ゼミナール, 琵琶湖博物館, 講師.

2011年8月3日, 植物さく葉標本の作り方, 整理について, 博物館実習, 琵琶湖博物館, 講師.

他の博物館・機関等主催行事

2011年7月14日, 屋外展示の植物観察と食物としての植物, 彦根東高校1年生スーパーサイエンスコース, 琵琶湖博物館, 講師, 2件.

2011年10月29日, おいしい水を育む森林と伐採影響, 株式会社桐田機工, 琵琶湖博物館, 講師.

【資料整備活動】

琵琶湖博物館の活動

植物収蔵庫維持管理, 主担当, (2点登録、登録総数 84,188 点), (石田未基氏と共同).

植物標本資料収集整理(モンゴル国植物標本資料 40 点).

橋本忠太郎標本整理(採集標本のデータベース化約 9,000 点、採集地点地図情報と標本との突合せ作業約 3,000 点), (松尾氏、田中氏、松井氏と共同).

実験温室, 管理運営, 主担当.

【展示活動】

琵琶湖博物館の活動

第19回企画展示 カワウ関連植物標本(ヨウシュヤマゴボウ、イタドリ), 採取・製作・展示.

平成23年度屋外展示植栽, 維持管理業務, (奥村浩匡氏の補助).

展示交流員と話そう, 内容指導.

モーニングレクチャー, 講義, 4回.

【企画調整活動】

新任職員研修，主担当.

新任職員等研修，屋外展示説明・水生植物公園視察・C展示室解説，講師，2011年4月14日・19日，琵琶湖博物館，3件.

博物館実習，主担当.

年報編集，主担当.

要覧編集，主担当.

2011年12月～2012年2月，広報担当.

移動博物館事業，「顕微鏡をのぞいてみよう」飛ぶ種子、くつつく種子展示セット，企画・製作指導.

館内の人事、館外活動等に関すること

【海外渡航】

2011年6月22日～7月6日，モンゴル国フブスグル湖流域，科学研究費（基盤B）での森林火災跡再生阻害要因実験の設定調査.

2011年9月16日～10月2日，モンゴル国フブスグル湖流域，科学研究費（基盤B）での森林火災跡再生阻害要因実験の結果調査.

河川行政の課題の1つである河川の維持管理に伴って発生した伐採竹の処分コスト縮減や資源としての循環利用の可能性について検討を進めた。

竹の利活用については様々な分野で研究開発が進められているが、コストや需要の面から決め手に欠ける状況である。その中で、有効な手法の1つとして期待されているのが、畜産での敷料利用である。現在、家畜の敷料としてオガクズが使用されているが、製材所の減少や住宅の建築に影響を受けるなど、その入手については不安定な状況にある。また、竹パウダーの品質についてもオガクズと遜色のないデータが得られており、これらのことから、オガクズに代えてある程度の需要が見込めると考えられる。

今年度は2軒の畜産農家に了解を得て、敷料として使用してもらい観察を行った。竹パウダーの作製は、昨年同様河川敷であらかじめ乾燥させた竹をパウダー化した。乾燥期間が2週間では、やや水分が多く農家での評価は今一つであったが、1ヶ月乾燥させたものは、十分使用できるとの評価をいただいた。

昨年の課題となった、保管方法については、大型土嚢に詰めた竹パウダーをブルーシートで覆い、橋梁の下で保管することとした。2週間から1ヶ月の保管期間の後、牧場へ持ち込んだが、特に問題はなかった。積み上げた袋の最下段のものに、ブルーシートを伝った水や、地面からの水分を吸ったものが見られたが、被せ方の工夫やパレット等を置くことで解決できそうである。

今年度は、新たに乳牛舎での使用を行った。破碎時に針状となって混じった竹が、乳房を傷つけないか、乳頭に刺さっていないかなどを注意深く観察した。結果は良好で、肉牛、乳牛の両方の牧場から継続して使ってみたいとの声をいただいた。

昨年、竹パウダーを使用していた際に、竹パウダーを使用すると臭いが少ないのではという感想があった。畜産の抱える問題の一つに、においがあるため、ニオイセンサーを用いてにおい強度を計測した。肉用牛舎では、飼育されている区画の中に入ることは危険であるため、外から計測を行ったが数値がばらついて良好なデータを得ることができなかった。乳用牛舎で測定を実施したところ、オガクズと竹パウダーの両方共、敷料の終期においても特に数値が高まる傾向は見られなかった。また、両方の測定結果に大きな違いはなかった。つまり、竹パウダーに特に消臭効果はなかったと考えられた。畜産のにおいの原因の一つが、排泄物の発酵（腐敗）だとすれば、水分量の高い敷料は発酵しないので、敷料ではなく使用後の堆肥を作製する所にあるのではないかと思われた。

今後の課題としては、まず量とコストである。機械の不稼働日を考慮せずにカウントしても作製量は3 m³/日であった。今回の2つの牧場で月当たり約300 m³が必要であることを考えれば、もっと作れる方法が必要である。

畜産農家のオガクズの購入価格は1 m³あたり2,000円～2,500円程度であるため、作製コストもその辺りを目標にしたかったが、県所有の機械を用いて、消耗品費、人件費のみを見積もっても、1 m³あたり約6,000円であった。竹パウダーを目的物とすることは困難で、やはり維持管理で発生した廃棄物としての処分費との比較になる。

保管中に水分を吸ってしまったために袋内で発酵し、通常の竹パウダーより水分が少ないものがみられた。水分や発酵についてもう少し検討の余地がある。

今回は実験ということで、河川法や廃掃法などの法令についての考慮はしなかったが、河川の維持管理に伴って発生したものを処分する場合は一般廃棄物となり、収集や運搬が規制される。しかし、河川から産出した有価物として有償売却となれば、廃棄物でなくなるため法的な整理が可能ではないかと考えている。

その一つのきっかけとして、オガクズに繁殖し、乳房炎の原因となるクレブシエラ菌の発生が少なければ、より有効な敷料になるのでないかと考え、次回作製時に検査を依頼しようと考えている。

また、廃棄物の対象となる業者による竹パウダーの作製ばかりを考えていたが、農家自らが作製するケースや地元ボランティアなどにより作製するケースなど、廃棄物の対象とならない方法も可能かもしれない。いくつかのケースが考えられるようになり、伐採竹が資源として、循環利用できるかもしれないと少し思えてきた。

研究活動に関する業績

【学会・研究会での発表】

奥村浩匡（2012年2月17日）河道内の伐採竹におけるゼロエミッション型モデルの検討について、琵琶湖博物館研究セミナー，琵琶湖博物館（滋賀県草津市），[口頭発表].

博物館事業に関する業績

【交流・サービス事業】

琵琶湖博物館の主催行事

質問コーナー・フロアトーク，琵琶湖博物館，11件.

視察対応

2011年11月17日，人と琵琶湖の歴史（治水・利水への取り組み），伊丹市水道モニター，琵琶湖博物館.

【展示活動】

琵琶湖博物館の活動

2011年度，常設展示維持管理，主担当.

常設展示維持管理委託，主担当.

屋外展示維持管理委託，主担当.

2011年7月16日～11月23日，企画展示（こまった！カワウ），副担当.

展示室耐震対策（瓦落下防止）を実施.

展示室耐震対策（造形物固定）を実施.

展示室照明LED交換業務，2件.

C展示室富江家耐震補強設計業務委託.

モーニングレクチャー，講義，4回.

展示交流員と話そう，内容指導.

館内の人事・館外活動等に関すること

【館内の人事】

2011年度，滋賀県土木交通部流域政策局河川・港湾室河川環境チーム，主査を兼務.

昨年度に引き続き、今年度も、中世琵琶湖のフナ属をめぐる消費と漁撈の実態解明に勢力を傾注した。

まず、科学研究費補助金基盤研究 (C) 「日本中世における「水辺推移帯」の支配と生業をめぐる環境史的研究」(研究代表者: 橋本道範) および琵琶湖博物館申請専門研究「日本中世における内水面の環境史的研究—その環境と生業—」(研究代表者: 橋本道範) については、論考「日本中世における魚介類の都市消費と漁撈—琵琶湖のフナ属の旬をめぐる—」の素稿を完成させた。これは、中世においてフナ属が首都京都においてどのように消費されていたのかを明らかにした上で、そうした都市消費の動向が琵琶湖漁撈とどうかかわっていたのかについて検討を加えたものである。

また、賀茂御祖神社 (下鴨神社) のフナ属の神饌貢納が琵琶湖の漁撈とどのように関わっていたのかについて検討した小論「年中行事と生業の構造—琵琶湖のフナ属の生態を基軸として—」を投稿した。

なお、中世琵琶湖における都市消費と漁撈との関係および禁漁 (殺生禁断) について概論した「Medieval social relationships and Lake Biwa fisheries」が印刷中である。

次に、すでに終了した科学研究費補助金基盤研究 (B) 「琵琶湖の歴史的環境と人間の関わりに関する総合的研究」(研究代表者: 水野章二) に関して、『賀茂御祖皇太神宮諸国神戸記』のうち、中世前期の堅田漁撈についての基礎史料を翻刻して紹介した小論「中世前期の堅田漁撈—『賀茂御祖皇太神宮諸国神戸記』所収堅田関係史料の紹介—」が印刷された。この史料は、これまで利用されていたものの本格的には紹介されていなかったもので、中世前期の堅田の貢納、漁撈保障、漁法、漁業権について分析することが可能となる重要史料である。

次に、総合地球環境学研究所の研究プロジェクト 4-4 「東アジア内海の新石器化と現代化—景観の形成史—」(研究代表者: 内山純蔵) に関して、琵琶湖における「寺辺」の殺生禁断について概説した「The Ban on Killing in the Vicinities of lake Biwa's temples in Medieval」(中世琵琶湖の寺辺殺生禁断) を投稿している。

次に、すでに終了した総合研究「博物館資料の収集・整理・保管と利用」(研究代表者: 八尋克郎) に関して、小論「資料情報のネットワーク化」が印刷された。これは、博物館資料の情報ネットワークの構築のためには、博物館資料の利用者として「地域の人たち」と「悪意の利用者」の両極を措定する必要があることを述べたものである。

最後に、科学研究費補助金基盤研究 (C) 「ハイパーピクナル流堆積物の認定による琵琶湖地域の大規模洪水周期の解明」(研究代表者: 里口保文) に関して、琵琶湖洪水年表の作成に向けて作業を行っている。

その他事業関係の業務については下記に概要を示す。

印刷物

【専門分野の著作】

橋本道範 (2011) 中世前期の堅田漁撈—『賀茂御祖皇太神宮諸国神戸記』所収 堅田関係史料の紹介—. 水野章二 編 *琵琶湖と人の環境史*, 岩田書院, 東京都: 125-149.

橋本道範 (2011) 資料情報のネットワーク化. 八尋克郎・布谷知夫・里口保文 編, *博物館でまなぶ 利用と保存の資料論*, 東海大学出版会, 神奈川県: 99-113.

【一般向けの著作】

橋本道範 (2011) 七〇〇年前の魚と人との関係—奥嶋の漁撈 1—. 滋賀県立琵琶湖博物館 編, *生命の湖 琵琶湖をさぐる*, 文一総合出版, 東京都: 152-153.

橋本道範 (2011) 魚道の掌握—奥嶋の漁撈 2—. 滋賀県立琵琶湖博物館 編, *生命の湖 琵琶湖をさぐる*, 文一総合出版, 東京都: 154-155.

橋本道範 (2011) 殺生をめぐる葛藤—奥嶋の漁撈 3—. 滋賀県立琵琶湖博物館 編, *生命の湖 琵琶湖をさぐる*, 文

一総合出版，東京都：156-157.

橋本道範（2011）ここだけの湖の話～琵琶湖博物館の研究室から～22 堅田の人たちの“わざ”．*毎日新聞*，毎日新聞社：2011年9月8日．

橋本道範（2011）資料裏話 その3 神社とお坊さん．琵琶博だより，7，琵琶湖博物館：2.

橋本道範（2012）堅田漁師の歴史．*琵琶湖ハンドブック改訂版*，滋賀県：88-89.

研究活動に関する業績

【学会・研究会での発表】

橋本道範（2011年4月30日）自然環境と戦後の日本中世史研究に関するメモ．裁許状研究会，こどもみらい館（京都府京都市），[口頭発表]．

橋本道範（2011年12月16日）日本中世における年中行事と生業の構造—琵琶湖のフナ属の生態を基軸として—．琵琶湖博物館研究セミナー，琵琶湖博物館（滋賀県草津市），[口頭発表]．

橋本道範（2012年3月11日）日本中世における魚介類の消費と漁撈—琵琶湖のフナ属をめぐって—．裁許状研究会，ホテルグランティア氷見（富山県氷見市），[口頭発表]．

【研究プロジェクト等への参加】

琵琶湖博物館申請専門研究「日本中世における内水面の環境史の研究—その環境と生業—」，（2011年度）．

科学研究費補助金（基盤C）「日本中世における『水辺推移帯』の支配と生業をめぐる環境史的研究」（研究代表者：橋本道範），研究代表者（2011～2014年度）．

科学研究費補助金（基盤C）「ハイパーピクナル流堆積物の認定による琵琶湖地域の大規模洪水周期の解明」（研究代表者：里口保文），研究分担者（2010～2012年度）．

総合地球環境学研究所4-4プロジェクト「東アジア内海の新石器化と現代化：景観の形成史」（研究代表者：内山純蔵），メンバー（2005～2011年度）．

博物館事業に関する業績

【交流・サービス事業】

琵琶湖博物館の主催行事

質問コーナー・フロアトーク，琵琶湖博物館，7件．

2011年8月3日，博物館資料と整理について—歴史資料の収集・整理・保管と活用を中心に—，博物館実習，琵琶湖博物館，講師．

2012年2月11日，都市消費から見た中世の琵琶湖漁撈，新琵琶湖学セミナー，琵琶湖博物館，講師．

他の博物館・機関等主催行事

2011年12月4日，古代から中世にかけての琵琶湖—フナと人との関係に注目して—，NPO法人 瀬田川リバプレ隊，湖上セミナー，一番丸（琵琶湖上），講師．

メディアへの協力

トピック展示「ありがとう15周年 屏風まつり（ミニ）」京都新聞，中日新聞（2012年2月7日取材対応），読売新聞（2012年2月23日取材対応），ZTV（2012年3月2日取材対応）．

2012年3月6日，NHK，おうみ発610 びわ湖クイズ，出演，（2012年2月26日収録）．

【情報整備活動】

琵琶湖博物館の活動

お正月トピック展示、「辰・龍・竜」情報のweb情報発信，指導，2件。

収蔵資料展示情報のweb情報発信，指導，6件。

『日吉山王祭礼図屏風六曲一隻』特別展「神仏います近江」大津会場「日吉の神と祭」（大津市歴史博物館）へ貸出web情報発信，指導。

居初家文書目録2件（292点），web掲載，実施。

【資料整備活動】

琵琶湖博物館の活動

特別観覧，対応，4件。

大津市歴史博物館史料調査対応（『日吉山王祭礼図屏風六曲一隻』）。

『日吉山王祭礼図屏風六曲一隻』特別展「神仏います近江」大津会場「日吉の神と祭」（大津市歴史博物館）へ貸出・返却対応。

定期収蔵庫清掃（特別収蔵庫・一時保管庫・古文書整理室），実施，11回。

大掃除（B展示室・C展示室・古文書整理室・燻蒸庫），実施，1回。

B展示室ケース内気密性調査，対応（2011年9月5・8・21日）。

【展示活動】

琵琶湖博物館の活動

2011年5月31日～7月3日，収蔵資料展示「収蔵庫をのぞいてみよう！」第23回，指導。

2011年7月5日～7月31日，収蔵資料展示「収蔵庫をのぞいてみよう！」第24回，指導。

2011年8月2日～9月11日，収蔵資料展示「企画展示関連企画 深緑の竹生島」第25回，指導。

2011年9月13日～10月16日，収蔵資料展示「企画展示関連企画 鵜飼一鵜と人の歴史」第26回，指導。

2011年10月18日～11月20日，収蔵資料展示「収蔵庫をのぞいてみよう！」第27回，指導。

2011年11月22日～12月25日，収蔵資料展示「収蔵庫をのぞいてみよう！」第28回，指導。

2012年1月3日～1月22日，お正月トピック展示「辰・龍・竜」歴史資料の部「竜宮城伝説—瀬田川と俵藤太—」，指導。

2012年1月3日～2月5日，お正月トピック展示「辰・龍・竜」歴史資料の部「登竜門—鯉は竜になる—」，指導。

2012年2月7日～3月11日，トピック展示「ありがとう15周年 屏風まつり（ミニ）」第1期，企画・準備・展示。

2012年3月13日～4月15日，トピック展示「ありがとう15周年 屏風まつり（ミニ）」第2期，企画・準備・展示。

B展示室常設展示陳列替え，実施，5件。

展示交流員館外研修，企画・資料作成・実施，1件。

展示交流員と話そう，指導。

モーニングレクチャー，講義，4回。

【企画調整活動】

移動展示，展示物製作（丸子船港めぐりスゴロク），1件。

館内の人事・館外活動等に関すること

【館内の人事】

2011年度，展示リニューアル検討会議，メンバー。

堆積物試料の各種分析、または遺跡を対象とした環境考古学的手法をもちいて過去数十万年から現在にかけての自然環境の変遷と人間活動との関係性を検討している。近年は、近江はもとよりアジア各国を対象に、フィールド科学の立場から「人為的環境の成立過程」の復原を行っている。

本年度は、自己が研究代表をつとめる科研費や、外部競争的獲得資金をもとにして、現地調査や、国際学会での研究成果の公表を行った。また、学術論文としての公表を順次行っており、査読中も含めて、数本は近日中に公表される予定である。

これらの海外調査は、異分野との共同研究であり、自己の専門性を意識しつつ、フィールドの一次データを重視した「地に足のついた地域研究」を継続して実施する予定である。また、学会役員や、大学での非常勤講師なども継続して実施した。また、今年度から新規に東京外国語大学の共同研究員として、異分野の領域の研究者らと共同研究を開始し、次期プロジェクトや方法論について、検討を始めた。

これらの研究は環境史研究領域を対象とするものであるが、環境考古学さらには環境史といった研究領域群は、既存学問分野においては境界領域に位置している。したがって、自然科学的方法論を手段としつつも、人文・社会科学の諸分野などとの異分野との共同研究から、「人と自然との関係性の歴史的検討」という主題に関して、世界各地の地域研究を通じて模索してゆく。

印刷物

【学術論文】

Miyamoto, S., Ando, K., Nityananda DEKA, Abani Kumar BHAGABATI and Tomo RIBA (2011) Historical land Development in Central and Eastern Himalayas. *Journal of Agroforestry and Environment*, 5 : 37-40.

【専門分野の著作】

宮本真二 編 (2011) News Letter North East. 5, 総合地球環境学研究所.

宮本真二(2011)遺跡の立地環境からみた琵琶湖周辺の環境史, 水野章二 編, 琵琶湖と人の環境史, 岩田書院:27-40.

【一般向けの著作】

宮本真二 (2011) 森の変化とヒト. 滋賀県立琵琶湖博物館 編, *生命の湖 琵琶湖をさぐる*, 文一総合出版, 東京都 : 28-29.

宮本真二 (2011) 土地とヒトの変化. 滋賀県立琵琶湖博物館 編, *生命の湖 琵琶湖をさぐる*, 文一総合出版, 東京都 : 30-31.

宮本真二 (2011) 掘って、削って、掘って、そして、つなぐ. *Field+*, 6, 東京外国語大学出版会 : 14-15.

宮本真二 (2011) 湖岸より 115 遺跡が語るヒント. *中日新聞*, 中日新聞社 : 2011年6月25日.

宮本真二 (2011) 湖岸より 125 水辺を想う. *中日新聞*, 中日新聞社 : 2011年9月3日.

宮本真二 (2011) インタビュー 博物館の地理学者10 滋賀県立琵琶湖博物館 宮本真二さん. *地理*, 56 (9) , 古今書院 : 90-91.

宮本真二 (2011) 湖岸より 137 海外からの視点. *中日新聞*, 中日新聞社 : 2011年11月26日.

宮本真二 (2011) ここだけの湖の話～琵琶湖博物館と世界のフィールドから～5 アジア低位居住の利と害. *毎日新聞*, 毎日新聞社 : 2011年12月22日.

宮本真二 (2012) 湖岸より 147 国家と博物館の「自由」. *中日新聞*, 中日新聞社 : 2012年2月11日.

宮本真二 (2012) 滋賀県の地形. *琵琶湖ハンドブック改訂版*, 滋賀県 : 106-107.

研究活動に関する業績

【学会・研究会での発表】

- 安藤和雄・宮本真二・大西信弘（2011年5月29日）東ブータンの Brokpa と Monpa に関する調査ノート―アルナーチャルプラデシュとの比較の視点から―。第21回熱帯生態学会，琉球大学（沖縄県），[口頭発表]。
- Miyamoto, S. (2012年2月13日) Geo-environmental Changes and Agricultural Land Development in Bengal Delta, “Sharing experience of coping with environmental problem and sustainable development” on 13-14 February, 2012 at Yangon, Myanmar. Joint Research Project of Yezin Agricultural University, Myanmar, and Center for Southeast Asian Studies, Kyoto University, Japan, Yuzana Hotel (Yangon, Myanmar), [口頭発表]。

【研究プロジェクト等への参加】

- 琵琶湖博物館専門研究「アジア・モンスーン地域の土地開発史」，(2011年度)。
- 科学研究費補助金（基盤 A）「ベンガル湾縁辺における自然災害との共生を目指した在地ネットワーク型国際共同研究」（研究代表者：安藤和補），連携研究者（2009～2012年度）。
- 総合地球環境学研究所研究プロジェクト「人間の生老病死と高所環境―「高地文明」における医学生理・生態・文化適応―」（研究代表者：奥宮清人），メンバー（2006～2012年度）。
- 総合地球環境学研究所研究プロジェクト「東アジア内海の新石器と現代化：景観の形成史」（研究代表者：内山純蔵），メンバー（2006～2011年度）。
- 科学研究費補助金（若手 B）「アジア・モンスーン地域における民族移動に伴う「土地開発史」の再検討」（研究代表者：宮本真二），研究代表者（2009～2012年度）。
- 科学研究費補助金（若手 B）「埋蔵文化財情報を利用した高精度の地形発達史研究」（研究代表者：小野映介），研究協力者（2009～2011年度）。

【学会等の役職・運営、論文の査読など】

- 環境史研究会，企画・運営，2003年～。
- 総合地球環境学研究所，共同研究員，2005年7月～。
- 東京外国語大学，共同研究員，2010年4月～。
- 立命館地理学会，編集委員会，2010年11月～。

【大学の講義・実習、学生の指導など】

- 2012年1月4・6・7日，滋賀県立大学集中講義，「自然地理学」。

博物館事業に関する業績

【交流・サービス事業】

琵琶湖博物館の主催行事

- 質問コーナー・フロアトーク，琵琶湖博物館，11件。

視察対応

- 2011年7月8日，琵琶湖博物館の概要説明，バングラデシュ NGO 関係者，琵琶湖博物館。
- 2011年7月27日，琵琶湖博物館の概要説明，イオンモール関係者，琵琶湖博物館。

【資料整備活動】

琵琶湖博物館の活動

資料の受入れに関すること，主担当.

収蔵庫施設等の防虫防バイ管理（清掃を含む）および用具等に関すること，主担当.

くん蒸に関すること，主担当.

海外での資料の活用に関すること，主担当.

収蔵庫担当者会議に関すること，主担当.

資料整備の方針，計画策定等に関すること，副担当.

【情報整備活動】

琵琶湖博物館の活動

琵琶湖博物館個人管理ページ（宮本），更新.

宮本真二（2011・12年随時）研究成果の紹介等，<http://miyamoto-s.net/>.

【展示活動】

琵琶湖博物館の活動

モーニングレクチャー，講義，4回.

【企画調整活動】

新人職員等研修，博物館の資料保存とIPM，講師，2011年4月12日，琵琶湖博物館.

【研究部関連事業】

電子顕微鏡の維持管理，主担当.

研究発表会・講座に関すること，副担当.

館内の人事・館外活動等に関すること

【海外渡航】

2011年6月30日～7月4日，タイ王国，現地調査・資料収集.

2011年8月7日～8月17日，インド共和国，現地調査・資料収集.

2011年8月23日～9月16日，ブータン王国，現地調査・資料収集.

2011年11月8日～11月23日，バングラデシュ人民共和国・現地調査・資料収集.

2012年2月12日～2月21日，ミャンマー連邦，学会発表・現地調査・資料収集.

「人と自然との関係性の社会的検討」を研究主題としている。湖沼環境保全を担う鍵は、その地域の暮らしにあると考え、フィールド調査の地域学の立場から琵琶湖を含むアジアの湖沼環境変化とその対応についての検討を進めている。

本年度は、これまでに実施してきた研究成果を本の刊行（『東アジア内海文化圏の景観史と環境 景観から未来へ』、昭和堂出版、分担執筆）、世界湖沼会議等の国際学会での研究成果の公表及び学術論文としての公表などを行った。その他、中日新聞の連載コラム『湖岸より』、毎日新聞連載コラム『ここだけの湖の話』の執筆も行った。異分野との共同研究については、主に外部資金による研究プロジェクトの環境研究総合推進費研究題目「水田地帯の生物多様性再生に向けた自然資本・社会資本の評価と再生シナリオの提案」、総合地球環境学研究所プロジェクト「東アジア内海の新石器化と現代化：景観の形成史」及び科学研究費補助金基盤研究（C）「琵琶湖と中国・太湖における水環境比較民俗論と成果展示の企画」（研究代表者：楊 平）を行った。また、学会役員や大学での非常勤講師も継続している。

今年度から展示担当として展示更新、ディスカバリールームの運営を行うほか、研究部研究セミナーの運営を担当した。来年度から始まる企画展示「フナの大冒険」(仮)では、東アジアの田んぼについても展示準備を行っている。その他、研究成果の還元につながる事業活動としては、県内外向けに水と暮らしとの関わりについての講義及び博物館展示解説、博物館紹介の中国語版の作成、地域交流会の実施などを行った。

印刷物

【学術論文】

楊 平 (2012) 環境資源としての水を生かした村の実践—琵琶湖からみた太湖との比較研究の試み—。 *日中社会学研究*, 19 : 142-158.

Yang, P., Zhu, W. and Tan, X. (2011) Comparative environmental analyses of paddy fields in two lake catchment areas: Lake Taihu China and Lake Biwa, Japan. *Proceedings of 2011 International Symposium on Water Resource and Environmental Protection ISWREP*, 4 : 2597-2600.

【専門分野の著作】

楊 平 (2012) 中国・太湖における暮らしと景観の保全。 *東アジア内海文化圏の景観史と環境 景観から未来へ*, 3, 昭和堂出版 : 214-227.

【一般向けの著作】

楊 平 (2011) 中国・江南水郷の水辺暮らし。滋賀県立琵琶湖博物館 編, *生命の湖 琵琶湖をさぐる*, 文一総合出版, 東京都 : 172-173.

楊 平 (2011) 中国・太湖の家船生活と水辺環境。滋賀県立琵琶湖博物館 編, *生命の湖 琵琶湖をさぐる*, 文一総合出版, 東京都 : 174-175.

楊 平 (2011) 湖岸より 106 祭りは地域の文化的資源。 *中日新聞*, 中日新聞社 : 2011年4月23日.

楊 平 (2011) 湖岸より 116 「わがまちの水」の再発見。 *中日新聞*, 中日新聞社 : 2011年7月2日.

楊 平 (2011) 湖岸より 128 水環境を守る琵琶湖地域の村。 *中日新聞*, 中日新聞社 : 2011年9月24日.

楊 平 (2011) 湖岸より 139 水環境の維持管理の主役。 *中日新聞*, 中日新聞社 : 2011年12月10日.

楊 平 (2012) 湖岸より 149 水辺でつなぐ水郷の暮らし。 *中日新聞*, 中日新聞社 : 2012年2月25日.

楊 平 (2012) ここだけの湖の話～琵琶湖博物館と世界のフィールドから～9 太湖に見る「万畝良田」。 *毎日新聞*,

毎日新聞社：2012年3月1日。

楊 平 (2012) 名水の里の魅力. 近江から, 創刊号, たねや近江文庫: 58-59.

楊 平 (2012) 水と生活文化. 琵琶湖ハンドブック改訂版, 滋賀県: 74-75.

研究活動に関する業績

【学会・研究会での発表】

楊 平 (2011年4月6日) 水上景観の形成と暮らし. 総合地球環境学研究所 4-4 プロジェクト「東アジア内海の新石器化と現代化: 景観の形成史」研究会, 琵琶湖博物館 (滋賀県草津市), [口頭発表].

Yang Ping, Zhu Wei and Li Ming (2011年4月26日) Effects of eutrophication on boatmen's life in Tai Lake. The 7th International Shallow Lake Conference, Wuxi (China), 「ポスター発表」.

楊 平 (2011年5月18日) 生活・生業にみる村落景観. 総合地球環境学研究所 4-4 プロジェクト「東アジア内海の新石器化と現代化: 景観の形成史」研究会, 琵琶湖博物館 (滋賀県草津市), [口頭発表].

Yang Ping, Zhu Wei and Tan Xiao (2011年5月21日) Comparative environmental analyses of paddy fields in two lake catchment areas: Tai Lake, China and Lake Biwa Japan. 2011 International Symposium on Water Resource and Environmental Protection (ISWREP 2011), Xi'an (China), 「ポスター発表」.

楊 平 (2011年6月5日) 湖の開発と家船生活者たち—中国太湖流域における家船民の環境利用にみる開発への対応—. 日中社会学会大会, 関西学院大学 (兵庫県西宮市), [セッション発表].

楊 平 (2011年6月17日) 家船生活にもたらす湖の開発とその対応. 琵琶湖博物館研究セミナー, 琵琶湖博物館, 琵琶湖博物館 (滋賀県草津市), [口頭発表].

楊 平 (2011年8月30日) 土地再編にみる水田環境の管理. 環境研究総合推進費研究題目「水田地帯の生物多様性再生に向けた自然資本・社会資本の評価と再生シナリオの提案」研究会, 琵琶湖博物館 (滋賀県草津市), [口頭発表].

楊 平 (2011年10月9日) Water landscape for People Living on the water in Tai Lake, China. 総合地球環境学研究所 4-4 プロジェクト「東アジア内海の新石器化と現代化: 景観の形成史」研究発表会, 総合地球環境学研究所 (京都市), [口頭発表].

Yang Ping, Zhu Wei and Yuasa, T. (2011年11月2日) Maintenance and management of paddy fields for the conservation of the waterside ecotone. 第14回世界湖沼会議 (アメリカ), [口頭発表].

楊 平 (2011年11月29日) 水環境の維持と管理について. 環境史領域会議, 琵琶湖博物館, 琵琶湖博物館 (滋賀県草津市), 「口頭発表」.

楊 平 (2011年12月12日) 江南における水田をめぐる水辺環境の特徴. 環境研究総合推進費研究題目「水田地帯の生物多様性再生に向けた自然資本・社会資本の評価と再生シナリオの提案」研究会, 琵琶湖博物館 (滋賀県草津市), [口頭発表].

牧野厚史・楊 平 (2011年12月26日) 水田地帯の生物多様性を効果的に保全するための社会的条件に関する研究. 環境研究総合推進費研究題目「水田地帯の生物多様性再生に向けた自然資本・社会資本の評価と再生シナリオの提案」研究会合, 京都大学東京オフィス (東京都), [口頭発表].

【研究プロジェクト等への参加】

琵琶湖博物館専門研究「農村地域における水と生業に関する環境社会学的研究」, (2011年度).

琵琶湖博物館共同研究「水田からみた環境負荷抑制に働く社会的総合作用の解明」(研究代表者: 楊 平), 研究代表者 (2011~2013年度).

科学研究費補助金 (基盤 C) 「琵琶湖と中国・太湖における水環境比較民俗論と成果展示の企画」(研究代表者: 楊 平), 研究代表者 (2010~2014年度).

環境省環境研究総合推進費「水田地帯の生物多様性再生に向けた自然資本・社会資本の評価と再生シナリオの提案」(研究代表者: 夏原由博), 共同研究者 (2009~2011年度).

総合地球環境学研究所 4-4 プロジェクト「東アジア内海の新石器化と現代化: 景観の形成史」(研究代表者: 内山純

蔵), メンバー (2009~2012 年度).

【学会等の役職・運営、論文の査読など】

日本環境社会学会, 国際交流委員, 2011 年~.

【大学の講義・実習、学生の指導など】

2011 年 10 月~2012 年 3 月、滋賀県立大学環境科学部、非常勤講師.

博物館事業に関する業績

【交流サービス事業】

琵琶湖博物館の主催行事

質問コーナー・フロアトーク, 琵琶湖博物館, 10 件.

フィールドレポーター調査「琵琶湖における水をめぐる環境利用や文化」, 担当.

2011 年 7 月 31 日、2011 年 8 月 5・6 日、博物館学実習, ディスカバリールームに関する展示説明等, 琵琶湖博物館, 講師.

他の博物館・機関等主催行事

2011 年 7 月 13 日, 琵琶湖博物館の概要説明及び展示説明案内, 神戸女子学院大学, 琵琶湖環境学習, 琵琶湖博物館, 講師.

2011 年 7 月 21 日, 水利用と生活との関わりについて, 滋賀県立石部高等学校ミュージアムスクール 夏季集中講座「琵琶湖探究」, 琵琶湖博物館, 講師.

2011 年 7 月 25 日, 農村くらしの変遷, 中国湖南省国土資源庁及び湖南省土地開発整備センター, 琵琶湖博物館, 展示説明及び案内.

2011 年 8 月 20 日, 湖と人間の共存関係について, ジャスベル株式会社, 琵琶湖博物館, 館内説明.

2011 年 10 月 1 日, 住民主導による水環境管理の取組, 中国社会科学院, 琵琶湖博物館, 説明及び案内.

2012 年 3 月 21 日, 水環境と私たちの暮らしー琵琶湖と中国の事例を中心にー, 大阪シニア自然カレッジ, 琵琶湖博物館, 講義.

視察対応

2012 年 3 月 14 日, 館内案内及び展示解説, 関西地域振興財団 中国成都訪日教育旅行関係者招請ツアー, 琵琶湖博物館.

【展示活動】

琵琶湖博物館の活動

ディスカバリールーム運営、展示, 主担当.

C 展示室富江家, 下水展示更新.

2011 年度, 琵琶湖博物館常設展示 (C 展示室) 維持管理, 担当.

湖の展示コーナー, 管理.

2012 年度の企画展示の企画・運営.

「Brief guide to the Galleries」中国語版の翻訳・作成等.

パンフレット中国版のチェック・修正等.

モーニングレクチャー, 講義, 3 回.

【研究部関連事業】

2011年度研究セミナー，主担当.

琵琶湖博物館研究審査会，タイムキーパー，2011年6月26日，琵琶湖博物館.

企画展示関連シンポジウム，2011年11月13日，運営委員.

新琵琶湖学セミナー，琵琶湖博物館，会場係.

館内の人事・館外活動等に関すること

【海外渡航】

2011年5月21日～5月30日，中国・西安，環境研究プロジェクト関連研究成果発表及び現地調査.

2011年7月2日～7月10日，中国・太湖，環境研究プロジェクト関連現地調査.

2011年9月21日～9月30日，中国・太湖，環境研究プロジェクト関連現地調査.

2011年10月30日～11月6日，アメリカ・オースティン，環境研究プロジェクト関連世界湖沼会議参加・発表.

2012年3月5日～3月9日，中国・太湖，環境研究プロジェクト関連現地調査および情報収集.

2011 度の前半は、博士号の審査および取得を行った。その後、日本民俗学会年会実行委員として、琵琶湖博物館でのプレシンポジウムの開催および、滋賀県立大学での年会の開催のために学会活動を行った。その活動の中で、滋賀県内外の民俗学研究者と意見交換を行う機会に恵まれた。

2011 年度後半は、日本民俗学会年会および日本民具学会大会において、桶風呂についての研究発表を 2 件行い、全国の研究者との意見交換を行い、今後の研究への様々な視座を得た。

また、2012 年度の琵琶湖博物館申請専門研究の申請を行い、滋賀県で使用された揚水機（龍骨車、龍尾車、踏車など）についての研究を新たに始めた。

2012 年度も引き続き、これまで行ってきた研究についての成果発表と新たな研究の基盤作りを行っていきたい。

印刷物

【学術論文】

老 文子 (2011) 間取り図および間取り図簿を用いた集落の復元的研究—滋賀県湖東の集落と民家を事例として—。
滋賀県立大学大学院人間文化学研究科地域文化学専攻博士論文：72 p.

【専門分野の著作】

老 文子 (2012) 桶風呂. 滋賀県立琵琶湖博物館 編, 民具を科学する～明治の得ずと現代の実測図から見た近江の民具～, 滋賀県立琵琶湖博物館, 滋賀県：22.

【一般向けの著作】

老 文子 (2011) 湖国の桶風呂. 滋賀県立琵琶湖博物館 編, 生命の湖 琵琶湖をさぐる, 文一総合出版, 東京都：200-201.

老 文子 (2011) 農家の循環型の暮らし方. 滋賀県立琵琶湖博物館 編, 生命の湖 琵琶湖をさぐる, 文一総合出版, 東京都：202-203.

研究活動に関する業績

【学会・研究会での発表】

老 文子 (2011 年 5 月 20 日) 民俗景観を分析・表現する—滋賀県彦根市肥田町を事例として—。琵琶湖博物館研究セミナー, 琵琶湖博物館 (草津市), [口頭発表].

老 文子 (2011 年 10 月 2 日) 桶風呂のある農家の復元的研究. 日本民俗学会第 63 回年会, 滋賀県立大学, [口頭発表].

老 文子 (2011 年 10 月 30 日) 桶風呂の製作工程. 日本民具学会, 東和総合センター(山口県大島郡大島町), [口頭発表].

【研究プロジェクト等への参加】

琵琶湖博物館専門研究「民俗学からみた景観研究—滋賀県がもつ景観と民俗学的研究視点の整理—」, (2011 年度). 科学研究費補助金 (若手 B) 「複数絵図情報の統合による集落の環境民俗建築学的研究」(研究代表者：老 文子), 研究代表者 (2010～2013 年度).

科学研究費補助金（基盤 C）「琵琶湖地域民具資料を用いた考古民俗学的方法論の開発研究と展示への試み」（研究代表者：用田政晴），共同研究者（2008～2011 年度）。

【学会等の役職・運営、論文の査読など】

第 63 回 日本民俗学会年会，実行委員。

博物館事業に関する業績

【交流・サービス事業】

琵琶湖博物館の主催行事

質問コーナー・フロアトーク，琵琶湖博物館，10 件。

はしかけ「湖をつなぐ会」，担当。

2011 年 8 月 3 日，民俗資料の整理，博物館実習，琵琶湖博物館，実習指導。

他の博物館・機関等主催行事

2011 年 6 月 26 日，京都造形芸術大学大学院歴史遺産実習，収蔵庫見学・博物館の概要説明，琵琶湖博物館，講師。

2011 年 7 月 8 日，民家の歴史とその調査方法，立命館守山中学校，琵琶湖学習，琵琶湖博物館，講師。

2011 年 7 月 22 日，湖北サマーホリデーサービス事業を推進する会「びわこを知ろう！」，長浜市六角館，湖北サマーホリデー事業を推進する会，ワークショップ補助。

2011 年 8 月 11 日，昔のくらしから学ぶ，平成 23 年度環境教育研究協議会，琵琶湖博物館，講師。

2011 年 9 月 11 日，博物館実習，京都造形芸術大学，琵琶湖博物館，収蔵庫案内。

2011 年 11 月 12 日，はしかけ活動の概要，伊丹市立中央公民館，琵琶湖博物館，説明。

2011 年 12 月 3 日・2012 年 1 月 21 日，民家の歴史とその暮らし，班での調べ学習への助言，立命館守山中学校，琵琶湖学習，琵琶湖博物館，学習補助，2 件。

2011 年 12 月 8 日，住民が参画する博物館－琵琶湖博物館の取り組みと今後の展開－，文部科学省・国立教育政策研究所社会教育実践研究センター，平成 23 年度博物館館長研修，社会教育実践研究センター（東京），講師。

視察対応

2011 年 8 月 11 日，はしかけ制度説明，防災危機管理局。

【資料整備活動】

琵琶湖博物館の活動

民俗資料整理，管理運営，主担当。

環境資料整理，収蔵庫管理，副担当。

【展示活動】

琵琶湖博物館の活動

ギャラリー展示「民具を科学する－明治の絵図と現代の実測図からみた近江の民具－」，副担当。

B 展示室，展示管理。

C 展示室（富江家）展示管理・展示修理・交換。

【企画調整活動】

新任職員等研修，資料保存について・B 展示室紹介・C 展示室紹介，講師，2010 年 4 月 20 日・21 日，琵琶湖博物館。

【研究部関連事業】

研究部紹介，主担当，2011 年度。

館内の人事・館外活動等に関すること

【館内の人事】

2008 年度～2011 年度，滋賀県博物館協議会，広報委員.

2011年度は、滋賀県版レッドリスト「滋賀県で大切にすべき野生生物」が2010年に改訂されたことから、滋賀県内における魚類と貝類の現状を紹介する目的で、水族企画展示「レッドリストの魚たち」を開催した。この展示では2005年のレッドリストから、カテゴリーが変更された種類を紹介するとともに、2010年に新種記載されたヨドゼゼラを展示した。カワウをテーマとした企画展示「こまった！カワウ」では、副担当として展示の企画、設営、運営を担当した。企画展示の内容は、亀田専門学芸員の研究成果をできる限り判りやすく紹介するよう工夫した。文化庁からの助成事業であるミュージアム活性化事業では、企画と運営を担当し安土城考古博物館と協働して、沖島の自然と文化を訪ねる「歴史体験クルーズ」や、外部の有識者を招いて開催した連携講座「琵琶湖 自然と文化」のほか、大型ショッピングモールで「出前展示 琵琶湖は美味しい面白い」などを開催した。また、(社)日本動物園水族館協会、種保存委員会の日本産希少淡水魚繁殖検討委員会の20周年記念事業では、日本の淡水魚たちがおかれている現状と、同委員会が実施している希少魚の生息域外保全について紹介するため「明日へつなぐ日本の自然—よみがえれ 日本の希少淡水魚—」を全国の動物園水族館が一斉に開催した。この催し物では、同委員会の委員として開催準備に関わり、全体の企画と調整を担当した。

研究では、滋賀県内で新たに確認された2種類の移入貝類について、共同研究者とともに専門誌に投稿する準備を進めている。共同研究「山と湖をつなぐ地下水環境域」では河川敷から、水を砂ごとすくい取る方法で、ミズズボ科の貝類を採集することができた。本科の貝類の採集はこれまで井戸からの採集がほとんどであったが、比較的容易に採集できる方法として専門誌に投稿する予定である。研究会等での報告としては、11月24・25日に開催された(社)日本動物園水族館協会の種保存委員会において、イチモンジタナゴの生息域外保全について、ポスター発表を行った。また、環境省の野生復帰モデル事業では、イチモンジタナゴとハリヨの野生復帰について、専門家や市民グループ、地域や企業、行政機関等と協働した取り組みを進め、イチモンジタナゴの再放流の可否について考えるため、一般市民の方々も参加したイチモンジタナゴ交流会を博物館ホールで開催した。ハリヨについては、地域の小学校、中学校での生息域外保全を促進するための活動を展開した。

印刷物

【学術論文】

Kunimune, Y., Mitsunaga, Y., Komeyama, K., Matsuda, M., Kobayashi, T., Takagi, T. and Yamane, T. (2011) Seasonal distribution of adult crusian carp nigorobuna *Carassius auratus grandculis* and gengoroubuna *Carassius cuvieri* in Lake Biwa, Japan. *Fisheries Science*, 77 : 521-532.

【専門分野の著作】

松田征也・石田未基 (2011) 兵庫県内で採集された地下水棲微小巻貝について. *ちりぼたん*, 41 (3-4), 日本貝類学会 : 103-104.

松田征也 (2011) 淡水貝類の概要. 滋賀県生きもの総合調査委員会 編, *滋賀県で大切にすべき野生生物 滋賀県レッドデータブック 2010年版*, 滋賀県 : 512.

松田征也・中井克樹 (2011) カワネジガイ他. 滋賀県生きもの総合調査委員会 編, *滋賀県で大切にすべき野生生物 滋賀県レッドデータブック 2010年版*, 滋賀県 : 513-531.

松田征也 (2012) イチモンジタナゴの野生復帰に向けて. *イチモンジタナゴ交流会会誌*, 平成23年度イチモンジタナゴ交流会 : 1-3.

【一般向けの著作】

- 松田征也 (2011) 正体不明の侵入者—外国産シジミ類. 滋賀県立琵琶湖博物館 編, *生命の湖 琵琶湖をさぐる*, 文一総合出版, 東京都: 94-95.
- 松田征也 (2011) 鮮紅色の卵を産む—スクミリンゴガイ. 滋賀県立琵琶湖博物館 編, *生命の湖 琵琶湖をさぐる*, 文一総合出版, 東京都: 96-97.
- 松田征也 (2011) よみがえれ! 淡水貝類. 滋賀県立琵琶湖博物館 編, *生命の湖 琵琶湖をさぐる*, 文一総合出版, 東京都: 98-99.
- 松田征也 (2011) 湖岸より 104 ベビーラッシュの博物館. *中日新聞*, 中日新聞社: 2011年4月10日.
- 松田征也 (2011) ここだけの湖の話—琵琶湖博物館の研究室から—18 淡水生物を未来に残す. *毎日新聞*, 毎日新聞社: 2011年7月7日.
- 松田征也 (2011) ここだけの湖の話—琵琶湖博物館の研究室から—23 カワウ 11月13日、シンポジウムで報告. *毎日新聞*, 毎日新聞社: 2011年11月13日.
- 松田征也 (2011) 滋賀県の絶滅危惧種「イチモンジタナゴ」「シロヒレタビラ」. *おりづる*, 78. 公益財団法人おりづる会: 8.
- 松田征也 (2011) 「魚つかみ」という言葉を使うわけ. 中島経夫・うおの会 編, *「魚つかみ」を楽しむ 魚と人の新しいかわり方*, 新評論, 東京都: 5-7.

研究活動に関する業績

【学会・研究会での発表】

- 松田征也 (2011年9月16日) 滋賀県で分布拡大している2種の貝類について. 琵琶湖博物館研究セミナー, 琵琶湖博物館, 琵琶湖博物館 (滋賀県草津市), [口頭発表].
- 松田征也 (2011年11月24・25日) イチモンジタナゴの生息域外保全. 第17回日本動物園水族館協会種保存会議, ワークピア横浜, [口頭発表].
- 松田征也 (2011年12月12日) 琵琶湖地域における、水生生物の保全について. 共同利用シンポジウム 生物多様性と水族館 研究・展示・啓発, 東京大学大気海洋研究所, [口頭発表].
- 松田征也 (2012年2月5日) イチモンジタナゴの野生復帰について. イチモンジタナゴ交流会, 琵琶湖博物館, [口頭発表].
- 嶺田拓也・金尾滋史・中井克樹・松田征也・高倉 猛・林 和典・日鷹一雅 (2012年3月19日) スクミリンゴガイの琵琶湖および集水域における侵入・定着. 第59回日本生態学会, 龍谷大学瀬田キャンパス, [口頭発表].

【研究プロジェクト等への参加】

- 琵琶湖博物館専門研究「滋賀県内における淡水生貝類の分布調査および既存情報との比較」, (2011年度).
- 琵琶湖博物館共同研究「山と湖をつなぐ地下水環境域」(研究代表者: マーク ジョセフ グライガー), 研究副代表 (2011~2012年度).
- 環境省「ハリヨ野生復帰モデル事業」(研究代表者: 松田征也), 研究代表者 (2010~2012年度).
- 環境省「イチモンジタナゴ野生復帰モデル事業」(研究代表者: 松田征也), 研究代表者 (2010~2012年度).
- (社)日本動物園水族館協会「平成23年度 生息域外保全モデル事業(動物)」(研究代表者: 松田征也), 研究代表者 (2011年度).

博物館事業に関する業績

【交流・サービス事業】

琵琶湖博物館の主催行事

質問コーナー・フロアトーク, 琵琶湖博物館, 10件.

2011年7月2日, 水族バックヤード探検, あさ、ひる、ばん琵琶湖博物館を楽しもう!, 琵琶湖博物館, 解説.
2011年8月2日, 琵琶湖の貝を調べてみよう, 自然調査ゼミナール, 琵琶湖博物館, 講義.
2011年8月18日, 沖島 ~歴史体験クルーズ~, 滋賀県ミュージアム活性化推進委員会, 琵琶湖湖上, 講師.
2011年12月25日, 琵琶湖の魚介類, 文化庁ミュージアム活性化支援事業「琵琶湖 自然と文化」 連携講座 第1回「魚と人」, 滋賀県ミュージアム活性化推進委員会, 滋賀県立安土城考古博物館, 講演.

他の博物館・機関等主催行事

2011年7月19・26日, 琵琶湖博物館の概要と企画展示, 静岡県社会保険事務所, 講師, 2件.
2011年8月6日, 川の水生生物観察, 竜法師農地・水・環境を守る会, 竜法師公民館, 琵琶湖博物館, 講師.
2011年8月11日, 琵琶湖の概要と水族展示室の解説①②, 平成23年環境教育研究協議会, 琵琶湖博物館, 講師, 2件.
2011年8月25日, 川の魚の観察会, 立入が丘学童保育所, 守山市, 講師.
2011年10月22日, 地曳網体験, 和邇公民館, 大津市北小松湖岸, 講師.
2012年2月15日, 絶滅危惧種保全のための取り組み, プリヂェストンタイヤ新商品発表会, 神戸ポートピアホテル, 講師.
2012年3月11日, 子どもと大人の寄り合い会議, 子どもと川と町のフォーラム, 地恩寺(京都市), 講師.
2012年3月15日, 琵琶湖の魚について, 特定非営利活動法人東海学園, 琵琶湖博物館, 講師.

メディアへの協力

2011年8月19日, NHK, あなたが主役50ボイス~琵琶湖~, インタビュー対応, (2011年5月31日取材).
2011年11月9日, KBS 京都ラジオ, 羽川英樹の京・奈良・近江みつけ旅, 出演, (2011年11月9日電話インタビュー).

【情報整備活動】

琵琶湖博物館の活動

琵琶湖博物館インターネットページ・博物館ニュース, 写真提供, 19件.

【資料整備活動】

他博物館・機関の活動

国立環境研究所, ヒブナ組織片1, フナ1組織片, 分譲.
岐阜県世界淡水魚園水族館, ミナミイシガメ1頭, ミナミトミヨ3尾, 貸出 ハリヨ20尾, 分譲.
姫路市立水族館, アユモドキ30尾, ビワコオオナマズ2尾, ウグイ10尾, ハリヨ100尾, 分譲.
神戸市立須磨海浜水族園, 日本産希少魚18種写真, 貸出.
宮島水族館, ニッポンバラタナゴ30尾, 分譲.
亀岡市文化資料館, アユモドキ5尾, 貸出.
山梨大学教育人間科学部, ウシモツゴ3尾, 分譲.
(社)日本動物園水族館協会日本産希少淡水魚繁殖検討委員会, 日本産希少魚21種写真, 貸出.
宮津エネルギー研究所水族館, アユモドキ10尾, 貸出.
下関市立しものせき水族館, カワバタモロコ30尾, ヒナモロコ30尾, 貸出.
近畿大学, *Parabotia maculosa* 2個体, *Leptobotia gulilnensis* 6個体, 貸出.
大阪市天王寺動植物公園事務所, カワバタモロコ60尾, 分譲.
虹の森公園おさかな館, ミヤコタナゴ50尾, ニッポンバラタナゴ50尾, 貸出.
福井県立大学, ハリヨ10尾, 分譲.
名古屋市東山動物園, スイゲンゼニタナゴ60尾, 分譲.
小樽水族館公社, ビワコオオナマズ2尾, ホトケドジョウ10尾, 貸出.

【展示活動】

琵琶湖博物館の活動

第24回水族企画展示「レッドリストの魚たち」 主担当.
第19回企画展示「こまった！カワウ」, 副担当.
ギャラリー展示「民具を科学する」, 巨大タツベ展示担当.
水族トピック展示「スジシマドジョウ大型種の幼魚」 絶滅危惧IB類, 企画.
水族トピック展示「アブラヒガイの未成魚」, 企画.
水族トピック展示 天然記念物「イタセンパラ」の稚魚, 企画.
水族トピック展示「ホトケドジョウの稚魚」, 企画.
水族トピック展示「ハリヨの稚魚（トゲウオ科）」, 企画.
水族トピック展示 産卵期を迎えている「ニッポンバラタナゴ」, 企画.

他博物館・機関の活動

2012年1月7日～4月8日, 全国一斉開催企画展示「明日へつなぐ日本の自然—よみがえれ、日本の希少淡水魚—」,
(社)日本動物園水族館協会 種保存委員会 希少淡水魚繁殖検討委員会.

【企画調整活動】

新任職員等研修, 博物館の概要と事業内容, 講師, 2011年4月12日, 琵琶湖博物館.

【研究部関連事業】

調査船「うみんど」管理, 副担当.
研究用アルコール管理, 主担当.

館内の人事・館外活動等に関すること

【館外の活動】

1999年～, 守山湖岸再生部会, 委員.
2000年～, 木浜内湖再生部会, 委員.
2005年～, 種保存委員会・日本産希少淡水魚繁殖検討委員会, 検討委員.
2011年度, 種保存委員会・日本産希少淡水魚繁殖検討委員会, ニッポンバラタナゴ種別調整者.
2011年度, 種保存委員会・日本産希少淡水魚繁殖検討委員会, アユモドキ種別調整者.
2011年度, 種保存委員会・日本産希少淡水魚繁殖検討委員会, イチモンジタナゴ種別調整者.
2004年～, 淀川水系アユモドキ連絡協議会(環境省), 委員.

今年度は、総務部企画調整課課長を研究部との兼務で行うこととなった。これまで、企画調整課に在籍したことなく、業務の内容や進め方等わからない部分が多く相当に戸惑いながら業務を行った。実際には、中長期計画の進行管理、広報経営戦略会議に基づく広報計画の推進、事業調整会議の運営等が主な業務であった。ただ、実際には企画展の野外広報を始め、移動博物館展示キットの作成と運用等々種々雑多な業務に忙殺された感がある。また、新中長期計画の策定や展示更新計画の策定に関する会議に参加した。

研究活動では、「定期サンプリングによる湖内におけるビワマスの基礎的生態情報の取得」というテーマで、東大グループおよび近大グループと共同研究を今年度から立ち上げるようになった。本共同研究は、これまでそれぞれのグループに私が協力することで個別に進められていたものを、湖内に生息するビワマスの基礎的生態情報を調査し、そのデータを付加することでビワマスの生態全般を解明しようとするものである。専門研究では、「琵琶湖産魚類の遺伝的多様性と個体群構造の変化に関する基礎的研究」と題し、琵琶湖博物館に保管されているBST 当時の魚類の鱗の標本を用いて、遺伝的な多様性の変化を調べようとするものである。これは、2010年9月～2011年8月までの1年間の予定で、富士フィルムグリーンファンドの助成を受けて研究を始めたものである。また、まずはビワマスを手始めにすることで、先の共同研究の一部としても位置づけてきた。ただ、残念ながら先の企画調整課長としての業務に忙殺されたことから、研究活動は思うに任せず、富士フィルムグリーンファンドの助成についても、今年度半年を残し返還することとなった。

このような状況の中、「Introgression of *Oncorhynchus masou* subsp. (Biwa salmon) genome into lake-run *O. m. ishikawae* (Amago salmon) introduced into Lake Biwa, Japan」というタイトルで Ichthyological Research に論文を投稿することができた。この論文については、2012年2月に Online First で HP 上に公開された。

印刷物

【学術論文】

- Sakai, H., Nakashima, N., Uno, T., Yonehana, M., Kitagawa, S. and Kuwahara, M. (2011) A pelagic Cyprinid of Lake Biwa *Gnathopogon caerulescens* and a Brooklet-Dwelling Relative *G. elongatus* formed a Hybrid Swarm in a Dammed Reservoir Lake Ono. *Journal of National Fisheries University*, 1(60), 水産大学校: 43-50.
- Kuwahara, M., Takahashi, H., Kikko, T., Kurumi, S. and Iguchi, K. (2012) Introgression of *Oncorhynchus masou* subsp. (Biwa salmon) genome into lake-run *O. m. ishikawae* (Amago salmon) introduced into Lake Biwa. *Ichthyological Research*, 3(59), 日本魚類学会: Online first.

【一般向けの著作】

- 桑原雅之 (2011) ビワマスとは. 滋賀県立琵琶湖博物館 編, *生命の湖 琵琶湖をさぐる*, 文一総合出版, 東京都: 40-41.
- 桑原雅之 (2011) ビワマスの産卵. 滋賀県立琵琶湖博物館 編, *生命の湖 琵琶湖をさぐる*, 文一総合出版, 東京都: 42-43.
- 桑原雅之 (2011) ここだけの湖の話～琵琶湖博物館の研究室から～15 ビワマスとサツキマス 新発見で現れる常識. *毎日新聞*, 毎日新聞社: 2011年5月26日.
- 桑原雅之 (2012) 琵琶湖水中雑談 私たちに身近な琵琶湖の中をのぞいてみよう! 「琵琶湖の源流」. おりづる, 79, 公益財団法人おりづる会: 8.

研究活動に関する業績

【学会・研究会での発表】

- 桑原雅之(2011年7月24日) 湖内におけるビワマス生態調査の可能性. 琵琶湖博物館特別研究セミナー「琵琶湖にすむビワマスの生態に迫る!!」, 琵琶湖博物館, 琵琶湖博物館(滋賀県草津市), [口頭発表].
- 桑原雅之(2011年7月24日) 琵琶湖博物館特別研究セミナー「琵琶湖にすむビワマスの生態に迫る!!」, 琵琶湖博物館, 琵琶湖博物館(滋賀県草津市), [企画・運営].
- 桑原雅之(2011年9月16日) 琵琶湖水系におけるビワマスとアマゴの関係. 琵琶湖博物館研究セミナー, 琵琶湖博物館, 琵琶湖博物館(滋賀県草津市), [口頭発表].
- 間野静夫・淀 大我・新村安雄・桑原雅之(2012年3月27日) 長良川における近年のアユの小型化について. 平成24年度日本水産学会春季大会, 日本水産学会, 東京海洋大学品川キャンパス(東京都), [口頭発表].

【研究プロジェクト等への参加】

- 琵琶湖博物館専門研究「琵琶湖産魚類の遺伝的多様性と個体群構造の変化に関する基礎的研究」, (2011年度).
- 琵琶湖博物館総合研究「琵琶湖の生物多様性の成立過程の解明」(研究代表者:高橋啓一), 研究協力者(2011~2015年度).
- 琵琶湖博物館共同研究「定期サンプリングによる湖内におけるビワマスの基礎的生態情報の取得」(研究代表者:桑原雅之), 研究代表者(2011~2013年度).

【学会等の役職・運営、論文の査読など】

- 魚類学雑誌, 論文の査読, 1件.

博物館事業に関する業績

【交流・サービス事業】

琵琶湖博物館の主催行事

- 質問コーナー・フロアトーク, 琵琶湖博物館, 10件.
- 2011年7月30日, 漁船に乗ってビワマス漁をみてみよう, 見学会, 湖北町尾上, 副担当, (協力:朝日漁協、菅原和宏と共同).
- 2011年10月29日, ビワマスの採卵現場を見学してみませんか, 見学会, マキノ町知内, 主担当, (協力:百瀬漁協・滋賀県漁連高島事業場、菅原和宏と共同).

他の博物館・機関等主催行事

- 2011年5月24日, 琵琶湖の魚の生態, 近江八幡市小船木老人クラブ, 出前講座, 小船木町公民館(近江八幡市), 講師.
- 2011年7月18・19・21日, 淡水魚の生態と分類, シニア自然大学, 淡水魚①, NPOプラザ(大阪市), 講師, 3件.
- 2011年8月1・2・4日, 淡水魚の採集と同定, シニア自然大学, 淡水魚②, 大戸川(大津市), 講師, 3件.
- 2011年12月3日・2012年1月21日, 琵琶湖の魚の生態, 立命館守山中学校, 琵琶湖学習, 琵琶湖博物館, 指導.

メディアへの協力

- 2012年1月20日, NHK 大津, おうみ発 610 琵琶湖クローズアップ クイズで知る琵琶湖「琵琶湖の魚第1弾」, 出演, (2012年1月16日取材).
- 2012年1月31日, NHK 大津, おうみ発 610 琵琶湖クローズアップ クイズで知る琵琶湖「琵琶湖の魚第2弾」, 出演, (2012年1月26日取材).
- 2012年3月27日, NHK 大津, おうみ発 610 琵琶湖クローズアップ クイズで知る琵琶湖拡大版紹介, 出演, (2012

年3月24日取材).

【資料整備活動】

琵琶湖博物館の活動

水族資料収集, 担当.

水族資料維持管理, 担当.

【展示活動】

琵琶湖博物館の活動

水族展示維持管理, 担当.

旬のさかなたち, 主担当.

水族トピック展示, 担当.

2012年1月3日～1月22日, 平成24年お正月トピック展示「辰・龍・竜」, 主担当.

モーニングレクチャー, 講義, 4回.

展示交流員と話そう, 内容指導.

【企画調整活動】

事業調整会議, 運営主担当.

広報経営戦略会議, 運営主担当.

新任職員等研修, 琵琶湖博物館の中長期計画, 講師, 2011年4月12日, 琵琶湖博物館.

館内の人事・館外活動等に関すること

【館外の活動】

日本動物園水族館協会, 設備会議幹事.

オサムシ科を中心に昆虫の系統進化および生物地理を明らかにすることを研究目標としている。また、地域の人たちとともに滋賀県の昆虫相を解明することを目指している。研究活動では、これまでに実施してきた総合研究と共同研究の成果を2冊の本として刊行した。一つめは「博物館でまなぶ—利用と保存の資料論」（八坂書房）である。1997年度から2004年度まで琵琶湖博物館総合研究「博物館資料の収集・整理・保管と利用に関する研究」を実施したが、第二期の研究成果をまとめたものである。もう一つは、琵琶湖博物館研究調査報告「滋賀県のチョウ類の分布」である。これは、2003年度から2005年度に地域で昆虫を研究している人たちと実施した共同研究「滋賀県のチョウ類の分布」の成果である。滋賀県には128種ものチョウ類が生息していることや、県内で分布域が拡大している種が7種、分布域が縮小している種が10種いることなど県内のチョウ類の分布の変遷を明らかにしたものである。

平成22年度科学研究費補助金（研究成果公開促進費；データベース）による成果であるが、日本産環境指標ゴミムシ類データベース「里山のゴミムシ」を博物館の電子図鑑として公開した。このデータベースは、日本産の里山のゴミムシ類299種を対象に、画像情報、分類情報、生態情報を網羅したデータベースであり、大学の研究者や環境影響評価を行っている現場の調査者にとって利用価値の高いものとなる。本データベースは、日本昆虫学会の「あきつ賞」を受賞した。

今年度から研究部長となり研究部の総括を行うほか、研究部代表者会議や研究報告会、研究審査会の運営に関わった。科学研究費補助金事業の学芸員全員申請に館として取り組み、申請書類に目を通すなどして採択率の向上にも努めた。また、次期中長期基本計画や展示更新計画など博物館の将来のあり方を検討した。事業活動としては、東日本大震災によって被災した岩手県の陸前高田市立博物館の昆虫標本を受け入れその修復を行った。その活動の様子を3月10日～3月25日までトピック展示「東日本大震災で被災した昆虫標本のレスキュー活動」で紹介したことが大きな成果である。

印刷物

【専門分野の著作】

- 八尋克郎（2011）なぜ今博物館で資料論なのか。八尋克郎・布谷知夫・里口保文 編，*博物館でまなぶ 利用と保存の資料論*，東海大学出版会，神奈川県：1-6。
- 八尋克郎（2011）博物館における資料研究のあゆみ。八尋克郎・布谷知夫・里口保文 編，*博物館でまなぶ 利用と保存の資料論*，東海大学出版会，神奈川県：36-39。
- 滋賀県チョウ類分布研究会 編（2011）滋賀県のチョウ類の分布。琵琶湖博物館研究調査報告，27，琵琶湖博物館：194p。
- 八尋克郎（2011）日本産環境指標ゴミムシ類データベースの公開。地表性甲虫談話会会報，11：1。
- 八尋克郎・吉田 真（2011）昆虫・クモ類の概要。滋賀県生きもの総合調査委員会 編，*滋賀県で大切にすべき野生生物 滋賀県レッドデータブック2010年版*，サンライズ出版，彦根：380。
- 八尋克郎（2011）オオヒョウタンゴミムシ、コガタノゲンゴロウ、シャープゲンゴロウモドキ、オオイチモンジシマゲンゴロウ、ゲンゴロウ、オオクワガタ、クロゲンゴロウ、クロカタピロオサムシ、セアカオサムシ、オオヨツボシゴミムシ、オサムシモドキ、クロケブカゴミムシ、コキベリアオゴミムシ、ヒメボタル、ムナグロチャイロテントウ、アキオサムシ、シガラキオサムシ、サメメクラチビゴミムシ、イシダメクラチビゴミムシ。滋賀県生きもの総合調査委員会 編，*滋賀県で大切にすべき野生生物 滋賀県レッドデータブック2010年版*，サンライズ出版，彦根：384-386・392・403・421・451-452。
- 八尋克郎（2011）変わりゆく滋賀県のチョウ類の分布。湖国と文化，136：82-85。

【一般向けの著作】

- 八尋克郎(2011)琵琶湖とそのまわりの水生昆虫相の特徴. 滋賀県立琵琶湖博物館 編, *生命の湖 琵琶湖をさぐる*, 文一総合出版, 東京都: 104-105.
- 八尋克郎(2011)オサムシとは?. 滋賀県立琵琶湖博物館 編, *生命の湖 琵琶湖をさぐる*, 文一総合出版, 東京都: 106-107.
- 八尋克郎(2011)琵琶湖のまわりのオサムシの分布. 滋賀県立琵琶湖博物館 編, *生命の湖 琵琶湖をさぐる*, 文一総合出版, 東京都: 108-109.
- 八尋克郎(2011)湖岸より 117 地域の資料を守る 被災標本修復. *中日新聞*, 中日新聞社: 2011年7月9日.
- 八尋克郎(2011)湖岸より 126 変化するチョウ類の分布. *中日新聞*, 中日新聞社: 2011年9月10日.
- 八尋克郎(2011)ここだけの湖の話～琵琶湖博物館の研究室から～12 新展示も地域参加で 16年に20周年 ともに調べた成果を紹介. *毎日新聞*, 毎日新聞社: 2011年4月7日.
- 八尋克郎(2011)湖岸より 138 鳴く虫と日本人の文化. *中日新聞*, 中日新聞社: 2011年12月3日.
- 八尋克郎(2011)ここだけの湖の話～琵琶湖博物館と世界のフィールドから～4 国際交流の拠点として. *毎日新聞*, 毎日新聞社: 2011年12月1日.
- 八尋克郎(2012)湖岸より 148 ドラゴンフライの語源. *中日新聞*, 中日新聞社: 2012年2月18日.
- 八尋克郎(2012)昆虫. *琵琶湖ハンドブック改訂版*, 滋賀県: 194-195.

研究活動に関する業績

【学会・研究会での発表】

- 八尋克郎(2011年4月24日)カワウの巣から発見された昆虫. 鳥学会員地区懇談会4月例会, 琵琶湖博物館(滋賀県草津市), [口頭発表].
- 八尋克郎(2011年9月17日)カワウの巣から発見された昆虫. 日本昆虫学会第71回大会, 信州大学(松本市), [口頭発表].
- 八尋克郎(2011年9月18日)日本産環境指標ゴミムシ類データベースの公開. 日本昆虫学会第71回大会, 小集会 地表性甲虫談話会, 信州大学(松本市), [口頭発表].
- 八尋克郎・亀田佳代子(2011年9月19日)カワウと昆虫. 日本鳥学会2011年度大会 自由集会「鳥と昆虫の新たな関係」, 大阪市立大学(大阪市), [口頭発表].
- 八尋克郎(2011年11月18日)カワウの巣の昆虫相. 琵琶湖博物館研究セミナー, 琵琶湖博物館, 琵琶湖博物館(滋賀県草津市), [口頭発表].
- 八尋克郎(2012年3月24日)カワウの巣の昆虫相—特に甲虫類を中心に— . 日本甲虫学会, 大阪市立自然史博物館(大阪市), [口頭発表].

【研究プロジェクト等への参加】

- 琵琶湖博物館専門研究「琵琶湖とその集水域におけるゴミムシ類の分類学的研究」, (2011年度).
- 科学研究費補助金(基盤B 一般)「地域住民による琵琶湖沿岸域の<生命の賑わい>総合調査の方法論と具体的手法の確立」(研究代表者:川那部浩哉), 研究分担者(2010年度～2012年度).

【学会等の役職・運営、論文の査読など】

- 日本昆虫学会, 近畿支部自然保護委員, 2003年度～.
- 滋賀オサムシ研究会, 事務局, 1997年度～.
- 地表性甲虫談話会会報, 編集幹事, 2004年度～.
- 昆虫(ニューシリーズ), 査読, 2件.

【受賞など】

- 日本昆虫学会2011年度「あきつ賞」, 2011年9月17日, 電子図鑑「里山のゴミムシ」が昆虫分類学、応用昆虫学、

昆虫生理学、昆虫生態学などの学術的昆虫学分野、および一般向けの昆虫学教育普及分野に関する、優秀なホームページを表彰する日本昆虫学会の2011年度「あきつ賞」を受賞した、(八尋克郎・堀 繁久・石井 実・石谷正宇)。

博物館事業に関する業績

【交流・サービス事業】

琵琶湖博物館の主催行事

質問コーナー・フロアトーク，琵琶湖博物館，12件。

2011年6月30日，昆虫の学習（3年），学校連携，高島市（青柳小学校），講師。

2011年7月2日，希望が丘自然観察会（昆虫），観察会，希望が丘文化公園・竜王町，講師，（澤田弘行トンボ研究会と共同）。

2011年7月30日，琵琶湖博物館の研究活動，博物館実習，琵琶湖博物館，講師。

2011年7月31日，夏休み自由研究講座（昆虫），講座，琵琶湖博物館，講師，（南 尊演氏、武田 滋氏、高橋和征・榊永一宏と共同）。

2011年8月2日，博物館周辺で昆虫採集をしよう，自然調査ゼミナール，琵琶湖博物館，講師，

他の博物館・機関等主催行事

2011年6月11日，ホテルの観察会，真野北公民館，大津市融神社，講師。

2011年8月11日，昆虫から見る琵琶湖，環境教育研究協議会，琵琶湖博物館，講師。

2011年8月18日，琵琶湖博物館の紹介，イオンジャスベル WAON 招待旅行者の対応，琵琶湖博物館，館内説明。

2011年10月1日，問題解決のアプローチの方法，立命館守山中学校，琵琶湖学習，琵琶湖博物館，講師。

2011年10月8日，アカトンボの見つけ方、見分け方、写真の撮り方の指導等，草津市環境課，ロクハ公園（草津市），講師。

2011年12月3日・2012年1月21日，琵琶湖とそのまわりの昆虫，立命館守山中学校，琵琶湖学習，琵琶湖博物館，調べ学習指導。

2011年12月23日，アカトンボ調査座談会，草津市環境課，草津市役所，講師。

メディアへの協力

2011年8月29日，京都新聞，被災標本、琵琶博が修復，（2011年8月12日取材対応）。

2012年2月23日，びわこ放送，被災標本、琵琶博が修復，（2012年2月3日取材対応）。

2012年3月9日，中日新聞，トピック展示「東日本大震災で被災した昆虫標本のレスキュー活動」，（2012年3月6日取材対応）。

2012年3月10日，毎日新聞，トピック展示「東日本大震災で被災した昆虫標本のレスキュー活動」，（2012年3月6日取材対応）。

2012年3月10日，京都新聞，トピック展示「東日本大震災で被災した昆虫標本のレスキュー活動」，（2012年3月8日取材対応）。

2012年3月13日，読売新聞，トピック展示「東日本大震災で被災した昆虫標本のレスキュー活動」，（2012年3月8日取材対応）。

2012年3月16日，朝日新聞，トピック展示「東日本大震災で被災した昆虫標本のレスキュー活動」，（2012年3月14日取材対応）。

【情報整備活動】

琵琶湖博物館の活動

クエリーの質問対応，昆虫に関する質問への回答，3件。

【資料整備活動】

琵琶湖博物館の活動

資料の寄贈受け入れ, 1 件.

資料の貸出し, 2 件.

【展示活動】

琵琶湖博物館の活動

第 19 回企画展示「こまった！ カワウー生きものとのつきあい方」, 昆虫コーナー担当.

お正月トピック展示「辰・龍・竜」展, 昆虫担当.

モーニングレクチャー, 講義, 4 回.

【企画調整活動】

新任職員等研修, 博物館の研究, 講師, 2011 年 4 月 12 日, 琵琶湖博物館.

新任職員等研修, C 展示室生き物コレクション, 講師, 2011 年 4 月 20 日, 琵琶湖博物館.

JICA 博物館学集中コース, 博物館と研究, 講師, 2011 年 7 月 20 日, 琵琶湖博物館.

館内の人事・館外活動等に関すること

【館外の活動】

2011 年 4 月 1 日～, 滋賀県生きもの総合調査委員会昆虫類部会, 部会長.

2010 年 2 月～2012 年 10 月 31 日, 日本環境動物昆虫学会第 12 期環境アセスメント動物調査手法研究部会, 運営委員.

2011 年 11 月 1 日～2013 年 10 月 31 日, 大津市環境影響評価委員.

昨年度は水田地帯における排水路の新たな生態系保全工法「ゆりかご水路」を提案し、その効果・検証を湖辺域で実施した。その結果は、慣行排水路の約 10 倍の魚類産卵・繁殖がゆりかご水路で見られ、その有効性を確認することができた。今年度はその対象地域を「中流域」に広げ、その繁殖効果を検証した。その結果は、個体数は慣行排水路のほぼ 2 倍、魚種については湖辺域とほぼ同じ魚種を採集することができ、中流域においてもゆりかご水路の効果を確認することができた。さらに、今年度現地調査を行う中で、慣行排水路でゆりかご水路より個体数の多い路線を 1 路線確認したが、その構造は、流水性と止水性の両機能を有した「自然にできたゆりかご水路」であることが判明した。今後これら排水路の解明が、農村地域の生態系保全に役立つと考える。また来年度から近江八幡市島町において、「ゆりかご水路」を採用した国のモデル事業がスタートする。今後博物館としても、本事業に参画し、助言や提案をしていきたいと考えている。

今年度の主な研究成果としては、農業農村工学会発表の「湖辺域、中流域のゆりかご水路の魚類繁殖効果」と滋賀県農業土木研究発表の「ほ場整備された水田地帯の魚類再生について」がある。後者は、県庁耕地課、農村振興課の農業土木職員（3 名）とプロジェクトチームを立ち上げ、現在の水田地帯における課題、問題に対する提案である。これらの提案は、今後農業農村整備事業を実施する上で、県内の様々な地域で参考になると考えている。

また来年度から始まる企画展示「ニゴローの田んぼ大冒険」（仮）では、魚のゆりかご水田のパネルや動画等の準備を行った。

印刷物

【一般向けの著作】

- 碓 登志之・秋山廣光・橋本道範・里口保文・榊永一宏・寺尾尚純・亀田佳代子 編（2011）*うみっこ通信*. 6, 琵琶湖博物館：4p.
- 碓 登志之・秋山廣光・橋本道範・里口保文・榊永一宏・寺尾尚純・草加伸吾・環境学習センター 編（2011）*うみっこ通信*. 7, 琵琶湖博物館：4p.
- 碓 登志之・堀 明弘（2011）ラムサール条約 COP11 のための「水田の生物多様性ファクトシート」. *NPO 法人田んぼ*: 1-2.

研究活動に関する業績

【学会・研究会での発表】

- 碓 登志之（2011 年 11 月 17 日）生態系保全工法としてのゆりかご水路の検証について. 68 回農業農村工学会京都支部研究発表会, 奈良県文化会館（奈良市）, [口頭発表].
- 碓 登志之（2011 年 12 月 16 日）中流域におけるゆりかご水路の検証. 琵琶湖博物館研究セミナー, 琵琶湖博物館, 琵琶湖博物館（滋賀県草津市）, [口頭発表].
- 碓 登志之（2011 年 12 月 18 日）中流域におけるゆりかご水路の検証. 琵琶湖地域の水田生物研究会, 琵琶湖博物館, 琵琶湖博物館（滋賀県草津市）, [口頭発表].
- 碓 登志之（2012 年 2 月 3 日）ほ場整備された水田地帯の魚類再生について. 平成 23 年度農業土木研究発表会, 滋賀県庁（滋賀県大津市）, [口頭発表].

【研究プロジェクトへの参加】

琵琶湖博物館専門研究「農業排水路における生態系保全・再生について」,(2011年度).

博物館事業に関する業績

【交流・サービス事業】

琵琶湖博物館の主催行事

質問コーナー・フロアトーク, 琵琶湖博物館, 9件.

フィールドレポーター, 主担当.

フィールドレポーター観察会・交流会, 大津市・高島市・琵琶湖博物館, 4回開催, 主担当.

2011年4月17日, 里山体験教室, 野洲市, 副担当.

2011年7月2・3日, あさ・ひる・ばん博物館を楽しもう, はしかけオープンハウス, 琵琶湖博物館, 主担当.

2011年9月4日, 東日本大震災避難者との交流会, 琵琶湖博物館, 担当.

2011年9月26日, 学校サテライト博物館移動, 高島市・彦根市, 副担当.

他の博物館・機関等主催行事

2011年4月6日, ゆりかご水路と堰上げ型排水路の特性について, 堤青空ネットワーク, 野洲市, 講演.

2011年6月18日, 平成23年度須原魚のゆりかご水田観察会, 須原魚のゆりかご水田協議会, 野洲市, 講師.

2011年12月3日, 農業の中での水の利用について, 立命館守山中学校, 琵琶湖学習, 琵琶湖博物館, 学習指導.

2011年12月4日, 竹町における魚のゆりかご水路の調査結果について, 竹町のしぜんを守る会, 近江八幡市, 講演.

2012年1月21日, 農業の中での水の利用について, 立命館守山中学校, 琵琶湖学習, 琵琶湖博物館, 学習指導.

2012年2月29日, ほ場整備された水田地帯の魚類再生について, みずすまし専門部会(生態系保全部会), 大津合同庁舎, 発表.

視察対応

2011年6月28日, 野洲市における魚のゆりかご水田の取り組みについて, 近畿水土里ネット連合協議会, 琵琶湖博物館.

2011年7月16日, 魚のゆりかご水田プロジェクトについて, 乙訓の自然を守る会, 琵琶湖博物館.

2011年7月26日, 魚のゆりかご水田について・C展示室案内, 中国農業部規画研究設計院「日本農産品生産環境保護技術考察団」, 琵琶湖博物館.

2011年7月29日, 企画展「こまった! カワウ」案内, 各農業農村振興事務所長 県庁農政水産部職員, 琵琶湖博物館.

メディアへの協力

2011年5月15日, 中日新聞, フィールドレポーター「イチョウウキゴケ調査」,(2011年5月13日取材).

2011年9月1日, 鄙美(ひなび) vol.4, たねやグループ, 魚のゆりかご水田プロジェクトについて.

2011年12月9日, 中日新聞, 工房の田んぼ「コンニャクイモ」,(2011年12月7日取材).

2011年12月30日, 京都新聞, フィールドレポーター「ミノムシ調査」,(2011年12月25日取材).

2012年1月30日, 京都新聞, 連載「湖国探研 碇 登志之さん」, インタビュー,(2011年12月14日取材).

【資料整備活動】

琵琶湖博物館の活動

資料の貸出(臼・杵, 魚のレプリカ), 2件.

【展示活動】

琵琶湖博物館の活動

実験工房・田畑の維持管理行事、琵琶湖博物館屋外展示、主担当。
モーニングレクチャー、講義、4回。

館内の人事・館外活動等に関すること

【館内の人事】

2011年度、琵琶湖博物館情報誌、編集委員。
2011年度、滋賀県農政水産部耕地課企画調整担当、主幹を兼務。

【館外の活動】

2011年度、魚のゆりかご水田ネットワーク、事務局。
2011年度、豊かな生き物育む水田（魚のゆりかご水田）、担当者。
2011年度、みずすまし専門部会（生態系保全専門部会）、オブザーバー。
2011年度、滋賀県魚のゆりかご水田プロジェクト推進協議会、委員。
2011年度、魚のゆりかご水田拡大キャラバン業務審査会、審査員。

2011年度は、これまで行ってきた研究の成果発信として、企画展示「こまった！ カワウ生きものとのつきあい方」(会期：2011年7月16日(土)～11月23日(水・祝))を開催したことが、最も大きな仕事であった。企画展示に合わせて、関連シンポジウム「こまった！ カワウ わかった?! カワウカワウと人の過去・現在・未来」(2011年11月13日(日))や、観察会、講座などの関連行事も実施し、さまざまな形で研究発信を行った。博物館主催の行事以外にも、外部団体の企画展示見学の対応、企画展示開催に伴うカワウ関係の講演依頼なども多く、より広く発信を行うことができた。

企画展示以外の研究成果としては、参加していた国際研究ネットワークの成果をまとめた専門書「Seabird Islands: Ecology, Invasion, and Restoration (海鳥の生息する島：その生態、外来生物、再生)」が出版された。この本の出版により、琵琶湖をはじめとする日本の淡水域でのカワウ繁殖地での研究成果が、海外の海鳥繁殖地研究の中で位置づけられたといえる。研究プロジェクトの動向としては、琵琶湖博物館共同研究「竹生島および鶴の山におけるカワウ営巣林の森林衰退-回復過程の解明」が、2011年度に最終年度を迎えた。私自身は企画展示の開催に重点をおいたため、既存データの整理にとどまったが、共同研究者によって新たな竹生島の調査結果が得られた。今後は、この結果をとりまとめ、論文等で公表していく必要がある。一方、日本学術振興会科学研究費補助事業(学術研究助成基金助成金(基盤研究(C)))「カワウによる森林衰退に対する伝統的保全管理技術の効果と検証」が採択され、野外実験を含む次の研究課題の準備が始まっている。

研究における社会貢献としては、2011年度は特に学会の運営活動に時間を割いた。特に、日本生態学会生態学教育専門委員会の一員として、「生態学入門(第2版)」(東京化学同人)の編集作業にたずさわった。発刊は翌年度以降になるが、2011年度の大きな仕事の一つとなっている。また、2011年度末には、滋賀県大津市にある龍谷大学瀬田キャンパスで、第59回日本生態学会大津大会・第5回EAFES(東アジア生態学会連合)大会が行われ、発表を行うとともに実行委員会の一員として、高校生ポスター発表等の運営を行った。

学会以外の社会貢献活動としては、これまでもたずさわってきた滋賀県や環境省のカワウ被害対策に関する委員会や研修会への参加や、大津市の環境審議会などの委員を引き続き務めた他、草津市第2回いきもの調査「冬の水鳥調査」のアドバイザーも務めた。地域連携としては、カワウのみならず琵琶湖の水鳥全般について、観察会や講演の講師を務めた。

印刷物

【学術論文】

Mulder, C.P.H., Jones, H.P., Kameda, K., Palmberg, C., Schmidt, S., Ellis, J.C., Orrock, J.L., Wait, D.A., Wardle, D.A., Yang, L., Young, H., Croll D.A. and Vidal, E. (2011) Chapter 5: Impacts of Seabirds on Plant and Soil Properties. Mulder, C.P.H., W.B. Anderson, D.R. Towns and P.J. Bellingham (eds). Seabird Islands: Ecology, Invasion, and Restoration. *Oxford University Press*: 135-176.

【一般向けの著作】

亀田佳代子(2011)生態系における鳥の役割. 滋賀県立琵琶湖博物館 編, *生命の湖 琵琶湖をさぐる*, 文一総合出版, 東京都: 112-113.

亀田佳代子(2011)鳥がものを運ぶことの意味. 滋賀県立琵琶湖博物館 編, *生命の湖 琵琶湖をさぐる*, 文一総合出版, 東京都: 114-115.

亀田佳代子(2011)カワウによる養分供給が森林に与える影響. 滋賀県立琵琶湖博物館 編, *生命の湖 琵琶湖をさぐる*, 文一総合出版, 東京都: 116-117.

- 亀田佳代子 (2011) カワウと人とのかかわり. 滋賀県立琵琶湖博物館 編, *生命の湖 琵琶湖をさぐる*, 文一総合出版, 東京都: 118-119.
- 坂根隆治・口分田政博・岡田登美男・山崎 亨・清水幸男・亀田佳代子・植田 潤 (2011) [種の解説] 鳥類. 滋賀県生きもの総合調査委員会 編, *滋賀県で大切にすべき野生生物 滋賀県レッドデータブック 2010 年版*, サンライズ出版, 滋賀県: 309-357.
- 亀田佳代子・牧野厚史・卯田宗平・瀬川也寸子 (2011) *琵琶湖博物館第 19 回企画展示 展示解説書「こまった! カワウー生きものとのつきあい方」*. 琵琶湖博物館, 滋賀県: 63p.
- 亀田佳代子 (2011) *琵琶湖博物館第 19 回企画展示「こまった! カワウー生きものとのつきあい方」*. *うみっこ通信*, 琵琶湖博物館, 6: 4.
- 亀田佳代子 (2011) 琵琶湖でのカワウとのつきあい方を考える. 日本野鳥の会滋賀 編, *におのうみ*, 27: 15-17.
- 亀田佳代子 (2011) 湖岸より 112 変化する鳥とのつきあい方. *中日新聞*, 中日新聞社: 2011 年 6 月 4 日.
- 亀田佳代子 (2011) 湖岸より 123 鳥と人の多様な関わり. *中日新聞*, 中日新聞社: 2011 年 8 月 20 日.
- 亀田佳代子 (2011) 湖岸より 134 企画タイトルの秘密. *中日新聞*, 中日新聞社: 2011 年 11 月 5 日.
- 亀田佳代子 (2012) 湖岸より 145 湿地を守るラムサール条約. *中日新聞*, 中日新聞社: 2012 年 1 月 28 日.
- 亀田佳代子 (2011) ここだけの湖の話～琵琶湖博物館の研究室から～19 企画展 鳥と人“つきあい方”を模索 (集団繁殖で漁業被害). *毎日新聞*, 毎日新聞社: 2011 年 7 月 21 日.
- 亀田佳代子 (2012) ここだけの湖の話～琵琶湖博物館と世界のフィールドから～6 竹生島の将来知るヒントに (北欧のカワウ繁殖地と類似). *毎日新聞*, 毎日新聞社: 2012 年 1 月 19 日.
- 亀田佳代子 (2012) 鳥. *琵琶湖ハンドブック改訂版*, 滋賀県: 186-187.

研究活動に関する業績

【学会・研究会での発表】

- 亀田佳代子 (2011 年 4 月 24 日) 日本鳥学会員近畿地区懇談会第 101 回例会. 日本鳥学会員近畿地区懇談会, 琵琶湖博物館 (滋賀県草津市), [企画・運営].
- 亀田佳代子 (2011 年 4 月 24 日) 竹生島のカワウ: これまでの経緯と本日の発表者紹介. 日本鳥学会員近畿地区懇談会第 101 回例会, 日本鳥学会員近畿地区懇談会, 琵琶湖博物館 (滋賀県草津市), [口頭発表].
- 亀田佳代子 (2011 年 9 月 1 日) カワウの物質輸送機能の解明—安定同位体比分析を用いたカワウ研究—. 安定同位体生態学ワークショップ 2011, 京都大学生態学研究センター (滋賀県大津市), [口頭発表].
- 亀田佳代子 (2011 年 11 月 18 日) カワウコロニーでの森林回復に対するグアノ採取の効果 (予報). 琵琶湖博物館研究セミナー, 琵琶湖博物館, 琵琶湖博物館 (滋賀県草津市), [口頭発表].
- 亀田佳代子 (2012 年 3 月 19 日) 自由集会「博物館の生態学 8—野生動物の保護管理における博物館の役割—」. 第 59 回日本生態学会. 龍谷大学瀬田キャンパス (滋賀県大津市), [企画・運営].
- 亀田佳代子 (2012 年 3 月 19 日) カワウと人の過去・現在・未来—博物館での分野横断的研究と成果発信—. 第 59 回日本生態学会自由集会「博物館の生態学 8—野生動物の保護管理における博物館の役割—」, 龍谷大学瀬田キャンパス (滋賀県大津市), [口頭発表].
- Kameda, K., Fujii, H., Maesako, Y., Nakamura, M. and Makino, A. (2012 年 3 月 20 日) Effects of guano collection on the succession of forest damaged by great cormorants. The 5th EAFES International Congress (第 5 回東アジア生態学会連合大会), 龍谷大学瀬田キャンパス (滋賀県大津市), [ポスター発表].

【研究プロジェクト等への参加】

- 琵琶湖博物館専門研究「鳥類による異地性流入が陸域の生態系に与える影響の検討」, (2011 年度).
- 科学研究費補助金 (基盤 B 一般)「地域住民による琵琶湖沿岸の<生命の賑わい>総合調査の方法論と具体的手法の確立」(研究代表者: 川那部浩哉), 連携研究者 (2010～2012 年度).
- 科学研究費補助事業 (基盤 C)「カワウによる森林衰退に対する伝統的保全管理技術の効果と検証」(研究代表者: 亀田佳代子), 研究代表者 (2011～2013 年度).

琵琶湖博物館共同研究「竹生島および鶴の山におけるカワウ営巣林の森林衰退一回復過程の解明」(研究代表者: 亀田佳代子), 研究代表者 (2010~2011 年度).

【学会等の役職・運営、論文の査読など】

日本鳥学会会計幹事, 2010 年 1 月~2013 年 12 月.
日本鳥学会評議員, 2006 年 1 月~2013 年 12 月.
日本鳥学会員近畿地区懇談会世話人, 2000 年 1 月~.
日本生態学会生態学教育専門委員会委員, 2010 年 4 月~2014 年 3 月.
日本生態学会大会企画委員会発表編成部会委員, 2010 年 4 月~2014 年 3 月.
日本生態学会第 59 回大会実行委員会委員, 2011 年 4 月~2012 年 3 月.
日本生態学会近畿地区会自然保護専門委員, 2008 年 1 月~2014 年 12 月.
The Public Library of Science (PLOS) 「PLOS ONE」, 査読, 1 件.

博物館事業に関する業績

【交流・サービス事業】

琵琶湖博物館の主催行事

質問コーナー・フロアトーク, 琵琶湖博物館, 9 件.
2011 年 7 月 30 日, 漁船に乗ってビワマス漁をしてみよう, 観察会, 湖北町尾上、琵琶湖上・長浜市, 副担当, (朝日漁業協同組合共催).
2011 年 8 月 2 日, 企画展示解説, 自然調査ゼミナール, 滋賀県中学校理科教育研究会・琵琶湖博物館, 講師.
2011 年 10 月 1 日, カワウのことを調べてみよう!, 琵琶湖博物館はしかけ「びわたん」ワークショップ, 琵琶湖博物館, 講師.
2011 年 11 月 13 日, 企画展示関連シンポジウム「こまった! カワウ わかった?! カワウーカワウと人の過去・現在・未来一」, 琵琶湖博物館, 企画・運営.
2011 年 11 月 13 日, カワウの生態と機能、生息状況の変遷, 企画展示関連シンポジウム「こまった! カワウ わかった?! カワウーカワウと人の過去・現在・未来一」, 琵琶湖博物館, 講師.
2011 年 11 月 13 日, 琵琶湖のカワウ、漁業、森林のこれから, 企画展示関連シンポジウム「こまった! カワウ わかった?! カワウーカワウと人の過去・現在・未来一」, 琵琶湖博物館, パネリスト.
2011 年 11 月 17 日, 指導者のための博物館活用講座第 3 回「琵琶湖の鳥たちを見てみよう」, 講座, 琵琶湖博物館, 副担当, (滋賀県総合教育センター共催).
2011 年 12 月 10 日, 水鳥を観察しようー色とりどりの冬の水鳥たちー, 琵琶湖博物館わくわく探検隊, 琵琶湖博物館, 講師.
2011 年 12 月 18 日, からすま半島の水鳥を観察してみよう, 観察会, 烏丸半島周辺・草津市, 主担当, (日本野鳥の会滋賀支部・琵琶湖博物館はしかけ「びわたん」共催).

他の博物館・機関等主催行事

2011 年 7 月 27 日, 企画展示解説, 石部高校, ミュージアムスクール, 琵琶湖博物館, 講師.
2011 年 7 月 29 日, 企画展示解説, 滋賀県大津南部農業農村振興事務局, 滋賀県農業農村振興事務所長会議, 琵琶湖博物館, 講師.
2011 年 8 月 12 日, 琵琶湖の鳥のお話, 大津プリンスホテル, 琵琶湖の鳥のお話とヨシ笛作り体験, 大津プリンスホテル (滋賀県大津市), 講師.
2011 年 9 月 28 日, カワウの繁殖が森林に与える影響, 滋賀県内国有林野等所在市町長有志協議会, 滋賀森林管理署 (滋賀県大津市), 講師.
2011 年 10 月 13 日, 企画展示解説と交流会, 関西博物館研究会, 企画展示交流会, 琵琶湖博物館, 講師.
2011 年 10 月 27 日, Present Situation and Management of the Great Cormorants in Japan, (独) 国際協力機構,

JICA Group Training Program “Wildlife Issue Solutions for Biodiversity Conservation (生物多様性保全のための野生動物問題解決手法)”, 琵琶湖博物館, 講師.

2011年10月29日, 企画展示見学, 立命館守山中学校, 琵琶湖学習, 琵琶湖博物館, 講師.

2011年11月22日, カワウってどんな鳥?, 竹生島カワウ対策事業推進協議会, カワウ対策学習会「琵琶湖のカワウ おはなしキャラバン」, 長浜市立朝日小学校 (滋賀県長浜市), 講師.

2011年11月28日, カワウ被害軽減のためのコロニー・ねぐら管理とは, 環境省, 平成23年度鳥獣保護管理における人材育成第一回 (カワウ分布管理) 研修会, 愛知県東大手庁舎 (愛知県名古屋市), 講師.

2011年12月3日, 2012年1月21日, 琵琶湖の鳥について, 立命館守山中学校, 琵琶湖学習, 琵琶湖博物館, 講師.

2012年2月5日, ラムサール条約と水鳥からみた琵琶湖, 琵琶湖ラムサール条約連絡協議会・(財) 淡海環境保全財団, 第19回びわ湖一斉水鳥観察会, 琵琶湖博物館・烏丸半島, 講師.

2012年3月24日, 冬の水鳥調査の講評, 草津市, 草津市第2回いきもの調査 冬の水鳥調査 座談会, 草津市役所 (滋賀県草津市), アドバイザー.

2012年3月25日, 琵琶湖の鳥について, ぼてじゃこワンパク塾, 鳥の勉強会&水族展示見学, 琵琶湖博物館, 講師.

2012年3月27日, 琵琶湖のカワウの現状と対策, 京都市野生鳥獣保護協議会, カワウによる被害対策について, 琵琶湖博物館, 講師.

メディアへの協力

2011年6月11日, 中国新聞呉・東広島版, 広島で増加しているウによる漁業被害およびウ類の生態について, (2011年6月9日取材).

2011年9月1日, 鄙美 (ひなび) vol. 4, たねやグループ, 琵琶湖の生き物、水鳥について, (2011年7月1日取材).

2011年9月4日, 京都新聞滋賀版, 企画展示について, (2011年9月3日取材).

2011年9月8日, 滋賀ガイド, 毎日新聞滋賀生活情報紙 Oh!Me, 企画展示について, (2011年8月26日取材).

2011年10月13日, KBS 京都ラジオ, 森谷威夫のお世話になります・滋賀県立琵琶湖博物館ラジオカー中継, インタビュー, (2011年10月13日取材).

朝日学生新聞社, 朝日小学生新聞, カワウについての特集記事の内容について, (2011年10月28日取材).

2012年2月24日, NHK エンタープライズ, ニッポンの里山100, ヨシ原の生物と人のかかわりについて, (2011年9月3日取材).

神戸新聞, 加古川で増えているカワウおよびカワウが増えた理由について, (2012年1月4日取材).

【資料整備活動】

琵琶湖博物館の活動

鳥類本剥製標本の寄贈受入, 2件.

鳥類標本提供, 受入・整理, 3件.

鳥類骨格および仮剥製標本の特別観覧, 手続き・対応, 1件.

資料の貸出 (甲賀市みなくち子どもの森自然館), 手続き・対応, 1件.

【展示活動】

琵琶湖博物館の活動

2011年度企画展示「こまった! カワウー生きものとのつきあい方」の開催, 主担当.

展示交流員と話そう, 内容指導, 2件.

モーニングレクチャー, 講義, 4回.

【企画調整活動】

新任職員等研修, C 展示室生きものコレクションコーナー (鳥類) の説明, 講師, 2011年4月20日, 琵琶湖博物館.

【研究部関連事業】

国内の研究機関との連携に関すること，主担当.

館内の人事・館外活動等に関すること

【館外の活動】

1997年4月1日～2012年3月31日，京都大学生態学研究センター，協力研究員.

2006年8月1日～2016年3月31日，滋賀県生きもの総合調査委員会鳥類部会，専門委員.

2006年7月12日～2012年3月31日，農林水産省近畿中国森林管理局伊崎国有林の取扱いに関する検討におけるワーキンググループ，委員.

2007年11月27日～2013年11月26日，大津市環境審議会，委員.

2008年3月12日～2012年3月31日，滋賀県カワウ漁業被害防止対策検討会，委員.

2010年2月20日～2012年3月31日，滋賀県竹生島の保安林機能の維持および回復に関するワーキンググループ，委員.

2010年7月21日～2012年3月31日，滋賀県カワウ総合対策協議会，委員.

2011年9月1日～2013年3月31日，関西地域カワウ広域保護管理計画検討委員会，委員.

2011年11月1日～2012年3月31日，草津市第2回いきもの調査「冬の水鳥調査」，アドバイザー.

琵琶湖南湖の沈水植物の繁茂状況の把握と、増加原因の解明を行った。

繁茂状況の把握では、魚群探知機を使った調査を毎月行い、3月に最もすくなくなること、5月のゴールデンウィーク頃に急速に伸長すること、群落高が最大になる時期は場所によって異なることが明らかになった。

増加原因解明のための既存データの解析を前年度に続いて行った。人為的攪乱が最も少ないと思われる1936年を基準として現在の状況を評価した場合、より深いところに大きな群落が見られること、その主体は在来種のセンニンモであり、この1種の量だけで1936年の沈水植物全体の量より大きいことが明らかになった。

印刷物

【学術論文】

芳賀裕樹・石川可奈子（2011）2007年夏の琵琶湖南湖における沈水植物の現存量分布および2002年との比較. *陸水学雑誌*, 72, 日本陸水学会: 81-88.

【一般向けの著作】

芳賀裕樹（2011）ここだけの湖の話～琵琶湖博物館の研究室から～20 夏の南湖は水草まみれ. *毎日新聞*, 毎日新聞社: 2011年8月4日.

芳賀裕樹（2012）トピック 南湖の水草（沈水植物）繁茂. *琵琶湖ハンドブック改訂版*, 滋賀県: 168-169.

研究活動に関する業績

【学会・研究会での発表】

芳賀裕樹（2011年9月23日）琵琶湖南湖における沈水植物の長期変遷の再検証. 第76回日本陸水学会大会, 日本陸水学会, 島根大学（松江市）, [ポスター発表].

芳賀裕樹（2011年11月18日）南湖の水草増加要因の再検証2. 琵琶湖博物館研究セミナー, 琵琶湖博物館, 琵琶湖博物館（滋賀県草津市）, [口頭発表].

芳賀裕樹（2012年2月15日）南湖における水草の長期変遷と現状. 琵琶湖統合研究「南湖生態系の総合的・順応的管理に関する研究」中間発表会（その1）, 滋賀県琵琶湖環境科学研究センター, ピアザ淡海（大津市）, [口頭発表].

芳賀裕樹（2012年3月13日）琵琶湖南湖における沈水植物の長期変遷と課題. 琵琶湖統合研究「南湖生態系の総合的・順応的管理に関する研究」中間発表会（その2）～日本の湖沼における水草繁茂の現状と生態系管理の課題～, 滋賀県琵琶湖環境科学研究センター, コラボ滋賀（大津市）, [口頭発表].

【研究プロジェクト等への参加】

琵琶湖博物館専門研究「南湖の沈水植物のモニタリングならびに研究成果のまとめ」, (2011年度).

平成23年度環境研究総合推進費委託研究「魚介類を活用したトップダウン効果による湖沼生態系保全システムの開発に関する研究」(研究代表者: 藤岡康弘, 研究分担者 (2010～2012年度)).

博物館事業に関する業績

【交流・サービス事業】

琵琶湖博物館の主催行事

質問コーナー・フロアトーク，琵琶湖博物館，10件。

2011年6月24日，琵琶湖の模型を作ろう，琵琶湖博物館わくわく探検隊，琵琶湖博物館，講師，（はしかけ「びわたん」と共同）。

他の博物館・機関等主催行事

2011年6月1日，琵琶湖・淀川の水質の話，武庫川女子中学校，琵琶湖博物館，講師。

2011年7月7日，琵琶湖の水質と生物，草津市市民環境部環境課，草津エコフォーラム2011，草津市役所・草津市，講師。

2011年7月25日，琵琶湖の水質とその調査方法について，石部高校，琵琶湖探求，琵琶湖博物館、烏丸半島・草津市，講師。

2011年8月11日，水草について，教職員研修，滋賀県環境教育協議会，琵琶湖博物館，講師。

2011年10月19日，琵琶湖四方山話，高齢者大学，琵琶湖博物館，講師。

2011年12月3日，水質，立命館守山中学校，琵琶湖学習，琵琶湖博物館，学習助言。

視察対応

2011年11月11日，展示交流員制度について，静岡大学，琵琶湖博物館。

2012年2月29日，博物館の運営について，京都府職員研修・研究支援センター，琵琶湖博物館。

2012年3月23日，水族展示の方法について，戸田市彩の国資料館，琵琶湖博物館。

2012年3月28日，水草の調査方法について，島根県内水面水産試験場，琵琶湖博物館。

【展示活動】

琵琶湖博物館の活動

モーニングレクチャー，講義，4回。

【企画調整活動】

新任職員等研修，緊急時の対応・ユニバーサルデザイン，講師，2011年4月14日，琵琶湖博物館。

館内の人事・館外活動等に関すること

【館内の人事】

2010～2012年度，ASLO 琵琶湖大会国内委員会，委員。

【館外の活動】

2011年度，大津市立科学館，科学館協議会委員。

2011年度，滋賀県水草対策部会，委員。

中国およびアメリカの研究者と共同で琵琶湖、長野、中国、北米およびヨーロッパから採集したツリガネムシ (*Vorticella*) 属: 原生動物・繊毛虫類、のリボゾーム遺伝子配列からツリガネムシ属の系統解析を行った。その結果、これまで形態的にツリガネムシ属に含まれるとされていた *V. microstoma* などの一部のツリガネムシが分子系統的に別の新属に分類されるべきことが明らかになった。

分担者として参加している科研費プロジェクト「気候変動が引き起こす原生動物の多様性減少モニタリングのための分類学的基盤の構築」では琵琶湖の繊毛虫の解析を行った。また、共同で行った東北、会津地方および蔵王周辺の調査にも参加した。本プロジェクトの一環で南大東島および北海道から採集した *Zoothamnium* 属のツリガネムシは遺伝子解析の結果、それぞれ別種の新種である可能性が出てきた。今後形態を詳しく観察する予定である。

博物館の事業としては交流担当のとりまとめを行った。交流担当では実施した新しい事業、「あさ、ひる、ばん博物館を楽しもう！」にも関わった。このイベントでは、3日間で22,000人もの来館者があった。JICA 博物館学集中コースではコースの運営委員の一人として、6カ国10人の研修員を受け入れに関わった。

印刷物

【学術論文】

Sun, P., Clamp, J. C., Xu, D., Kusuoka, Y. and Hori, M. (2011) Molecular phylogeny of the family Vorticellidae (Ciliophora, Peritrichia) using combined datasets with a special emphasis on the three morphologically similar genera *Carchesium*, *Epicarchesium* and *Apocarchesium*. *International Journal of Systematic and Evolutionary Microbiology*, 61 : 1001-1010.

Sun, P., Clamp, J. C., Xu, D., Kusuoka, Y. and Miao, W. (2012) *Vorticella* Linnaeus, 1767 (Ciliophora, Oligohymenophora, Peritrichia) is a grade not a clade: Redefinition of *Vorticella* and the families Vorticellidae and Astylozoidae using molecular characters derived from the gene coding for small subunit ribosomal RNA. *Protist*, 163 : 129-142.

【一般向け著作】

楠岡 泰 (2011) 単細胞って単純なの? 一進化した生物 繊毛虫. 滋賀県立琵琶湖博物館 編, *生命の湖 琵琶湖をさぐる*, 文一総合出版, 東京都 : 70-71.

楠岡 泰 (2011) 琵琶湖生態系における繊毛虫のはたらき. 滋賀県立琵琶湖博物館 編, *生命の湖 琵琶湖をさぐる*, 文一総合出版, 東京都 : 72-73.

楠岡 泰 (2011) 変身する繊毛虫. 滋賀県立琵琶湖博物館 編, *生命の湖 琵琶湖をさぐる*, 文一総合出版, 東京都 : 74-75.

楠岡 泰 (2012) びわ湖のプランクトン. 水源の里まいばら元気みらいづくり小冊子作成委員会 編, *水源の里まいばら元気みらいづくり小冊子「水と環 (みずとわ)」*, 米原市・米原市教育委員会, 米原市 : 42-43.

研究活動に関する業績

【学会・研究会での発表】

Maeda, M., Kusuoka, Y., Grygier, M. J., Ohtsuka, T. and Lake Biwa Museum Hashikake Rice Field Organisms Survey Group (2011年9月11日) Evaluation of the effect of winter soil moisture on the distribution

of large branchiopods in Shiga Prefecture, Japan. The 7th International Large Branchiopods Symposium (ILBS-7) 第7回国際大型鯉脚類シンポジウム, 国立台湾大学(台湾台北市), [ポスター発表].
佐藤江美・柴田あいか・楠岡 泰・今村信孝(2011年11月12日) ミドリラップムシ共生藻の特性. 第44回日本原生動物学会奈良大会, 奈良女子大学(奈良市), [ポスター発表].

【研究プロジェクト等への参加】

琵琶湖博物館専門研究「*Apocarchesium rosettum*を中心としたツリガネ虫類の系統解析」, (2011年度).
地球環境研究総合推進費「水田地帯の生物多様性再生に向けた自然資本・社会資本の評価と再生シナリオの提案」(研究代表者: 夏原由博), 研究協力者(2009~2011年度).
科学研究費補助金(基盤 B)「気候変動が引き起こす原生動物の多様性減少モニタリングのための分類学的基盤の構築」(研究代表者: 重中義信), 研究分担者(2009~2012年度).

【大学の講義・実習、学生の指導など】

2010年4月~2012年3月, 京都府立大学, 非常勤講師.
2011年4月~2012年3月, 立命館大学生命科学部生物工学科, 卒業研究指導, 1名.
2011年7月28日, JICA グアテマラ国別研修「湖沼環境保全のための統合的湖沼流域管理Bコース」, Environment education in the Lake Biwa Museum.
2011年9月10日, JICA「水環境を主題とする環境教育」コース, Environment education in the Lake Biwa Museum.
2011年9月21日, 京都府立大学, 環境微生物学集中講義: 繊毛虫の分類および生態(台風のため休講).
2011年11月16日, JICA「中東地域持続可能な観光開発研修」コース, Museums and the local community.
2012年1月19日, JICA「湖沼環境保全のための統合的流域管理」コース, Environment education in the Lake Biwa Museum.

【学会等の役職・運営、論文の査読など】

第2回西日本原生生物コロキウム, 事務局, 2011年6月19日.
第5回 シーボルトコレクション国際会議, 館内副担当, 2011年11月28・29日.
日本陸水学会, Limnology, 査読, 2件.

博物館事業に関する業績

【交流・サービス事業】

琵琶湖博物館の主催行事

質問コーナー・フロアトーク, 琵琶湖博物館, 10件.
はしかけ「田んぼの生き物調査グループ」, 主担当.
はしかけ「里山の会」, 副担当.
2011年4月17日・7月17日・10月16日・2012年1月15日, 里山体験教室, 体験教室, 野洲市大篠原, 講師, (寺尾尚純・はしかけ里山の会と共同).
2011年5月14日, プラばら プランクトンのぱらぱらまんが, 琵琶湖博物館わくわく探検隊, 体験学習, 講師, (大依久人・藤橋和弘・びわたんと共同).
2011年6月18日, 自然豊かな田んぼで生き物観察, 観察会, 高島市朽木生杉, 講師, (寺尾尚純と共同, 朽木いきものふれあいの里と共催).
2011年8月2日, プランクトンおよび付着生物調査, 自然調査ゼミナール, 琵琶湖博物館, 講師.
2011年8月18日, 沖島~歴史体験クルーズ~(琵琶湖のプランクトン解説), 滋賀県ミュージアム活性化推進委員会, 琵琶湖船上, 講師.
2011年11月5日, 秋の里山を歩こう, 観察会, 高島市マキノ町, 講師, (寺尾尚純・澤邊久美子・はしかけ里山の会と共同, カワセミ自然の会と共催).

2011年11月10日、簡易プランクトンネットの作製、指導者のための博物館活用講座、琵琶湖博物館、講師、(大依久人・藤橋和弘と共同)。

他の博物館・機関等主催行事

2011年5月8日、プランクトンの観察、立命館大学 BKC 教職支援センター、琵琶湖博物館、講師。
2011年7月14日、プランクトンの観察、彦根東高校1年A、琵琶湖博物館、講師。
2011年7月20日、プランクトンの観察、大津清陵高校、琵琶湖博物館、講師。
2011年8月3日、プランクトン調査の指導、栗東中学校科学部、琵琶湖博物館、講師。
2011年8月4日、湖と人間の共存関係について、ジャスベル株式会社、琵琶湖博物館、講師。
2011年8月11日、水の中の小さな生き物(理科・環境学習)、滋賀県環境教育研究協議会教員研修、琵琶湖博物館、講師。
2011年8月17日、簡易プランクトンネットの作製、サテライト博物館教員研修、青柳小学校、講師。
2011年8月17日、簡易プランクトンネットの作製、サテライト博物館教員研修、永原小学校、講師。
2011年9月4日、琵琶湖の模型をつくろう！ほか、滋賀・絆・アート支援プロジェクト事務局、コーディネーター。
2011年10月12日、プランクトンの観察、大路市民センター、琵琶湖博物館、講師。
2011年10月15日、ミジンコの観察、大津市民活動センター、琵琶湖博物館、講師。
2011年11月8日、プランクトンの観察、滋賀県立米原高校1年、琵琶湖博物館、講師。
2011年11月26日、博物館に携わるボランティアの運営と博物館見学、豊田市自然観察の森、琵琶湖博物館、講師。
2011年12月8日、博物館館長研修「住民が参画する博物館」、国立教育政策研究所社会教育実践研究センター、東京上野社会教育実習研究センター、講師。
2011年12月20日、交流事業についての取り組み、浜名湖クラブ、琵琶湖博物館、講師。
2012年1月21日、プランクトン調べの指導、立命館守山中学校、琵琶湖学習、琵琶湖博物館、講師。
2012年1月22日、プランクトンの観察、橿原市昆虫館、琵琶湖博物館、講師。
2012年2月18日、発表会総評、立命館守山中学校、琵琶湖学習、立命館守山中学校、講師。
2012年3月10日、琵琶湖の環境についての講義および展示案内、高島市外国語指導助手(ALT)の研修、琵琶湖博物館、講師。

視察対応

2011年5月11日、展示案内および事業説明、ミャンマー文化省考古・博物館・図書館局、琵琶湖博物館。
2011年7月8日、展示案内および設立経緯説明、メキシコ・チャパラ湖博物館計画委員、琵琶湖博物館。

【資料整備活動】

琵琶湖博物館の活動

微小生物静止画、撮影および指導、約1,000件。
微小生物動画、撮影および指導、約20件。
微小生物プレパラート、作製および指導、約50件。

【展示活動】

琵琶湖博物館の活動

2011年、常設展示：プランクトンコーナー、維持管理、展示更新(年4回)。
2011年、常設展示：ミクロの世界、維持管理。
2011年、常設展示：どぶ川の生き物たち、維持管理。
モーニングレクチャー、講義、4回。

【企画調整活動】

新任職員等研修、琵琶湖博物館の交流事業、講師、2011年4月12日、琵琶湖博物館。
新任職員等研修、C展示室全体説明、講師、2011年4月13日、琵琶湖博物館。

新任職員等研修，C展示室個別コーナー説明，講師，2011年4月20日，琵琶湖博物館。

JICA 博物館学集中コース，研修旅行，2011年7月14日～15日，随行，広島平和記念公園・平和祈念館（広島県広島市）および宮島厳島神社（広島県廿日市市），（中井克樹と共同）。

JICA博物館学集中コース，Introduction and process of building the Lake Biwa Museum，講義，2011年7月20日，琵琶湖博物館。

JICA博物館学集中コース，交流事業の考え方，講師，2011年7月21日，琵琶湖博物館。

JICA博物館学集中コース，琵琶湖の外来魚フルコース（釣り・解剖・料理），講師，2011年7月23日，琵琶湖博物館，（秋山廣光・中井克樹と共同）。

JICA博物館学集中コース，はしかけおよびフィールドレポーターとの懇談，コーディネートおよび司会，2011年7月23日，琵琶湖博物館，（フィールドレポーター・はしかけびわたんと共同）。

JICA博物館学集中コース，地域の子供たちと環境調査，観察会講師，2011年7月24日，伯母川（草津市），（エコクラブ伯母Q五郎・中井克樹と共同）。

JICA博物館学集中コース，地域の方々との意見交換，コーディネートおよび司会，2011年7月24日，伯母川（草津市），（エコクラブ伯母Q五郎・中井克樹と共同）。

JICA博物館学集中コース，琵琶湖博物館の展示を評価する，実習指導，2011年7月26日，琵琶湖博物館，（黒岩啓子・布谷知夫・中井克樹と共同）。

JICA博物館学集中コース個別研修，田んぼで案山子づくり，コーディネート，2011年8月21日，琵琶湖博物館，（裕登志之と共同）。

JICA博物館学集中コース個別研修，ディスカバリールーム・インターナショナルコーナー案の作成，講師，2011年8月21日，琵琶湖博物館。

JICA博物館学集中コース個別研修，プランクトンの模型作り，実習指導，2011年8月22日，琵琶湖博物館。

JICA博物館学集中コース個別研修，オムロン、能登川博物館、彦根城見学，引率，2011年8月24日，野洲市・東近江氏・彦根市，（中井克樹と共同）。

JICA博物館学集中コース個別研修，古写真とフォトセラピー，コーディネート，2011年8月25日，琵琶湖博物館，（秋山廣光と共同）。

JICA博物館学集中コース個別研修，ディスカバリールーム・インターナショナルコーナー案発表，司会，2011年8月25日，琵琶湖博物館，（芦谷美奈子と共同）。

館内の人事・館外活動等に関すること

【館内の人事】

2004年4月～2012年3月，JICA 博物館学集中コース運営委員会，運営委員。

2011年4月～2012年3月，滋賀県博物館協議会研修委員会，委員。

2011年度は、5年間にわたる水産庁健全な内水面生態系復元等推進委託事業「外来種抑制等対策事業」の最終年度に当たり、前年度に引き続き、外来魚の生息抑制を効果的に行うための手法として、オス親魚による産卵床形成を誘導する装置「吊り下げ式人工産卵床」を、地元関係者の協力のもと設置した。本年度は初頭に松元ダム貯水池（鹿児島県）で著しい水位低下に見舞われたため、ダム湖においては、水位変動の影響を受けない網場や取水ポンプ施設など“沖出し”した施設にも装置を係留し、外来魚の利用状況を調査した。その結果、松元ダム貯水池と三春ダム貯水池（福島県）において、沖出し施設に係留した装置にもオオクチバスの産卵が確認された。また、装置本体に鋼製メッシュパネルを用いた狭山公園宅部池（東京都）では、前年度よりも高頻度の利用が確認された。本事業では、物陰へのブルーギルの季節的蝟集状況の把握も課題で、三春ダム貯水池と松元ダム貯水池で、塩ビパイプの枠組みに遮光ネットを張った2m四方の遮光筏を製作・設置したところ、松元ダムでは直後から蝟集現象が確認された。しかし、両水域とも水温低下が想定より早く、追跡調査の際には沿岸域等からブルーギルは姿を消していた。

2011年度から3カ年計画で始まった環境省地球環境総合推進費「外来生物の根絶を目指した総合的防除手法の開発」では、サブテーマ「外来魚類の防除手法開発および防除体制強化」を担当し、上記水産庁プロジェクトで開発された装置の普及・展開をはかるとともに、ブルーギルについては繁殖コロニーを対象とした防除技術の開発に予備的に取り組み、漁具の開発を行った。また、外来魚を水中の音響刺激で誘引できる可能性についても、大津市在住の音響の専門家と共同で装置の開発を行い、次年度の実験の準備とした。

もう一つの地球環境研究総合推進費「水田地帯の生物多様性再生に向けた自然資本・社会資本の評価と再生シナリオ」では、前年度に調査した鹿児島県南さつま市と始良市の水田の冬季の温度条件の調査を行った。

本年度から採択となった琵琶湖博物館共同研究「侵略的外来魚の生息抑制に関する総合的研究」では、滋賀県下に定着したコクチバスを対象に、2つのダム貯水池において吊り下げ式人工産卵床を設置したが、設置時期が遅れたためかコクチバスの産卵は誘導できなかった。総合研究「琵琶湖の生物多様性の成立過程の解明」では、貝類班班長として、琵琶湖の生物多様性を理解する上で重要と考えられるタニシ科とカワニナ科を対象とし、先行研究者から研究の進展状況を確認するとともに、全国各地の関係者に比較試料の提供可能性を打診し、次年度からの分子系統解析を視野に入れた研究を進めるための準備作業を行った。専門研究「魚類・貝類の保全に関する研究」では、前年度に申請専門研究として緊急調査を行った滋賀県指定外来種のスクリングガイについて、琵琶湖岸における分布状況を滋賀県自然環境保全課による「エイリアン・ウォッチャーズ」事業と連携して船舶を用いた調査を行った。その結果、本種の湖岸沿いの分布域はさらに南へと拡大し、西岸では大津自衛隊のすぐ北まで、東岸では烏丸半島を越えて湖岸志那中町までの範囲で卵塊が確認された。

環境省希少野生動物野生復帰事業では、主担当の松田征也と共同で、侵入したイトヨと大規模な交雑が進んでいる米原市のハリヨ保護区における個体群を対象に、保護区の上流側の区域において交雑個体を含むイトヨを完全排除し、系統保存されている純系のハリヨを導入することで、野生復帰をはかる取り組みを継続した。同様に、イチモンジタナゴを対象とした事業でも、将来の野生復帰に向けての第一歩として、企業の設置したビオトープ施設への導入を試み、その個体が繁殖に成功するまでこぎつけた。同様に希少生物の保全に関して、環境省レッドリストの淡水巻貝類と、京都府レッドデータブックの陸産貝類について、見直し作業に携わった。

地域連携を視野に入れた専門家の立場からの活動としては、2年目を迎えた滋賀県経済同友会湖南支部による「湖南いきもの応援団」による地元を流れる狼川を対象での生きもの調査に関わり、調査手法や結果の分析等にかかる指導を草津市環境課と共に行っている。また、奈良県平群町で竜田川の水環境の回復をめざすグループの活動に対しても助言を行うとともに、地元小学校や社会福祉協議会が主催する観察会にも協力した。

陸産貝類については、細密画図鑑『よくわかる生物多様性② カタツムリ』（くろしお出版）を監修し、ブルーギル初のグルメ本『ブルーギルが主役』の出版に協力した。また、『滋賀民報』では「滋賀の外来生物」（全16回）の連載を行い、『におのうみ』（日本野鳥の会滋賀）では「滋賀の水生生物」の連載を開始した。

印刷物

【専門分野の著作】

- 中井克樹 (2011) 生物多様性の考え方. *におのうみ*, 日本野鳥の会滋賀, 26 : 14-15.
- 中井克樹 編 (2011) 陸産貝類. 滋賀県生きもの総合調査委員会 編, *滋賀県で大切にすべき野生生物 滋賀県レッドデータブック 2010年版*, サンライズ出版, 彦根 : 535-559.
- 中井克樹 (2011) 陸産貝類の概要、ニクイロシブキツボ、トノサマガセルガイ、キョウトギセルガイ、サドヤマトガイ、コウベマイマイ、ムシオイガイ類、イブキゴマガイ類. 同上 : 536-538・540・542・549・551.
- 中井克樹・金尾滋史 (2011) カナルマイマイ、ナガオカモノアラガイ、オウミケマイマイ. 同 : 538・543・549.
- 中井克樹・金尾滋史・大谷ジャーメンウィリアム (2011) フトキセルガイモドキ. 同 : 545.
- 中井克樹・大谷ジャーメンウィリアム (2011) オクガタギセルガイ、トウカイヤマトガイ、ココロマイマイ、ゴマオカタニシ、アツブタガイ、ヤマメメタニシ、ヤマタカマイマイ、ミヤマヒダリマキマイマイ (ヒラヒダリマキマイマイ)、ケシガイ類、ツルガマイマイ、ニシキマイマイ、コガネマイマイ (オカノマイマイ). 同 : 537・539・542・543・549-551・556・557.
- 金尾滋史・中井克樹 (2011) ヤコビマイマイ、ホラアナゴマオカチグサガイ、ナタネキバサナギガイ、カタマメマイマイ、ナタネガイモドキ、シリボソギセルガイ、ミカドギセルガイ. 同 : 538・539・541・544・546.
- 大谷ジャーメンウィリアム・中井克樹 (2011) アズキガイ、ホソヒメギセルガイ、クチマガリマイマイ、イボイボナメクジ、クチマガリスナガイ、ナガナタネガイ、(エチゴキセルガイモドキ)、キセルガイモドキ、オオコウラナメクジ、ヤマコウラナメクジ、スジキビガイ、カサネシタラガイ、ウメムラシタラガイ、タカキビガイ、コシタカコベソマイマイ、タワラガイ、ヒラベッコウ、ハクサンベッコウ、キヌツヤベッコウ、尾籠度マイマイ類、ニッポンマイマイ類、マメマイマイ類、チャイロオトメマイマイ類、ヤマクルマガイ、ツムガタギセルガイ、コンボウギセルガイ、コベソマイマイ、ギュリキマイマイ (イセノナミマイマイ)、クロイワマイマイ. 同 : 537・540・541・543-548・551-557.
- 松田征也・中井克樹 (2011) カワネジガイ、オオウラカワニナ、フトマキカワニナ、ナカセコカワニナ、ナンゴウカワニナ、クロカワニナ、タテジワカワニナ、セタシジミ、マシジミ、ナガタニシ、マルタニシ、イボカワニナ、モリカワニナ、タケシマカワニナ、クロダカワニナ、ホソマキカワニナ、シライシカワニナ、オオタニシ、サガノミジンツボ、ヒラマキガイモドキ、ヒラマキミズマイマイ、ヒロクチヒラマキガイ、スジイリカワコザラガイ、ドブシジミ、マメシジミ、ミズウミマメシジミ、ヒダリマキモノアラガイ、タテヒダカワニナ、ハベカワニナ、ヤマトカワニナ、カゴメカワニナ、ビワコミズシタダミ、カドヒラマキガイ、オウミガイ、カワムラマメシジミ、ビワコドブシジミ. 同 : 513・516-522・524-531.
- 中井克樹 (2012) 滋賀県の動植物の特性と地域診断. 近江環人地域再生学座 編, *地域診断法 鳥の目、虫の目、科学の目*, 新評論, 東京 : 140-169.
- 中井克樹 (2012) 滋賀の水生生物 1 「鳥類以外」～どんな話にしたものか～. *におのうみ*, 日本野鳥の会滋賀, 28 : 20-21.

【一般向けの著作】

- 中山れいこ 著・中井克樹 監 (2011) *よくわかる生物多様性② カタツムリ～陸の貝のふしぎにせまる*. くろしお出版, 東京 : 56p.
- 中井克樹 (2011) 滋賀の外来生物 1 オオクチバス、ブルーギル : 「琵琶湖ルール」はできたのに… . 滋賀民報 : 2011年5月29日.
- 中井克樹 (2011) 湖岸より 113 「琵琶湖ルール」はなんのため?. *中日新聞*, 中日新聞社 : 2011年6月11日.
- 中井克樹 (2011) 滋賀の外来生物 2 オオキンケイギク : とてもきれいな花なのに… . 滋賀民報 : 2011年6月12日.
- 中井克樹 (2011) 滋賀の外来生物 3 コモチカワツボ : ホタルの光も他所 (よそ) 頼み. 滋賀民報 : 2011年6月26日.
- 中井克樹 (2011) 滋賀の外来生物 4 アメリカザリガニ、タンカイザリガニ : 水辺の人気者、増えすぎに注意. 滋

賀民報：2011年7月10日。

- 中井克樹 (2011) 滋賀の外来生物 5 ウシガエル：旺盛な食欲、日本最大のカエル。滋賀民報：2011年7月24日。
- 中井克樹 (2011) 滋賀の外来生物 6 スートリア：しのびよる水辺の巨大ねずみ。滋賀民報：2011年7月31日。
- 中井克樹 (2011) 滋賀の外来生物 7 ハリヨとイトヨ：地域らしさが失われていく。滋賀民報：2011年8月14日。
- 中井克樹 (2011) ここだけの湖の話～琵琶湖博物館の研究室から～21 生物多様性 試練経た“自然の遺産” 地域在来の生物の保全を。毎日新聞、毎日新聞社：2011年8月25日。
- 中井克樹 (2011) 湖岸より 124 増え過ぎた生き物をどうするか？。中日新聞、中日新聞社：2011年8月27日。
- 中井克樹 (2011) 滋賀の外来生物 8 スクミリンゴガイ：水田に毒々しいピンクの卵。滋賀民報：2011年8月28日。
- 中井克樹 (2011) 滋賀の外来生物 9 アオマツムシ：樹上の虫の音は異国の響き。滋賀民報：2011年9月11日。
- 中井克樹 (2011) 滋賀の外来生物 10 アカミミガメ：かわいいミドリガメのなれの果て。滋賀民報：2011年9月25日。
- 中井克樹 (2011) 滋賀の外来生物 11 ホテイアオイ：水面の花園の下は酸素欠乏。滋賀民報：2011年10月9日。
- 中井克樹 (2011) 滋賀の外来生 12 コイ (養殖型)：「昔なじみ」の魚が外来種？。滋賀民報：2011年10月23日。
- 中井克樹 (2011) ブルーギルの歴史とこれから この数奇な運命の魚。社会福祉法人市原寮食育文化サロン 編，ブルーギルが主役～憎まれっ子がアンチエイジング食に！～，かもがわ出版，京都：42-44。
- 中井克樹 (2011) 滋賀の外来生物 13 ミズヒマワリ：たくましい生命力の脅威。滋賀民報：2011年11月13日。
- 中井克樹 (2011) 滋賀の外来生物 14 アライグマ：信楽タヌキが化け損ね？ 滋賀民報：2011年11月27日。
- 中井克樹 (2011) 滋賀の外来生物 15 ゲンゴロウブナなど：異郷で生き延びる固有種。滋賀民報：2011年12月12日。
- 中井克樹 (2011) 滋賀の外来生物 16 エイリアンウォッチャーズ：外来生物の現状を知る。滋賀民報：2011年12月26日。
- 中井克樹 (2012) 外来生物問題。滋賀県 編，琵琶湖ハンドブック改訂版，滋賀県：160-161。
- 中井克樹 (2012) 外来魚。滋賀県 編，琵琶湖ハンドブック改訂版，滋賀県：178-179。

研究活動に関する業績

【学会・研究会での発表】

- 中井克樹 (2011年4月16日) 陸産貝類の保全移殖は可能か？ 開発の代償措置と生物多様性再生の支援。日本貝類学会平成23年度大会，九州大学箱崎キャンパス (福岡県福岡市)，[口頭発表]。
- 中井克樹 (2011年4月26日) 三春ダムにおける外来魚抑制：吊り下げ式人工産卵床 (オオクチバス) と構造物への蝸集誘引 (ブルーギル)。水源地生態研究会三春ダム研究グループグループ会議，国土交通省東北地方建設局三春ダム管理所 (福島県三春町)，[口頭発表]。
- 中井克樹 (2011年6月14日) 吊り下げ式人工産卵床の設置と物陰への蝸集状況の調査。平成23年度外来魚抑制管理技術開発事業第1回検討委員会 (計画検討会)，南青山会館 (東京都渋谷区)，[口頭発表]。
- 中井克樹 (2011年6月19日) 琵琶湖の外来魚問題～生物多様性の考え方～。日本野鳥の会滋賀支部総会第1部，琵琶湖博物館，[講義]。
- 中井克樹 (2011年6月26日) 申請専門研究 (申10-03) 滋賀県指定外来種スクミリンゴガイの防除方法の開発に関する予備的研究。2011年度琵琶湖博物館研究報告会，琵琶湖博物館，[口頭発表]。
- 中井克樹 (2011年7月13日) サブテーマ2：外来魚類の防除手法開発および防除体制強化。地球環境研究総合推進費平成23年度開始課題D-1101「外来生物の根絶を目指した総合的防除手法の開発」第1回アドバイザーボード会議，国立環境研究所地球温暖化研究棟，[口頭発表]。
- 鎌田健太郎・熊澤一正・西田守一・大杉奉功・岩見洋一・浅見和弘・沖津二郎・中井克樹・中沢重一 (2011年9月15日) ダム湖の水位低下を利用した定置網による外来魚捕獲試験。応用生態工学会第15回大会，金沢学院大学 (石川県金沢市)，[ポスター発表]。
- 大杉奉功・岩見洋一・中井克樹・沖津二郎・齋藤 大・中沢重一 (2011年9月15日) 三春ダム前貯水池の水位低

下操作を用いたブルーギル繁殖コロニーの防除手法. 同上, [ポスター発表].

Azami, K., Toki, N., Nakazawa, S., Kamata, K., Ohsugi, T., Nakai, K. and Matsuda, H. (2011年9月16日) Drying-up of breeding sites of largemouth bass and its predicted effect on the population dynamics by the intermittent drawing-down of the reservoir water level. 同上, [口頭発表].

馬淵浩司・ソンハヨン・武島弘彦・中井克樹・瀬能 宏・西田 睦 (2011年9月29日) マイクロサテライト隣接領域の一塩基多型を用いたコイの在来系統の識別. 2011年度日本魚類学会年会, 弘前大学文京町キャンパス, [ポスター発表].

Nakai, K. (2011年11月2日) Ecological Impacts of Invasive Alien Fishes and Administrative Efforts for Their Control in Lake Biwa, An Ancient Japanese Lake. The 14th World Lake Conference, Austin Convention Center (Texas, USA), [口頭発表].

中井克樹 (2012年1月19日) 特定外来魚と在来魚との共存様式および吊り下げ式人工産卵床の設置と物陰への蟻集状況の調査. 平成23年度外来魚抑制管理技術開発事業第2回検討委員会 (最終報告会), 南青山会館 (東京都渋谷区), [口頭発表].

中井克樹 (2012年1月20日) 外来魚との知恵比べ: 2011年シーズンの結果. 琵琶湖博物館研究セミナー, 琵琶湖博物館, 琵琶湖博物館 (滋賀県草津市), [口頭発表].

芹澤英一郎・笹田直樹・白神義章・佐貫方城・中井克樹 (2012年1月29日). 吊り下げ式人工産卵床による繁殖抑制の事例報告. 第7回外来魚情報交換会 (琵琶湖を戻す会), 草津まちづくりセンター (滋賀県草津市), [口頭発表].

中井克樹 (2012年1月29日) 吊り下げ式人工産卵床の展開. 同上, [口頭発表].

中井克樹 (2012年2月6日) サブテーマ2: 外来魚類の防除手法開発および防除体制強化. 地球環境研究総合推進費平成23年度開始課題D-1101「外来生物の根絶を目指した総合的防除手法の開発」第2回アドバイザーボード会議, 国立環境研究所RI・遺伝子工学実験棟, [口頭発表].

中井克樹 (2012年3月13日) 外から内への生物多様性. 「内なる生物多様性」近江プレワークショップ, 針江生水の生活体験処 (滋賀県高島市), [話題提供].

中井克樹 (2012年3月17日) 「外からの生物多様性」で「内なる生物多様性」が把握・理解できるのか? 自由集会W22「Biodiversity in ours -外からの生物多様性と内なる生物多様性-」. Joint Meeting of The 59th Annual Meeting of ESJ & The 5th EAFES International Congress, Seta Campus of Ryukoku University, [コメントター].

中井克樹 (2012年3月18日) Poster Session: Invasive Species. 同上, [ポスター審査員].

Nakai, K. (2012年3月19日) Toward appropriate control of the invasive alien fishes of Japanese freshwaters. EAFES Symposium ES06: Struggles for Invasive Alien Species Management in Japan, 同上, [口頭発表].

嶺田拓也・金尾滋史・中井克樹・松田征也・高倉猛・林 和典・日鷹一雅 (2012年3月19日) スクミリングガイの琵琶湖およびその集水域における侵入・定着. ポスターセッション, 同上, [ポスター発表].

亀田佳代子・中井克樹 (2012年3月19日) Workshop: W31 博物館の生態学8 -野生動物の保護管理における博物館の役割-, 同上, [企画責任者].

中井克樹 (2012年3月19日) 野生生物対策をめぐる論理と感情 -“正論”だけでは進まない-. Workshop: W31 博物館の生態学8 -野生動物の保護管理における博物館の役割-, 同上, [口頭発表].

【研究プロジェクト等への参加】

水産庁健全な内水面生態系復元等推進委託事業「外来種抑制等対策事業」(研究代表者:片野 修), 研究分担者 (2007~2011年度).

環境省地球環境研究総合推進費「外来生物の根絶を目指した総合的防除手法の開発」(研究代表者:五箇公一), 研究分担者 (2011~2013年度).

環境省地球環境研究総合推進費「水田地帯の生物多様性再生に向けた自然資本・社会資本の評価と再生シナリオ」(研究代表者:夏原由博), 研究協力者 (2009~2011年度).

環境省ハリヨ野生復帰モデル事業 (研究代表者:松田征也), 研究分担者 (2010~2012年度).

環境省イチモンジタナゴ野生復帰モデル事業 (研究代表者:松田征也), 研究分担者 (2010~2012年度).

水源地研究会陸上生態研究委員会三春ダム研究グループ（陸上・水圏生態研究委員会）（委員長：谷田一三），委員（2008～2012年度）。

琵琶湖博物館総合研究「琵琶湖の生物多様性の成立過程の解明」（研究代表者：高橋啓一），貝類班班長（2011～2015年度）。

琵琶湖博物館共同研究「侵略的外来魚の生息抑制に関する総合的研究」（研究代表者：中井克樹），研究代表者（2011～2013年度）。

琵琶湖博物館専門研究「魚類・貝類の保全に関する研究」，（2011年度）。

【学会等の役職・運営、論文の査読など】

日本生態学会自然保護委員会，外来種問題検討作業部会員，2001年3月～。

日本生態学会近畿地区会，委員，2010年1月～2011年12月。

日本生態学会近畿地区会自然保護委員会，委員。

日本魚類学会，評議員，2004年1月～。

日本魚類学会自然保護委員会，委員。

応用生態工学会普及・連携委員会，委員，2009年9月～。

日本貝類学会，評議員，2011年1月～。

阪神貝類談話会，理事，2000年1月～。

生物多様性ネットワーク新潟，顧問，2004年10月～。

全国ブラックバス防除市民ネットワーク，理事，2005年11月～。

日本陸水学会，Limnology，投稿論文の査読，1件。

日本魚類学会，Journal of Ichthyology，投稿論文の査読，1件。

豊田市矢作川研究所，矢作川研究，投稿論文の査読，1件。

【大学の講義・実習、学生の指導など】

2011年5月27日，滋賀県立大学近江環人地域再生学座「地域診断法」特論，講義「滋賀県の動植物の特性把握と地域診断」。

2011年10月17日，京都外国語大学「環境問題概説」，講義「琵琶湖の外来魚問題から生きものとのつきあい方を考える」。

2012年1月16日，酪農学園大学大学院「環境共生学概論」，講義「外来生物問題と生物多様性」。

2012年1月17日，酪農学園大学2回生「動物生態学」，講義「外来生物問題の考え方～在来の生物多様性の大切さ～」。

大阪産業大学4年生，琵琶湖の外来魚対策に関する卒業研究に対する助言。

栗東町立栗東西中学校1年生，KODOMOラムサールチェンマイ国際湿地交流における外来魚についての発表に関する助言。

滋賀県立守山高等学校2年生（2名），「総合的な学習の時間」に係るフィールドワークにおける「自分と学問との関わり」に関する質問対応。

京都外国語大学1年生（6名），「環境問題概説」における外来魚問題に関する調査に対する助言。

滋賀県レイカディア大学草津校（2名），課題学習「イケチョウガイの栄枯盛衰」に関する助言。

滋賀県レイカディア大学草津校（6名），課題学習「琵琶湖のヨシ帯の機能と有効利用」に関する助言。

博物館事業に関する業績

【交流・サービス事業】

琵琶湖博物館の主催行事

質問コーナー・フロアトーク，琵琶湖博物館，9件。

2011年8月4日，外来種について：特に、生きものの飼育に関する「ルール」に関連して，琵琶湖博物館指導者の

ための博物館活用講座第1回「生き物飼いか講座」, 琵琶湖博物館, 講師.

2012年3月3日～, 琵琶湖博物館フィールドレポーター2012年度第1回調査(スクミリングガイ・タニシ)の実施にかかるとの助言, (松田征也と共同).

他の博物館・機関等の主催行事

2011年4月22日, 現地調査指導および講評, 湖南企業いきもの応援団2011年度第1回調査会, 滋賀経済同友会湖南支部, 日本ガラクトロニクス(株)および狼川流域(滋賀県草津市), 講師.

2011年4月25日, 体験プログラムに関する助言および現地下見, 京都YMCAグローバルアウトドアクラブワイルドベリーチーム, 滋賀県多賀町大君ヶ畑, 講師.

2011年5月15日, 体験プログラム現地指導, 不思議なカラダの持ち主カタツムリの生態を探れ!, 同上.

2011年5月21日, 講義「琵琶湖の現状から生きものとのつきあい方を考える」, 岐阜市立島中学校琵琶湖宿泊研修, 琵琶湖博物館, 講師.

2011年6月3日, 講演『『生物多様性』って、なに? ~いったい何を、どうしろと…?~』, 第54回東京六稜会総会, 学士会館(東京都), 講師.

2011年6月18日, 講義「琵琶湖の生き物とその調査法」, 2011年度立命館守山中学校1年総合学習第2回琵琶湖学習, 琵琶湖博物館, 講師.

2011年6月18日, 講義「琵琶湖の現状から生きものとの付き合い方を考える」, 神戸市立鈴蘭台中学校平成23年校外学習, 琵琶湖博物館, 講師.

2011年6月22日, 竜田川における環境保全活動に関する助言, 竜田川環境浄化推進協議会会合, プリズムめぐり(奈良県平群町), 講師.

2011年7月4日, 観察会現地指導および講評, 竜田川観察会, 平群町立平群東小学校5年, 竜田川および平群東小学校(奈良県平群町), 講師.

2011年7月23日, 現地調査指導および講評. 湖南企業いきもの応援団2011年度第2回調査会, 滋賀経済同友会湖南支部, 日本ガラクトロニクス(株)および狼川流域(滋賀県草津市), 講師.

2011年7月30日, Summary and Closing Remarks. 公開フォーラム「世界の博物館2011」, 大学共同利用機関法人人間文化研究機構国立民族学博物館・滋賀県立琵琶湖博物館・独立法人国際協力機構, 国立民族学博物館第5セミナー室(大阪府吹田市), 式辞.

2011年8月3日, 講師および現地指導, 夏休みのボランティアスクール「川のことをもっと知ろう!」, 平群町社会福祉協議会, かしの木荘および竜田川(奈良県平群町), 講師.

2011年10月20日, 講義『『外来魚』と『自然を守る取り組み』』, 生駒市立あすか野小学校5年生校外学習, 琵琶湖博物館ホール, 講師.

2011年10月25日, 現地調査指導および講評. 湖南企業いきもの応援団2011年度第3回調査会, 滋賀経済同友会湖南支部, 日本ガラクトロニクス(株)および狼川流域(滋賀県草津市), 講師.

2011年11月13日, 基調講演「トキだけじゃない, 身近な宝物～地域の生物多様性を守ること～」, 上越地域外来魚問題シンポジウム「希少種の保護と外来生物対策」, 大池いこいの森ビジターセンター(新潟県上越市), 講師.

2011年11月20日, 講義「研究概要:琵琶湖の外来魚問題」, 日本質量分析学会関西支部勉強会, 琵琶湖博物館, 講師.

2011年11月17日, 講義「琵琶湖の外来魚問題～外来生物問題と生物多様性～」, 大阪私立中学校高等学校保護者会連合会研修旅行, 琵琶湖博物館, 講師.

2011年12月3日, 講義「琵琶湖の外来魚問題」, 2011年度立命館守山中学校1年総合学習琵琶湖学習・班別学習, 琵琶湖博物館, 講師, (秋山廣光と共同).

2011年12月4日, 講義「いまの琵琶湖」, 「第14回世界湖沼会議のレポート」および展示案内, NPO法人瀬田川リパプレ隊「湖上セミナー」, 観光船一番丸(滋賀県琵琶湖湖上)および琵琶湖博物館, 講師, (橋本道範と共同).

2011年12月13日, 米原市立柏原中学校2年生環境学習「ハリヨに関する体験学習」, 醒井公民館および地藏川(滋賀県彦根市), 講師.

- 2012年1月21日, 外来魚に関する調べ学習: 調べた内容に関する質問対応(グループ). 2011年立命館守山中学校1年総合学習(琵琶湖学習), 琵琶湖博物館, 講師, (秋山廣光と共同).
- 2012年1月25日, 講演「京都水族館は地域水族館を目指すのか?—地域博物館の視点から考える—」, 第14回例会, 梅小路公園の未来を考える会, 法然院(京都府京都市), 講師.
- 2012年1月26日, 現地調査指導および講評. 湖南企業生きもの応援団2011年度第4回調査会, 滋賀経済同友会湖南支部, 日本ガラクトロニクス(株)および狼川流域(滋賀県草津市), 講師.
- 2012年2月5日, 意見発表「イチモンジタナゴの保全活動を見つめてみて」, 滋賀県立琵琶湖博物館・ぼてじゃこトラスト・オムロン(株)野洲事業所・東海タナゴ研究会, 平成23年度イチモンジタナゴ交流会, 琵琶湖博物館, 講師.
- 2012年2月23日, 講演「全国の事例を基にした外来魚事情および学生団体の今後のあり方」, 滋賀県立大学外来魚講演会, 滋賀県立大学BASSER'S, 滋賀県立大学環境科学部棟談話室(滋賀県彦根市), 講師.
- 2012年3月6日, 意見発表「オオクチバスの防除目標を達成させるために」, 平成23年度第2回外来生物防除戦略検討会, 環境省, (財)自然環境研究センター(東京都台東区), 講師.

視察対応

- 2011年4月13日, 挨拶および展示案内, 国連環境計画早期警戒評価局Peter Gilruth局長一行表敬訪問, 1st UNEP-ILEC Meeting, 特別応接室および展示室.
- 2011年4月19日, 展示案内および打合せ, 関西担当大使による第5回海産総領事館会合下見, 外務省大阪分室, 展示室および事務学芸室.
- 2011年5月10日, 博物館の概要説明および展示案内, 第5回関西総領事館会合「滋賀県視察」, 外務省大阪分室, 展示室および湖上(MEGUMI号).
- 2011年7月28日~29日, 琵琶湖のエリ漁見学同行および展示案内, 富山市議会岡崎信也議員, 富山市議会行政視察, 守山漁港および展示室.
- 2011年8月26日, 展示案内, JICA事務所地域別研修「アジア水環境ガバナンス強化ワークショップ」博物館見学, 研修員ほか, 展示室.
- 2011年10月12日, 展示案内, JICA集団研修「水環境モニタリング」施設訪問, 研修員ほか, 展示室.
- 2011年10月15日, 博物館の概要説明および展示案内, 湿地・湖沼研究先進施設視察, 中国盤錦遼河口生態経済区招商局ほか, 事務学芸室および展示室.
- 2011年11月18日, 博物館の概要説明および展示案内, 表敬訪問, ミシガン州マキノー島環境局副局長, 館長室および展示室.
- 2011年11月22日, 博物館の概要説明および展示案内, 表敬訪問, 中華民国国家科学委員会張清風副主任委員ほか, 館長室および展示室.
- 2011年11月25日, 博物館の概要説明および施設見学, JICA研修「生活排水対策」コース研修員, 会議室および展示室.
- 2011年12月3日, 展示案内, Technical Excursion of IHP Training Course (DPRI Kyoto University)研修員ほか, 展示室.
- 2012年3月22日, 博物館の概要説明および展示案内, 博物館先進施設視察 名護博物館, 館内各施設・屋外展示等.

メディアへの協力

- 2011年4月26日, 産経新聞(滋賀版), 「絶滅危惧種の淡水魚/イチモンジタナゴ救え/ビオトープつくり成魚放流」, 野生復帰事業の意義に関するコメント, (4月21日オムロン(株)野洲事業所での放流式で取材).
- 2011年5月28日, 朝日新聞(大分版), 「テラピア減るとメダカも減る? 大分市, 駆除に難問」, 外来生物対策の考え方に関するコメント, (電話取材).
- 2011年6月7日, 毎日新聞(滋賀版), 「イサザ、ヤコビマイマイなど/絶滅危惧種46種追加/県レッドデータ最新版」, ヤコビマイマイの写真提供.
- 2011年8月1日, 日本テレビ系全国ネット, 「不可思議探偵団」, 琵琶湖畔でのブルーギルおよび野洲市でのスキミ

リンゴガイの取材協力, (7月9日ロケハン、12日現地ロケ).

2011年8月20日, 中日こどもウィークリー, 「ヨシで守る琵琶湖の生き物」, ヨシ帯の機能と在来魚種の保全について解説, (5月11日来館取材).

2011年9月16日, 日本テレビ「news every・気になる! : 多摩川に肉食巨大魚出現、首都圏“熱帯化”で異変!」, アリゲーターガの定着可能性に関するコメント, (電話収録).

2011年11月1日, NHK 大津放送局, 「おおつ発 610・びわ湖クローズアップ: 外来魚問題と新たな対策」, 出演, (10月27日スタジオ収録).

2011年11月4日, 京都新聞(滋賀版), 「第14回世界湖沼会議: 米国・オースティン/琵琶湖保全は世界の“指針”/水質の完全/外来魚対策/分科会: 県職員発表、質問熱く」, 世界湖沼会議での発表後の反応に関するコメント, (11月2日世界湖沼会議会場で取材).

2011年11月27日, 京都新聞, 「第14回世界湖沼会議 in 米国テキサス州オースティン/いつまでも湖とともに/琵琶湖保全の先進性に注目」, 世界湖沼会議での発表後の反応に関するコメント, (11月2日世界湖沼会議会場で取材).

2011年12月1日, 読売 KoDoMo 新聞, 「琵琶湖の魚 絶滅の危機/名物「フナずし」材料とれず」, 談話「生態系守ろう」, (11月来館取材).

2011年12月2日, 関西テレビ, 「スーパーニュースアンカー: あんたがアンカー 環境守り “自然のまま暮らす” 琵琶湖・沖島」, 琵琶湖の外来魚の水中映像の提供.

2011年12月9日, テレビ朝日系ネット, 「ANN スーパーJ チャンネル: ついに京都侵略!? 凶暴外来魚に大規模駆除作戦」, 京都・東本願寺の濠での外来魚捕獲とコメント, (12月1日取材).

【情報整備活動】

琵琶湖博物館の活動

琵琶湖博物館情報システムの管理・運営, 随時 [戸田 孝と共同].

爬虫類・両生類収蔵品データベースの管理.

琵琶湖博物館インターネット展示室・電子質問箱への対応, 6件.

琵琶湖博物館インターネット展示室・電子図鑑「外来生物」(<http://www.lbm.go.jp/emuseum/zukan/gairai/index.html>) の管理および修正.

琵琶湖博物館インターネット展示室・資料提供 (<http://www.lbm.go.jp/contact/press/index.html>) に12件(11月24日~2月3日) 提供 [榎永一宏の代理].

他博物館・機関の活動

環境省, ウェブサイト「生物多様性 -Biodiversity -/わかる/生物多様性とは/3. 生物多様性に迫る危機」(http://www.biodic.go.jp/biodiversity/wakaru/about/biodiversity_crisis.html/; 2011年4月公開) へのオオクチバスの水中写真の提供.

富良野市博物館, 「富良野市博物館(編) 富良野の自然シリーズ No.3 富良野の外来生物(2011年3月30日発行)」への編集協力.

城陽環境パートナーシップ会議, 「城陽生き物ハンドブック 知ってる? 城陽の宝もの 2010」へのアズキガイの写真提供.

裳華房, 「西川潮・宮下直(編) 外来生物 生物多様性と人間社会への影響(2011年10月20日発行)」へのスクミリンゴガイの写真提供.

啓林館, 文部科学省検定済教科書高等学校理科用「本川達雄・谷本英一(編) 新編生物基礎」および「同(編) 生物基礎」(2012.3.30 検定済) の「レポート例: オオクチバス・ブルーギルによる在来魚への影響」(p.144 および p.192) への写真および図表データの提供.

少年写真新聞社, 「中山れいこ(著) いのちのかんさつ2 カエル」(2012.2.10 発行) のナガレヒキガエル(p.41) の参考写真の提供およびカエルツボカビ病に関する助言.

(社) びわこビジターズビューロー, ウェブサイト「[go.biwako.com/Photo Trip Reports/Understanding the lake and its people - The Lake Biwa Museum](http://go.biwako.com/PhotoTripReports/Understanding%20the%20lake%20and%20its%20people%20-%20The%20Lake%20Biwa%20Museum)」(<http://en.biwako-visitors.jp/reports/lbm/>; 2011年6月公開)

の取材対応（2011年2月8日）および記述内容助言。

【資料整備活動】

琵琶湖博物館の活動

魚類・貝類・その他水生無脊椎動物の標本資料の採集および収蔵，随時。

他博物館・機関の活動

大津市在住小学4年生，大津市産陸産貝類の同定および生態に関する助言。

福井県在住高校2年生，敦賀市産淡水貝類の同定および保全的価値に関する助言。

（株）ラーゴ，富士市産陸産貝類の同定および分類の取り扱いに関する助言。

大阪広域水道企業団庭窪浄水場，大量発生した淡水貝類の同定および防除対策に関する助言。

弘前大学白神自然環境研究所，陸産貝類のガイドブックおよび参加型調査に関する助言と種の同定。

滋賀県琵琶湖環境科学研究センター，陸産貝類の同定。

NHK 福岡放送局，陸産貝類の同定。

【展示活動】

琵琶湖博物館の活動

2011年4月29日～9月4日，「国際博物館の日」記念事業・第23階水族企画展示「レッドリストの魚たちー『滋賀県で大切にすべき野生生物2010年版』に掲載された魚・貝ー」，琵琶湖博物館水族企画展示室，副担当。

2012年1月7日～4月8日，（社）日本動物園水族館協会種保存委員会主催・全国一斉開催企画展示「明日へつなぐ日本の自然ーよみがえれ、日本の希少淡水魚ー」，琵琶湖博物館水族展示室，パネル製作協力。

モーニングレクチャー，講義，4回。

他博物館・機関の活動

2012年1月7日～4月8日，（社）日本動物園水族館協会種保存委員会主催・全国一斉開催企画展示「明日へつなぐ日本の自然ーよみがえれ、日本の希少淡水魚ー」，琵琶湖博物館ほか25園館，パネル製作協力。

【企画調整活動】

国際交流担当として海外からの視察・研修等を目的とした来館者への対応，随時 [芦谷美奈子と共同]。

来館者アンケート調査の実施，3回（8月，11月，3月）。

資料提供の担当，随時（2011年11月から2012年2月まで），[榊永一宏の代理]。

新任職員等研修，C展示室解説，講師，2011年4月20日，琵琶湖博物館。

JICA 博物館学集中コース，研修旅行，2011年7月14日～15日，随時，広島平和記念公園・平和祈念館（広島県広島市）および宮島厳島神社（広島県廿日市市），[楠岡 泰と共同]。

JICA 博物館学集中コース，琵琶湖博物館の全体対応・展示解説，講師，2011年7月20日～26日，琵琶湖博物館各施設および伯母川（滋賀県草津市），[楠岡 泰・芦谷美奈子と共同]。

JICA 博物館学集中コース，Introduction and the process of making the Lake Biwa Museum，講師，2011年7月20日，琵琶湖博物館，[楠岡泰と共同]。

JICA 博物館学集中コース，Brief Introduction to Lake Biwa at Present: Focusing on Fish Community，講師，2011年7月23日，国立民族学博物館・滋賀県立琵琶湖博物館，琵琶湖博物館。

JICA 博物館学集中コース個別研修，博物館と地域コミュニティー，全体対応・館外研修随時，2011年8月21日～8月25日，琵琶湖博物館各施設・東近江市能登川博物館（滋賀県東近江市）・MIHO MUSEUM および滋賀県立陶芸の森（同甲賀市），[楠岡 泰・芦谷美奈子と共同]。

JICA 博物館学集中コース個別研修，Reintroduction Program of Endangered Species: A Case by a Local Museum in Collaboration with a Local Company，講師，2011年8月24日，国立民族学博物館・滋賀県立琵琶湖博物館，（株）オムロン野洲事業所会議室。

琵琶湖博物館移動博物館，ダルマガエル模型製作の監修および解説文作成，担当。

【研究部関連事業】

琵琶湖と滋賀県の環境に関する試験研究機関連絡会議，会場担当幹事として年5回幹事会・研究発表会・本会議。

館内の人事・館外活動等に関すること

【館内の人事】

2010年4月1日～2012年3月31日，JICA博物館学集中コース運営委員会，運営委員。

【海外渡航】

2011年10月31日～11月10日，アメリカ合衆国テキサス州オースティンおよびミシガン州イーストラランシング周辺，第14回世界湖沼会議（オースティンコンベンションセンター）での滋賀県事例発表およびミシガン州立大学等での外来魚研究調査の打ち合わせ。

【館外の活動】

2003年5月～，滋賀県，外来種問題検討委員会，検討委員および水生生態系部会員。

2003年度～，滋賀県，生きもの総合調査委員会，魚貝類部会，専門委員。

2004年8月～，国土交通省琵琶湖河川事務所，河川保全利用委員会，委員。

2010年3月～，国土交通省中国四国整備局苫田ダム管理所，ブラックバス勉強会，委員。

2012年1月～，国土交通省東北地方河川事務所三春ダム管理所，三春ダム外来魚研究会，委員。

2008年9月～2013年3月，農林水産省，外来貝類被害防止対策検討委員会，委員。

2008年7月～2013年3月，農林水産省東海農政局，外来貝類被害防止対策検討委員会，委員長。

2003年度～，環境省，絶滅のおそれのある野生動植物種の選定・評価検討会（陸・淡水産貝類分科会），検討委員。

2004年10月～，環境省，外来生物専門家グループ（無脊椎動物），検討委員。

2005年12月～2012年3月，環境省近畿地方環境事務所，琵琶湖オオクチバス等防除モデル事業調査検討委員会，委員。

2010年3月～，環境省中国四国地方環境事務所，開放水域におけるオオクチバス等防除モデル事業有識者会議，有識者。

2011年9月～2012年3月，環境省北海道地方環境事務所釧路自然環境事務所阿寒湖自然保護官事務所，オンネトー湯の滝外来魚駆除対策検討会，委員。

2011年10月～2012年3月，環境省，侵略的外来種リスト検討会，委員。

2011年11月～2012年3月，環境省，外来種防除戦略検討会，委員。

1999年2月～，（財）リバーフロント整備センター，河川水辺の国勢調査スクリーニング委員会底生動物スクリーニング・グループ，委員（貝類担当）。

1999年10月～，（財）ダム水源地環境整備センター，河川水辺の国勢調査（ダム湖版）スクリーニング委員会底生動物スクリーニング・グループ，委員（貝類担当）。

2010年10月～2011年，オリックス不動産（株），京都水族館（仮称）の展示活動等に関する専門家委員会，委員および淡水魚作業部会員。

様々な意味で、まだまだ回復途上にある。さらにパフォーマンスの向上を目指していきたい。

研究活動に関する業績

【学会・研究会での発表】

芦谷美奈子（2011年7月15日）展示（プログラム）評価の手法と得られる情報の再検討。琵琶湖博物館研究セミナー，琵琶湖博物館，琵琶湖博物館（滋賀県草津市），[口頭発表]。

芦谷美奈子（2011年12月18日）フィールドレポーターによるイチョウウキゴケの全県調査。第2回琵琶湖地域の水田生物研究会，琵琶湖博物館，琵琶湖博物館（滋賀県草津市），[口頭発表]。

芦谷美奈子（2012年2月21日）展示交流員の交流ノートから～富江家展示で起こっていること～。第62回琵琶湖博物館特別研究セミナー，琵琶湖博物館，琵琶湖博物館（滋賀県草津市），[企画・ディスカッション進行・発表]。

【研究プロジェクト等への参加】

科学研究費補助金（基盤 C）「学校標本の保存・整備を通じた博学連携促進に関する基礎的研究」（研究代表者：岩崎誠司），研究分担者（2009～2011年度）。

琵琶湖博物館共同研究『『ミュージアム・リテラシー』を軸とした戦略的博物館学への展開』（研究代表者：秋山廣光），研究分担者（2011～2013年度）。

琵琶湖博物館共同研究「レイク・モンスターなど湖や川の未確認生物の歴史と多様性、その生物学および民俗学的検証に関する研究」（研究代表者：芦谷美奈子），研究代表者（2011～2014年度）。

琵琶湖博物館専門研究「ヨシを含む水草の利用の形態、およびそれらを利用する人による生物学的認識の考察」（2011年度）。

博物館事業に関する業績

【企画調整活動】

第5回シーボルトコレクション国際会議，「ビュルガー、ホフマンらのシーボルトコレクション形成への貢献」，琵琶湖博物館側担当者，2011年10月28日，琵琶湖博物館。

第5回シーボルトコレクション国際会議，公開講座「博物学者としてのシーボルト像を探る」，琵琶湖博物館側担当者，2011年10月30日，琵琶湖博物館。

館内の人事・館外活動等に関すること

【館内の人事】

2011年4月～，JICA 博物館学集中コース運営委員会，専門委員。

【館外の活動】

2000年4月～，木浜地区保全整備地域協議会，守山湖岸再生部会，委員。

2000年4月～，木浜地区保全整備地域協議会，木浜内湖再生部会，委員.

2002年8月～，守山なぎさ地区保全地域協議会，委員.

2003年1月～，滋賀県ヨシ群落保全審議会，委員.

水生双翅類昆虫の水辺環境への適応がどのように進化し、地理的に広がっていったのかについて、時間軸が導入できる分子系統学的手法と伝統的な比較形態学的手法を用いて解析し、その系統進化過程を解明することを目標として研究を行っている。この系統発生像に生物地理学的観点をも含めて考察し、東アジアの中での琵琶湖の成立過程や固有性を明らかにしようと考えている。

本年度の学術論文の発表は英文・共著で1本行った。論文タイトルは『Two new species of the genus *Cymatopus* Kertész from the Mariana Islands (Diptera: Dolichopodidae)』であった。北マリアナ諸島に生息する *Cymatopus* 属2新種について記載した。

文部科学省の科学研究費補助金（科研費）の研究「南米大陸における海洋性双翅目昆虫の分散と進化」において研究代表者として、南米に分布するアシナガバエ科の *Cymatopus* 属について文献収集と標本について検討した。日本各地で多数の水生双翅類標本を収集し、それらの標本作製やDNAの解析を行った。

文部科学省の平成23年度学芸員等在外派遣研修の研修生に選ばれ、ロンドンにある大英自然史博物館（The Natural History Museum）において、2011年11月20日から2012年2月6日で「自然史系博物館におけるコレクションマネジメント、資料管理の在り方」というテーマで研修を行った。

印刷物

【学術論文】

Masunaga, K. and Neal L. Evenhuis (2012) Two new species of the genus *Cymatopus* Kertész from the Mariana Islands (Diptera: Dolichopodidae). *Zootaxa*, 3159: 36-46.

【一般向けの著作】

榎永一宏 (2011) 日本列島で多様化したハエ. 滋賀県立琵琶湖博物館 編, *生命の湖 琵琶湖をさぐる*, 文一総合出版, 東京都: 100-101.

榎永一宏 (2011) ここだけの湖の話～琵琶湖博物館の研究室から～17 美化への歩み後世へ. *毎日新聞*, 毎日新聞社: 2011年6月23日.

榎永一宏 (2012) ここだけの湖の話～琵琶湖博物館と世界のフィールドから～10 大英自然史博物館に学ぶ. *毎日新聞*, 毎日新聞社: 2012年3月22日.

研究活動に関する業績

【学会・研究会での発表】

榎永一宏 (2012年3月16日) 大英自然史博物館での研修報告. 琵琶湖博物館研究セミナー, 琵琶湖博物館, 琵琶湖博物館 (滋賀県草津市), [口頭発表].

【研究プロジェクト等への参加】

科学研究費補助金（基盤C）「南米大陸における海洋性双翅目昆虫の分散と進化」（研究代表者：榎永一宏），研究代表者（2011～2013年度）.

琵琶湖博物館専門研究「水生双翅目昆虫アシナガバエ属 *Dolichopus* の分類学的研究」, (2011年度).

博物館事業に関する業績

【交流・サービス事業】

琵琶湖博物館の主催行事

質問コーナー・フロアトーク，琵琶湖博物館，12件。

2011年7月2日，夜の昆虫観察会，あさ、ひる、ばん 博物館を楽しもう！，琵琶湖博物館，講師。

2011年8月4日，琵琶湖博物館の広報について，博物館実習，琵琶湖博物館，講師。

2012年3月25日，川虫探検，観察会，藤ノ木川・大津市，講師。

他の博物館・機関等主催行事

2011年5月21日，川の中の生きものしらべ，水生昆虫観察会，ホテルの学校，千丈川（大津市），講師。

2011年6月5日，ほたるの夕べ，ホテル観察会，ホテルの学校，千丈川（大津市），講師。

2011年7月23日，千丈川の生きものたんけん，水生昆虫観察会，ホテルの学校，千丈川（大津市），講師。

2011年8月8日，叔母川探検～川の生き物観察，水生昆虫観察会，草津市市民環境部環境課，叔母川（草津市），講師。

2011年8月10日，琵琶湖博物館へ行こう，昆虫観察会と標本作製，ホテルの学校，琵琶湖博物館（草津市），講師。

2011年10月3日，川の中の生きものしらべ，水生昆虫観察会，ホテルの学校，千丈川（大津市），講師。

2011年10月12日，総合学習時間の講義，滋賀県立大津清陵高校（大津市），講師。

2012年2月18日，川の虫について，京都府立亀岡高校，琵琶湖博物館（草津市），講師。

メディアへの協力

びわ湖放送、NHK、名古屋テレビ、FM滋賀、KBCラジオ等，受け入れ、出演、調整等30件。

雑誌掲載対応，100件。

視察対応

2011年8月6日，展示案内，京都国際マンガミュージアム，琵琶湖博物館。

2012年2月8日，広報活動について，国立科学博物館，琵琶湖博物館。

【情報整備活動】

琵琶湖博物館の活動

昆虫液浸標本データベース，維持管理。

【資料整備活動】

琵琶湖博物館の活動

日本産の昆虫の収集・整理（液浸，乾燥とも），600件。

【展示活動】

琵琶湖博物館の活動

2011年度，ギャラリー展示「湖国の鳴く虫たち一庭の小さな音楽家」，副担当。

2011年度，常設展示C展示室「川の生き物を調べる」，ライトトラップの展示更新と維持管理。

2011年度，常設展示C展示室「川の生き物を調べる」，顕微鏡で虫を観る展示更新と維持管理。

2011年度，研究最前線更新。

【企画調整活動】

新任職員等研修，C展示室 川の生き物の概要，講師，2011年4月20日，琵琶湖博物館。

事業に関する資料提供，70件。

県内施設へのチラシ、ポスター配布等の広報活動，6件。
琵琶湖博物館への案内看板設置（三大神社）。
イナズマロックフェスでの広報活動，2011年9月18・19日。
地域発見参加型移動博物館，製作（主担当）。

館内の人事・館外活動等に関すること

【館内の人事】

2011年度，琵琶博だより編集委員会，委員。
2011年度，広報経営戦略会議，メンバー。
2011年度，展示リニューアル検討会議，メンバー。

【海外渡航】

2011年11月19日～2012年2月6日，大英自然史博物館 ロンドン，文部科学省在外派遣研修。

【館外の活動】

2011年4月～2012年3月，滋賀県生きもの総合調査昆虫類部会，専門委員。

以下にしめす7つのプロジェクトを中心に研究を行っている。

1. 巨大精子の形態と化石記録を用いた琵琶湖地域のキプリス上科カミジンコ類進化の解明。
カミジンコのサンプリングと収集、解剖と測定。岩のサンプルの処理と化石カミジンコの処理。
2. オーストラリア Riverleigh 地層からのカミジンコ、触角が保存されている化石カミジンコの分析。
3. 日本の地下水に生息するカミジンコのサンプリングを行い、分類作業が進行中である。論文を準備中である。
4. おそらく外来種であるスペインのカミジンコについての新しい研究が、Francesc Mezquita (バレンシア大学) と共同で今年始まった。おそらくスペインに外来したと思われる日本からの種がこの研究の対象である。
5. 書籍 “Atlas of Crustacean larvae” のための執筆。
6. 共同研究のプロジェクト山と湖をつなぐ地下水環境域のために、サンプリングをした。
7. 韓国の淡水カミジンコの分類学とサンプリングをした。

印刷物

【学術論文】

- Smith, R. J., Janz, H. and Okubo, I. (2011) Recent Cyprididae and Ilyocyprididae (Crustacea: Ostracoda) from Lake Biwa, Japan, including a summary of the lake's ostracod fauna. *Zootaxa*, 2874 : 1-37.
- Horne, D. J., Curry, B. B., Delorme, L. D., Martens, K., Smith, A. J., and Smith, R. J. (2011) OMEGA: the Ostracod Metadatabase of Environmental and Geographical Attributes. *Joannea Geologie und Paläontologie*, 11 : 80-84.
- Matzke-Karasz, R., Smith, R. J., Neil, J. V., Godthelp, H., Archer, M. and Hand, S. J. (2011) Preliminary report on early Miocene freshwater ostracods (Crustacea) with soft part preservation from the Riversleigh site, NW Queensland, Australia. *Joannea Geologie und Paläontologie*, 11 : 122-123.
- Rompa, S., Matzke-Karasz, R. and Smith, R. J. (2011) Technical dissection aspects for obtaining giant sperm. *Joannea Geologie und Paläontologie*, 11 : 165-167.
- Smith, R. J., Matzke-Karasz, R. and Kamiya, T. (2011) Lengths of Cypridoidean (Ostracoda, Crustacea) spermatozoa. *Joannea Geologie und Paläontologie*, 11 : 189-190.
- Chang, C. Y., Lee, J. and Smith, R. J. (2012) Nonmarine ostracods (Crustacea) from South Korea, including a description of a new species of *Tanycypris* Triebel (Cyprididae, Cypricercinae). *Zootaxa*, 3161 : 1-19.
- Smith, R. J. (2011) Groundwater, spring and interstitial Ostracoda (Crustacea) from Shiga Prefecture, Japan, including descriptions of three new species and one new genus. *Zootaxa*, 3140 : 15-37.

研究活動に関する業績

【学会・研究会での発表】

- Smith, R. J. (2011年7月25日) Preliminary report on early Miocene freshwater ostracods (Crustacea) with soft part preservation from the Riversleigh site, NW Queensland, Australia. 7th European Ostracodologists' Meeting, Karl-Franzens University, Graz.

Smith, R. J. (2011年7月25日) Lengths of Cypridoidean (Ostracoda, Crustacea) spermatozoa. 7th European Ostracodologists' Meeting, Karl-Franzens University, Graz.

Smith, R. J. (2011年7月25日) Technical dissection aspects for obtaining giant sperm. 7th European Ostracodologists' Meeting, Karl-Franzens University, Graz.

Smith, R. J. (2011年7月27日) OMEGA: the Ostracod Metadatabase of Environmental and Geographical Attributes. 7th European Ostracodologists' Meeting, Karl-Franzens University, Graz.

【研究プロジェクト等への参加】

琵琶湖博物館専門研究「日本のカイミジンコの生態」, (2011年度).

琵琶湖博物館共同研究「山と湖をつなぐ地下水環境域」(研究代表者: マーク ジョセフ グライガー), 分類学 (2011~2012年度).

科学研究費補助金(基盤 C)「巨大精子の形態と化石記録を用いた琵琶湖地域のキプリス上科カイミジンコ類進化の解明」(研究代表者: ロビン ジェームス スミス), 分類学 (2010~2012年度)

科学研究費補助金(基盤 B 一般)「進化のゆりかご日本海『緑海ポンプ効果』モデルの新たな展開」, 研究部分担者 (2009~2013年度).

共同研究「イベリア半島の推定外来種カイミジンコ」(研究代表者: Dr. Francesc Mezquita), 生物学 (2009年4月~).

【学会等の役職・運営、論文の査読など】

Zootaxa, 査読, 1件.

Species Diversity, 査読, 1件.

Hydrobiologia, 査読, 1件.

Science Reports of Kanazawa University, 査読, 1件.

Applied Limnology, 査読, 1件.

博物館事業に関する業績

【交流・サービス事業】

琵琶湖博物館の主催行事

質問コーナー・フロアトーク, 琵琶湖博物館, 11 件.

他の博物館・機関等主催行事

2011 年 6 月 1 日, 講義, 高校生, 琵琶湖博物館.

視察対応

2011 年 6 月 23 日, 展示の説明, 研修員, 琵琶湖博物館.

2011 年 7 月 13 日, 講義, 大学生, 琵琶湖博物館.

2011 年 10 月 13 日, 講義, ガボン国研修員, 琵琶湖博物館.

2011 年 10 月 19 日, 展示の説明, 研修員, 琵琶湖博物館.

2011 年 11 月 22 日, 講義と展示の説明, 研修員, 琵琶湖博物館.

【情報整備活動】

琵琶湖博物館の活動

英語版ホームページの更新, 多数.

【展示活動】

琵琶湖博物館の活動

2012年2月14日，イオンモール草津，イベントの準備.
外国人の対応のアンケート，作成.
2012年度のギャラリー展示，企画.
世界の湖の展示コーナー，清掃・管理.
中国語版「Brief guide to the Galleries」，作成.

【研究部関連事業】

2011年3月9日～2012年4月17日，琵琶湖博物館での Andreu Escriva の滞在の手配と世話.
2011年11月13日，企画展示関連シンポ，琵琶湖博物館，会場内での写真の手配.
2012年3月3日，新琵琶湖学セミナー，琵琶湖博物館，会場内でのマイクの手配.

農林水産省の「新たな農林水産政策を推進する実用技術開発事業」は3年計画の3年目を迎え、本年度はまとめの年となった。前任者が蓄積した知見を踏まえて、水田内に放流したメダカおよびカワバタモロコが増殖可能かどうかを検討した。その結果、一般水田に放流したメダカは産卵し、多くの仔稚魚を得ることができた。カワバタモロコについては、実験水田内で産卵することは確認できたものの、その後の仔稚魚の成育は悪く、餌生物不足などが原因であると考えられた。

専門研究では、琵琶湖固有種である条虫 *Proteocephalus plecoglossi* と線虫 *Raphidascaris gigi* がアユ体内の生物標識として利用可能かどうかを調べることを目的とした。本年度は、琵琶湖の3漁協においてエリで漁獲されたアユを収集し、2種の寄生虫のアユへの寄生数を調べている。

これまでに行ってきたアユの冷水病に関する研究について、学術論文1本、専門分野の著作1本を発表した。学術論文の内容は、冷水病に感染したアユに対して28℃の加温処理を施した場合、処理後のアユは冷水病に対する抵抗性を獲得したというものであり、*Fish & Shellfish Immunology* に掲載された。専門分野の著作は、2011年3月に近畿大学に提出した学位論文がほぼそのままの形で滋賀県水産試験場研究報告に掲載された。また、前所属で行っていたビワマス引縄釣りに関する論文を執筆した。

博物館の事業では、地域の人々の情報発信スペースである「集う・使う・創る 新空間」の主担当として、9件の展示に携わった。内訳は行政機関2件、一般団体5件、個人2件であった。1件当たりの利用期間は、2週間～2ヶ月であり、期間を通してほぼ空きがなく利用されている状況であった。

印刷物

【学術論文】

Sugahara, K. and Eguchi, M. (2012) The use of warmed water treatment to induce protective immunity against the bacterial cold-water disease pathogen *Flavobacterium psychrophilum* in ayu (*Plecoglossus altivelis*). *Fish & Shellfish Immunology*, 32 : 489-493.

【専門分野の著作】

菅原和宏 (2011) 加温処理によるアユ冷水病の防除に関する研究. *滋賀県水産試験場研究報告*, 54 : 71-109.

【一般向けの著作】

菅原和宏 (2012) 漁業の歴史. *琵琶湖ハンドブック改訂版*, 滋賀県 : 86-87.

【これまでの業績集に掲載されていない著作】

Sugahara, K., E. Fujiwara-Nagata and Eguchi, M. (2010) Dynamics of the bacterial cold-water disease pathogen, *Flavobacterium psychrophilum*, in infected fish organs and rearing water after warmed water treatment. *Fish Pathology*, 45 : 58-65.

Sugahara, K., E. Fujiwara-Nagata, Fukuda, A. and Eguchi, M. (2010) Viable but non-culturable state of bacterial cold-water disease pathogen *Flavobacterium psychrophilum* at various temperatures. *Fish Pathology*, 45 : 158-163.

研究活動に関する業績

【学会・研究会での発表】

- 菅原和宏（2011年10月21日）アユの冷水病について—加温処理によるアユ冷水病の防除—。琵琶湖博物館研究セミナー，琵琶湖博物館，琵琶湖博物館（滋賀県草津市），[口頭発表]。
- 菅原和宏（2012年2月2日）加温処理を用いたアユの冷水病の治療。第56回水族館技術者研究会，日本動物園水族館協会，山口県国際総合センター（山口県下関市），[口頭発表]。
- 金尾滋史・菅原和宏（2012年2月12日）メダカが田んぼを泳ぐ日～魚類の繁殖・成長場所としての水田の機能～。「水田の魚類成育機能を活用した水産業と農業が両立できる新たな魚類及び水稻栽培技術の開発」研究成果発表会 水田の恵み 一稲も育てば魚も増える—，滋賀県水産試験場・滋賀県農業技術振興センター，琵琶湖博物館（滋賀県草津市），[口頭発表]。

【研究プロジェクト等への参加】

- 琵琶湖博物館専門研究「魚病の予防と治療」，（2011年度）。
- 農林水産省 新たな農林水産政策を推進する実用技術開発事業「水田の魚類成育機能を活用した水産業と農業が両立できる新たな魚類及び水稻栽培技術の開発研究」（研究代表者：藤岡康弘），「水田及び周辺水域の生態系保全のための魚類増殖技術の開発」研究担当者（2011年度）。

博物館事業に関する業績

【交流・サービス事業】

琵琶湖博物館の主催行事

- 質問コーナー・フロアトーク，琵琶湖博物館，9件。
- 2011年5月14日，魚の寄生虫を調べよう！，博物館講座，琵琶湖博物館，講師。
- 2011年7月30日，漁船に乗ってビワマス漁をみてみよう，見学会，湖北町尾上，主担当，（協力：朝日漁協、桑原之と共同）。
- 2011年8月2日，自然調査ゼミナール，滋賀県中学校理科部会，琵琶湖博物館（草津市），講師。
- 2011年10月29日，ビワマスの採卵現場を見学してみませんか，見学会，マキノ町知内，副担当，（協力：百瀬漁協・滋賀県漁連高島事業場、桑原雅之と共同）。

他の博物館・機関等主催行事

- 2011年8月18・19日，夏休み親子水草と魚学習会，滋賀県水産課，琵琶湖博物館（草津市），講師，2件。
- 2011年12月3日，2012年1月21日，琵琶湖の漁業について，立命館守山中学校，琵琶湖学習，琵琶湖博物館（草津市），講師，2件。
- 2012年2月22日，生物を使った教育活動と管理業務，大阪動植物海洋専門学校，琵琶湖博物館（草津市），講師。

【情報整備活動】

琵琶湖博物館の活動

- クエリーの質問対応，魚類に関する質問への回答，3件。

【展示活動】

琵琶湖博物館の活動

- 集う・使う・創る 新空間，主担当。
- 展示交流員と話そう，内容指導。
- モーニングレクチャー，講義，4回。

研究のテーマは、「里山とひとのくらしのつながり」を通して、森との持続的で賢明なつきあい方を探ろうとしている。そこには多くの要素が含まれているが、里山林の生態系の変化と住民の意識および社会的動向についての二つの側面から調査研究を継続している。

具体的には、ナラ枯れ、シカ被害、竹の侵入など今日的に多くの里山で起こっている状況とそれに対応する保全対策としての里山林の利用、加えてそれらの社会的な意義と可能性について調査研究を行っている。

また、里山に直接つながる事柄だけでなく、特に青少年が必要とするものとのつながりの理解を深めるための基礎力となる環境学習についても力を注いでいる。

詳細事項としては、①薪やペレットなどの木質バイオマスの利用、②里山から生み出される多くの恩恵の利用のあり方、③森林環境学習の推進、④森林の更新状況の把握とそれを阻害する病虫獣害などを対象として研究調査を進めている。

①については、地球環境研の研究者とともに、湖東・湖北地域の薪事情について、生産者、活動 NPO 団体、行政機関、製材所などに聞き取り調査を行った。薪利用の調査は、途中段階であり次年度以降も地域や対象を拡大して実施する予定である。また、くらしの満足度の目安として「薪指数」を考案中である。

一方、NPO 活動として、木質バイオマスの利用普及のために県内の多くの地域で開催されてセミナーや体験展示会などを企画実施した。

②については、はしかけ里山の会の活動を支援助言する形で、里山の資源利用の仕方を継承している。また、活動を通じて市民との協働のあり方や自発的に活動を推進していく支援を行っている。具体的な作業としては、里山整備、蕎麦づくり、原木キノコ栽培などを行った。

③については、兼務している森林センターの業務である「やまのこ」事業の専任指導員の研修会や小学校担当教員への研修会での講師や指導助言などを行うとともに、地域の中学校や子育て支援センターなどで、森林環境教育の現場指導や講師として出前講座を開催した。

④については、里山保全活動の手法を検討するため、米原市、長浜市、高島市などの里山保全活動の状況と整備後の推移の把握、過去のナラ枯れ被害地の植生の変化を調査した。これらについては、途中経過であるが「ナラ枯れ被害と里山林の保全」として3月に草津イオンモールで開催された滋賀県農林水産試験研究機関研究発表会においてポスター発表を行った。

この、滋賀の森林で生じている大きな問題である「ナラ類の集団枯損」については、途中報告としてPRリーフレット「ナラ枯れ被害と里山林の保全」を作成したところであるが、次年度においても、枯損現況や植生推移状況などを継続調査し里山林保全の手引き書を作成することとしている。

交流事業としては、野洲市大篠原の里山周辺で体験教室を四季を通じて4回企画運営した。また、高島市朽木や大津市仰木において田んぼやいきものなどを対象とした観察会の運営にも関わった。

担当している、はしかけ里山の会では、里山体験教室の開催しない月に独自活動を実施しており、この活動に支援をしてきた。

また、博物館からの紙媒体の情報提供として唯一の定期発行物である「琵琶博だより」の編集を行い、第4号から第8号までを発行した。

印刷物

【一般向けの著作】

寺尾尚純 (2011) 琵琶博だより, 5~8号, 編集, 琵琶湖博物館: 2p.

研究活動に関する業績

【学会・研究会での発表】

寺尾尚純（2012年1月20日）森と人の暮らしのかかわり「里山保全と木質バイオマス利用」．琵琶湖博物館研究セミナー，琵琶湖博物館，琵琶湖博物館（滋賀県草津市），[口頭発表]．

寺尾尚純（2012年2月18日）地域だれでも・どこでも博物館～はしかけ里山の会活動～．第7回人づくり・地域づくりフォーラム in 山口，山口県セミナーパーク（山口市），[口頭発表]．

寺尾尚純（2012年3月4日）ナラ枯れ被害と里山の保全．滋賀県農林水産試験研究発表会，イオンモール草津（草津市），[口頭発表]．

【研究プロジェクト等への参加】

琵琶湖博物館専門研究「里山と人の暮らしのつながり、薪の利用を通して」，（2011年度）．

博物館事業に関する業績

【交流・サービス事業】

琵琶湖博物館の主催行事

質問コーナー・フロアトーク，琵琶湖博物館，9件．

はしかけ運営，里山の会，随時．

2011年4月～1月，里山の四季を楽しむ，里山体験教室，野洲市大篠原，企画運営，4回，（はしかけ里山の会共同）．

2011年6月18日，自然豊かな田んぼで生きもの観察，観察会，高島市朽木，運営，（朽木いきもの里共同）．

2011年11月5日，秋の里山を歩こう，観察会，大津市仰木，運営，（カワセミ自然の会、はしかけ里山の会共同）．

他の博物館・機関等主催行事

2011年5月24日，日本の森林に棲む野生動物について，岐阜県立岐阜農林学校，講義，琵琶湖博物館，講師．

2011年11月17日，南比良の里山体験，環境学習，大津市立志賀中学校，大津市南比良，講師．

2011年11月24日，自然探索・自然あそび体験学習，大津市中エリア子育てネットワーク研修会研修会，大津市長等山公園，講師．

2012年3月18日，里山保全とナラ枯れ被害，淡海森林クラブ研究セミナー，琵琶湖博物館，講師．

【展示活動】

琵琶湖博物館の活動

展示交流員と話そう，内容指導，4件．

モーニングレクチャー，講義，4回．

館内の人事・館外活動等に関すること

【館内の人事】

2011年度，滋賀県森林センターを兼務．

2011年度，琵琶博だより，編集委員．

【館外の活動】

2011年4月～2012年3月，特定非営利活動法人おうみ木質バイオマス利用研究会，理事・事務局．

2011年4月～2012年3月，一般社団法人比良里山クラブ，理事．

2011年度は、写真に関わる事業と研究、展示と交流に関わる事業が主体となった。まず、古写真回想のための展示については、平成20年に行った地域の写真家、大橋宇三郎氏のギャラリー展示の際に作成された大型パネルを利用して来館者や解説ボランティアなどの心理的効果についての調査を行った。次いで、NPO法人西日本自然科学系博物館ネットワークの協力を得たギャラリー展示「湖国の鳴く虫たち―庭の小さな音楽家―」では、展示準備を通して琵琶湖博物館に蓄積のなかった直翅類昆虫の標本資料の収集を行った。展示は水族企画展示室の特性を活かして生体の展示を行い、生の虫の鳴き声を入館者に聞いて貰うことが出来た。また、予め展示期間を含めて鳴く虫を題材とした俳句を募集し、選ばれた優秀作品を展示室等にて公開した。自然科学に関わる資料と俳句という日本の文芸を併せて展示するという琵琶湖博物館ではこれまであまり行われなかった企画を行うことが出来た。

共同研究「ミュージアムリテラシーを軸とした戦略的博物館への展開」では、古写真回想から得られた知見をもとに「ミュージアムにおける癒し」の機能に着目し、「癒し」の多様性について議論し、今後の共同研究を深める材料と話題を収集した。高度成長期時代以降の停滞下落する社会の有り様に加え、震災や原発問題など心身の不安と居場所探しの波がやがて博物館に備わる癒し機能を求め寄せ来るものと考えている。その時、写真とカメラはどのような役割を果たすことが出来るだろうか。このところミュージアムセラピーについての考察を行ってきたが、博物館を拠点として周辺世界の移り変わりを画像としてここに残す活動が写真を撮る人、撮られる人、そして眺める人にとっての新しい役割になると認識している。表現療法としての写真療法や芸術療法の実践の場としてばかりでなく、そのほかにも博物館に出来ることは多く有り、博物館を拠点とした新しい癒し空間の創造が地域に暮らす人びとの心の拠り所として必要になるだろう。本来、博物館が資料を収集し保管することは、全て比較のためであるので、流転する万物の有様を今後も撮り止め蓄積し人びとに役立てて行くことは勿論であるが、カメラが記録器具から健康器具に変貌しているのと同様に博物館と資料も異なる価値観で見直すことも必要だと考えさせられた一年であった。

印刷物

【専門分野の著作】

秋山廣光 (2011) アユモドキ、イチモンジタナゴ、ワタカ、アブラボテ、ズナガニゴイ、ヤリタナゴ、コイ (野生型)、ムギツク、モツゴ、コウライニゴイ. 滋賀県生きもの総合調査委員会 編, 滋賀県で大切にすべき野生生物 滋賀県レッドデータブック 2010 年版, サンライズ出版, 彦根: 487-501.

【一般向けの著作】

秋山廣光 (2011) 魚の耳. 滋賀県立琵琶湖博物館 編, 生命の湖 琵琶湖をさぐる, 文一総合出版, 東京都: 44-45.
秋山廣光 (2011) 水中の音と魚の関係. 滋賀県立琵琶湖博物館 編, 生命の湖 琵琶湖をさぐる, 文一総合出版, 東京都: 46-47.
秋山廣光 (2011) 魚の声. 滋賀県立琵琶湖博物館 編, 生命の湖 琵琶湖をさぐる, 文一総合出版, 東京都: 48-49.

研究活動に関する業績

【学会・研究会での発表】

秋山廣光 (2011 年 8 月 19 日) 映像資料は役立ったか―博物館における映像資料の収集と利用についての可能性―. 琵琶湖博物館研究セミナー, 琵琶湖博物館, 琵琶湖博物館 (滋賀県草津市), [口頭発表].

【研究プロジェクト等への参加】

琵琶湖博物館専門研究「琵琶湖集水域における人や生き物の活動の映像記録（写真撮影、録音など）に関する研究ならびに博物館的表現・伝達方法・利用に関する研究」，（2011年度）。

琵琶湖博物館共同研究「『ミュージアムリテラシー』を軸とした戦略的博物館学への展開」（研究代表者：秋山廣光），研究代表者（2011～2013年度）。

博物館事業に関する業績

【交流・サービス事業】

琵琶湖博物館の主催行事

質問コーナー・フロアトーク，琵琶湖博物館，16件。

はしかけ運営，温故写新，随時。

2011年7月2日，水族バックヤードツアー，あさ ひる ばん 博物館を楽しもう！，琵琶湖博物館，案内。

2011年8月4日，魚の飼い方，指導者のための博物館活用講座①・生きもの飼い方講座，琵琶湖博物館，講師。

2012年3月10・24日，光と影でコラージュをつくろう，琵琶湖博物館わくわく探検隊，琵琶湖博物館，講師，（はしかけ「びわたん」と共同）。

他の博物館・機関等主催行事

2011年5月15日，「メダカ&サツマイモ植え」，ぼてじゃこトラスト，ぼてじゃこワンパク塾，ぼてじゃこビオトープ（大津市），講師。

2011年6月16日，水族館で泳ぐ魚の解説、琵琶湖の環境を守ることについて，瀬田南幼稚園，瀬田南幼稚園，講師。

2011年6月23日，琵琶湖周辺に生息する淡水魚の飼い方，社会福祉法人洛和福祉会，職員研修，吉身保育園，講師。

2011年6月28日，琵琶湖の魚について，中学校教育研究会環境教育部会，講義と水族見学，琵琶湖博物館，講師。

2011年7月6日，魚の解剖と調理，大津清陵高校，実習，琵琶湖博物館，講師。

2011年7月26～27日，ミュージアムスクール，県立石部高校，琵琶湖博物館，講師。

2011年7月28日，ビオトープ内の魚や周りにいる生き物解説，幼児水辺体験活動，オーパルオペテックス株式会社，ぼてじゃこビオトープ（大津市），講師。

2011年7月30日，水生生物の観察，体験教室「伊吹まるかじり隊」，伊吹山文化資料館，講師。

2011年7月31日，生き物観察会，母親教室，公益社団法人日本国際民間協力会（NICCO），講師。

2011年9月1日，外来魚について，大津市生涯学習センター，琵琶湖博物館，講師。

2011年9月4日，魚調理，アート支援プロジェクト，琵琶湖博物館，講師。

2011年9月11日，雑魚&外来魚釣り大会，ぼてじゃこトラスト，ぼてじゃこワンパク塾，ウォーターステーション琵琶湖，講師。

2011年10月15日，外来魚を食べよう！，おおつ環境フォーラム，おおつ市民環境塾11，大津市環境学習情報室，講師。

2011年10月16日，ぼてじゃこビオトープ池整備作業&サツマイモ掘り，ぼてじゃこトラスト，ぼてじゃこワンパク塾，ぼてじゃこビオトープ（大津市），講師。

2011年10月23日，琵琶湖の魚と外来魚，常盤小学校5年生，琵琶湖博物館，講師。

2011年11月5日，希少淡水魚の展示・増殖研究、滋賀県ネイチャーゲーム協会，解剖実習，琵琶湖博物館，講師。

2011年11月18日，琵琶湖の水生動物について，シニア自然大学，琵琶湖博物館，講師。

2012年1月29日，外来魚について，立命館守山高校，琵琶湖博物館，講師。

2012年2月5日，シンポジウム，ぼてじゃこトラスト，琵琶湖博物館，講師。

2012年3月25日，探鳥会と水族裏方見学，ぼてじゃこトラスト，琵琶湖博物館，講師。

メディアへの協力

eo 光チャンネル, チカラコブ, モノゴト裏側ツアーズ, 水族バックヤード案内, (2011年10月29日取材).
2012年1月・2月16日, 日本テレビ系, news every, ブラックバス料理について, (2012年2月16日取材).

【資料整備活動】

琵琶湖博物館の活動

水族飼育管理 (魚病担当).

映像資料貸出, 73件, 526点 (前野コレクション、大橋コレクション、災害写真、魚類、その他の生物他).

【展示活動】

琵琶湖博物館の活動

2011年9月17日～11月16日, 水族企画展示「湖国の鳴く虫たちー庭の小さな音楽家ー」, 担当.

他博物館・機関の活動

2011年4月23日～6月5日, 伊吹山文化資料館, 大橋宇三郎氏パネル写真貸出.

館内の人事・館外活動等に関すること

【館内の人事】

2011年度, 琵琶湖博物館広報誌, 編集委員.

【館外の活動】

1990年～2011年, nets 滋賀の水生生物調査グループ, 会員.

1994年～2011年, ぼてじゃこトラスト顧問.

2005年～2011年, お魚ネットワークおおつ, 会員.

2000年～, 日本写真学会, 会員.

日本動物行動学会, 会員.

日本魚病学会, 会員.

日本直翅類学会, 会員.

本年度は、業績として列挙できる成果に直接結びつかない作業に忙殺されたというのが正直な思いである。もちろん、それらは決して中長期的に無駄になるはずの無いものであり、これらを確実に次の成果につなげていくことが次の課題になってくる。

本年度前半に大きく力を注ぐことになったのは、琵琶湖博物館の博物館学について、当面の館内共同研究のプロジェクトの方向性を確立することを通して、全体の長期的な方向性に見通しを立てようとする作業である。当該共同研究は昨年度にとりあえず形にしたものであるが、「リテラシー」という博物館学の多くの部分に適用可能な概念をよりどころにしたために、当面の目標を絞り切れないという側面が生じていた。そこで、それに代わるべき、目標を絞ることに役立つ「手がかりの概念」を求めた結果「リエゾン」にたどりついたところである。しかし、具体的な短期目標はまだ手探りの状況が続いており、今後の展開について、さらに考えを深めていく必要がある。

年度後半には、大きな3つの実務的作業に関わることとなった。1つは滋賀県博物館協議会における初めての試みとして、博物館が当面する個々の課題に対して協議会としての意思表示を行う活動である。手続き面でも内容面でも試行錯誤が著しく、また表示意思をとりまとめる段階と意思表示を実行する段階の各々で試行錯誤があり、大きくエフォートを費やす結果となった。しかし、これは3年前に設定した、自分自身の博物館学研究における当面の2つの方向性の1つである「地域内の博物館施設との連携」に直接に結びつく内容である。従って、この成果を如何にして「博物館学」にしていくかが今後の課題となる。

2つめは「移動博物館」の製作である。元々は全体とりまとめの副担当であったのだが、諸々の経緯から全体とりまとめで前面に出ると共に、歴史系展示の製作のうち地理的側面や現在との対比に関する部分を中心に担うことになり、これにも大きくエフォートを費やした。これは個人の業績に結びつけにくい内容ではあるが、博物館事業の館外展開の1つの形として評価して行くことは可能だろう。

そして3つめは、翌年度に予定されている情報システム更新作業に向けての予算編成作業である。今回は全世界的な情報システムの仕様が大きく変わって行く流れの中でソフトウェアの大幅な修正を余儀なくされる時期にあたり、当然に生ずる大幅な予算増を如何にして確保するかという、極めて事務的な作業に、秋の時期のエフォートを大きく削がれた。新年度にはこの予算の執行という難関が控えていることは当然のことである。

印刷物

【一般向けの著作】

- 戸田 孝 (2011) 物理学の「難しさ」と琵琶湖研究. 滋賀県立琵琶湖博物館 編, *生命の湖 琵琶湖をさぐる*, 文一総合出版, 東京都: 178-179.
- 戸田 孝 (2011) 琵琶湖の水流と回転実験室との関係. 滋賀県立琵琶湖博物館 編, *生命の湖 琵琶湖をさぐる*, 文一総合出版, 東京都: 180-181.
- 戸田 孝 (2011) 右向きの「コリオリの力」で左回りの渦ができるわけ. 滋賀県立琵琶湖博物館 編, *生命の湖 琵琶湖をさぐる*, 文一総合出版, 東京都: 182-183.
- 戸田 孝 (2011) 人工衛星からのリモートセンシング. 滋賀県立琵琶湖博物館 編, *生命の湖 琵琶湖をさぐる*, 文一総合出版, 東京都: 184-185.
- 戸田 孝 (2011) 博物館の建物からのリモートセンシング. 滋賀県立琵琶湖博物館 編, *生命の湖 琵琶湖をさぐる*, 文一総合出版, 東京都: 186-187.
- 戸田 孝 (2011) 湖岸より 103 まず「つながり」を作る. *中日新聞*, 中日新聞社: 2011年4月3日.
- 戸田 孝 (2011) 湖岸より 110 映画になった琵琶湖の風景. *中日新聞*, 中日新聞社: 2011年5月21日.
- 戸田 孝 (2011) 湖岸より 119 地球自転は大きなスケールで. *中日新聞*, 中日新聞社: 2011年7月23日.

- 戸田 孝 (2011) 湖岸より 132 土砂ダムによる水害の怖さ. *中日新聞*, 中日新聞社: 2011年10月22日.
- 戸田 孝 (2012) 湖岸より 142 辰年に竜巻を思う. *中日新聞*, 中日新聞社: 2012年1月7日.
- 戸田 孝 (2012) 湖岸より 152 忘れたころに来るから災害に. *中日新聞*, 中日新聞社: 2012年3月24日.
- 戸田 孝 (2012) シリーズ地域だれでもどこでも博物館「滋賀県博物館協議会」. *琵琶博だより*, 7, 滋賀県立琵琶湖博物館: 2.

研究活動に関する業績

【学会・研究会での発表】

- 戸田 孝 (2011年6月12日) 公益法人制度改革への対応—各館の状況に応じた整理—. 全日本博物館学会第37回研究大会, 全日本博物館学会, 明治大学(東京都千代田区), [口頭発表].
- 戸田 孝 (2011年8月19日) 琵琶湖博物館における博物館学の方向性. 琵琶湖博物館研究セミナー, 琵琶湖博物館, 琵琶湖博物館(滋賀県草津市), [口頭発表].

【研究プロジェクト等への参加】

- 琵琶湖博物館共同研究『『ミュージアム・リテラシー』を軸とした戦略的博物館学への展開』(研究代表者: 秋山廣光), 研究副代表者(2011年度).
- 琵琶湖博物館専門研究「地球物理学を手がかりとする博物館学の展開」(2011年度).

【学会等の役職・運営、論文の査読など】

- 日本科学教育学会, 編集委員, 2010~2013年度.
- 陸水物理研究会, 運営委員.
- 日本科学教育学会, 科学教育研究, 査読結果判定, 3件.

博物館事業に関する業績

【交流・サービス事業】

琵琶湖博物館の主催行事

- 質問コーナー・フロアトーク, 琵琶湖博物館, 10件.
- 2011年8月9日, 回転実験室で水槽実験を!, 博物館講座, 琵琶湖博物館, (機器故障のため中止).

他の博物館・機関等主催行事

- 2011年6月1日, 琵琶湖の水の流れ, 武庫川女子大学附属中学校, 体験学習, 琵琶湖博物館, 講義.
- 2011年7月23日, 琵琶湖の水の流れについて, 淡海生涯カレッジ長浜校, 問題発見講座現地研修, 琵琶湖博物館, 講義.
- 2011年7月27日, 湖と人間の共存関係について, ジャスベル株式会社, WAON4周年記念招待企画, 琵琶湖博物館, 講義.

メディアへの協力

- 2012年1月11日, 日本経済新聞, 私が調べます「大阪と京都だけなぜ「府」なの」, 明治初期における都道府県の変遷経緯に関する情報提供, (2011年12月).
- 2012年3月26~27日および4月8日, NHK 大津, クイズで知る琵琶湖, 設備利用に関する技術的対応および展示室を利用した企画の運営補助, (2012年3月24日).

【情報整備活動】

琵琶湖博物館の活動

インターネットを介した情報発信，主担当。
情報システム整備および運営，副担当。
質問メールの受付・振り分け・回答進捗状況管理，副担当。
全館員向けメールメッセージの館内公開。
個人管理ページの運営。

他博物館・機関の活動

滋賀県博物館協議会，協議会ページの運営（各加盟館紹介ページの更新など）。

【展示活動】

琵琶湖博物館の活動

2012年1月3日～22日，お正月トピック展示「辰・龍・竜」，「竜巻」に関する展示。
2011年度，気象に関する展示の維持管理，主担当。
2011年度，水理に関する展示の維持管理，主担当。

【企画調整活動】

博物館広報，副担当（11月から2月まで代理主担当）。
移動博物館製作事業，全体調整副担当およびB展示室関連展示主担当。
JICA博物館学集中コース，Information Use and Equipment for Information Use—Learning from History—，講義，2011年7月26日，琵琶湖博物館。

館内の人事・館外活動等に関すること

【館内の人事】

2011年度，広報経営戦略会議，メンバー。
2011年度，滋賀県博物館協議会，事務局，主担当。

名古屋大学などと共同で「地球環境研究総合推進費」によって行ってきた琵琶湖地域の水田研究の最終年度であった。私が担当したサブテーマ「小型生物を重視した水田における種多様性の再検討」については、研究成果の論文としての発信は滞っているものが多く、年度当初に期待されたほどの成果は期間内に上らなかつた。しかし現在執筆中の論文は数多く、向こう1~2年のうちに水田の生物に関する論文が数多く出版されることが期待される。

今年も、琵琶湖地域で田んぼの生きものを研究している人たちを集めて、「琵琶湖地域の水田生物研究会」を開催した。今回は日本生態学会近畿地区会との共催となり、講師招聘の資金を得ることができた。そこで2部構成とし、第1部では滋賀県外各地から3名の講師を招いて話題提供を頂き、第2部では昨年と同様の多数のショートセッション（一部、ポスター発表）を行った。合計で27題の発表、139名の参加がありたいへんな盛会となった。

日本珪藻学会の編集委員長として、会誌 *Diatom* の27巻を編集・発行した。予定していた特集は、期間内にほとんどの論文が受理されなかつたために延期になったものの、12論文、計120ページと例年並みの分量となった。また、*Diatom* のバックナンバーをウェブ上で公開するための手続きを、日本珪藻学会の真山茂樹会長らとともに進め、2012年度より1巻~25巻までに掲載された全ての論文をウェブ上で見られることになった。

「たんさいぼうの会」会員とともに進めていた、滋賀県南部のミズゴケ湿地に関する研究を発展させ、この地域のミズゴケ湿地の総合的研究を進めつつある。2012年度よりみなくち子どもの森、大阪市立大学、滋賀県立大学などと連携して、琵琶湖博物館の共同研究を立ち上げることになった。

琵琶湖博物館総合研究「琵琶湖の生物多様性の成立過程の解明」で、琵琶湖固有種であるスズキケイソウ *Stephanodiscus suzukii* の進化を調べている。研究協力者の石井千津氏（たんさいぼうの会）が、短期的ながらスズキケイソウの培養に成功し、現在、増殖に伴うサイズ減少とともに殻の形態がどのように変化するかを調べている。

2011年度の後半は、2012年の企画展示「ニゴローの大冒険〜フナから見た田んぼの生きものにぎわい〜」の準備に追われた。この企画展を、琵琶湖博物館総合研究「湖に隣接する水田地帯の特性の解明」およびそこから派生したいくつかの研究の集大成として位置付けている。

印刷物

【学術論文】

- Nishimura, Y., Ohtsuka, T., Yoshiyama, K., Nakai, D., Shibahara, F. and Maehata, M. (2011) Cascading effects of larval Crucian carp introduction on phytoplankton and microbial communities in a paddy field: top-down and bottom-up controls. *Ecological Research*, 26, Springer : 615-626.
- Park, J., Khim, J.S., Ohtsuka, T., Arai, H., Witkowski, A., and Koh, C. -H. (2012) Diatom assemblages on Nanaura mudflat, Ariake Sea, Japan: with reference to the biogeography of marine benthic diatoms in Northeast Asia. *Botanical Studies*, 53, Institute of Plant and Microbial Biology, Academia Sinica, Taipei : 105-124.

【専門分野の著作】

大塚泰介 (2011) 琵琶湖博物館の交流活動. *文部科学時報*, 1632, 文部科学省 : 12-13.

【一般向けの著述】

大塚泰介 (2011) 珪藻の暮らし方① 珪藻はプランクトン?. 滋賀県立琵琶湖博物館 編, *生命の湖 琵琶湖をさぐる*, 文一総合出版, 東京都 : 78-79.

- 大塚泰介 (2011) 珪藻の暮らし方② 付着珪藻の生活. 滋賀県立琵琶湖博物館 編, *生命の湖 琵琶湖をさぐる*, 文一総合出版, 東京都: 80-81.
- 大塚泰介 (2011) 珪藻は種多様性のチャンピオン. 滋賀県立琵琶湖博物館 編, *生命の湖 琵琶湖をさぐる*, 文一総合出版, 東京都: 82-83.
- 大塚泰介 (2011) 琵琶湖のプランクトン珪藻① 最近わかった新種. 滋賀県立琵琶湖博物館 編, *生命の湖 琵琶湖をさぐる*, 文一総合出版, 東京都: 84-85.
- 大塚泰介 (2011) 琵琶湖のプランクトン珪藻② 分布と季節変動. 滋賀県立琵琶湖博物館 編, *生命の湖 琵琶湖をさぐる*, 文一総合出版, 東京都: 86-87.
- 大塚泰介 (2011) 琵琶湖をめぐる「はしかけ」活動. 日本陸水学会 編, *川と湖を見る・知る・探る 陸水学入門*, 地人書館, 東京: 124-125.

研究活動に関する業績

【学会・研究会での発表】

- 芝崎美世子・大塚泰介・奥中亮太・井上 淳・三田村宗樹 (2011年5月15日) 奈良県曾爾高原の堆積物にみられる珪藻. 日本珪藻学会第32回大会, 日本珪藻学会, 東京海洋大学 (東京都港区), [口頭発表].
- 芝崎美世子・大塚泰介・三田村宗樹 (2011年5月22日) 付着・流下珪藻群集による河川環境評価: 大阪府安威川の事例による検討. 日本地球惑星科学連合2011年大会, 日本地球惑星科学連合, 幕張メッセ (千葉県千葉市), [口頭発表].
- 大塚泰介 (2011年6月19日) 「たんさいぼうの会」のこれまでとこれから. 第2回 西日本原生生物コロキウム, West Japan Protozoology, 琵琶湖博物館 (滋賀県草津市), [口頭発表].
- 大塚泰介 (2011年7月15日) 水田珪藻研究の過去・現在・未来. 琵琶湖博物館研究セミナー, 琵琶湖博物館, 琵琶湖博物館 (滋賀県草津市), [口頭発表].
- 芝崎美世子・大塚泰介・三田村宗樹 (2011年9月16日) 水質調査フィルターを利用した流下珪藻による簡易な河川生態環境評価法. 応用生態工学会第15回金沢大会, 応用生態工学会, 金沢学院大学 (石川県金沢市), [口頭発表].
- 西村洋子・大塚泰介・吉山浩平・中井大介・柴原藤善・前畑政善 (2011年10月18日) 水田におけるニゴロブナ稚魚放流による微生物群集への栄養カスケード効果. 第27回日本微生物生態学会大会, 日本微生物生態学会, 京都大学 (京都市左京区), [口頭発表].
- 大塚泰介・金尾滋史 (2011年12月18日) 第2回 琵琶湖地域の水田生物研究会, 琵琶湖博物館・日本生態学会近畿地区会, 琵琶湖博物館 (滋賀県草津市), [企画運営].
- 前田雅子・楠岡 泰・Mark. J. Grygier・大塚泰介・田んぼの生き物調査グループ (2011年12月18日) 田んぼのエビ類 (大型鰓脚類) が分布する条件とは?. 第2回琵琶湖地域の水田生物研究会, 琵琶湖博物館, 琵琶湖博物館 (滋賀県草津市), [口頭発表].
- 大塚泰介・中村優介・打越崇子 (2011年12月18日) 珪藻は安全でおいしいお米ができる水田環境を指標するか?. 第2回琵琶湖地域の水田生物研究会, 琵琶湖博物館, 琵琶湖博物館 (滋賀県草津市), [口頭発表].
- 大塚泰介 (2012年3月3日) たんぼの中をのぞいて見れば. 滋賀大学環境総合研究センター第8回年次シンポジウム「水田の生態系と社会とのつながりを考える」, 滋賀大学環境総合研究センター, コラボしが 21 (滋賀県大津市), [口頭発表].
- 金尾滋史・大塚泰介 (2012年3月18日) シンポジウム「湖国における『田んぼ研究』の過去・現在・未来」. 日本生態学会第59回大会, 日本生態学会, 龍谷大学 (滋賀県大津市), [企画者・司会].

【研究プロジェクト等への参加】

- 琵琶湖博物館専門研究「琵琶湖地域の湿地で珪藻群落の分布を規定する環境要因の検討」, (2011年度).
- 科学研究費補助金 (基盤 C) 「水田におけるニゴロブナ仔稚魚の成長と微生物群集との相互作用の解明」 (研究代表者: 大塚泰介), 研究代表者 (2009~2011年度).

地球環境研究総合推進費「水田地帯の生物多様性再生に向けた自然資本・社会資本の評価と再生シナリオの提案」
(研究代表者：夏原由博)，サブテーマ代表者(2009～2011年度)。
琵琶湖統合研究「大気中から降下する汚染物質が琵琶湖と集水域に与える影響の評価」(研究代表者：永淵 修)，
研究分担者(2011年度～)。
琵琶湖博物館総合研究「琵琶湖の生物多様性の成立過程の解明」(研究代表者：高橋啓一)，共同研究者(2011～2015
年度)。

【学会等の役職・運営、論文の査読など】

日本珪藻学会, Diatom, 編集委員長, 2009年1月～。
日本珪藻学会, 運営委員, 2011年1月～
日本珪藻学会, Diatom, 担当編集委員, 7件。
国立科学博物館, Bulletin of the National Museum of Nature and Science Series B, 査読, 1件。
Elsevier, Ecological Engineering, 査読, 1件。
国立極地研究所, 南極資料, 査読, 1件。
日本珪藻学会, Diatom, 査読, 6件。
Springer, Landscape & Ecological Engineering, 査読, 1件。

【大学の講義・実習、学生の指導など】

2011年8月29日, 東北学院大学, 「博物館実習」(琵琶湖博物館の交流活動), 特別講師。
2011年9月20日, 京都府立大学, 「環境微生物学」非常勤講師。
2011年4月～2012年3月, 芝崎美世子(大阪市立大学理学研究科修士課程), 研究指導・助言。

博物館事業に関する業績

【交流・サービス事業】

琵琶湖博物館の主催行事

質問コーナー・フロアトーク, 琵琶湖博物館, 12件。
はしかけ運営, たんさいぼうの会, 琵琶湖博物館, 随時。
地域交流事業の総括, 主担当者(2011年4月～10月)。
夏休み自由研究講座, 琵琶湖博物館, 主担当者。
はしかけ制度, 琵琶湖博物館, 副担当者。
第5回博物館による環境と科学のフェスティバル, 博物館による環境と科学のフェスティバル実行委員会, 副担
当者。
2011年5月28日, プラぱら プランクトンのパラパラまんが, 琵琶湖博物館わくわく探検隊, 琵琶湖博物館, 講
師, (大依久人・藤橋和弘・びわたん・たんさいぼうの会と共同)。

他の博物館・機関等主催行事

2011年5月11日, 博物館の見どころ(魚を中心に), 社会保険センター浜松, ガイダンス, 琵琶湖博物館, 講師。
2011年5月24日, 珪藻の観察方法, 岐阜県立岐阜農林高校, 実習, 琵琶湖博物館, 講師。
2011年6月11日, 体験学習「プランクトン観察」, ダイニックアストロパーク天究館, 実習, 琵琶湖博物館, 講師。
2011年6月11日, 琵琶湖のプランクトン, 大津市立青山中学校, 講義, 琵琶湖博物館, 講師。
2011年6月18日, NICCO ふゆみずたんぼ生き物観察会, 公益社団法人日本国際民間協力会(NICCO), 講義, 岡谷お
よび山之上のふゆみずたんぼ(滋賀県竜王町), 講師。
2011年7月9日, 出会い発見! 青少年応援事業 プロフェッショナルとの交流会, 滋賀県健康福祉子ども・青少年
局, 草津市立まちづくりセンター(滋賀県草津市), 話し相手。
2011年7月14日, 琵琶湖のプランクトンの観察, 滋賀県立彦根東高校, 実習, 琵琶湖博物館, 講師。

- 2011年7月25日、プランクトンの採集と観察、滋賀県立石部高等学校、ミュージアムスクール、琵琶湖博物館、講師。
- 2011年7月30日、日野川流域探検隊「田んぼや河川のプランクトン」、水土里ネット日野川流域、実習、水田・ため池・河川およびアグリパーク竜王（滋賀県竜王町）、講師。
- 2011年7月31日、NICCO ふゆみずたんぼ生き物観察会、公益社団法人日本国際民間協力会（NICCO）、講義、山之上のふゆみずたんぼ（滋賀県竜王町）、講師。
- 2011年8月3日、プランクトンの同定、栗東中学校科学部、同定指導、琵琶湖博物館、同定指導、（楠岡 泰と共同）。
- 2011年8月8日、プランクトンの採集と観察、伊丹市市立総合教育センター、教員研修、琵琶湖博物館、講師、（大依久人・藤橋和弘と共同）。
- 2011年9月3日、琵琶湖の水環境の変化と私たちの生活、砺波市連合婦人会、講義、琵琶湖博物館、講師。
- 2011年9月10日、博物館の概要、特に交流と研究、京都大学、講義、琵琶湖博物館、講師。
- 2011年9月14日、豊かな生きものを育む水田に関する生きもの観察会、滋賀県農政水産部、観察会、水田と農業排水路（滋賀県竜王町）、講師。
- 2011年9月22日、プランクトンの採集と観察、滋賀県立大津清陵高校、実習、琵琶湖博物館、講師、（藤橋和弘と共同）。
- 2011年9月25日、琵琶湖博物館の設置目的と交流活動、京都女子大学、講義、琵琶湖博物館、講師。
- 2011年10月29日、プランクトンの採集と観察、立命館守山中学校、実習、琵琶湖博物館、講師。
- 2011年11月8日、総合学習の質問、滋賀県立河瀬中学校、質問対応、琵琶湖博物館、質問対応、（藤橋和弘・芳賀裕樹と共同）。
- 2011年11月8日、プランクトンの採集と観察、滋賀県立米原高校、実習、琵琶湖博物館、講師。
- 2011年11月20日、琵琶湖のプランクトンについて、自然と緑第17期自然大学、講義、琵琶湖博物館、講師。
- 2011年11月23日、NICCO ふゆみずたんぼ生き物観察会、公益社団法人日本国際民間協力会（NICCO）、講義、山之上のふゆみずたんぼ（滋賀県竜王町）、講師。
- 2011年11月24日、博物館で働くことの職場・就業体験に関する講義、滋賀県立大学、講義、琵琶湖博物館、講師、（老 文子と共同）。
- 2011年11月25日、博物館の見どころについて応答、阪神シニアカレッジ国際10期生、質疑応答、琵琶湖博物館、応答。
- 2011年12月11日、日本学生科学賞に向けた発表練習と面談、甲賀市立甲南中学校、発表練習と面談、琵琶湖博物館、助言指導、（環境大臣賞を受賞）。
- 2012年1月8日、田んぼの生き物から地域環境を考える、京都学園大学、懇談会、京都学園大学（京都府亀岡市）、講義。
- 2012年1月21日、「琵琶湖探究」発表に向けたアドバイス、立命館守山中学校、発表練習と面談、琵琶湖博物館、助言指導。
- 2012年1月22日、博物館の私的見どころとプランクトン実習、橿原市昆虫館、講義と実習、琵琶湖博物館、講師、（楠岡 泰と共同）。
- 2012年2月10日、参加型活動の実施状況について、あいち海上の森センター、講義と質疑、琵琶湖博物館、講師、（澤邊久美子と共同）。

メディアへの協力

- 2011年12月7日、京都新聞滋賀版、生物から考える田んぼの再生 18日、草津で研究会。

【資料整備活動】

琵琶湖博物館の活動

微小生物試料の収集、整理、監督、指示。

【研究部関連事業】

琵琶湖博物館特別研究員（中井大介、朱偉、柏尾珠紀），受け入れ担当.

館内の人事・館外活動等に関すること

【館外の活動】

2001 年 4 月～，島根大学汽水域研究センター，協力研究員.

2011 年 4 月～，京大大学生態学研究センター，協力研究員.

『昔の暮らし』をめぐる博物館資源の有機的活用とその社会的意義』を研究テーマに掲げ、資料活用学の担当学芸員となって4年になる。事業部は交流担当の地域連携の担当となって2年の間に連携先を広げた結果、2010年度「しが衣食住博 in 琵琶博」として、県内の衣食住に関する多様な地域活動を紹介・交流を深める連続イベントを行った。その年に資料活用担当に異動して資料整理委託業務の担当となり、この2年はさまざまな分野の博物館資料、資料整理職員とも関わった。博物館活動を支える多種多様な資料を維持管理するために、多くの人々が尽力くださっていることを改めて実感。財政難の中で資料をどう守り活用していくか、新しい工夫の必要を感じた。

そんな中、この一年も新しいご縁を得た。年度初め、2010年度のギャラリー展示「温故知新・近江の糸と織り」をご覧になった京都新聞の岩本敏朗記者が、「湖国 織物語」と題する毎月1回の連載記事を執筆されるとのこと。県内各地の染織の現場を紹介するだけでなく、1年の連載期間に、自ら綿の栽培から糸づくり・機織りを経て反物からのシャツの縫製までを目指し、体験談も添えるとのこと、近江はたおり探検隊の方々とともに出来る限りの協力をさせていただいた。最終号には完成したシャツの写真も新聞掲載され、生活実験工房にシャツの実物を持参でお礼に来られたときには、探検隊員とともにわがことのように喜んだ。

また、秋にプライベートで訪問した福井県勝山市のはたや記念館ゆめおーれ勝山では、ちょうど来年度、地機の特別展を行う予定とのこと、松村学芸員がうまくつないでくださり、我々の近江の復元地機も展示して実演することになった。職員の方々も大変熱心で、本館に来られ、近江はたおり探検隊の方々とも交流できた。

この一年の業績をまとめてみると例年に比べて量が少ないと感じるが、例年に増して充実した意義深い一年だった。4月、まだ雪の残る湖西の山間集落にある築200以上の古民家に一家で引っ越し、汲み取り便所と五右衛門風呂の暮らしを始めた。犬の散歩のときに枯れ枝を集め、秋にはヤギを飼い始め、年末にはヒヨコがやってきた。家の前の国道は、大雨で4回も通行止めになり、雪のときは除雪車が来ないと出られない。夏は蚊帳を吊り、冬の寒さは火鉢と行火とファンヒーターで乗り切り、毎日試行錯誤しながら、どうにか一年を過ごすことができた。そんな暮らしを紹介した連れ合いのブログを見たNHKの方が、わが家の五右衛門風呂の取材にも来られた。こうした暮らし体験は、社会的にも大きな意味をもつことだろう。研究実践と合わせながらうまく発信していきたい。

印刷物

【専門分野の著作】

中藤容子 (2011) 博物館に収蔵する民具活用とその社会的意義. 日本民俗学会第63回年会研究発表要旨集, 日本民俗学会 : 148.

【一般向けの著作】

中藤容子 (2011) 琵琶湖で発達した待ち型の漁法. 滋賀県立琵琶湖博物館 編, 生命の湖 琵琶湖をさぐる, 文一総合出版, 東京都 : 158-159.

中藤容子 (2011) 進化する漁具「エビタツベ」. 滋賀県立琵琶湖博物館 編, 生命の湖 琵琶湖をさぐる, 文一総合出版, 東京都 : 160-161.

中藤容子 (2011) 琵琶湖の地曳網漁、むかしといま. 滋賀県立琵琶湖博物館 編, 生命の湖 琵琶湖をさぐる, 文一総合出版, 東京都 : 162-163.

中藤容子 (2011) たべもの随想 目に見えないものとともに生きる. 伝統食だより, 日本の伝統食を考える会, 172 : 3.

中藤容子 (2011) 資料裏話 その4 湖底の泥から作られた燃料. 琵琶博だより, 滋賀県立琵琶湖博物館, 8 : 2.

研究活動に関する業績

【学会・研究会での発表】

中藤容子（2011年8月19日）「昔の暮らし」をめぐる博物館資源の有機的活用とその社会的意義（3）. 琵琶湖博物館研究セミナー, 琵琶湖博物館, 琵琶湖博物館（滋賀県草津市）, [口頭発表].

中藤容子（2011年10月2日）博物館に収蔵する民具活用とその社会的意義. 日本民俗学会第63回年会, 滋賀県立大学（滋賀県彦根市）, [ポスター発表].

【研究プロジェクト等への参加】

琵琶湖博物館専門研究『昔の暮らし』をめぐる博物館資源の有機的活用とその社会的意義, (2009年度～).

琵琶湖博物館共同研究『ミュージアム・リテラシー』を軸とした戦略的博物館学への展開（研究代表者：秋山廣光）, 研究分担者（2011～2013年度）.

【大学の講義・実習、学生の指導など】

2011年6月10・17・24日, 龍谷大学国際文化学部, 「民俗学入門」.

2011年9月22日, 桃山学院大学, 博物館の資料管理から展示・活用まで.

博物館事業に関する業績

【交流・サービス事業】

琵琶湖博物館の主催行事

質問コーナー・フロアトーク, 琵琶湖博物館, 10件.

はしかけ「近江昔くらし倶楽部」, 主担当.

はしかけ「近江はたおり探検隊」, 主担当.

2011年7月17日・11月6日・2012年3月4日, 担当はしかけグループの紹介, はしかけ登録講座, 3件.

2011年7月1・2・3日, 富江家のくらし案内ツアー, あさ、ひる、ばん 博物館を楽しもう!, 琵琶湖博物館, 担当, 3件.

2012年1月14・15日, 博物館でスゴロクをしよう～生活実験工房を中心に～, わくわく探検隊, 琵琶湖博物館（生活実験工房）, 協力.

他の博物館・機関等主催行事

2011年5月26日, 昔ながらの食体験, 草津養護学校中学部, 琵琶湖博物館, 講師.

2011年5月28日, 琵琶湖にまつわる食体験保育, 若鮎保育園, 琵琶湖博物館, 講師.

2011年9月4日, 「博物館で過ごす休日」ワークショップ, 滋賀・絆・アート支援プロジェクト, 滋賀次世代文化芸術センター, 協力.

2011年10月4日, 昔のくらしの知恵と工夫, 草津市立志津南小学校, 琵琶湖博物館, 講師.

2011年12月3日・2012年1月21日, 琵琶湖学習発表会準備, 立命館守山中学校, 琵琶湖博物館, 指導（「OHMIが産んだいいもん」最優秀賞受賞）.

2012年2月9日, 昔の道具の声を聞いてみよう, 草津市立山田小学校, 草津市立山田小学校, 講師.

2012年2月10日, 「昔の暮らし」から見る環境教育, 守山市環境教育合同実践部会, 美崎公園パークセンター（守山市）, 講師.

2012年3月10日, 博物館で昔のくらしを探究する, 京都大学アカデミックデイ, 京都大学研究国際部研究推進課他主催, 京都大学百周年時計台記念館（京都市）, ポスター出展.

視察対応

2011年6月9日, 昔くらし学習について, 守山市立速野小学校, 琵琶湖博物館.

2011年12月13日, 琵琶湖をめぐる環境について, NTT労働組合西日本本部, 琵琶湖博物館.

2012年3月7日, 地機と近江はたおり探検隊について, はたや記念館ゆめおーれ勝山, 琵琶湖博物館.

メディアへの協力

2011年5月1日, ふるさと味倶楽部, 郵便局株式会社, プロが教える! 家庭で作れる! 100年残したい郷土料理 琵琶湖のアメノイオご飯, (2011年3月19日取材対応) (滋賀の食事文化研究会と共同).

2011年5月15日, イグザミナ examiner, 株式会社イグザミナ 285, 湖国の魅力 近江の人が誇るもの 第五回 近江に暮らすということ, (2011年2月取材対応).

2011年6月18日~2012年3月16日, 京都新聞, 湖国 織物語 (毎月1回8回連載), (2011年5月~2012年3月取材対応).

2012年2月25日, COOL JAPAN, NHK BS, 風呂場, (2012年1月5日取材対応).

2012年3月18日, 読売新聞, 身近だった木造船 大津で企画展開幕, (2012年3月17日取材対応).

【情報整備活動】

琵琶湖博物館の活動

近江昔くらし倶楽部 ブログ (2009年6月~), 管理人.

他の博物館・機関等の活動

びわこ大縁日の会 ブログ (2010年11月~), 管理人.

【資料整備活動】

琵琶湖博物館の活動

環境収蔵庫維持管理業務・環境資料整備, 主担当.

民俗収蔵庫維持管理業務・民俗資料整備, 副担当.

資料整理関係委託業務, 主担当.

【展示活動】

琵琶湖博物館の活動

常設展示B展示室「湖に生きる人々」コーナー展示, 主担当.

生活実験工房 (屋外展示) 展示, 主担当.

屋外展示生活実験工房「おりばたけ」、滋賀の伝統作物の栽培, はしかけ「近江はたおり探検隊」「近江昔くらし倶楽部」活動.

2012年3月4日, 琵琶湖博物館はしかけグループ「近江昔くらし倶楽部」, はしかけ活動発表会, 琵琶湖博物館, ポスター出展.

展示交流員と話そう, 内容指導.

モーニングレクチャー, 講義, 4回.

【企画調整活動】

新任職員等研修, B展示室・生活実験工房, 展示説明, 2011年4月14日, 琵琶湖博物館.

JICA博物館学集中コース, 資料の整理と利用など, 講師, 2011年7月22日・8月21日, 琵琶湖博物館.

館内の人事・館外活動等に関すること

【館内の人事】

2011年度、ショップ会議、メンバー。

本年度より琵琶湖博物館のメンバーとして加わり、主に水田利用魚類の生態や滋賀県内における魚類の分布パターンについて研究を開始した。水田利用魚類の研究については、これまで蓄積してきた水田地帯における各魚種の季節消長や利用目的、そして保全にむけた試みについて研究をまとめ、論文化を行っている。また、農林水産省の競争資金である「新たな農林水産政策を推進する実用技術開発事業」の研究分担者となり、水田を活用した希少魚の産卵・生育の場としての機能についての調査研究を菅原和宏氏と共同で実施した。滋賀県内における魚類の分布については、これまで実施してきた分布調査をまとめながら、博物館標本や文献における情報から、過去の分布域を探り、現在の魚類の分布パターンとどのような相違が見られるかという点に着目して研究を行っている。これらの成果は琵琶湖博物館総合研究「琵琶湖の生物多様性の成立過程の解明」や文部科学省科学研究費補助金「地域住民による琵琶湖沿岸の〈生命の脈わい〉総合調査の方法論と調査手法の確立」の一部となっている。

一方で、博物館学研究領域として、観察会などで得られた知見をモニタリングや調査研究に発展させるための試みや、観察会のような場が地域自然史の知見を得るための場となりうる可能性について研究を開始し、それらで得られた成果や取り組みについて報文の執筆や学会発表を行なった。そのような中、2011年7月には滋賀県ではまだ発見されていなかった在来種ナガレホトケドジョウ *Lefua* sp. が高島市内の自然観察会で発見され、大きなニュースとなった。このようなちょっとした地域住民の発見が科学的な価値のある知見につながることを実感したとともに、博物館としてこのような意義ある交流事業と研究のつながりについてこれからも考えていきたい。

事業としては、資料活用担当として当館資料の貸出、特別観覧などの対応を行なった。特に映像資料の貸出数は最も多く、出版物への掲載から教育、研究目的など様々な目的があり、これらの利用分析なども今後は視野にいれていきたい。水族展示では水族維持管理のためのノウハウを学び始め、実務も交えながら早期の専門的な技術習得を目指している。また、水族展示室トピック展示として滋賀県で発見されたナガレホトケドジョウを、旬の魚コーナーではヒワラ（寒鮒）を担当した。このほか、ギャラリー展示「湖国の鳴く虫たち—庭の小さな音楽家—」の副担当となり、協力をしていただいた西日本自然史系博物館ネットワーク鳴く虫巡回展実行委員会との渉外や展示する昆虫の採集などを行った。交流事業は県内各地の自然観察会や講座などに講師として参加し、多くの地域住民と交流した。このような活動は博物館の活動を周知していただける場としても機能できるように、博物館へのいざない、フィールドへのいざないとなるよう意識して行なっている。さらに、このような交流事業で得られた成果は科学的な成果・知見としても結びつけることができるよう、研究活動の一環であるという意識をもってこれからも実施していきたい。

印刷物

【学術論文】

長田智生・金尾滋史（2011）滋賀県琵琶湖流入河川で確認されたナガレホトケドジョウ *Lefua* sp. について. *関西自然保護機構会誌*, 33(2) : 109-112.

花崎勝司・三宅壽一・金尾滋史・小北智之（2011）津田川上流域（大阪府岸和田市）で採集されたハリヨ. *きしわだ自然資料館研究報告*, 3: 1-4.

【専門分野の著作】

金尾滋史（2011）アブラヒガイ、シロヒレタビラ、ハリヨ、カネヒラ、カジカ（大卵型）、スゴモロコ、ゼゼラ、デメモロコ、ハス、ギンブナ、ヨドゼゼラ等 11 種・亜種の解説. 滋賀県生きもの総合調査委員会 編, *滋賀県で大切にすべき野生生物 滋賀県レッドデータブック 2010 年版*, サンライズ出版, 彦根 : 485-509.

金尾滋史（2011）イケチョウガイ、ニセマツカサガイ、カタハガイ、オグラヌマガイ、コバヤシミジンツボ、マツ

カサガイ、オバエボシガイ、オトコタテボシガイ、メンカラスガイ、マルドブガイ、タテボシガイ、ササノハガイ等12種・亜種の解説。滋賀県生きもの総合調査委員会 編，*滋賀県で大切にすべき野生生物 滋賀県レッドデータブック 2010年版*，サンライズ出版，彦根：512-533。

金尾滋史・中井克樹（2011）ヤコビマイマイ、ホラアナゴマオカチグサガイ、ナタネキバサナギガイ、カタマメマイマイ、ナタネガイモドキ、シリボソギセルガイ、ミカドギセルガイ等7種の解説。滋賀県生きもの総合調査委員会 編，*滋賀県で大切にすべき野生生物 滋賀県レッドデータブック 2010年版*，サンライズ出版，彦根：535-559。

中井克樹・金尾滋史（2011）カナマルマイマイ、ナガオカモノアラガイ、オウミケマイマイ等3種の解説。滋賀県生きもの総合調査委員会 編，*滋賀県で大切にすべき野生生物 滋賀県レッドデータブック 2010年版*，サンライズ出版，彦根：535-559。

中井克樹・金尾滋史・大谷ジャーメンウィリアム（2011）フトキセルガイモドキ。滋賀県生きもの総合調査委員 編，*滋賀県で大切にすべき野生生物 滋賀県レッドデータブック 2010年版*，サンライズ出版，彦根：535-559。

金尾滋史（2011）滋賀県におけるハタケノウマオイの採集記録。 *Came 虫*，161：14。

金尾滋史・中西康介・田和康太（2011）滋賀県内の観察会で発見されたナガレホトケドジョウ *Lefua* sp.. *魚類自然史研究会会報「ボテジャコ」*，16：3-6。

金尾滋史（2011）淡水魚学名変換辞書ツールをつくりました。 *魚類自然史研究会会報「ボテジャコ」*，16：15-18。

金尾滋史（2012）多景島で採集されたクボタアリツカオロギ。 *Came 虫*，165：14。

金尾滋史・北村美香（2012）博物館スタッフ同士が技を学びあう場「博物館 技のレッドカーペット!!」。 *ミュゼ*，99：30-32。

【一般向けの著作】

金尾滋史（2011）田んぼの生きもの観察会，*琵琶博だより*，4：2

金尾滋史（2011）多賀のゆかいな生き物図鑑66 ユリカモメ。 *広報たが*，2011年4月号，多賀町役場：20。

金尾滋史（2012）魚。 *琵琶湖ハンドブック改訂版*，滋賀県：176-177。

金尾滋史（2012）魚と水田。 *琵琶湖ハンドブック改訂版*，滋賀県：180-181。

【これまでの業績集に掲載されていない著作】

金尾滋史（2011）オオミズナギドリ幼鳥が多賀町を通過。 *野鳥の会滋賀会誌「にほのうみ」*，24：30-31。

金尾滋史（2011）滋賀県におけるウスグモズズの記録。 *月刊むし*，480：41。

金尾滋史・前畑政善・沢田裕一（2010）琵琶湖周辺の田んぼは「魚のゆりかご」～水田のもつ生態系機能の保全・再生に向けて～。中村浩二・嘉田良平 編，*里山復権～能登からの発信～*。創森社，東京：69-85。

北村美香・金尾滋史（2010）博物館による環境と科学のフェスティバル報告書。博物館による環境と科学のフェスティバル実行委員会，草津：108p。

舟尾俊範・金尾滋史・沢田裕一（2010）滋賀県江面川と周辺の農業水路の魚類相。 *陸水生物学報*，25：87-95。

水野敏明・大塚泰介・小川雅広・舟尾俊範・金尾滋史・前畑政善（2010）琵琶湖の水位変動とニゴロブナ *Carassius auratus grandoculis* の水田地帯への産卵遡上行動の誘発要因。 *保全生態学研究*，15：211-217。

水野敏明・大塚泰介・金尾滋史・小川雅広・舟尾俊範・前畑政善（2010）水田地帯へ遡上するニゴロブナの水路選択に関わる環境要因。 *魚類学雑誌*，57(2)：135-142。

前畑政善・大塚泰介・水野敏明・金尾滋史（2010）水田で育ったニゴロブナ幼魚の水田内残存と脱出場所の選択性。 *農業農村工学会論文集*，267：43-48。

金尾滋史・市川顕彦（2010）滋賀県多賀町でヒメスズ *Pteronemobius nigrescens* を採集。 *Came 虫*，158：11。

金尾滋史・中西康介（2010）滋賀県多賀町におけるミズスマシ類3種の採集記録。 *Came 虫*，157：8-9。

金尾滋史（2010）滋賀県内2ヶ所におけるヒメミズカマキリの記録。 *Came 虫*，26(4)：10-11。

金尾滋史・中西康介（2010）滋賀県愛荘町におけるヒメシマチビゲンゴロウの記録。 *Came 虫*，26(4)：9-10。

金尾滋史（2010）地域の博物館と環境科学部。 *滋賀県立大学環境科学部年報*，13，滋賀県立大学環境科学部：45-46。

金尾滋史（2010）地域のなかの生物多様性普及拠点として～滋賀県内の取り組み～。 *全科協ニュース*，40(2)：5-7。

金尾滋史・大塚泰介・前畑政善・鈴木規慈・沢田裕一（2009）ニゴロブナ *Carassius auratus grandoculis* の初期

- 成長の場としての水田の有効性. *日本水産学会誌*, 75 (2) : 191-197.
- 金尾滋史・北村美香 (2009) 滋賀県における自然科学系博物館連携の取り組みー「博物館による環境と科学のフェスティバル」の実践とその過程ー. *博物館研究*, 44 (3) : 28-32.
- 金尾滋史 (2009) 滋賀県立大学キャンパス内の魚類とその生息状況. *魚類自然史研究会会報「ボテジャコ」*, 14:37-45.
- 牛島積広・金尾滋史 (2009) 滋賀県高島市マキノ町で確認されたヨコヤマヒゲナガカミキリ. *Came 虫*, 153 : 6.
- 金尾滋史 (2008) 水田地帯における魚類相の時代変遷に関する研究. *公益信託 Takara ハーモニストフアンド平成19年度研究活動報告書* : 49-63.
- 金尾滋史 (2008) 博物館と生態学(7) 博物館における長期モニタリング活動ーたくさんの眼による地域モニタリングー. *日本生態学会誌*, 58(2) : 143-146.
- 金尾滋史・前畑政善 (2008) 魚類にとっての海洋・西浜・知内の水辺景観および人間との関わり. 高島市海洋・西浜・知内地区文化的景観保存活用委員会 編, 「高島市海洋・西浜・知内の水辺景観」保存活用事業報告書, 高島市, 高島 : 25-39.
- 金尾滋史 (2008) 琵琶湖周辺の水田地帯を利用する魚類の現状. 第2回湖岸生態系保全・修復研究会「琵琶湖の在来魚保全の現状と課題」記録集, 滋賀県琵琶湖環境科学研究センター, 大津 : 28-36.
- 森 小夜子・中川信子・種村和子・金尾滋史 (2008) 滋賀県多賀町でクロヤツシロラン *Gastrodia pubilabiata* Sawa の開花個体を確認. *滋賀の植物*, 32 : 29-31.
- 金尾滋史・阿部勇治・大岡秀行 (2008) 霊仙山御虎が池から採集されたドジョウ *Misgurnus anguillicaudatus*. *滋賀自然環境研究会誌*, 6 : 33-37.
- 金尾滋史・西田翔太郎 (2007) 滋賀県宇曾川水系の魚類相. *陸水生物学報*, 22 : 65-76.
- 濱田知宏・金尾滋史・藪内喜人・佐々木和之 (2007) 滋賀県犬上川下流域の鳥類相ー9年間の観察記録からー. *陸水生物学報*, 22 : 57-64.
- 金尾滋史・中尾博行・高野裕樹・舟尾俊範・沢田裕一・琵琶湖博物館うおの会・中井克樹 (2007) 滋賀県におけるスクミリンゴガイの生息域の拡大. *ちりぼたん*, 38 (3-4) : 88-94.
- 金尾滋史・中井克樹 (2007) カタツムリの宝庫. 村瀬忠義・須藤一成・草川哲三 編, 伊吹山自然観察ガイド. 山と溪谷社, 東京 : 84.
- 金尾滋史・前畑政善・沢田裕一 (2006) 琵琶湖周辺における水田利用魚類の生態と保全. *国際湿地再生シンポジウム2006-湿地の保全再生と賢明な利活用- 報告書* : 82-83.
- 金尾滋史 (2005) 書評 : 自然再生 (鷺谷いづみ 著, 中公新書). *くらしと協同の研究所所報「協う」*, *くらしと協同の研究所*, 88 : 5.
- 金尾滋史 (2005) 淡水魚類. *彦根市で大切にすべき野生生物*, 彦根市. 彦根 : 232-269.
- 金尾滋史 (2005) 琵琶湖周辺の水田地帯における魚類について. *関西自然保護機構会誌*, 27 (2) : 41-46.
- 金尾滋史・上野世司 (2005) 滋賀県におけるカラドジョウの初記録と定着について. *関西自然保護機構会誌*, 27 (2) : 59-63.
- 金尾滋史 (2005) 琵琶湖と環境 身近な魚の保全2 楽しみながらの魚の保全. *中日新聞*, 中日新聞社 : 2005年11月28日.
- 金尾滋史 (2005) 琵琶湖と環境 身近な魚の保全1 「減ってきた」魚、どう調べる?. *中日新聞*, 中日新聞社 : 2005年11月21日.
- 金尾滋史 (2005) 琵琶湖と環境 大学の水辺2 コイの池か?水辺の生物多様性か?. *中日新聞*, 中日新聞社 : 2005年11月14日.
- 金尾滋史 (2005) 琵琶湖と環境 大学の水辺1 魚にとっての大学の水辺環境. *中日新聞*, 中日新聞社 : 2005年11月7日.
- 金尾滋史 (2005) 琵琶湖と環境 ため池の自然2 移入種によるため池の生態系の攪乱. *中日新聞*, 中日新聞社 : 2005年10月31日.
- 金尾滋史 (2005) 琵琶湖と環境 ため池の自然1 ため池に残された貴重種. *中日新聞*, 中日新聞社 : 2005年10月24日.
- 金尾滋史 (2005) 琵琶湖と環境 犬上川物語4 犬上川をめぐる学生の動き. *中日新聞*, 中日新聞社 : 2005年10月17日.

- 金尾滋史 (2005) 琵琶湖と環境 犬上川物語 3 上流に生息する魚と博物館の役割. *中日新聞*, 中日新聞社: 2005年10月10日.
- 金尾滋史 (2005) 琵琶湖と環境 犬上川物語 2 琵琶湖と川を行き来する魚. *中日新聞*, 中日新聞社: 2005年10月3日.
- 金尾滋史 (2005) 琵琶湖と環境 犬上川物語 1 湧き水がもたらす川の生態系 琵琶湖と環境. *中日新聞*, 中日新聞社: 2005年9月26日.
- 金尾滋史 (2005) 琵琶湖と環境 水田地帯の魚とその保全 4 水田利用魚類の保全と実践. *中日新聞*, 中日新聞社: 2005年9月19日.
- 金尾滋史 (2005) 琵琶湖と環境 水田地帯の魚とその保全 3 魚は田んぼでも増える. *中日新聞*, 中日新聞社: 2005年9月12日.
- 金尾滋史 (2005) 琵琶湖と環境 水田地帯の魚とその保全 2 水田地帯にやってくる魚. *中日新聞*, 中日新聞社: 2005年9月5日.
- 金尾滋史 (2005) 琵琶湖と環境 水田地帯の魚とその保全 1 水田と魚類の関係. 琵琶湖と環境. *中日新聞*, 中日新聞社: 2005年8月29日.
- 上野世司・金尾滋史・田中茂穂・数野幾久・端 憲二 (2004) 放流等による「魚のゆりかご水田」手法あれこれ. *平成15年度滋賀県水産試験場事業報告*, 滋賀県水産試験場: 78-79.
- 金尾滋史・北村雅彦・阿部 司 (2002) 犬上川下流部の魚類相 (1998-2001). *陸水生物学報*, 17: 25-32.

研究活動に関する業績

【学会・研究会での発表】

- 金尾滋史 (2011年5月20日) 琵琶湖周辺における水田利用魚類の現在・過去・未来. 琵琶湖博物館研究セミナー, 琵琶湖博物館, 琵琶湖博物館 (滋賀県草津市), [口頭発表].
- 金尾滋史 (2011年6月28日) 小学校・博物館連携による学区内河川の魚類継続調査. 第33回動物園水族館協会近畿ブロック飼育係研修会, 京都大学フィールド研究センター (和歌山県白浜町), [口頭発表].
- 金尾滋史 (2011年9月14日) 魚類にとっての水田の機能～琵琶湖周辺域の研究から見えてきた光と陰～. 応用生態工学会第15回研究発表会自由集会「水田・水路生態系における魚類研究の現状と課題」, 金沢学院大学 (石川県金沢市), [口頭発表].
- 磯村順樹・三宅琢也・石橋 亮・河村功一・片野 修・金尾滋史 (2011年10月1日) mtDNA から見たカワムツ・オイカワの移入の実態. 平成23年度日本水産学会秋季大会, 長崎大学 (長崎県長崎市), [口頭発表].
- 三宅琢也・河村功一・中島 淳・鬼倉徳雄・金尾滋史 (2011年10月1日) 日本産カネヒラにおける遺伝的集団構造と移植の実態. 平成23年度日本水産学会秋季大会, 長崎大学 (長崎県長崎市), [口頭発表].
- 金尾滋史 (2011年10月15日) 滋賀県東部のため池で発見されたオグラヌマガイとその経緯. 第16回淡水貝類研究会, 大阪教育大学柏原キャンパス (大阪府柏原市), [口頭発表].
- 金尾滋史 (2011年12月18日) 第2回琵琶湖地域の水田生物研究会. 琵琶湖博物館 (滋賀県草津市), [副担当].
- 金尾滋史 (2011年12月18日) ご当地田んぼの生きもの図鑑製作のねらいとその効果. 第2回琵琶湖地域の水田生物研究会, 琵琶湖博物館 (滋賀県草津市), [口頭発表].
- 向井康夫・金尾滋史・中西康介 (2011年12月18日) 滋賀県内の水田で発見されたドブシジミとマメシジミ. 第2回琵琶湖地域の水田生物研究会, 琵琶湖博物館 (滋賀県草津市), [ポスター発表].
- 金尾滋史 (2012年1月14日) 魚から見た琵琶湖周辺の水辺環境. 第10回地球研地域連携セミナーSHIGA「水辺の保全と琵琶湖の未来可能性」, ピアザ淡海 (滋賀県大津市), [口頭発表・パネリスト].
- 金尾滋史・菅原和宏 (2012年2月14日) メダカが田んぼに帰る日～水田のもつ魚類繁殖機能～. 新たな農林水産政策を推進する実用技術開発事業「水田の魚類育成機能を活用した水産業と農業が両立できる新たな魚類および水稻栽培技術の開発」研究成果発表会『水田の恵みー稲も育てば魚も増えるー』, 琵琶湖博物館 (滋賀県草津市), [口頭発表].
- 金尾滋史・大塚泰介 (2012年3月18日) シンポジウム S-01「湖国の田んぼ研究の現在・過去・未来」, 第59回日

本生態学会，龍谷大学瀬田キャンパス（滋賀県大津市），[企画責任者].

金尾滋史（2012年3月18日）湖国の田んぼにおける生物多様性研究の現在・過去・未来. 第59回日本生態学会シンポジウムS-01「湖国の田んぼ研究の現在・過去・未来」，龍谷大学（滋賀県大津市），[口頭発表].

嶺田拓也・金尾滋史・中井克樹・松田征也・林 和典・高倉 猛・日鷹一雅（2012年3月19日）スクミリングガイの琵琶湖およびその集水域における侵入・定着. 第59回日本生態学会，龍谷大学瀬田キャンパス（滋賀県大津市），[ポスター発表].

森 小夜子・中川信子・種村和子・金尾滋史（2012年3月25日）多賀町で確認したクロヤツシロラン. 平成23年度多賀町立博物館研究発表会，多賀町立博物館（滋賀県多賀町），[口頭発表].

【研究プロジェクト等への参加】

琵琶湖博物館専門研究「水田利用魚類の生態と保全」，（2011年度）.

琵琶湖博物館総合研究「琵琶湖の生物多様性の成立過程の解明」（研究代表者：高橋啓一），共同研究者（2011～2015年度）.

琵琶湖博物館共同研究「山と湖をつなぐ地下水環境域」（研究代表者：Mark J. Grygier），研究協力者（2011年度）.
平成23年度新たな農林水産政策を推進する実用技術開発事業「水田の魚類育成機能を活用した水産業と農業が両立できる新たな魚類及び水稻栽培技術の開発」研究（研究代表者：藤岡康弘），水田及び周辺水域の生態系保全のための魚類増殖技術の開発、研究担当者（2009～2011年度）.

科学研究費補助金（基盤B 一般）「地域住民による琵琶湖沿岸の＜生命の賑わい＞総合調査の方法論と調査手法の確立」（研究代表者：川那部浩哉），「生きものの分布・生態」調査グループ、研究協力者（2010～2012年度）.

科学研究費補助金（若手B）「日本在来ナマズ属の地域集団と保全対象水域の特定および遺伝的モニタリングの実践」（研究代表者：松崎慎一郎），共同研究者（2011～2013年度）.

独立行政法人科学技術振興機構（JST）社会技術研究開発事業「地域環境問題における科学者コミュニティの変容」（代表：佐藤 哲），研究分担者（2008～2011年度）.

環境省環境研究総合推進費「水田地帯の生物多様性再生に向けた自然資本・社会資本の評価と再生シナリオの提案」（研究代表者：夏原由博），研究協力者（2009～2011年度）.

環境省「ハリヨ野生復帰モデル事業」（研究代表者：松田征也），研究協力者（2010～2012年度）.

【学会等の役職・運営、論文の査読など】

日本魚類学会，魚類学雑誌，査読，1件.

農業農村工学会，農業農村工学会論文集，査読，1件.

【大学の講義・実習、学生の指導など】

2012年1月5日，びわこ学院大学，「滋賀の環境」.

滋賀県立大学大学院環境科学研究科博士後期課程2年，滋賀県における水田利用魚類の生態に関する指導・助言.

滋賀県立大学大学院環境科学研究科博士後期課程1年，滋賀県におけるドジョウの生態に関する指導・助言.

兵庫県立大学大学院環境人間学研究科環境人間学専攻修士2年，滋賀県におけるスッポンの分布、生態に関する助言，現地案内.

立命館大学探検部，滋賀県におけるハコネサンショウウオの分布に関する助言，論文執筆指導.

博物館事業に関する業績

【交流・サービス事業】

琵琶湖博物館の主催行事

質問コーナー・フロアトーク，琵琶湖博物館，11件.

2011年7月2日，水族展示バックヤードツアー，あさ、ひる、ばん 博物館をたのしもう！，琵琶湖博物館，案内，20回，（桑原雅之、松田征也、前畑政善と共同）.

2011年8月2日, 夜の昆虫観察, 滋賀県中学校教育研究会理科部会, 自然調査ゼミナール, 琵琶湖博物館, 指導.
2011年9月23日, 鳴く虫投句会, 草津市水生植物園みずの森 (滋賀県草津市), 副担当

他の博物館・機関等主催行事

2011年6月4日, わんぱくプラザ矢倉っ子草津川探検, わんぱくプラザ矢倉っ子実行委員会, 矢倉市民センター (滋賀県草津市), 講師.
2011年6月10日, 蛍の鑑賞会, 富之尾子供会, 富之尾宮農センター (滋賀県多賀町), 講師.
2011年6月13日, びわ湖生命の水プロジェクト蛍の観察会, (株)ブリヂストン, ブリヂストン彦根工場 (滋賀県彦根市), 講師.
2011年6月14日, ホタルの観察, たきのみや保育園, 富之尾集落内 (滋賀県多賀町), 講師.
2011年6月19日, 水土里ふれあい体験田んぼの生きもの学習会, 愛西土地改良区, 愛西土地改良区 (滋賀県彦根市), 講師.
2011年6月19日, 第31回知事とふれあい「座ぶとん会議」, 栗見出在家の魚のゆりかご水田協議会, 栗見出在家老人憩の家明寿苑 (滋賀県東近江市), 解説.
2011年6月23日, 3年生親子活動ホタルの観察会, 多賀町立大滝小学校, 高取山ふれあい公園 (滋賀県多賀町), 講師.
2011年6月30日, 4年生総合的な学習の時間 太田川の生きもの観察, 多賀町立多賀小学校, 太田川 (滋賀県多賀町), 講師.
2011年7月3日, 湖国環境フェスタ 2011, 日本青年会議所近畿地区滋賀ブロック協議会, さかなクントークショー, 烏丸半島多目的広場 (滋賀県草津市), トークショー内での解説.
2011年7月5日, 4年生総合的な学習の時間 犬上川の魅力発見, 多賀町立大滝小学校, 犬上川 (滋賀県多賀町), 講師.
2011年7月6日, 7月度定例会「地域の自然環境の移り変わり」, 社団法人彦根青年会議所, 彦根市荒神山少年自然の家 (滋賀県彦根市), 講師.
2011年7月16日, 魚のゆりかご水田プロジェクトについて, 乙訓の自然を守る会, 琵琶湖博物館, 講師.
2011年7月28・29日, 班での調べ学習への助言, 石部学校, 琵琶湖探求, 琵琶湖博物館, 学習助言.
2011年7月30日, お魚観察会, ふるさとを守る会木川若草子供会, 木川町山寺川 (滋賀県草津市), 講師.
2011年8月4日, 川の生きもの観察会, 快適環境づくりをすすめる会, 犬上川 (滋賀県彦根市), 講師.
2011年8月12日, 学習会琵琶湖の魚と八木のアユモドキについて, 南丹市教育委員会, 琵琶湖博物館, 講師.
2011年8月16日, 琵琶湖における外来魚の影響, 巣鴨学園生物班, 琵琶湖博物館, 講師.
2011年8月18日, 研修, 滋賀県中学校教育研究会理科部会第4回環境教育研究委員会, 琵琶湖博物館, 講師.
2011年8月24日, ブリヂストンビオトープ観察会, (株)ブリヂストン彦根工場, ブリヂストン彦根工場びわトープ (滋賀県彦根市), 講師.
2011年10月1日, 星空観察報告会, 第23回「星空の街・あおぞらの街」全国大会 in 多賀, 環境省・滋賀県・星空の街・あおぞらの街全国協議会, 多賀町立多賀中学校 (滋賀県多賀町), 司会.
2011年12月3日・2012年1月21日, 班での調べ学習への助言, 立命館守山中学校, 琵琶湖学習, 琵琶湖博物館, 学習助言. 2件.
2012年3月15日, 都立国分寺高校修学旅行研修, 滋賀県湖北観光連盟, 早崎ビオトープ (滋賀県長浜市), 講師.

視察対応

2011年8月2日, 館内視察対応, Sally Childs氏 (レイクスペリオル大学), 琵琶湖博物館.
2011年11月4日, 館内視察対応, ウールゲージグン議会 (韓国), 琵琶湖博物館.
2011年12月20日, 鳴く虫巡回展視察対応, 鳴く虫巡回展実行委員会, 琵琶湖博物館.

メディアへの協力

2011年6月14日, 中日新聞, 白いオタマジャクシ, コメント, (2011年6月13日取材).
2011年8月26日, 中日新聞, カワバタモロコ絶滅危惧種守ろう, コメント・取材対応, (2011年8月25日取材).

2011年10月8日, 日本農業新聞, 鳴く虫を訪ねて, コメント・取材対応, (2011年9月23日取材).

2011年11月2日, 朝日新聞, 希少ドジョウ小4発見, コメント・写真提供・取材対応, (2011年11月1日取材).

2011年11月2日, 京都新聞, 小4が発見 ナガレホトケドジョウ, コメント・取材対応, (2011年11月1日取材).

2011年11月2日, 中日新聞, 絶滅危惧種ナガレホトケドジョウ発見, コメント・写真提供・取材対応, (2011年11月1日取材).

2011年11月4日, NHK 天津放送局, おうみ発610 絶滅危惧種ナガレホトケドジョウ生息を確認, インタビュー・撮影対応, (2011年11月4日取材).

2011年11月5日, NHK 大阪放送局, ウィークエンド関西 絶滅危惧種ナガレホトケドジョウ生息を確認, インタビュー・撮影対応, (2011年11月4日取材).

2011年11月7日, NHK 報道局, NHK ニュース おはよう日本 絶滅危惧種ナガレホトケドジョウ生息を確認, インタビュー・撮影対応, (2011年11月4日取材).

2011年11月6日, 朝日小学生新聞, めずらしいドジョウ発見!, 写真提供・取材対応, (2011年11月1日取材).

2011年11月9日, 産経新聞, 絶滅危惧種ナガレホトケドジョウ 滋賀で小学生見つけた, コメント、写真提供・取材対応, (2011年11月1日取材).

2011年11月15日, 毎日新聞, ナガレホトケドジョウ県内で初の確認, コメント・写真提供・取材対応, (2011年11月1日取材).

2011年11月26日, 読売新聞, 僕がみつけた! ナガレホトケドジョウ, コメント・写真提供・取材対応, (2011年11月11日取材).

2011年12月21日, 韓国国営放送 (KBS), KBS 環境スペシャル新しい共存, インタビュー, (2012年11月15日取材).

2012年1月4日, FM 滋賀, Happy! 平和堂 My daily life 辰にまつわる生きものについて, 電話出演, (2012年1月4日生放送).

2012年3月2日, ZTV 滋賀放送局, 旬の魚: 寒鮒 (ヒワラ), コメント・取材対応, (2012年2月29日取材).

【資料整備活動】

琵琶湖博物館の活動

水族資料収集, 担当.

水族資料維持管理, 担当.

映像資料貸出対応, 73件, 526点 (前野コレクション、大橋コレクション、災害写真、魚類、その他の生物他).

動物資料貸出・特別観覧対応, 3件 (動物, 魚類).

魚類資料収集, 50件 (淡水魚).

昆虫資料収集, 20件 (直翅類, 水生昆虫等).

貝類資料収集, 20件 (陸産貝類, 淡水貝類等).

【展示活動】

琵琶湖博物館の活動

水族展示維持管理, 担当.

2011年9月17日~11月6日, ギャラリー展示「湖国の鳴く虫たち一庭の小さな音楽家」, 副担当.

2011年11月1日~12月18日, 水族トピック展示「滋賀県で初めて発見されたナガレホトケドジョウ」, 主担当.

2012年1月3日~1月22日, お正月トピック展示『辰・龍・竜』, 展示協力.

2012年2月21日~4月8日, 水族展示旬の魚たち「ヒワラ (寒鮒)」, 主担当.

展示交流員と話そう, 内容指導, 2件.

モーニングレクチャー, 講義, 4回.

他博物館・機関の活動

面河山山岳博物館, 2011年7月23日~8月31日, 第45回特別展「愛媛と世界のバツタ・コオロギ・キリギリス」, 展示協力.

【企画調整活動】

資料提供, 2 件.

館内の人事・館外活動等に関すること

【館外の活動】

2006 年 8 月～, 滋賀県琵琶湖環境部自然環境保全課, 滋賀県生きもの総合調査委員会魚貝類部会, 委員.

2009 年 7 月 1 日～2012 年 6 月 30 日, 環境省自然環境局, 希少野生動植物種保存推進員.

2010 年 4 月 1 日～2012 年 3 月 31 日, 滋賀県琵琶湖環境部自然環境保全課, 滋賀県希少野生動植物調査監視指導員.

2011 年 11 月～, 滋賀県農政水産部農村振興課, 豊かな生き物を育む水田検討委員会, 委員.

2012 年 2 月～, NPO 法人西日本自然史系博物館ネットワーク, 標本救済ネット, ケースワーカー.

博物館学の視点で、博物館と地域との関わり方および参加型調査の手法を研究対象としている。兵庫県で 2008 年から 2009 年に実施した一般参加型の調査「カタツムリ調査ひょうご 2008-2009」の調査手法についてのまとめを行った。兵庫県内におけるカタツムリの分布基礎データを収集する目的で、だれでも参加できる一般参加型として実施された。死んだカタツムリの殻または、生きているカタツムリの写真を調査票とともに郵送してもらった。殻と写真だけで正確な同定ができるかということも意識して実験的に実施したものである。調査結果は合計 2002 件、参加者は 780 名であり、同定結果は「カタツムリ調査員認定証」として、調査結果は子供向け冊子にまとめ参加者へ配布し、この調査結果は参加団体の各施設展示および兵庫県生物学会で発表されている。今回実施した調査では、採集地の表記レベルが不均一であったこと、地域によって情報量に偏りがみられたことが課題としてあがったが、殻と写真の情報でもある程度正確な同定が可能であると分かったこと、いくつかの貴重なデータの報告があったことが参加型調査の手法としての成果と言える。この参加型調査の手法については、平成 24 年度の博物館学会にて発表する予定である。

その他、博物館関係の研修会、セミナーに参加し、それぞれの館の展示、交流事業について聞き取りを行い、近畿圏内の博物館との関係作りに努め、博物館の活動を広げる仕組みや人づくりについて調査を継続する。

また、県内のカヤネズミの生息地を調査し、草地性生物からみた半自然草地およびヨシ原の管理手法についての研究を進めている。県内に生息するカヤネズミの生息地を聞き取りと植生から判断し、草地の環境を確認して回った。営巣期間になればその生息地で調査を実施する。2011 年 10 月には、岡山で開催された全国カヤネズミ・ネットワーク「カヤフォーラム 2011」にて、カヤネズミの生息地創出について、2011 年 12 月には第 2 回琵琶湖地域の水田生物研究会で水田を利用するカヤネズミについて発表を行った。

それに加え、屋外展示の活用としてより参加型の活動を展開できるよう、屋外展示においてはほ乳類調査など博物館の周りに住む生物についての基礎調査及びそれらを使った博物館活動について検討している。屋外展示には、オニグルミの食痕からアカネズミが生息していることが判断でき、ホンドタヌキやチョウセンイタチ、数年前にはキツネなどの目撃例もあるが、記録として残っているものは少ない。観察が難しいほ乳類の参加型調査の可能性も含めて、さらに調査を進める。

担当の交流事業について把握するため、はしかけ活動、観察会に参加した。県内の活動場所 8 か所に出向き、はしかけ会員との交流を通じて、交流事業の様子を知ることができた。地域連携事業として講義依頼団体と各学芸員との調整を行った。各学芸員の調整は難しい面もあったが、短期間で多くの学芸員と交流することができた。地域連携の受け入れ態勢については、改善すべきところも出てきたため検討が必要である。交流事業観察会の取りまとめと「琵琶湖博物館のもよおしもの」の編集、印刷を行った。観察会については、2012 年 2 月に事業セミナーで研修を行い、観察会の実施および計画方法について改善されるよう調整を行った。もよおしもの案内については、企画調整課との連携が重要となった。フィールドレポーターでは、月 2 回の定例会に参加し、次年度の調査内容やイベントの参加についての調整を行った。フィールドレポーターは、スタッフの増員を目指しているが登録者の地域に偏りがあり、来年度の課題として引き続き検討が必要である。

印刷物

【専門分野の著作】

中峰早織・澤邊久美子・谷口真理（2011）イシガメのミシシippアカミミガメに対する求愛行動について．日本の淡水カメ記録 亀楽, 2, 神戸市立須磨水族園：6.

【一般向けの著作】

澤邊久美子 (2011) 寒さに負けず生き物観察. *琵琶湖博物館フィールドレポーター掲示板*, 3 (65), 琵琶湖博物館
フィールドレポーター: 2.

澤邊久美子 (2012) 春を迎える生き物観察. *琵琶湖博物館フィールドレポーター掲示板*, 4 (66), 琵琶湖博物館フ
ィールドレポーター: 2.

研究活動に関する業績

【学会・研究会での発表】

澤邊久美子 (2011年10月10日) カヤネズミ生息地創出のためのススキ移植チャレンジ. 全国カヤネズミ・ネット
ワーク設立10年記念「カヤネズミフォーラム2011 in 岡山」, 全国カヤネズミ・ネットワーク, 就実大学・
就実短期大学 (岡山県岡山市), [口頭発表].

澤邊久美子 (2011年12月18日) イネに巣を作るカヤネズミ. 第2回琵琶湖地域の水田生物研究会, 琵琶湖博物館・
日本生態学会近畿地区会, 琵琶湖博物館 (滋賀県草津市), [口頭発表].

博物館事業に関する業績

【交流・サービス事業】

琵琶湖博物館の主催行事

質問コーナー・フロアトーク, 琵琶湖博物館, 3件.

2011年10月16日, 里山の秋さがしと里山林のお手入れ, 里山体験教室, 野洲市, 運営補助.

2011年11月5日, 秋の里山を歩こう, 観察会, 大津市, 運営補助.

2012年2月17日, 観察会の注意事項, 事業セミナー, 琵琶湖博物館・草津市, 発表.

他の博物館・機関等主催行事

2011年11月17日, 自然とともにくらす, 自然とともに生きる, (社)比良里山クラブ, 志賀中学校1年生環境学習,
大津市, 講師.

2011年11月24日, 自然探索および自然あそび体験学習, 大津子育て総合支援センターゆめっこ, 第2回中エリア
子育てネットワーク会議, 滋賀県大津市, 講師.

2011年11月26日, 博物館の仕事について, 環境職業説明会, 大阪府立大学郷環境の会, 発表.

視察対応

2011年12月20日, 交流事業についての取り組み, 浜名湖クラブ, 琵琶湖博物館.

2012年2月10日, 参加型活動の実施状況について, あいち海上の森センター, 琵琶湖博物館.

【展示活動】

琵琶湖博物館の活動

2012年1月, お正月トピック展示, 写真提供・パネル作成.

モーニングレクチャー, 講義, 3回.

【企画調整活動】

第5回シーボルトコレクション国際会議関連公開講座, 運営補助, 2011年10月30日, 琵琶湖博物館.

京都環境フェスティバル2011, フェスティバル出店・運営, 2011年12月11日, 京都府・京と地球の共生府民会議・
京都府地球温暖化防止活動推進センター (京都府京都市).

【研究部関連事業】

2011年11月13日，こまった！カワウ わかった?! カワウーカワウと人の過去・現在・未来ー，企画展示関連シンポジウム，琵琶湖博物館，運営補助.

2012年2月11日，新琵琶湖学セミナー，琵琶湖博物館，運営補助.

昨年度、新学習指導要領に合わせて、学習シート5種類と、発見シート4種類、ナマズ博士の挑戦状2種類を作成し、今年度より実施している。今年度は、来館した学校の内、FAX 番号の分かる学校に対して、アンケートを行い、改善点を探った。そして、学習シートを利用した学校と利用していない学校とでテストを実施し、シートの効果を調べた。また、ナマズ博士の挑戦状を一般来館者に実施し、アンケート調査を行った。さらに1月には、トピック展示関連イベントとして、ナマズ博士の挑戦状辰年ツアーを実施した。その感想を集める中で、新しい学習シートのあり方を考えた。

1. アンケートから

11月末日までの来館584校、下見412校、FAX配布500校、アンケート返送270校、来館時サポートシート利用届提出62校、HPのサポートシートを見た110校、サポートシート利用99校であった。

小学校ではサポートシートを使わない学校が40%近くあるが、中学校ではほとんどの学校がサポートシートを使っている。そして、切り貼りして使って良いことを知らせているが、切り貼りしているのは小中とも10%くらいであった。また、1校1枚の原則であるが、小では複数使用が54%、しかも選択させた学校はその18%ほどであるし、中学校では複数使用が73%で、その半数が選択使用であった。

小学校は3・4年の来館が多く、昔くらしサポートシートの使用が多い。中学校は「琵琶湖の水・川の水」「琵琶湖の生い立ち」のサポートシートの使用が多い。小中ともナマズ博士の使用率は高い。当然のことながら、サポートシートをたくさん使った学校ほど、出来具合は悪くなった。予想はしていたものの、中学校ではサポートシートを使って事後指導する学校は少なかった。富江家は、児童にとってだんだん遠い存在になってきていると感じていたが、先生でさえ見たこともないものになってきているので、解説書はありがたがれた。シートは全体的に少し難しいので、もう少し易しくすると良いと思われる。

2. 今と昔のくらしテスト

10/11に来館した樟葉北小4年49名と10/21に来館した南郷里小4年112名に対し、12月に今と昔のくらしのテストを実施した。サポートシートを使用した樟葉北小平均77.0点、未使用の南郷里小平均59.9点であったので、SSの使用は効果があったといえるであろう。

3. ナマズ博士の挑戦状(全館コース2問) 一般来館者アンケート

8月の「家族ふれあいサンデー」の午後に、アトリウムに博物館ののぼりを立て、ナマズ博士の挑戦状一般来館者アンケートを行った。(その日の来館者は、4,661人。)実施人数は289人。アンケート回答数は116人であった。

いつも見落としているところが詳しく見ることができ、遊びながら学べるのでよかった、わくわくしたとおおむね良い返答であった。ただし、簡単すぎてつまらなかったのが大人向けがほしいとか、景品がほしいという反応もあった。

4. ナマズ博士の挑戦状(辰年ツアー)

1月のトピック展示に合わせて1/3～22まで行った。期間中来館13,182人、利用者385人、感想を書いたのは12人であった。初日は、エスカレーターで展示交流員さんが配ってくれたので、155人がしてくれた。子どもたちはみんな楽しんでしてくれたが、大人はほとんどやらなかった。子どもがするものと決めてかかっている感じがした。また、A展、B展と進む内、水族まで来るとプリントを持ってやっている子は少なくなる。思っている以上に難しいのかもしれない。意欲を持続させることは難しい。

サポートシートは、一定の効果を上げているといえる。シートは完成型ではなく、絶えず修正が必要である。今後、ナマズ博士の挑戦状を展示室ごとに増やしたり、幼児用や中学生用のシートの開発が必要であると思う。

印刷物

【一般向けの著作】

大依久人 (2011) 地域だより. *教育旅行*, 2012年1月号(668), 日本修学旅行協会:12-13.

大依久人 (2011) 琵琶湖富栄養化問題学習. *滋賀科学*, 54, 滋賀県高等学校理科教育研究会:33-35.

研究活動に関する業績

【学会・研究会での発表】

大依久人 (2012年2月17日) 琵琶湖博物館と学校とのよりよい連携をめざして～新しい学習シートの開発～. 琵琶湖博物館研究セミナー, 琵琶湖博物館, 琵琶湖博物館 (滋賀県草津市), [口頭発表].

【研究プロジェクトへの参加】

琵琶湖博物館専門研究「琵琶湖博物館と学校とのよりよい連携について～学習プログラムの開発～」, (2011年度).

【大学の講義・実習、学生の指導など】

2011年4月～2012年3月, 滋賀の教師塾塾生, ヨシ笛作り実習・交流事業研修受け入れ.

博物館事業に関する業績

【交流・サービス事業】

琵琶湖博物館の主催行事

2011年4月～2012年3月, 「春の草花でしおりをつくろう」等10講座, 「琵琶湖博物館わくわく探検隊」事業, 琵琶湖博物館, 企画運営, 19件, (はしかけグループ「びわたん」と共催).

2011年4月～2012年3月, サテライト博物館, 高島市立青柳小学校・長浜市立永原小学校・彦根市立若葉小学校, 運営.

2011年8月17日, 学校教育における博物館活用と指導実習, サテライト博物館教員研修, 高島市立青柳小学校・長浜市立永原小学校, 運営, 2件.

2011年7月～2011年11月, カワウのことを調べてみよう!, 企画展関連イベント, 琵琶湖博物館, 企画運営, 3件, (はしかけグループ「びわたん」と共催).

2011年8月～11月, 指導者のための博物館活用講座, 教員・地域活動指導者向け博物館講座, 琵琶湖博物館, コーディネーター・講師, 3件.

2011年7月3日, 琵琶湖の模型をつくろう・くるくる☆カラフルたねとばし, はしかけオープンハウス, 琵琶湖博物館, (はしかけグループ「びわたん」と共催).

2011年7月～2012年3月, はしかけ登録講座, はしかけ事業, 琵琶湖博物館, はしかけグループ「びわたん」活動紹介, 2件.

2011年8月2～3日, 自然調査ゼミナール, 琵琶湖博物館, 企画運営, (滋賀県中学校教育研究会理科部会と共催).

他の博物館・機関等主催行事

2011年4月～2012年3月, 学校団体向け体験学習, 県内県外小中高等特別支援学校, 団体向け体験学習, 琵琶湖博物館, 講師, 83件.

2011年4月～2012年3月, 一般団体向け体験学習, 各団体, 団体向け体験学習, 琵琶湖博物館, 講師, 6件.

2011年5月～8月, 琵琶湖博物館での環境学習, 滋賀県中学校理科教育研究委員会, 滋賀県中学校理科教育研修会, 琵琶湖博物館, 講師, 3件.

- 2011年6月7・9・14・16日、琵琶湖博物館での体験学習（講義、実習）、滋賀県総合教育センター、初任者研修、琵琶湖博物館、講師、4件。
- 2011年6月～2012年2月、琵琶湖学習、立命館守山中学校、ミュージアムスクール、琵琶湖博物館、コーディネーター・講師、7件。
- 2011年6月19日、琵琶湖博物館での体験学習、神戸大学大学院、西日本原生生物コロキウム、琵琶湖博物館、講師。
- 2011年7月～11月、環境教育研修会、米原市立醒井小学校、校内研究会、米原市、講師、3件。
- 2011年7月8日、天体観察、米原市立山東小学校、米原市、講師。
- 2011年7月21～28日、琵琶湖探究、滋賀県立石部高等学校、ミュージアムスクール、琵琶湖博物館、コーディネーター・講師、5件。
- 2011年7月22日、ミニ琵琶湖博物館、長浜市社会福祉協議会、長浜市社協サマーホリデー、長浜市、(はしかけグループ「びわたん」)。
- 2011年7月30日、天野川探検隊、伊吹山文化資料館、伊吹山文化資料館体験教室、米原市、講師。
- 2011年8月8日、琵琶湖博物館での体験学習、伊丹市立総合教育センター、夏季研修会、琵琶湖博物館、講師。
- 2011年8月9日、琵琶湖博物館での体験学習、滋賀県小学校理科部会、研究委員研修会、琵琶湖博物館、コーディネーター・講師。
- 2011年8月10日、琵琶湖博物館での体験学習、近畿小学校理科教育研究委員会、研究委員研修会、琵琶湖博物館、コーディネーター・講師。
- 2011年8月11日、琵琶湖博物館での環境学習、滋賀県教育委員会、環境教育研究協議会、琵琶湖博物館、コーディネーター。
- 2011年8月16日、琵琶湖博物館での体験学習、門真市小学校教育研究会、夏季研修会、琵琶湖博物館、講師。
- 2011年11月19日、琵琶湖博物館における体験学習、滋賀県教育委員会、滋賀の教師塾、琵琶湖博物館、コーディネーター・講師。
- 2012年1月27日、環境教育に関する取組を活用した調査研究、滋賀県総合教育センター、文部科学省・県指定研究事業交流発表会、野洲市、講師。

視察対応

- 2011年7月28日、琵琶湖博物館の学校連携について、川崎市青少年科学館、琵琶湖博物館。
- 2011年8月25日、琵琶湖博物館の学校連携について、ビジターズビューロー、琵琶湖博物館。
- 2012年2月19日、琵琶湖博物館の学校連携について、文部科学省、琵琶湖博物館。

【資料整備活動】

琵琶湖博物館の活動

- 2010年4月～2011年3月、学校等標本貸出事業、担当、21件。

【展示活動】

琵琶湖博物館の活動

- モーニングレクチャー、講義、4回。

【企画調整活動】

- JICA 博物館学集中コース、琵琶湖博物館の学校連携について、講師、2011年7月21日、琵琶湖博物館。

琵琶湖博物館では、主に学校を対象とした「体験学習」のメニューをいくつか用意している。これは小学校がかなりの割合を占めているが、少数ながら中学校以上の学校でも体験がある。今回は中学・高校の体験校にターゲットを絞り、これらの学校の傾向を分類したり、アンケートをとり学校側の感触や考えを知り、そのことから、次年度以降どのような体験学習をめざすべきなのかを考えることとした。さらに、体験メニューやサポートシートなどで、どのようなことを新たに学校に向けて発信していけばよいのかを考える一助ともしたい。

〈よりよい体験学習のあり方をさぐる〉

1. 複数回来館校を大切にす

毎年同じ時期に、同じ体験をしたいという学校が多い。その理由として、来館の時期は年間計画で決まっていたり、前に体験して良かったことを理由にあげている。しかし、複数回来ている学校の中には、そろそろ違うところへ行きたいという回答もあった。ガラリと内容を変えないまでも飽きられない程度にプログラムに工夫を加えていく必要がある。そのためには現在ある「体験依頼状」の裏面などに、実施後の所感を書き留めておくなど体験のようすなどの記録を残すようにしたい。

2. 下見の重要性、特殊な体験の早めの来館打ち合わせの重要性を学校に伝える

下見については、中学校でかなりの学校が来ており、高校では半数を切るなど低い傾向にある。下見をせずに体験をした学校のリピーター率が低い。下見でお互いの要望を伝え合ったり、授業での進み具合をきいておくことで、さらに中身の濃い実習になるよう内容を工夫する。特に、高校の下見率の低さと体験数の減少は関連があるように思われる。一方で、県内の高校は、毎年同じ時期に、同じ内容で体験させたいという傾向が強い。学校からの声として上がっている学芸員とのチームティーチングや、高校生のための学芸員による新プログラムも不可能ではないが、かなり前もって下見に来て、綿密な打ち合わせができるなら可能かと思われる。

3. 中高生に合ったメニューを開発する

小学校で「昔くらし体験」が好評なのは、学習にピッタリ合致しているからである。そのような内容が中高生に対しては現プログラムではほとんどない。早急に開発する必要がある。さらに高校は、個別具体的に先生によって取り組む内容が異なっている。できるだけ早く打ち合わせを始めて、体験が生かされるようにすることが重要だと考える。

4. 琵琶湖を使ったプログラムの新設の検討

冬の時期、湖岸で水鳥を観察するプログラムを考えている。双眼鏡も多数あり、野外に持ち出せる図鑑もある。この時期体験数は少ないので、新たに学校を呼び込むことが期待できる。あまり使用頻度が高くない双眼鏡の有効活用も図れるものと思われる。

5. サポートシートとの関連

現在、中学校（以上）をターゲットとしたサポートシートはなく、開発が求められている。できるなら、体験学習にも使い、その後展示室でも使えるような内容のものも開発すると、博物館のめざしている「展示と体験の関連」が深められると考えられる。

今回の調査・研究で、中学校以上の学校にどのような傾向があるかが見えてきた。特異な例もあるが、大きく見ると年次変化のような一定のパターンがあることも分かった。今後は、今回得られた傾向を頭に入れて、学校からの要求に答えながら、博物館からのメッセージも伝えていきたい。そして、できるだけ早い時期に新プログラムを作り上げたい。さらに、新しいプログラム実施時には、きめ細かに反応を把握し、実施校の声を聞くことによって、完成度の高いプログラムにするべく努力を重ねていきたい。

印刷物

【一般向けの著作】

藤橋和弘 (2012) 湖と人々との関わり. 滋賀県教育委員会 編, *琵琶湖と自然* 六訂版: 64-66、70-71.

研究活動に関する業績

【学会・研究会での発表】

藤橋和弘 (2012年3月16日) 琵琶湖博物館と学校とのよりよい連携をめざして～中学校・高校・大学・特別支援学校の体験学習の傾向と対策～. 琵琶湖博物館研究セミナー, 琵琶湖博物館, 琵琶湖博物館 (滋賀県草津市), [口頭発表].

【研究プロジェクトへの参加】

琵琶湖博物館専門研究「琵琶湖博物館を活用した学習プログラムの開発」, (2011年度).

【大学の講義・実習、学生の指導など】

2011年4月～2012年3月, 滋賀の教師塾塾生, 3D琵琶湖製作実習・交流事業研修受け入れ.

博物館事業に関する業績

【交流・サービス事業】

琵琶湖博物館の主催行事

2011年4月～2012年3月, 「春の草花でしおりをつくろう」等10講座, 「琵琶湖博物館わくわく探検隊」事業, 琵琶湖博物館, 企画運営, 19件, (はしかけグループ「びわたん」と共催).

2011年4月～2012年3月, サテライト博物館, 高島市立青柳小学校・長浜市立永原小学校・彦根市立若葉小学校, 運営.

2011年7月3日, 琵琶湖の模型をつくろう・くるくる☆カラフルたねとばし, はしかけオープンハウス, 琵琶湖博物館, (はしかけグループ「びわたん」と共催).

2011年7月～2011年11月, カワウのことを調べてみよう!, 企画展関連イベント, 琵琶湖博物館, 企画運営, 3件, (はしかけグループ「びわたん」と共催).

2011年7月～2012年3月, はしかけ登録講座, はしかけ事業, 琵琶湖博物館, はしかけグループ「びわたん」活動紹介, 2件.

2011年8月2～3日, 自然調査ゼミナール, 琵琶湖博物館, 企画運営, (滋賀県中学校教育研究会理科部会と共催).

2011年8月～11月, 指導者のための博物館活用講座, 教員・地域活動指導者向け博物館講座, 琵琶湖博物館, コーディネーター, 3件.

2012年2月8日, 学校教育における博物館活用と指導実習, サテライト博物館教員研修, 彦根市立若葉小学校, 講師.

他の博物館・機関等主催行事

2011年4月～2012年3月, 学校団体向け体験学習, 県内県外小中高等特別支援学校大学, 団体向け体験学習, 琵琶湖博物館, 講師, 81件.

2011年4月～2012年3月, 一般団体向け体験学習, 各団体, 団体向け体験学習, 琵琶湖博物館, 講師, 8件.

2011年5月～8月, 琵琶湖博物館での環境学習, 滋賀県中学校理科教育研究委員会, 滋賀県中学校理科教育研修会, 琵琶湖博物館, コーディネーター, 3件.

- 2011年6月7・9・14・16日、琵琶湖博物館での体験学習（実習）、滋賀県総合教育センター、初任者研修、琵琶湖博物館、講師、4件。
- 2011年6月19日、琵琶湖博物館での体験学習、神戸大学大学院、西日本原生生物コロキウム、琵琶湖博物館、講師。
- 2011年6月～2012年2月、琵琶湖学習、立命館守山中学校、ミュージアムスクール、琵琶湖博物館、コーディネーター・講師、7件。
- 2011年7月8日、天体観察、米原市立山東小学校、米原市、講師。
- 2011年7月21～28日、琵琶湖探究、滋賀県立石部高等学校、ミュージアムスクール、琵琶湖博物館、コーディネーター・講師、5件。
- 2011年7月27日、琵琶湖博物館での講義、徳島県中学校理科教育研究会、夏季研修会、琵琶湖博物館、講師。
- 2011年8月5日、博物館の紹介、滋賀県生涯学習課、学校支援メニューフェア、ピアザ淡海（大津市）、講師。
- 2011年8月8日、琵琶湖博物館での体験学習、伊丹市立総合教育センター、夏季研修会、琵琶湖博物館、コーディネーター。
- 2011年8月12日、琵琶湖のお話とヨシ笛作り体験、大津プリンスホテル（大津市）、講師、（桑原雅之・亀田佳代子と共同）。
- 2011年8月16日、琵琶湖博物館での体験学習、門真市小学校教育研究会、夏季研修会、琵琶湖博物館、講師。
- 2011年8月20日、空から見た琵琶湖探検、環境と科学のフェスティバル実行委員会、環境と科学のフェスティバル、ビバシティ（彦根市）、（はしかけグループ「びわたん」と共催）。
- 2011年8月25日、星空観望会、湖南市夏見会館、湖南市、講師。
- 2011年10月23日、常磐小学校ふれあいフェスティバル、草津市立常磐小学校、草津市、講師。
- 2011年11月15・16・17・18日、職場体験学習（実習）、草津市立新堂中学校、琵琶湖博物館、講師・コーディネーター、4件。
- 2011年11月19日、琵琶湖博物館における体験学習、滋賀県教育委員会、滋賀の教師塾、琵琶湖博物館、コーディネーター・講師。
- 2012年2月3日、博物館の紹介、守山市学校教育課、学校支援メニューフェア IN 守山、エルセンター（守山市）、講師。
- 2012年2月18日、中学1年生琵琶湖学習発表会、立命館守山中学校、守山市、審査員、（楠岡 泰と共同）。

視察対応

- 2012年2月19日、琵琶湖博物館の学校連携について、文部科学省、琵琶湖博物館。

【資料整備活動】

琵琶湖博物館の活動

- 2011年4月～2012年3月、学校等標本貸出事業、担当、21件。

【企画調整活動】

- JICA 博物館学集中コース、琵琶湖博物館の学校連携について、講師、2011年7月21日、琵琶湖博物館。

館内の人事・館外活動等に関すること

【館外の活動】

- 2011年7月12日、笠縫東小学校エコスクール支援委員会、委員。
- 2011年8月～2012年2月、琵琶湖と自然 改訂作業、編集委員。

博物館事業に関する業績

【交流・サービス事業】

琵琶湖博物館の主催行事

- 2011年5月2日, 紙芝居「ゲンタのたんじょうものがたり」, ディスカバリールームイベント, 企画・実施, (ザ! ディスカバはしかけ荒井氏共同).
- 2011年6月14日~7月7日, 七夕☆短冊に願いをかこう!, ディスカバリールームイベント, 企画・実施.
- 2011年7月2日, はしかけ10周年記念イベント「光と影であそぼう」, ディスカバリールームイベント, 企画・実施, (ザ! ディスカバはしかけ共同).
- 2011年7月3日, はしかけ10周年記念イベント「くるりん☆かざぐるま」, ディスカバリールームイベント, 企画・実施, (ザ! ディスカバはしかけ共同).
- 2011年9月10日~9月25日までの土日, おちゃめなカボチャ2011, ディスカバリールームイベント, 企画・実施.
- 2011年9月19日, トンボ・とんぼ!, ディスカバリールームイベント, 企画・実施, (ザ! ディスカバはしかけ荒井氏共同).
- 2011年11月1日~11月20日, 大学のお兄さん・お姉さんがつくったディスカバリーボックス, ディスカバリールームイベント, 企画・実施.
- 2011年12月4日・12月11日, どんぐりぼうしでストラップをつくろう!, ディスカバリールームイベント, 企画・実施, (ザ! ディスカバはしかけ柳原氏共同).

【展示活動】

琵琶湖博物館の活動

- 2011年度, ディスカバリールーム, 維持管理・運営, 分担.
- 2011年4月1日~4月11日, 音のへや「南米の楽器」展示, 分担.
- 2011年4月1日~6月8日, おばあちゃんの台所「春version」展示, 分担.
- 2011年4月1日~6月1日, ブックコーナー「春version」展示, 分担.
- 2011年4月1日~8月3日, 人形劇場「春version」展示, 分担.
- 2011年4月1日~8月25日, クビキリギス(ピンク)飼育展示, 分担.
- 2011年4月1日~2012年3月31日, ヒバカリ飼育展示, 分担.
- 2011年4月3日~6月29日, 石の下/水の中の生きもの「春version」展示, 分担.
- 2011年4月12日~11月2日, 音のへや「アジアの楽器」展示, 分担.
- 2011年4月16日~5月29日, おばあちゃんの台所「こどもの日」関連展示, 分担.
- 2011年5月26日~2012年3月31日, ナマズの幼魚飼育展示, 分担.
- 2011年6月1日~2012年3月31日, ナミコギセル飼育展示, 分担.
- 2011年6月2日~6月12日, カイエビ飼育展示, 分担.
- 2011年6月2日~8月31日, ブックコーナー「夏version」展示, 分担.
- 2011年6月3日~6月11日, ホウネンエビ飼育展示, 分担.
- 2011年6月3日~6月4日, アジアカブトエビ飼育展示, 分担.
- 2011年6月9日~8月7日, おばあちゃんの台所「夏version①」展示, 分担.
- 2011年6月12日~8月6日, カイコ飼育展示, 分担.
- 2011年6月14日~7月7日, おばあちゃんの台所「七夕」関連展示, 分担.
- 2011年6月15日~6月22日, ヒメボタル飼育展示, 分担.

2011年6月30日～9月3日, 石の下／水の中の生きもの「夏 version」展示, 分担.
2011年7月6日～2012年3月31日, ノコギリクワガタ飼育展示, 分担.
2011年7月30日～10月19日, キリギリス飼育展示, 分担.
2011年8月4日～9月19日, 人形劇場「夏 version」展示, 分担.
2011年8月8日～9月3日, おばあちゃんの台所「夏 version②」展示, 分担.
2011年8月14日～2012年3月31日, コクワガタ飼育展示, 分担.
2011年8月25日, BOX「恐竜パズル」更新, 分担.
2011年9月1日～2012年1月11日, ブックコーナー「秋 version」展示, 分担.
2011年9月4日～9月12日, おばあちゃんの台所「お月見」関連展示, 分担.
2011年9月4日～11月28日, おばあちゃんの台所「秋 version」展示, 分担.
2011年9月4日～11月28日, 石の下／水の中の生きもの「秋 version」展示, 分担.
2011年9月20日～2012年2月22日, 人形劇場「秋 version」展示, 分担.
2011年9月30日～11月8日, カネタタキ飼育展示, 分担.
2011年10月13日～10月18日, サトクダマキモドキ飼育展示, 分担.
2011年10月15日～11月20日, マミズクラゲ飼育展示, 分担.
2011年10月15日, アブラコウモリ飼育展示, 分担.
2011年11月3日～2012年3月31日, 音のへや「アフリカの楽器」展示, 分担.
2011年11月4日～11月6日, トゲナナフシ飼育展示, 分担.
2011年11月19日～12月8日, キリギリス飼育展示, 分担.
2011年11月19日～2012年3月31日, クビキリギス飼育展示, 分担.
2011年11月29日～2012年2月12日, おばあちゃんの台所「冬 version」展示, 分担.
2011年11月29日～2012年3月7日, 石の下／水の中の生きもの「冬 version」展示, 分担.
2012年1月3日～1月15日, おばあちゃんの台所「お正月」, 関連展示, 分担.
2012年1月3日～1月31日, カウンター「竜巻をつくろう」展示, 分担.
2012年1月12日～3月31日, ブックコーナー「冬／春 version」展示, 分担.
2012年2月2日～2月3日, おばあちゃんの台所「節分」, 関連展示, 分担.
2012年2月13日～3月31日, おばあちゃんの台所「春 version」展示, 分担.
2012年2月19日～3月3日, おばあちゃんの台所「ひな祭り」関連展示, 分担.
2012年2月23日～3月31日, 人形劇場「春 version」展示, 分担.
2012年3月8日～3月31日, 石の下／水の中の生きもの「春 version」展示, 分担.
2012年3月7日～3月31日, アカハライモリのタマゴ飼育展示, 分担.

博物館事業に関する業績

【交流・サービス事業】

琵琶湖博物館の主催行事

- 2011年5月2日, 紙芝居「ゲンタのたんじょうものがたり」, ディスカバリールームイベント, 企画・実施, (ザ! ディスカバはしかけ荒井氏共同).
- 2011年6月14日~7月7日, 七夕☆短冊に願いをかこう!, ディスカバリールームイベント, 企画・実施.
- 2011年7月2日, はしかけ10周年記念イベント「光と影であそぼう」, ディスカバリールームイベント, 企画・実施, (ザ! ディスカバはしかけ共同).
- 2011年7月3日, はしかけ10周年記念イベント「くるりん☆かざぐるま」, ディスカバリールームイベント, 企画・実施, (ザ! ディスカバはしかけ共同).
- 2011年9月10日~9月25日までの土日, おちゃめなカボチャ2011, ディスカバリールームイベント, 企画・実施.
- 2011年9月19日, トンボ・とんぼ!, ディスカバリールームイベント, 企画・実施, (ザ! ディスカバはしかけ荒井氏共同).
- 2011年11月1日~11月20日, 大学のお兄さん・お姉さんがつくったディスカバリーボックス, ディスカバリールームイベント, 企画・実施.
- 2011年12月4・11日, どんぐりぼうしでストラップをつくろう!, ディスカバリールームイベント, 企画・実施, (ザ! ディスカバはしかけ柳原氏共同).

【展示活動】

琵琶湖博物館の活動

- 2011年度, ディスカバリールーム, 維持管理・運営, 分担.
- 2011年4月1日~4月11日, 音のへや「南米の楽器」展示, 分担.
- 2011年4月1日~6月8日, おばあちゃんの台所「春version」展示, 分担.
- 2011年4月1日~6月1日, ブックコーナー「春version」展示, 分担.
- 2011年4月1日~8月3日, 人形劇場「春version」展示, 分担.
- 2011年4月1日~8月25日, クビキリギス(ピンク)飼育展示, 分担.
- 2011年4月1日~2012年3月31日, ヒバカリ飼育展示, 分担.
- 2011年4月3日~6月29日, 石の下/水の中の生きもの「春version」展示, 分担.
- 2011年4月12日~11月2日, 音のへや「アジアの楽器」展示, 分担.
- 2011年4月16日~5月29日, おばあちゃんの台所「こどもの日」関連展示, 分担.
- 2011年5月26日~2012年3月31日, ナマズの幼魚飼育展示, 分担.
- 2011年6月1日~2012年3月31日, ナミコギセル飼育展示, 分担.
- 2011年6月2日~6月12日, カイエビ飼育展示, 分担.
- 2011年6月2日~8月31日, ブックコーナー「夏version」展示, 分担.
- 2011年6月3日~6月11日, ホウネンエビ飼育展示, 分担.
- 2011年6月3日~6月4日, アジアカブトエビ飼育展示, 分担.
- 2011年6月9日~8月7日, おばあちゃんの台所「夏version①」展示, 分担.
- 2011年6月12日~8月6日, カイコ飼育展示, 分担.
- 2011年6月14日~7月7日, おばあちゃんの台所「七夕」関連展示, 分担.
- 2011年6月15日~6月22日, ヒメボタル飼育展示, 分担.

2011年6月30日～9月3日, 石の下/水の中の生きもの「夏 version」展示, 分担.
2011年7月6日～2012年3月31日, ノコギリクワガタ飼育展示, 分担.
2011年7月30日～10月19日, キリギリス飼育展示, 分担.
2011年8月4日～9月19日, 人形劇場「夏 version」展示, 分担.
2011年8月8日～9月3日, おばあちゃんの台所「夏 version②」展示, 分担.
2011年8月14日～2012年3月31日, コクワガタ飼育展示, 分担.
2011年8月25日, BOX「恐竜パズル」更新, 分担.
2011年9月1日～2012年1月11日, ブックコーナー「秋 version」展示, 分担.
2011年9月4日～9月12日, おばあちゃんの台所「お月見」関連展示, 分担.
2011年9月4日～11月28日, おばあちゃんの台所「秋 version」展示, 分担.
2011年9月4日～11月28日, 石の下/水の中の生きもの「秋 version」展示, 分担.
2011年9月20日～2012年2月22日, 人形劇場「秋 version」展示, 分担.
2011年9月30日～11月8日, カネタタキ飼育展示, 分担.
2011年10月13日～10月18日, サトクダマキモドキ飼育展示, 分担.
2011年10月15日～11月20日, マミズクラゲ飼育展示, 分担.
2011年10月15日, アブラコウモリ飼育展示, 分担.
2011年11月3日～2012年3月31日, 音のへや「アフリカの楽器」展示, 分担.
2011年11月4日～11月6日, トゲナナフシ飼育展示, 分担.
2011年11月19日～12月8日, キリギリス飼育展示, 分担.
2011年11月19日～2012年3月31日, クビキリギス飼育展示, 分担.
2011年11月29日～2012年2月12日, おばあちゃんの台所「冬 version」展示, 分担.
2011年11月29日～2012年3月7日, 石の下/水の中の生きもの「冬 version」展示, 分担.
2012年1月3日～1月15日, おばあちゃんの台所「お正月」, 関連展示, 分担.
2012年1月3日～1月31日, カウンター「竜巻をつくろう」展示, 分担.
2012年1月12日～3月31日, ブックコーナー「冬/春 version」展示, 分担.
2012年2月2日～2月3日, おばあちゃんの台所「節分」, 関連展示, 分担.
2012年2月13日～3月31日, おばあちゃんの台所「春 version」展示, 分担.
2012年2月19日～3月3日, おばあちゃんの台所「ひな祭り」関連展示, 分担.
2012年2月23日～3月31日, 人形劇場「春 version」展示, 分担.
2012年3月8日～3月31日, 石の下/水の中の生きもの「春 version」展示, 分担.
2012年3月7日～3月31日, アカハライモリのタマゴ飼育展示, 分担.

博物館事業に関する業績

【交流・サービス事業】

メディアへの協力

2012年2月8日, 京都新聞, トピック展示「ありがとう15周年 屏風まつり(ミニ)」, 取材対応, (2012年2月7日取材).

2012年2月18日, 中日新聞, トピック展示「ありがとう15周年 屏風まつり(ミニ)」, 取材対応, (2012年2月7日取材).

2012年2月28日, 読売新聞, トピック展示「ありがとう15周年 屏風まつり(ミニ)」, 取材対応, (2012年2月23日取材).

【情報整備活動】

琵琶湖博物館の活動

お正月トピック展示「辰・龍・竜」, web発信準備, 2件.

収蔵資料展示情報, web発信準備, 6件.

『館蔵 日吉山王祭礼図屏風六曲一隻』特別展「神仏います近江」大津会場(大津市歴史博物館)へ貸出, web発信準備.

【資料整備活動】

琵琶湖博物館の活動

大津市歴史博物館史料調査対応, 1件.

『館蔵 日吉山王祭礼図屏風六曲一隻』特別展「神仏います近江」大津会場(大津市歴史博物館)へ貸出・返却対応, 1件.

特別展「神仏います近江」大津会場(大津市歴史博物館)展示視察, 1回.

居初家文書, 目録チェック、校正, 2件・292点.

居初家文書(居初寅夫氏依頼分)の翻刻, 実施.

近江関係散逸古文書履歴入力, 実施, 103件.

歴史資料管理台帳(特別収蔵庫)棚番号・箱番号入力, 実施.

定期収蔵庫清掃(特別収蔵庫・一時保管庫・古文書整理室), 実施, 11回.

定期清掃(収蔵庫廊下), 実施, 5回.

定期清掃(B展示室), 実施, 42回.

大掃除(B展示室・C展示室・古文書整理室・燻蒸庫), 実施, 1回.

冷凍燻蒸用フリーザーの霜取り, 実施, 1回.

虫カビ対策としての重点追加清掃(書庫・トラックヤード・前室)実施, 1回.

IPM対策としての年次計画の作成.

防虫防黴調査, トラップ設置回収, 3回. 報告書作成, 4回.

生物発見履歴の整備, 入力, 1件.

pH測定(7ヶ所), 実施, 2回.

脱酸素処理, 実施, 2回.

収蔵庫・展示室等の温湿度記録計用紙交換(10ヶ所), 実施, 11回.

移動式展示ケース内温湿度記録計用紙交換及び湿度管理, 実施, 3回.

防虫剤投入（特別収蔵庫），実施，1回。
B展示室ケース内気密性調査，対応，3回。
収蔵庫担当者会議発表，実施，2回。
乳剤散布，実施，5回。
博物館パンフレット一斉発送作業手伝い，2回。

【展示活動】

琵琶湖博物館の活動

2011年5月31日～7月3日，収蔵資料展示「収蔵庫をのぞいてみよう！」第23回，企画・調査・準備・展示。
2011年7月5日～7月31日，収蔵資料展示「収蔵庫をのぞいてみよう！」第24回，企画・調査・準備・展示。
2011年8月2日～9月11日，収蔵資料展示「企画展示関連企画 深緑の竹生島」第25回，企画・調査・準備・展示。
2011年9月13日～10月16日，収蔵資料展示「企画展示関連企画 鶴飼一鶴と人の歴史」第26回，企画・調査・準備・展示。
2011年10月18日～11月20日，収蔵資料展示「収蔵庫をのぞいてみよう！」第27回，企画・調査・準備・展示。
2011年11月22日～12月25日，収蔵資料展示「収蔵庫をのぞいてみよう！」第28回，企画・調査・準備・展示。
2012年1月3日～1月22日，お正月トピック展示「辰・龍・竜」歴史資料の部「竜宮城伝説―瀬田川と俵藤太―」，企画・調査・準備・展示。
2012年1月3日～2月5日，お正月トピック展示「辰・龍・竜」歴史資料の部「登竜門―鯉は竜になる―」，企画・調査・準備・展示。
2012年2月7日～3月11日，トピック展示「ありがとう15周年 屏風まつり（ミニ）」第1期，調査・準備・展示，大日本国図屏風の翻刻，実施。
2012年3月13日～4月15日，トピック展示「ありがとう15周年 屏風まつり（ミニ）」第2期，調査・準備・展示。
B展示室常設展示陳列替え，実施，5件（2011年5月30日，12月26日，延喜式。2011年8月1日，2012年2月6日，パンフレット，2011年10月17日，日本書紀）。

名誉学芸員

印刷物

【一般向けの著作】

- 川那部浩哉（2011）生態学と里山・里海・里川. *環境技術*, 40 : 450-455.
- 川那部浩哉（2011）博物学. 全日本博物館学会（青木 豊・鷹野光行・西 源二郎・布谷知夫・矢島國雄・山田磯夫・山本哲也）編, *博物館学事典*, 雄山閣, 東京 : 279-280.
- 嘉田由紀子・川那部浩哉・柴田昌三（2011）第50回全国竹の大会滋賀県大会記念鼎談竹と琵琶湖. 渡邊政俊 編, *全国竹の大会50回のあゆみ：竹産業結集と発展*, 全日本竹産業連合会, 京都 : 2-16.
- 川那部浩哉（2011）標準から偏っている人間の弁. *NPO自然と緑*, 62, NPO法人自然と緑, 大阪 : 1.
- 川那部浩哉（2011）鴨川のアユるか. *桑愈*, 9, 桑愈和久傳, 京都 : 13-19.
- 川那部浩哉（2012）原発ゼロの日本へ「事故のリスク」計算するまでもない. *週刊滋賀民報* : 2012年1月1日.
- 川那部浩哉（2012）2011年読書アンケート. *みすず*, 54 (1) : 27-28.
- 川那部浩哉（2012）3.11の一周忌に、改めて「さようなら原発」を思う. *伏見革新懇* : 2012年3月20日.
- 川那部浩哉（2012）新瀉水俣病と長良川河口堰 2つの裁判と私（覚え書き）. *龍谷法学*, 44 (4) , 龍谷大学法学会, 京都 : 459-487.

研究活動に関する業績

【研究プロジェクト等への参加】

- 科学研究費補助金（基盤B 一般）「地域住民による琵琶湖沿岸の＜生命の脈わい＞総合調査の方法論と具体的手法の確立」（研究代表者：川那部浩哉），研究代表者（2010～2012年度）.

博物館事業に関する業績

【交流・サービス事業】

他の博物館・機関等主催行事

- 2011年4月4日，京都に海の水族館？，法然院学習会，法然院（京都市），講演.
- 2011年4月10日，奇跡の海を守ろう，カンムリウミスズメと上関の生物多様性国際シンポジウム，広島国際会議場（広島市），コメント.
- 2011年5月17日，京の川の恵みを活かす会，京都平安ホテル（京都市），あいさつ.
- 2011年6月1日，「琵琶湖の生態系を守る」ということ：東北太平洋岸大震災と東電原子力発電所メルトダウンから考える，山科アスニー（京都市），講演.
- 2011年7月18日，愛知サマーセミナー：続生態学の「大きな」話ー琵琶湖の生物多様性を中心に，名経大市邨中高校（名古屋市），講演.
- 2011年10月16日，桂川や鴨川のアユ，横大路会館（京都市），講演.
- 2011年11月22日，生物多様性科学事始め，熊本大学（熊本市），講演.
- 2011年11月23日，川の魚の生活：その不思議さと面白さ，菊池川自然塾（山鹿市），講演.
- 2011年11月24日，県民参画の博物館活動：琵琶湖博物館のはしかけを中心に，熊本パレア（熊本市），講演.
- 2011年11月25日，私と地球の環境展，京都市勧業会館（京都市），コメント.

2011年11月27日, マザーレイク21計画と私, ピアザ淡海(大津市), 講演.
2011年12月3日, 鴨川のアユは今後どうなるか, 鴨沂会館(京都市), 講演.
2011年12月8日, 琵琶湖総合保全について, 参議院(東京都), 講演.
2011年12月11日, 水域生態系ー水と生きもの, 近畿中国森林管理局(大阪市), 講演.
2012年1月12日, タンガニイカ湖国際共同研究事始め, 高知大学(高知市), 講演.

館内の人事・館外活動等に関すること

【海外渡航】

2011年4月25日～5月2日, フランス・スイス連邦, 世界自然保護基金50年記念式典、国際合同企画展「フェアブルに学ぶ」など琵琶湖博物館とフランス国立自然史博物館との共同展示計画・記念シンポジウム計画等打合せ.

【館外の活動】

朝日21関西スクエア, 会員.
生き物文化誌学会, 評議員.
石垣島白保に空港を作らせない会, 会員.
International Journal of Ecology and Environmental Biology, 編集顧問.
Environmental Biology of Fishes, 編集顧問.
応用生態工学会, 名誉会員.
環境問題研究会, 会員.
九条科学者の会, 会員.
京大植物園を考える会, 会員.
京都市青少年科学センター, 学術顧問.
京都市青少年科学センターのあり方検討専門家会議, 議長.
京都市文化財保護審議会, 委員.
京都新聞社会福祉事業団, 理事.
京の川の恵みを活かす会, 顧問.
魚類自然史研究会, 会員.
黒潮実感センター, 会員.
国際高等研究所研究推進会議, 委員.
国際生物学賞委員会, 委員.
国土交通省河川技術研究開発制度河川生態委員会(第3者委員会), 委員長.
国土交通省琵琶湖とその周辺の河川環境に関する専門家会議, アドバイザー.
子どもと川とまちのフォーラム, 顧問.
自然と緑「自然大学」, 教授.
宍道湖・中海汽水域研究会, 会員.
生態学琵琶湖賞運営委員会, 委員.
世界自然保護基金ジャパン, 理事.
地球環境関西フォーラム企画委員会, 委員.
地球環境関西フォーラム生物多様性, 部長.
地球環境関西フォーラム100人委員会, 委員.
DIVERSTAS(生物多様性科学国際共同研究計画)科学委員会, 顧問.
内閣府みどりの学術賞選考委員, 会員.
長良川河口堰に反対する会, 会員.
長良川市民学習会, 会員.

日本アフリカ学会, 会員.
日本魚類学会, 評議員.
日本自然保護協会, 評議員.
日本自然保護基金, 理事.
日本生態学会, 名誉会員.
日本たぬき学会, 会員.
日本熱帯生態学会, 会員.
日本ラムサールセンター, 会員.
日本陸水学会, 会員.
Hydrobiologia, 編集顧問.
Brazilian Journal of Biology, 編集顧問.
水俣病センター相思社, 会員.
水俣フォーラム, 会員.
八重山白保の海を守る会, 会員.
山階鳥類研究所研究推進協議会, 委員長.
リバーフロント整備センター河川・海岸環境機能等検討委員会, 委員.

名誉学芸員

印刷物

【学術論文】

布谷知夫 (2011) 国際命名規約、圃場、展示批評、解剖標本、潜在利用者、筒井嘉隆、環境馴致、遺伝管理、川村多實二、三好学、乾燥室、オーバーナイトツアー、展示評価、利用者、アメリカ自然史博物館、参加型博物館、自然史博物館、スライドグラス、プレパラート標本、伊藤寿朗、特別利用、育成(植物)、資産台帳、首都圏近郊緑地保全法、博物館類似施設、分布調査、解説、錯葉庫、錯葉標本、滋賀県立琵琶湖博物館、MIHO MUSEUM、国立京都博物館、泉屋博古館、藤井済世会有隣館、立命館大学国際平和ミュージアム、逸翁美術館、日本民家集落博物館、大阪市立自然史博物館、大阪人権博物館、大阪歴史博物館、国際科学技術博覧会、サイエンスショー、自然教育園、技術職員、国立民族学博物館、寄託、教育関係専門職、工作室、シバンムシ類、資料価値、自然保護教育、海遊館 (54 項目)、青木 豊、鷹野光行、西 源三郎、布谷知夫、矢島國雄、山田磯夫、山本哲也 編、*博物館学辞典*、雄山閣、東京：421p.

【専門分野の著作】

布谷知夫 (2011) 植物の概要. 滋賀県生きもの総合調査委員会 編、*滋賀県で大切にすべき野生生物 滋賀県レッドデータブック 2010 年版*、サンライズ出版、彦根：62.

布谷知夫 (2011) 植物 (ヤマホウズキほか 96 種類). 滋賀県生きもの総合調査委員会 編、*滋賀県で大切にすべき野生生物 滋賀県レッドデータブック 2010 年版*、サンライズ出版、彦根：63-265.

吉田賢司・布谷知夫 (2011) 9. 博物館における教育・I 学校との連携. *博物館学概論*、放送大学、東京：143-178・143-178.

布谷知夫 (2011) 10. 博物館における教育・II 障害教育の展開. *博物館学概論*、放送大学、東京：179-191.

吉田賢司・布谷知夫 (2011) 11. 地域コミュニティと博物館. *博物館学概論*、放送大学、東京：192-208.

布谷知夫 (2011) 博物館資料とは. 八尋克郎・布谷知夫・里口保文 編、*博物館で学ぶ 利用と保存の資料論*、東海大学出版会、神奈川県：9-33.

布谷知夫 (2011) 博物館資料の新しい利用. 八尋克郎・布谷知夫・里口保文 編、*博物館で学ぶ 利用と保存の資料論*、東海大学出版会、神奈川県：123-145.

布谷知夫 (2011) 博物館資料論の課題と展望. 八尋克郎・布谷知夫・里口保文 編、*博物館で学ぶ 利用と保存の資料論*、東海大学出版会、神奈川県：147-154.

布谷知夫 (2012) 博物館から見た学校連携の立場とは 特集・外部との連携で教育を広げる. *初等理科教育*、3 月号.

布谷知夫 (2012) 博物館で起こる学びの性格とコミュニケーション. *研究セミナー「展示室におけるコミュニケーションと学び」報告書*.

布谷知夫 (2012) 市民教育の場としての博物館. 小笠原喜康・矢島國雄・並木美佐子 編、*博物館教育論*、ぎょうせい、東京：28-31.

布谷知夫 (2012) これからの博物館教育. 小笠原喜康・矢島國雄・並木美佐子 編、*博物館教育論*、ぎょうせい、東京：216-219.

【一般向けの著作】

布谷知夫 (2011) 里山って何だろう. 滋賀県立琵琶湖博物館 編、*生命の湖 琵琶湖をさぐる*、文一総合出版、東京都：120-121.

布谷知夫 (2011) 弥生時代の林を復元するには. 滋賀県立琵琶湖博物館 編、*生命の湖 琵琶湖をさぐる*、文一総合

- 出版, 東京都: 122-123.
- 布谷知夫 (2011) 川が林をつくる. 滋賀県立琵琶湖博物館 編, *生命の湖 琵琶湖をさぐる*, 文一総合出版, 東京都: 124-125.
- 布谷知夫 (2011) タンポポの雑種. 滋賀県立琵琶湖博物館 編, *生命の湖 琵琶湖をさぐる*, 文一総合出版, 東京都: 140-141.
- 布谷知夫 (2011) ヨシの地下茎. 滋賀県立琵琶湖博物館 編, *生命の湖 琵琶湖をさぐる*, 文一総合出版, 東京都: 142-143.
- 布谷知夫 (2011) 自然観察のテーマ・92 植物の名前の話. *NACS-J 自然観察指導員大阪連絡会会誌*, 94, NACS-J 自然観察指導員大阪連絡会, 大阪: 2-4.
- 布谷知夫 (2011) 学芸員が見たびわたんのスゴロク活動. *博物館を100倍楽しもう*, 琵琶湖博物館はしかけグループびわたん: 21-22.
- 布谷知夫 (2011) 紙上博物館 No. 30 博物館の収蔵庫. *毎日新聞三重版*: 2011年7月9日.
- 布谷知夫 (2011) 自然観察のテーマ・93 枝と葉の成長. *NACS-J 自然観察指導員大阪連絡会会誌*, 95, NACS-J 自然観察指導員大阪連絡会, 大阪: 95: 2-3.
- 布谷知夫 (2001) 使いやすい博物館を作ります. *新博物館ニュース*, 7, 新博物館整備推進室, 三重県: 1.
- 布谷知夫 (2011) 自然観察のテーマ・94 アオギリの実の観察. *NACS-J 自然観察指導員大阪連絡会会誌*, 96, NACS-J 自然観察指導員大阪連絡会, 大阪: 2-4.
- 布谷知夫 (2011) 紙上博物館 No. 51 セイタカアワダチソウ身近な標本変化の証拠. *毎日新聞三重版*: 2011年12月23日.
- 布谷知夫 (2012) 自然観察のテーマ・95 名前を知るにはどうすればいいのか. *NACS-J 自然観察指導員大阪連絡会会誌*, 97, NACS-J 自然観察指導員大阪連絡会, 大阪: 2-4.

研究活動に関する業績

【学会・研究会での発表】

- 黒岩啓子・布谷知夫 (2011年6月18日) 展示観覧と学びを促進する展示見学促進ツール開発. 日本展示学会, 南山大学 (名古屋市), [口頭発表] .
- 布谷知夫 (2011年6月12日) 子供が学びを体験できる博物館. 全日本博物館学会第37回研究大会, 明治大学 (東京), [口頭発表] .
- 布谷知夫 (2011年6月11日) 博物館には今何ができるのかそれぞれの立場で考える. 全日本博物館学会研究大会シンポジウム, 明治大学 (東京), [コーディネーター] .
- 布谷知夫 (2011年8月9日) 博物館はなぜ必要なのか. 関西博物館研究会, 長岡京市生涯学習センター (京都), [口頭発表] .
- 布谷知夫 (2011年9月10日) 新博物館の建設と主張したい博物館の役割. 文化経済学会東海支部研究会, 名城大学 (名古屋市), [口頭発表] .
- 布谷知夫 (2011年9月26日) 博物館のボランティア. 文化庁エデュケイター研修, 文化庁, 国立東京博物館 (東京), [口頭発表] .
- 布谷知夫 (2011年9月26~28日, 2012年2月5~6日) 文化庁エデュケイター研修. 文化庁東京国立博物館・国立新美術館 (東京), [コーディネーター] .
- 布谷知夫 (2012年1月15日) 博物館の学びの性格とコミュニケーション. セミナー「博物館のコミュニケーションと学び」, コミュニケーションツール研究会, 琵琶湖博物館 (滋賀県草津市), [口頭発表].
- 大高 幸・布谷知夫・高槻明子 (2012) 博物館の展示と教育. 博物館教育論, 放送大学 (東京), [口頭発表] .
- 布谷知夫 (2012年3月18日) 県民と響きあう博物館. シンポジウム「生物多様性保全シンクタンクと博物館」, 千葉県立中央博物館 (千葉), [口頭発表] .
- 布谷知夫 (2012年3月20日) 自然系博物館の社会的役割. The Botanical Garden—植物を囲む”知“と”楽“と”創造”の場— (シンポジウム), 京都府立大学環境科学研究科, 京都府立大学 (京都), [口頭発表] .

【研究プロジェクト等への参加】

科学研究費補助金（基盤 B 一般）「地域住民による琵琶湖沿岸のく生物の賑わい総合調査の方法論と具体的手法の確立」（研究代表者：川那部浩哉），連携研究者（2011～2012 年度）.
科学研究費補助金（基盤 C）「来館者同士のコミュニケーションを誘発する展示見学補助ツールの実践的研究」（研究代表者：黒岩啓子），共同研究者（2009～2011 年度）.

【学会等の役職・運営、論文の査読など】

全日本博物館学会，運営委員.
全日本博物館学会，学会誌編集委員.
関西自然保護機構，運営委員.
博物館学雑誌，査読，2 件.

【大学の講義・実習、学生の指導など】

2012 年 1 月 15 日，滋賀県立大学集中講義，「博物館学各論 A」.

博物館事業に関する業績

【交流・サービス事業】

琵琶湖博物館の主催行事

2011 年 7 月 2 日，植物観察会，あさ・ひる・ばん 博物館を楽しもう！，琵琶湖博物館，講師.
2011 年 9 月 24 日，雪野山観察会，はしかけ植物観察の会，妹背の里周辺，講師.
2011 年 12 月 10 日，建部の森観察会，はしかけ植物観察の会，八日市市，講師.
2012 年 3 月 4 日，はしかけ植物観察の会，甲賀市（石部町），講師.

他の博物館・機関等主催行事

2011 年 6 月 29 日，博物館の活動と新県立博物館，新生三重 1・2 年生議員団，三重県立博物館（津市），講演.
2011 年 7 月 3 日，自然観察から始まる自然観察会，そよごの会・大阪自然環境保全協会インスト講座，枚岡グリーンパーク（東大阪市），講演.
2011 年 7 月 10 日，社会から期待される博物館の役割，第二回新潟県博物館友の会サミット，新潟県立歴史博物館（新潟市），講演.
2011 年 7 月 22 日，三重県立博物館の考え方，三重県常任委員会県内視察，新博物館建築現場（津市），講演.
2011 年 8 月 5 日，博物館とは何か，初任者研修，三重県立博物館（津市），講師.
2011 年 8 月 19 日，博物館の仕事，平成 23 年度インターンシップ生への講義，三重県立博物館（津市），講師.
2011 年 8 月 27 日，現場の博物館学，博物館実習，三重県立博物館（津市），講師.
2011 年 9 月 30 日，森の観察，第 456 回自然観察指導員講習会，NACS-J 自然観察指導員大阪連絡会・日本自然保護協会，長居植物園（大阪），講師.
2011 年 10 月 1 日，自然観察のテーマ拾い，第 456 回自然観察指導員講習会，NACS-J 自然観察指導員大阪連絡会・日本自然保護協会，長居植物園（大阪），講師.
2011 年 10 月 1 日，自然の観察，第 456 回自然観察指導員講習会，NACS-J 自然観察指導員大阪連絡会・日本自然保護協会，大阪市立自然史博物館（大阪），講師.
2011 年 10 月 19 日，三重県立博物館のリニューアルと課題，第 36 回東海 3 県博物館協会研究交流会，東海 3 県博物館協会，名古屋市科学館サイエンスホール（名古屋市），講演.
2011 年 12 月 4 日，食卓の植物学，NACS-J 自然観察指導員大阪連絡会，大阪府森之宮環境学習センター（大阪），講師.
2012 年 1 月 13 日，あたらしいはくぶつかん，Zencafe，津あけぼの座（津市），講演.
2012 年 1 月 23 日，三重県立博物館の新館構想，博物館展示評価ワークショップ，西日本自然史博物館ネットワー

- ク、三重県立博物館（津市）、講演。
- 2012年2月9日、新県立博物館構想について、三重県生活文化部職員研修、三重県立博物館（津市）、講師。
- 2012年2月12日、新県立博物館について、三重県郷土会、アスト津（津市）、講演。
- 2012年2月17日、博物館では何ができるのでしょうか、公民館トーク、寿講座、敬和公民館（津市）、講師。
- 2012年2月19日、博物館が目指すこと、みんなで作る博物館会議、新博物館整備推進室・三重県立博物館、三重県総合文化会館（津市）、講師。
- 2012年2月26日、三重県の文化の特徴、お雑煮交流会、新博物館整備推進室・三重県立博物館、三重県総合文化会館（津市）、講師。
- 2012年3月9日、三重県立博物館みんなの夢をのせて、ひのまちカフェトークライブ、NPO法人Nブリッジ、ひのまちカフェ（松阪市）、講師。
- 2012年3月10日、みんなの夢を乗せて三重県立新博物館、たらちね会、男女共同参画センター、フレンテ・サークル室（津市）、講師。
- 2012年3月24日、新県立博物館の進捗状況、三重県自然文化祭 in 鈴鹿、三重県自然文化祭実行委員会、鈴鹿市文化会館（鈴鹿市）、講演。
- 2012年3月24日、鼎談・フリートーク「生き物の生態を魅せる～写真・研究・展示」、三重県自然文化祭 in 鈴鹿、三重県自然文化祭実行委員会、鈴鹿市文化会館（鈴鹿市）、鼎談。
- 2012年3月28日、博物館では何ができるのでしょうか、鈴鹿あおぞら学童、鈴鹿あおぞら学童（鈴鹿市）、講師。
- 2012年3月28日、三重県立博物館みんなの夢をのせて、四日市商工会議所、四日市商工会議所（四日市市）、講師。

【企画調整活動】

JICA 博物館学集中コース、地域博物館の運営、講師、2011年7月26日、琵琶湖博物館。

館内の人事・館外活動等に関すること

【館外の活動】

- 2011年4月1日～2012年3月31日、三重県立博物館館長。
- 2011年4月1日～2012年3月31日、放送大学「博物館概論」、担当講師。
- 2011年4月1日～2012年3月31日、滋賀県立大学、非常勤講師。
- 2011年4月1日～2012年3月31日、和泉葛城山ブナ林保護増殖検討委員会、委員・会長代理。
- 2011年4月1日～2012年3月31日、タカラフォールディング助成評価委員会、委員。
- 2011年4月1日～2012年3月31日、花王・コミュニティミュージアム・プログラム選考委員会、委員。
- 2011年4月1日～2012年3月31日、しが文化芸術学習支援センター運営委員会、委員。
- 2011年4月1日～2012年3月31日、国立歴史民俗博物館展示更新検討委員会、委員。
- 2011年4月1日～2012年3月31日、南種子博物館建設委員会、委員。
- 2011年4月1日～2012年3月31日、守山市下之郷保存整備活用基本計画検討部会、委員。
- 2011年4月1日～2012年3月31日、水源の里まいばら元気みらいづくり小冊子作成委員会、委員長。
- 2011年4月1日～2012年3月31日、関西自然保護機構、運営委員。
- 2011年4月1日～2012年3月31日、日本ヨシ笛協会、顧問。
- 2011年4月1日～2012年3月31日、文化庁運営研修企画協力会議、委員長。
- 2011年6月1日～2012年6月30日、住まいの科学館展示評価委員会、委員。
- 2011年4月1日～2012年3月31日、日本自然保護協会自然観察指導員講習会運営委員会、委員。
- 2011年4月1日～2012年3月31日、三重県博物館協議会、理事。

名誉学芸員

印刷物

【学術論文】

- 中島経夫・中島美智代・孙国平・中村慎一 (2011) 田螺山遗址 K3 鱼骨坑内的鲤科鱼类咽齿. 北京大学中国考古学研究中心・浙江省文物考古研究所 編, *田螺山遗址自然遗存综合研究*, 文物出版社, 北京: 206-236.
- 中島経夫 (2011) 由鲤科鱼类咽齿遗存远观史前时代渔捞同稻作的关系. 北京大学中国考古学研究中心・浙江省文物考古研究所 編, *田螺山遗址自然遗存综合研究*, 文物出版社, 北京: 279-294.
- Nakae, M., Sasaki, K., Nakajima, T., Miyazaki, Y. and Matsuura, K. (2011) Homologies of the branchial arch muscles in *Zacco platypus* (Teleostei: Cypriniformes: Cyprinidae): Evidence from innervations pattern, *Jour. Morph.*, 272: 503-512.

【専門分野の著作】

- 中島経夫 (2011) 参加型調査による資料収集. 八尋克郎・布谷知夫・里口保文 編, *博物館でまなぶ 利用と保存の資料論*, 東海大出版会, 神奈川県: 117-222.

【一般向けの著作】

- 中島経夫 (2011) 咽頭歯って知っていますか. 滋賀県立琵琶湖博物館 編, *生命の湖 琵琶湖をさぐる*, 文一総合出版, 東京都: 50-51.
- 中島経夫 (2011) コイ科魚類の咽頭歯から何がわかるか. 滋賀県立琵琶湖博物館 編, *生命の湖 琵琶湖をさぐる*, 文一総合出版, 東京都: 52-53.
- 中島経夫 (2011) 咽頭歯から見た縄文・弥生文化. 滋賀県立琵琶湖博物館 編, *生命の湖 琵琶湖をさぐる*, 文一総合出版, 東京都: 54-55.
- 中島経夫 (2011) 琵琶湖から絶滅した魚たち. 滋賀県立琵琶湖博物館 編, *生命の湖 琵琶湖をさぐる*, 文一総合出版, 東京都: 56-57.
- 中島経夫 (2011) 咽頭歯からわかる古琵琶湖の時代. 滋賀県立琵琶湖博物館 編, *生命の湖 琵琶湖をさぐる*, 文一総合出版, 東京都: 58-59.
- 中島経夫 (2011) 大陸に広がった魚たち. 滋賀県立琵琶湖博物館 編, *生命の湖 琵琶湖をさぐる*, 文一総合出版, 東京都: 60-61.
- 中島経夫 (2011) 人間の営みに適応した魚たちとできなかった魚たち. 滋賀県立琵琶湖博物館 編, *生命の湖 琵琶湖をさぐる*, 文一総合出版, 東京都: 62-63.
- 中島経夫・うおの会 (2011) *魚つかみを楽しむ 魚と人の新しいかかわり方*. 新評論: 225p.
- 中島経夫・高橋啓一 (2012) 水棲動物の化石. *琵琶湖ハンドブック改訂版*, 滋賀県: 128-129.

研究活動に関する業績

【学会・研究会での発表】

- 中島経夫 (2011年7月3日) 水とのかかわりを取り戻す活動. 第10回地球研フォーラム「足もとの水を見つめ直す」, 総合地球環境学研究所, 京都国際会議場 (京都市), [口頭発表].
- 中島経夫 (2011年9月29日) 咽頭歯とは何か、咽頭歯から何がわかるか. 岡山理科大学生物地球システム学科談話会, 岡山理科大学 (岡山), [口頭発表].

Nakajima, T. (2011年11月9日) Interaction between Fish and Human: Prehistoric Landscape in Marsh and Shoreline Ecotones. NEOMAP GM Landscape Workshop, Rsearch Institute for Humanity and Nature (Kyoto), [口頭発表].

中島経夫 (2012年1月14日) 魚と人の新しいかかわり方. 第10回地球研地域連携セミナー「水辺の保全と琵琶湖の未来可能性」, 総合地球環境学研究所, ピアザ淡海 (大津市), [口頭発表].

【研究プロジェクト等への参加】

科学研究費補助金 (基盤 B) 「水辺エコトーンにおける魚と人: 稲作起源論への新しい方法」 (研究代表者: 中島経夫), 研究代表者 (2010～2013年度).

科学研究費補助金 (基盤 A) 「中国における都市の生成: 良渚遺跡群の学際的総合研究」 (研究代表者: 中村慎一), 連携研究者 (2010～2013年度).

総合地球環境学研究所 FR プロジェクト「アジア内海の新石器化と現代化: 景観の形成史」 (研究代表者: 内山純蔵), コアメンバー (2005～2011年度).

【大学の講義・実習、学生の指導など】

2011年9月27日～29日, 岡山理科大学総合情報学部・理学部学生, 生物地球システム特別講義1.

2011年9月11日～2012年3月31日, 岡山理科大学非常勤講師.

館内の人事・館外活動等に関すること

【海外渡航】

2011年7月10日～13日, 中華人民共和国北京市 中国社会科学院考古学研究所, 河南省賈湖遺跡の咽頭歯遺体の調査および研究打合せ.

2011年12月18日～20日, 中華人民共和国河南省鄭州市 河南省文物考古学研究所, 河南省賈湖遺跡の漁撈具および咽頭歯遺体の調査および研究打合せ.

【館外の活動】

2011年4月1日～, 総合地球環境学研究所客員教授.

印刷物

【学術論文】

Nishimura, Y., Ohtsuka, T., Yoshiyama, K., Nakai, D., Shibahara, F. and Maehata, M. (2011) Cascading effects of larval Crucian carp introduction on phytoplankton and microbial communities in a paddy field: top-down and bottom-up controls. *Ecological Research*, 26, Springer : 615-626.

【専門分野の著作】

前畑政善 (2011) 魚類の概要. 滋賀県生きもの総合調査委員会 編, 滋賀県で大切にすべき野生生物 滋賀県レッドデータブック 2010 年版, サンライズ出版, 彦根 : 486.

前畑政善 (2011) スジシマドジョウ小型種琵琶湖型、スジシマドジョウ大型種、ギギ、イワトコナマズ、ビワコオオナマズ、ウナギ、ナマズ、アユ、ニッポンバラタナゴ. 滋賀県生きもの総合調査委員会 編, 滋賀県で大切にすべき野生生物 滋賀県レッドデータブック 2010 年版, サンライズ出版, 彦根 : 488-509.

【一般向けの著作】

前畑政善 (2011) 田んぼは「ゆりかご」. 滋賀県立琵琶湖博物館 編, 生命の湖 琵琶湖をさぐる, 文一総合出版, 東京都 : 34-35.

前畑政善 (2011) 真夜中の大産卵ービワコオオナマズ. 滋賀県立琵琶湖博物館 編, 生命の湖 琵琶湖をさぐる, 文一総合出版, 東京都 : 36-37.

前畑政善 (2011) 岩場のヌシーイワトコナマズの繁殖戦略. 滋賀県立琵琶湖博物館 編, 生命の湖 琵琶湖をさぐる, 文一総合出版, 東京都 : 38-39.

Maehata, M. (2011) Peer-review of on *Silurus asotus*. Invasive Species Compendium (Beta), Compendium Programme, United Kingdom: www.cabi.org/isc, (cited on 25, March, 2012).

研究活動に関する業績

【学会・研究会での発表】

村上靖昭・前畑政善 (2011年7月9日) 博物館における展開ー「うおの会」の活動を例に. 2011年度 魚類学会公開シンポジウム「身近な魚たちの保全ー水辺の環境教育を考える」, 近畿大学奈良キャンパス, [口頭発表].

前畑政善 (2012年3月18日) 水田利用魚類を媒介として田んぼと湖の関係を探る. 日本生態学会第59回大会, 龍谷大学, [口頭発表].

【研究プロジェクト等への参加】

科学研究費補助金 (基盤 B 一般) 「地域住民による琵琶湖沿岸の<生命の賑わい>総合調査の方法論と調査手法の確立」 (研究代表者: 川那部浩哉), 「生きものの分布・生態調査グループ」研究分担者 (2010~2012年度).

【学会等の役職・運営、論文の査読など】

日本魚類学会, 日本魚類学会自然保護委員会, 委員, 2001年6月~.

淡水魚保全研究会, 常任理事, 2004年10月~.

【研究部関連事業】

英語本「Lake Biwa-interaction between human and nature」, 編集委員会, 主担当, 2009年4月～.

館内の人事・館外活動等に関すること

【館内の人事】

2011年4月1日～2012年3月31日, 琵琶湖博物館環境学習センター所長.

【館外の活動】

2011年4月～2012年3月, 野洲市環境審議会(滋賀県), 委員.

2011年4月～2014年3月, 長浜市文化的景観保存活用委員会(滋賀県), 委員.

2011年5月～2012年3月, 外来種中国産オオサンショウウオ対策検討会(京都市), 委員.

2002年9月～2012年3月, みずすまし専門部会(生態系保全専門部会)(滋賀県農政水産部農村振興課), 部会員.

2000年5月～2012年3月, 滋賀県生きもの総合調査委員会(滋賀県琵琶湖環境部自然環境保全課), 委員(魚貝類部会長).

2008年6月～2012年3月, 指定希少野生動物種および指定外来種に関する選定専門委員(滋賀県琵琶湖環境部自然環境保全課).

2007年6月～2012年3月, 農村まるごと保全推進委員会(滋賀県農政水産部農村振興課), 委員.

2008年2月～2012年3月, ゆりかご水田ネットワーク委員会(滋賀県農政水産部), 委員.

2010年～, ハリヨ問題検討会, 委員.

2004年4月～, 丹生ダム環境保全対策懇談会(国土交通省近畿地方整備局・琵琶湖河川工事事務所), 委員.

2010年3月～2012年3月, 近畿地方ダム等管理フォローアップ委員会((独)水資源機構), 委員.

2011年7月～2012年3月, 日吉ダム冷濁水対策検討会((独)水資源機構), 委員.

2011年6月～2012年3月, 京都府建設交通部河川課, 畑川ダム環境保全検討委員会, 委員.

2008年5月～2012年3月, 琵琶湖および周辺河川環境に関する専門家グループ制度(国土交通省近畿地方整備局・琵琶湖河川工事事務所), 委員.

2009年7月～2012年6月30日, クニマスワーキンググループ(環境省自然環境局), 委員.

2009年7月～2012年6月30日, 希少野生動植物種保存推進員(環境省自然環境局).

2004年8月～2012年3月, 絶滅のおそれのある野生生物の選定・評価検討会(環境省自然環境局), 検討員(淡水魚類作業部会).

2011年4月～, 神戸学院大学人文学部教授.

研究関連では龍谷大学(滋賀県)にて開催された日本生態学会において、総合研究「湖に隣接する水田地帯の特性の解明～ニゴロブナを媒体として～」(2004-2007)において得られた結果の発表を行った。その外、琵琶湖流域における「湖と人間」の関係、足跡を世界に紹介する英語単行本の発刊に向け、スプリンガー社と校正稿のやりとりを行った。

特別研究員

印刷物

【学術論文】

Amano, T., Székely, T., Koyama, K., Amano, H. and Sutherland, W. J.: Addendum to “A framework for monitoring the status of populations: An example from wader populations in the East Asian–Australasian flyway”. *Biological Conservation*, 143, 2238–2247. *Biological Conservation* 145:278–295, 2012.

【一般向けの著作】

中野伸一・田中拓弥 監、天野一葉・大林夏湖・奥田 昇・片岡剛文 小林由紀・近藤竜二・高尾祥丈・田辺雄彦・廣石伸互・程木義邦・本間隆満・渡邊 信 編 (2012) *アオコってなに? –ラン藻の大発生についてもっと知るために–*. 京都大学生態学研究センター, 大津市: 8p.

研究活動に関する業績

【学会・研究会での発表】

Nakano, S., Amano, H., Hodoki, Y., Kobayashi, Y., Ohbayashi, K., Tanaka, T. and Okuda, N. (2011年4月5～7日) Ecophysiology, phylogeography and environmental sociology on water blooms of the globally distributed cyanobacterium *Microcystis aeruginosa*. International symposium on Microcystis studies from Asia, Institute of Hydrobiology, the Chinese Academy of Sciences (CAS), Wuhan (China), [口頭発表].

Kobayashi, Y., Hodoki, Y., Ohbayashi, K., Amano, H., Tanaka, T., Okuda, N. and Nakano, S. (2011年8月28日～9月2日) Grazing on the cyanobacterium *Microcystis aeruginosa* by the heterotrophic flagellate *Collodictyon triciliatum* in an experimental pond. Symposium on Aquatic Microbial Ecology, University of Rostock, Rostock (Germany), [口頭発表].

天野一葉・須川 恒・片岡宣彦・吉岡美佐子・茂田良光・程木義邦・大林夏湖・中野伸一 (2011年9月17日～19日) 多様な水鳥の糞からのアオコ原因藍藻類 *Microcystis aeruginosa* の検出. 日本鳥学会 2011 年度大会, 大阪市立大学 (大阪市), [ポスター発表].

Amano, H., Hodoki, Y., Ohbayashi, K. and Nakano, S. (2012年3月17日～21日) Dispersal of blue-green algae by waterbirds: Retention time of *Microcystis aeruginosa* in the digestive tract of ducks and its growth ability afterwards. The 5th EAFES International Congress, Ryukoku Univ. (Otsu, Shiga), [ポスター発表].

Kobayashi, Y., Hodoki, Y., Ohbayashi, K., Amano, H., Tanaka, T., Okuda, N. and Nakano, S. (2012年3月17日～21日) Grazing on the cyanobacterium *Microcystis aeruginosa* by the heterotrophic flagellate *Collodictyon triciliatum* in an experimental pond. 59th Annual Meeting of Ecological Society of Japan, Ryukoku Univ., (Otsu, Shiga), [ポスター発表].

【学会等の役職・運営、論文の査読など】

Strix (野外鳥類学雑誌), 日本鳥類学誌, 論文の査読, 2件.

【研究プロジェクト等への参加】

地球環境研究総合推進費「F-093 アオコの分布拡大に関する生態・分子系統地理学的研究」(研究代表者:中野伸一),
アオコの分布拡大における水鳥の関わりについて研究(2009年10月～).

博物館事業に関する業績

【交流・サービス事業】

琵琶湖博物館の主催行事

2011年7月2日, 夜の昆虫観察会, あさ、ひる、ばん 博物館を楽しもう!, 観察会, 琵琶湖博物館, 補佐.

2011年12月18日, 講演「アオコをはこぶ水鳥」, 観察会「からすま半島の水鳥を観察してみよう」, 琵琶湖博物館,
講師, (日本野鳥の会滋賀、博物館はしかけグループ「びわたん」共催).

2012年3月25日, 川虫探検, 観察会, 藤ノ木川・大津市, 補佐.

館内の人事・館外活動等に関すること

【館外の活動】

2011年2月～, 四国ソウシチョウ防除計画, アドバイザー.

特別研究員

印刷物

【専門分野の著作】

植田文雄 (2011) ヤナ漁の人類史. *琵琶湖と地域文化*, 林博通先生退任記念論文集刊行会: 415-420.

植田文雄 (2011) ヤナ漁の歴史. *梅檀林の考古学*, 大竹憲治先生還暦記念論文集刊行会: 633-644.

研究活動に関する業績

【学会・研究会での発表】

植田文雄 (2011年10月29日) 縄文時代のまつりといのり. 三大淡水産貝塚講演会, 石山寺 (大津市), [口頭発表].

植田文雄 (2012年3月4日) 湖北・米原の境界性—遺跡にみる原始・古代の交通. 米原市埋蔵文化財活用事業, [口頭発表].

【研究プロジェクト等への参加】

科学研究費補助金 (基盤C) 「内水面の定置漁業の考古・民俗学的研究」 (研究代表者: 植田文雄), 研究代表者 (2009～2013年度).

【学会等の役職・運営、論文の査読など】

アジア考古学研究機構, 研究部長.

【大学の講義・実習、学生の指導など】

2011年度前期, 佛教大学, 「博物館学Ⅲ」.

2011年度前期, 佛教大学, 「考古学特講1—縄文文化の東西」.

2011年度後期, 佛教大学, 「博物館実習講義A」.

2011年度後期, 佛教大学, 「考古学特講2—日本列島における王権の発生と古代国家の成立」.

博物館事業に関する業績

【交流サービス事業】

琵琶湖博物館の主催行事

2012年2月4日, エリとヤナの漁業史, 新琵琶湖学セミナー, 琵琶湖博物館, 講演.

館内の人事・館外活動等に関すること

【館外の活動】

2006年度～, 東近江市史編纂委員会, 調査執筆委員.

2011年度, 三大淡水産貝塚研究会委員, 石山観光協会事務局.

特別研究員

印刷物

【専門分野の著作】

柏尾珠紀 (2011) 座談会 地域・環境・情報の出会い 3人で歩くフィールド 母なる琵琶湖の水と暮らしはどこへ 琵琶湖集水域を歩く. *SEEDer*, 4, 昭和堂: 63-74.

柏尾珠紀 (2011) 滋賀県守山市丹堂川における川普請その後について *Environmental Water Maintenance* の研究—農業水路網等における環境のための用水管理を、地域社会で支える仕組みづくりについて. *ニッセイ財団研究助成費研究中間報告書*: 8-13.

柏尾珠紀 (2012) 水紀行環境用水万華鏡 人と水のかかわり. *環境技術*, 41 (3), 環境技術学会: 183.

研究活動に関する業績

【学会・研究会での発表】

柏尾珠紀 (2012年1月21日) 食と農. サイエンスカフェ, 伊丹市立生涯教育センターラスタホール, [口頭発表].

【研究プロジェクト等への参加】

地球環境研究総合推進費「水田地帯の生物多様性再生に向けた自然資本・社会資本の評価と再生シナリオの提案」(研究代表者: 夏原由博), 共同研究者 (2009~2011年度).

河川財団整備基金助成事業費「『Environmental Water Governance』の研究—都市の水辺再生を、地域との連携で支える仕組みづくりについて」(研究代表者: 秋山道雄), 研究分担者 (2011年度).

ニッセイ財団研究助成費「Environmental Water Maintenance の研究—農業水路網等における環境のための用水管理を地域社会で支える仕組みづくりについて」(研究代表: 秋山道雄), 研究分担者 (2011年度).

科学研究費補助金「環瀬戸内海圏農林漁業地域における女性、若者、高齢者の生活原理に関する総合的研究」(研究代表者: 藤井和佐), 連携研究者 (2010年~).

京丹後市 市民力推進プロジェクト事業費「京丹後市市民力活性化推進プロジェクト」, (2011年度).

【大学の講義・実習、学生の指導など】

2011年前期, 龍谷大学, 「特殊社会講義A 農村社会学」, 「経済社会学」, 非常勤講師.

2011年後期, 龍谷大学, 「環境と社会」, 「職業の社会学」, 「コミュニティ論」, 「びわ湖・滋賀学」, 非常勤講師.

2012年2月13日~2月17日, 高知大学, 「国際社会特殊講義IV」, 非常勤講師.

館内の人事・館外活動等に関すること

【館外の活動】

2009年~, 京都府中山間地域直接支払い制度委員会, 委員.

2011年~, 兵庫県高等学校評議会, 委員.

2011年4月~, 京丹後市、丹後広域振興局, 第2次ふるさと協援活動事業調印.

2012年2月, 京都府第3回命の里づくり交流委員会, 参加.

特別研究員

印刷物

【専門分野の著作】

北村美香（2011）4項目執筆. *博物館学辞典*, 全日本博物館学会, 東京都: 108・265・376・382.

【一般向けの著作】

北村美香（2011）平和祈念館（仮称）だよりーその1ー. *愛の田園ねっと*, 2011年5月号（35）, 愛東まちづくり協議会: 6.

北村美香（2011）平和祈念館（仮称）だよりーその2ー. *愛の田園ねっと*, 2011年7月号（36）, 愛東まちづくり協議会: 4.

北村美香（2011）「うおの会」とコラボして. 中島経夫・うおの会 編, *「魚つかみ」を楽しむ 魚と人の新しいかわり方*, 新評論, 東京都: 206-209.

研究活動に関する業績

【学会等の役職・運営、論文の査読など】

大阪市立自然史博物館, 大阪市立自然史博物館紀要, 投稿論文査読, 1件.

【大学の講義・実習、学生の指導など】

2011年9月～2012年3月, びわこ学院大学子ども学科, 「滋賀の環境」.

博物館事業に関する業績

【交流・サービス事業】

琵琶湖博物館の主催行事

2011年4月～6月, 春の草花でしおりをつくろう他10講座, 琵琶湖博物館わくわく探検隊事業, 琵琶湖博物館, 講師, 計18回, はしかけグループ「びわたん」.

2011年7月3日, くるくる☆カラフル たねとばし・琵琶湖の模型をつくろう, あさ、ひる、ばん 博物館を楽しもう!, 琵琶湖博物館, 講師, はしかけグループ「びわたん」.

2011年7月16日～11月23日, 「ワークシート」2種作成, 第18回企画展「こまった! カワウー生きものとのつきあい方」関連展示鑑賞ツール, 琵琶湖博物館, 企画・編集, はしかけグループ「びわたん」.

2011年8月2日, 夜のワークショップ, 滋賀県理科部会環境教育委員会, 自然調査ゼミナール, 琵琶湖博物館, 講師.

他の博物館・機関等主催行事

2011年7月13日、12月14日, 博物館のボランティア, 滋賀県平和祈念館（仮称）開設準備室, ボランティア講座, 滋賀県東近江市, 講師.

館内の人事・館外活動に関すること

【館外の活動】

2012年3月17日～，滋賀県平和祈念館，学芸員.

特別研究員

印刷物

【専門分野の著作】

- 黒岩啓子（2011）展示観覧と学びを促進する展示見学補助ツール開発. *日本展示学会誌*, 49, 日本展示学会:138-139.
- 黒岩啓子（2011）段階別評価の活用に関する一考察. *第37回研究大会発表要旨集*, 全日本博物館学会:33-34.
- 黒岩啓子（2011）これからの社会と博物館に必要なミュージアム・リテラシー. *日本ミュージアム・マネージメント学会会報*, 16 (61) 2, 日本ミュージアム・マネージメント学会:12-14.
- 黒岩啓子（2011）博物館教育の実践～可能性と責任. *日本ミュージアム・マネージメント学会会報*, 16 (61) 2,, 日本ミュージアム・マネージメント学会:30-32.
- 黒岩啓子・高橋信裕・山城弥生（2011）日本ミュージアム・マネージメント学会近畿支部報告 博物館教育論～イギリスの大学と博物館の現場から～. *日本ミュージアム・マネージメント学会会報*, 16 (61) 2,, 日本ミュージアム・マネージメント学会:29-30、33-35.
- 黒岩啓子（2012）ファミリーグループの展示観覧体験を支援する見学補助ツール. 黒岩啓子 編, *コミュニケーションツール研究会報告書「展示室におけるコミュニケーションと学び」*:14-25.
- 黒岩啓子 編（2012）*コミュニケーションツール研究会報告書「展示室におけるコミュニケーションと学び」*:91p.

【これまでの業績集に掲載されていない著作】

- 江水是仁・黒岩啓子（2010）日本科学未来館試験展示“地球館長を考える”調査報告. *日本科学未来館・展示活動報告 Vol.2 評価しながら進める展示開発の試み*, 日本科学未来館:27-77.

研究活動に関する業績

【学会・研究会での発表】

- 黒岩啓子（2011年4月17日）博物館教育の実践～可能性と責任. 平成23年度第1回研究例会, 日本ミュージアム・マネージメント学会近畿支部, 吹田市立博物館（大阪府吹田市）, [講演].
- 黒岩啓子（2011年6月4日）これからの社会と博物館に必要なミュージアム・リテラシー. 第16回大会指定討論, 日本ミュージアム・マネージメント学会, 九州産業大学（福岡県福岡市）, [口頭発表・パネリスト].
- 黒岩啓子（2011年6月12日）段階別評価の活用に関する一考察. 第37回研究大会, 全日本博物館学会, 明治大学（東京都千代田区）, [口頭発表].
- 黒岩啓子・布谷知夫（2011年6月18日）展示観覧と学びを促進する展示見学補助ツール開発. 第30回研究大会, 日本展示学会, 南山大学（愛知県名古屋市）, [口頭発表].
- 黒岩啓子（2011年12月3日）博物館での学び:楽しみながら学ぶ. 2011年度大学連携リーグ連携企画講座 博物館の楽しみ方2011, 福井県総務部大学・私学振興課, 福井県立歴史博物館（福井県福井市）, [講演].
- 黒岩啓子（2012年1月15日）ファミリーグループの展示観覧体験を支援する見学補助ツール. コミュニケーションツール研究会, 琵琶湖博物館（滋賀県草津市）, [講演].
- 黒岩啓子（2012年1月15・16日）展示室におけるコミュニケーションと学び. コミュニケーションツール研究会, 琵琶湖博物館（滋賀県草津市）, [主催・進行].
- 黒岩啓子（2012年2月2日）How museum exhibitions in Japan help children understand climate change. 2nd Asian Children's Museum Conference, the Museo Pambata Foundation, Inc., Manila Hotel (Philippines, Manila), [講演].

【インターネットページでの公表】

黒岩啓子(2012年1月18日)Museum as a Learning Environment for Multicultural Society. PhD scholars用Blackboard secure site, School of Museum Studies, University of Leicester.

【研究プロジェクト等への参加】

科学研究費補助金(基盤C)「来館者同士のコミュニケーションを誘発する展示見学補助ツールの実践的研究」(研究代表者:黒岩啓子), 研究代表者(2009~2011年度).

キッズプラザ大阪『子どもの遊びを通じた学び』研究会(研究代表者:黒岩啓子), 研究代表者(2012年1月~).

【学会等の役職・運営、論文の査読など】

日本ミュージアム・マネージメント学会, 基礎部門研究部会幹事, 2009年4月~.

日本ミュージアム・マネージメント学会, 近畿支部幹事, 2009年4月~.

独立行政法人日本学術振興会, 科学研究費委員会専門委員, 「基盤研究等」に係る第1段階審査, 2010年12月1日~2011年11月30日, 14件.

日本ミュージアム・マネージメント学会近畿支部, 平成23年度第1回研究例会「博物館教育論—イギリスの大学と博物館の現場から—」のための英国人スピーカーDr. Viv Golding, Programme Director of PhD Research and Lecturer in Communication and Education, School of Museum Studies, University of Leicester の来日と講演コーディネート, 2011年4月.

全日本博物館学会, 平成23年度第2回研究会「博物館情報・メディア論—イギリスの大学と博物館の現場から—」のための英国人スピーカーDr. Ross Parry, Academic Director and Senior Lecturer in Digital Heritage, School of Museum Studies, University of Leicester の招聘コーディネート, 開催実行委員, 2011年6月~11月.

日本展示学会, 展示学50号, 論文査読, 2件.

日本ミュージアム・マネージメント学会・常盤大学大学院共催スペシャルセミナー「博物館学について考える—博物館学の基礎概念・博物館教育学の未来像—」, 通訳, 2012年2月25日.

【大学の講義・実習、学生の指導など】

2011年10月11日, 福井大学博物館実習, 福井市立郷土歴史博物館平成23年度秋季特別展関連展示「はっけん! 江戸っ子の世界~くらべてみよう浮世絵とぼくらの生活」の展示評価とアドバイス.

2011年11月12日, 福井大学博物館実習, 福井市立郷土歴史博物館平成23年度秋季特別展関連展示「はっけん! 江戸っ子の世界~くらべてみよう浮世絵とぼくらの生活」におけるワークショップ評価.

博物館事業に関する業績

【交流・サービス事業】

他の博物館・機関等主催行事

2011年7月12・18日, 移動展示「速報展 化石が出たゾ!」展示評価, 三重県立博物館, 三重県総合文化センター(三重県津市), 外部評価者.

2011年11月25日, 国際研究集会「歴史系博物館で“現代(史)”を展示するというこゝろ—いまに直接つながる“過去”を展示で表象することの意味—」, 国立歴史民俗博物館(千葉県佐倉市), 通訳.

2012年3月1日, はじめましておひなさま, 子育てがもっと楽しくなるミュージアムづくり研究会, 0・1・2歳児と楽しむはじめてのミュージアム, 伊丹市郷町館(兵庫県伊丹市), 実行メンバー.

2012年3月7日, はじめましてあおむしくん, 子育てがもっと楽しくなるミュージアムづくり研究会, 0・1・2歳児と楽しむはじめてのミュージアム, 伊丹市昆虫館(兵庫県伊丹市), 実行メンバー.

【企画調整活動】

JICA 博物館学集中コース, Museum Evaluation Methods, Evaluation of the LBM, 講師, 2011年7月26日, 琵琶湖博物館.

館内の人事・館外活動等に関すること

【海外渡航】

- 2011年12月7日～12日, 英国 ロンドン・オックスフォード, British Museum・Natural history Museum・Science Museum・Victoria and Albert Museum・Museum of London・Ashmolean Museum・Oxford University Museum・Pitt Rivers Museum の視察調査・レスター大学大学院博物館研究科 Dr. Viv Golding と日英間研究プロジェクト「Developing Museum Literacy in Japan and the UK」(The Daiwa Anglo-Japanese Foundation 助成研究プロジェクト) の一環として意見交換.
- 2011年12月22日～26日, 台湾, 宜蘭県・台中市・台北市, 蘭陽博物館・国立自然科学博物館・国立故宫博物館・台北市立美術館・国立台湾博物館・国立台湾博物館土銀展示館・台北現代美術館の視察調査・国立台湾自然科学博物館の研究員と意見交換.
- 2012年2月1日～6日, フィリピン マニラ, National Museum・Alaya Museum・Museo Pambata の視察調査, 2nd Asian Children's Museum Conference 招待講演.

【館外の活動】

- 2003年9月～, 日本ミュージアム・マネジメント学会, 会員.
- 2003年9月～, 全日本博物館学会, 会員.
- 2005年4月～, 関西博物館研究会, 会員.
- 2006年2月～, 日本国際理解教育学会, 会員.
- 2009年4月～, 日本ミュージアム・マネジメント学会基礎部門研究部会, 幹事.
- 2009年4月～, 日本ミュージアム・マネジメント学会近畿支部, 幹事.
- 2010年10月～, 日本展示学会, 会員.
- 2011年3月～, 子育てがもっと楽しくなるミュージアムづくり研究会, 会員.
- 2012年3月～, 子育てがもっと楽しくなるミュージアムづくり研究会, 副事務局長.
- 2012年3月～, 文化遺産国際協力コンソーシアム, 会員.
- 2011年5月, 国立民族学博物館平成23年度本館展示新構築に係る展示設計等, 企画設計チームメンバー.

特別研究員

印刷物

【学術論文】

Suzuki, G. T. and Furuya, H. (2011) Two new species of Chaetonotus (Gastrotricha, Chaetonotida, Chaetonotidae) from Japan. *Zootaxa*, 3011 : 27-37.

研究活動に関する業績

【学会・研究会での発表】

鈴木隆仁・常木和日子・古屋秀隆 (2011年6月5日) 琵琶湖周辺の水田で採取された多様なイタチムシ. 第47回日本動物分類学会沖縄大会, 琉球大学(沖縄県), [ポスター発表].

鈴木隆仁・常木和日子・古屋秀隆 (2011年9月21日) 南大東島の池から発見された新種イタチムシの記載. 第82回日本動物学会旭川大会, 大雪クリスタルホール (北海道旭川市), [ポスター発表].

鈴木隆仁 (2011年12月18日) 田んぼから見つかったイタチムシの新種. 琵琶湖地域の水田生物研究会, 琵琶湖博物館(滋賀県草津市), [口頭発表].

【研究プロジェクト等への参加】

環境省委託研究「水田地帯の生物多様性再生に向けた自然資本・社会資本の評価と再生シナリオの提案, 2. 小型生物を重視した水田における種多様性の再検討」(研究代表者: 夏原由博), 協力者 (2009~2011年度).

特別研究員

印刷物

【専門分野の著作】

- 井上 (辻川) 智代 (2011) 滋賀県の風呂鋤. *淡海文化財論叢*, 3, 淡海文化財論集刊行会 : 248-253.
- 辻川智代 (2012) 米を作る道具. *民具を科学する－明治の絵図と現代の実測図から見た近江の民具－*, 滋賀県立琵琶湖博物館 : 2-5.
- 辻川智代 (2012) 玄米から白米へ. *民具を科学する－明治の絵図と現代の実測図から見た近江の民具－*, 滋賀県立琵琶湖博物館 : 10.
- 辻川智代 (2012) 釜. *民具を科学する－明治の絵図と現代の実測図から見た近江の民具－*, 滋賀県立琵琶湖博物館 : 16-17.

【一般向けの著作】

- 辻川智代 (2012) 民具を科学する－農具から見た滋賀県の地域性. *琵琶博だより*, 6, 滋賀県立琵琶湖博物館 : 2.

研究活動に関する業績

【研究プロジェクト等への参加】

- 科学研究費補助金 (基盤 C) 「琵琶湖地域民具資料を用いた考古民俗学的方法論の開発研究と展示への試み」 (研究代表者 : 用田政晴), 共同研究者 (2011 年度).
- 科学研究費補助金 (基盤 C) 「内水面定置漁業の考古・民俗学的研究」 (研究代表者 : 植田文雄), 共同研究者 (2011 年度).

【大学の講義・実習、学生の指導など】

- 2011 年, 龍谷大学国際文化学部, 民俗学入門「琵琶湖の漁業」「滋賀県の農業」「滋賀県の機織り」.

博物館事業に関する業績

【交流・サービス事業】

琵琶湖博物館の主催行事

- はしかけ運営, 近江はたおり探検隊, 担当.
- 2012 年 3 月 3 日, 農具から近江の地域性をさぐる, 新琵琶湖学セミナー, 琵琶湖博物館, 講演.

メディアへの協力

- 2012 年 2 月 28 日, NHK, QP ハートプラザ, ギャラリー展示「民具を科学する－明治の絵図と現代の実測図から見た近江の民具－」紹介, 出演.
- 2012 年 3 月 3 日, びわ湖放送, 週刊県政プラスワン, (2012 年 2 月 23 日取材対応).

【展示活動】

琵琶湖博物館の活動

2012年1月7日～3月11日，ギャラリー展示「民具を科学する」，展示・パネル作成.

他博物館・機関の活動

龍谷大学・里山 ORC，2011年12月13～24日，農耕文化と暮らしを支えた山と里の物語展，図録作成・展示・パネル作成.

特別研究員

研究活動に関する業績

【学会・研究会での発表】

- 中井大介 (2012年2月14日) 琵琶湖 湖岸緑地からはじまる地域連携による環境再生と創造. 第9回公園管理運営フォーラム～公園マネジメントの将来を考える, 国際オリンピックセンター (東京都渋谷区), [口頭発表].
- 中井大介 (2012年2月29日) 公園における子どもの体験活動の取り組み. 第2回しがこども体験活動実践報告会, 滋賀県庁 (滋賀県大津市), [口頭発表].
- 中井大介 (2012年3月16日) Step 分けした自然観察会の実施 (都市公園湖岸緑地での取り組み). 琵琶湖博物館研究セミナー, 琵琶湖博物館, 琵琶湖博物館 (滋賀県草津市). [口頭発表]

【受賞など】

- 第27回都市公園コンクール管理運営部門国土交通省都市局長賞 (社団法人日本公園緑地協会), 2011年10月28日, 「滋賀県営都市公園湖岸緑地での取り組み」, (近江鉄道ゆうグループ).

博物館事業に関する業績

【交流・サービス事業】

琵琶湖博物館の主催行事

- 2011年度, たんさいぼうの会総会, 4回開催, 琵琶湖博物館・草津市, 運営補助.

他の博物館・機関等主催行事

- 2011年4月30日, びわ湖の魚ーヴァーチャルフィッシングー, 近江鉄道ゆうグループ, 自然観察会, 県営都市公園湖岸緑地帰帆島・志那-1公園 (草津市), 講師.
- 2011年5月21日, 稲作体験“田植え編”, 近江鉄道ゆうグループ, 自然観察会, 稲作体験圃場 (近江八幡市), 講師.
- 2011年7月3日, 湖国環境フェスティバル, 日本青年会議所近畿地区滋賀ブロック協議会, 烏丸半島 (草津市), 共催.
- 2011年7月16日, 昆虫採集・観察会, 近江鉄道ゆうグループ, 自然観察会, 県営都市公園湖岸緑地衣川公園 (大津市), 講師補助.
- 2011年7月30日, 昆虫採集・観察会, 近江鉄道ゆうグループ, 自然観察会, 県営都市公園湖岸緑地曾根沼公園 (彦根市), 講師補助.
- 2011年8月16日, 外来魚釣り体験, 近江鉄道ゆうグループ, 自然観察会, 県営都市公園湖岸緑地曾根沼公園 (彦根市), 講師補助.
- 2011年8月27日, 外来魚釣り体験, 近江鉄道ゆうグループ, 自然観察会, 県営都市公園湖岸緑地木浜公園 (守山市), 講師補助.
- 2011年9月10日, 稲作体験“稲刈り編”, 近江鉄道ゆうグループ, 自然観察会, 稲作体験圃場 (近江八幡市), 講師.
- 2011年9月19日, 稲作体験“食べよう編”, 近江鉄道ゆうグループ, 自然観察会, 県営都市公園湖岸緑地衣川公園 (大津市), 講師.
- 2011年10月2日, 秋の観察会“ヨシ笛作り”, 近江鉄道ゆうグループ, 自然観察会, 県営都市公園湖岸緑地南三

ツ谷・曾根沼公園（彦根市），講師補助.

2011年10月9日，秋の観察会“ヨシ笛作り”，近江鉄道ゆうグループ，自然観察会，県営都市公園湖岸緑地北山田・志那公園（草津市），講師補助.

特別研究員

印刷物

【専門分野の著作】

中野正俊（2011）児童の科学的概念を討論で深める問題解決学習Ⅲ…問題意識を大切にした第5学年理科「電流の働き」の学習…．滋賀大学教育学部教育実践センター紀要, 19, 滋賀大学教育学部教育実践センター：49-55.

【一般向けの著作】

中野正俊（2011）内容の学年移動によって見えた課題．初等理科教育, 45（12），日本初等理科教育研究会，農山漁村文化協会：18-21.

中野正俊（2011）自問の連続を生かす問題解決学習．教育短信「初等教育みずうみ」, 140，滋賀大学教育学部附属小学校：22-23.

研究活動に関する業績

【学会・研究会での発表】

中野正俊（2011年11月26日）指導要領改訂で見えてきた課題…その克服のための具体的実践…．平成23年度日本理科教育学会近畿支部大会，日本理科教育学会近畿支部（滋賀県大津市），[口頭発表].

【研究プロジェクト等への参加】

科学研究費補助金（基盤C）「児童生徒の理科離れに対応する博・学・地域連携モデルの構築とその分析」（研究代表者：中野正俊），研究代表者（2009～2011年度）.

第37回パナソニック教育財団実践研究助成「活用力を高め合う理科学習…博物館・科学館連携をベースとした機器活用…」（研究代表者：中野正俊），研究代表者（2011年度）.

【大学の講義・実習、学生の指導など】

2011年7月21日，滋賀大学教育学部2回生，「教育実習前実践講座1」.

2011年8月24日，滋賀大学教育学部2回生，「教育実習前実践講座2」.

2011年10月28日，滋賀大学教育学部2回生，「教育実習前実践講座3」.

【受賞など】

第26回東書教育賞入選, 2012年1月23日, 「自ら学ぶ意欲を高める理科・環境学習～地域や博物館と協働して～」.

印刷物

【専門分野の著作】

林 博通・釜井俊孝・原口 強（2012）地震で沈んだ湖底の村—琵琶湖湖底遺跡を科学する—。サンライズ出版：144p.

【一般向けの著作】

林 博通（2012）水底の株。Duet, サンライズ出版：9.

研究活動に関する業績

【学会等の役職・運営、論文の査読など】

古代瓦研究会，幹事，奈良文化財研究所。
条里制・古代都市研究会，役員（庶務）。

博物館事業に関する業績

【資料整備活動】

琵琶湖博物館の活動
湖底遺跡調査の資料整理。

特別研究員

印刷物

【専門分野の著作】

牧野厚史（2011）琵琶湖岸のくらしと生物多様性. 日本環境動物昆虫学会 編, *環動昆*, 22 (4) : 201-205.

牧野厚史（2011）書評：内山 節 著『共同体の基礎理論』. 日本村落研究学会 編, *村落社会研究ジャーナル*, 35 : 51-52.

牧野厚史（2011）記憶の中にある資料の保存—住民の記憶はいかに博物館の資料となりうるか—. 八尋克郎・布谷知夫・里口保文 編, *博物館で学ぶ 利用と保存の資料論*, 東海大学出版, 神奈川県 : 85-98.

亀田佳代子・牧野厚史・卯田宗平・瀬川也寸子（2011）*琵琶湖博物館第19回企画展示 展示解説書「こまった！カワウ—生きものとのつきあい方—*」. 琵琶湖博物館, 滋賀県 : 63p.

研究活動に関する業績

【学会・研究会での発表】

牧野厚史（2011年5月21日）生活環境としての水田—日本琵琶湖と中国湖沼と関連づけながら. 西日本社会学会第69回大会, 島根大学, [口頭発表].

牧野厚史（2011年6月26日）環境利用調査班；水田研究と機能主義—ニゴロブナと関連づけながら—. 琵琶湖博物館研究報告会, 琵琶湖博物館, [口頭発表].

牧野厚史（2011年11月13日）企画展示関連シンポジウム「こまった！カワウ わかった？！カワウ—カワウと人の過去・現在・未来—. 琵琶湖博物館, [コーディネーター、司会].

牧野厚史（2011年12月26日）水田地帯の生物多様性を効果的に保全するための社会的条件に関する研究. 環境省アドバイザーボード, 京都大学東京オフィス（東京都）, [口頭報告].

【研究プロジェクト等への参加】

科学技術振興機構（JST）・社会技術研究開発センター（RISTEX）研究開発プログラム『社会と技術の相互作用』地域主導型科学者コミュニティの創生（研究代表者：佐藤 哲）, 共同研究者（2008～2012年度）.

環境省環境総合研究推進費「水田地帯の生物多様性再生に向けた自然資本・社会資本の評価と再生シナリオの提案」（研究代表者：夏原由博）, 研究分担者（2009～2011年度）.

琵琶湖博物館共同研究「竹生島および鶴の山におけるカワウ営巣林の森林衰退—回復過程の検証」（研究代表者：亀田佳代子）, 共同研究者（2010～2011年度）.

【学会等の役職・運営、論文の査読など】

日本環境社会学会, 理事, 2011年度～.

日本環境社会学会, 編集委員長, 2011年度～.

日本村落研究学会（阿蘇大会）実行委員会, 事務局, 2011年度.

日中社会学会, 査読, 1件.

印刷物

【学術論文】

- Dong, C., Zhu, W., Zhao, Y. Q. and Gao, M. (2011) Diurnal fluctuations in root oxygen release rate and dissolved oxygen budget in wetland mesocosm. *Desalination*, 272, Elsevier : 254-258.
- Dong, C., Zhu, W., Gao, M., Zhao, L. F., Huang, J. Y. and Zhao, Y. Q. (2011) Diurnal Fluctuations in Oxygen Release from Roots of *Acorus calamus* Linn in a Modeled Constructed Wetland. *Journal of Environmental Science and Health, Part A*, 46 (3), Taylor & Francis : 224-229.
- Huang, Y., Zhu, W., Qian, X., Zhang, N. and Zhou, X. (2011) Change of mechanical behavior between solidified and remolded solidified dredged materials. *Engineering Geology*, 119 (3-4), Elsevier : 112-119.
- Xu, Z., Zhu, W., Bao, J. and Chen, J. (2011) The fate of heavy metal during sub- and supercritical water gasification of sewage sludge. *International Symposium on Water Resource and Environmental Protection (ISWREP 2011)*, 02, IEEE : 1260-1263.
- Zhu, W., Xu, Z. R., Li, L. and He, C. (2011) The behavior of phosphorus in sub- and super-critical water gasification of sewage sludge. *Chemical Engineering Journal*, 171 (1), Elsevier : 190-196.
- Xu, Z. R., Zhu, W. and Htar, S. H. (2011) Partial oxidative gasification of municipal sludge in sub- and supercritical water. *Environmental Technology*, Taylor & Francis : DOI:10.1080/09593330.2011.618933.
- Xu, Z. R., Zhu, W. and Li, M. (2012) Influence of moisture content on the direct gasification of dewatered sludge via supercritical water. *International Journal of Hydrogen Energy*, 37 (8), Elsevier : 6527-6535.
- 何洪涛·朱伟·张春雷·王亮 (2011) 分层抽取法在泥沙沉积过程中的应用研究. *岩土力学*, 32 (8), 中国科学院 : 2371-2378.

【専門分野の著作】

- 陈凤兰·朱伟·李林·李明·罗永刚·陆琳 (2011) 水华暴发过程中铜绿微囊藻细胞氮磷含量的变化规律. *International conference on energy and environment (ICEE)*, 6, ICEE : 116-119.
- 张云慧·朱伟·黄靖宇 (2011) 生物膜强化表流湿地处理生活污水的试验研究. *International Conference on Earth Sciences and Engineering (ICESE)*, 6, ICESE : 418-421.
- 王永平·朱伟·徐志荣·李磊 (2011) 污水厂污泥胞内水溶脱试验研究. *International conference on energy and environment (ICEE)*, 6, ICEE : 172-175.
- 孙晓辉·朱伟·徐志荣 (2011) 污泥固化/稳定化处理中强度发生机理研究. *International Conference on Earth Sciences and Engineering (ICESE)*, 6, ICESE : 397-400.
- 贺敏杰·朱伟·徐志荣 (2011) 污水厂污泥砂井固结排水试验及数值分析. *International Conference on Multimedia Technology (ICMT)*, 2, ICMT : 1791-1795.
- 左佳·朱伟, 闵凡路 (2011) 盾构隧道壁后注浆材料固结-胶结特性研究. *地球科学与工程国际学术会议*, 5, 地球科学与工程国际学术会议 : 536-540.
- 朱伟·闵凡路·夏胜全·魏代伟 (2011) 南京长江隧道开挖面稳定性控制及开仓维护实例研究. *第六届中日盾构隧道技术交流会* : 324-329.
- 夏胜全·闵凡路·朱伟·魏代伟 (2011) 泥水盾构泥膜气密性试验研究. *第六届中日盾构隧道技术交流会* : 330-334
- 魏代伟·闵凡路·朱伟·王睿 (2011) 泥浆特性对中砂中泥浆滤水量影响的试验研究. *第六届中日盾构隧道技术交流会* : 335-339.
- 陈家伟·朱伟·赵干 (2011) 淤泥间隙水中重金属浓度与淤泥重金属含量之间关系的试验研究. *International*

研究活動に関する業績

【学会・研究会での発表】

朱 偉 (2011年10月21日) 中国太湖におけるアオコ発生および *Microcystis* 群体化現象の解明. 琵琶湖博物館研究セミナー, 琵琶湖博物館, 琵琶湖博物館 (滋賀県草津市), [口頭発表].

総合研究・共同研究による印刷物

- Blakemore, R. J. and Grygier, M. J. (2011) Unraveling some Kinki worms (Annelida, Oligochaeta, Megadrili, Lumbricidae) – Part III. Soil Organisms, 83 (2), Senckenberg Museum of Natural History Görlitz : 265-278.
- Gagarin, V. G. (2011) Some data on the fauna of free-living nematodes in Lake Biwa (Japan). *Biologiya Vnutrennykh Vod*, 2011 (4), I.D. Papanin Institute for the Biology of Inland Waters of the Russian Academy of Sciences : 36-40 (ロシア語). [英訳: Some data on the fauna of free-living nematodes of Lake Biwa (Japan). *Inland Water Biology*, 2011 (4), MAIK Nauka/Interperiodica : 435-439].
- Gagarin, V. G. (2011) *Calodorylaimus limnophilus* sp. n. (Nematoda, Dorylaimida, Dorylaimidae) from Lake Biwa, Japan. *Zoologicheskii Zhurnal*, 90 (10), MAIK Nauka/Interperiodica : 1-4 (ロシア語).
- Genkal, S. I. (2011) New data on the morphology of *Stephanodiscus suzukii* (Bacillariophyta). *Novisti Sistematiki Nizshikh Rasteniy*, 45, Komarov Botanical Institute, Russian Academy of Sciences : 17-19, Pls. I-II (ロシア語).
- 橋本道範 (2011) 資料情報のネットワーク化. 八尋克郎・布谷知夫・里口保文 編, *博物館でまなぶ 利用と保存の資料論*, 八坂書房, 東京 : 99-113.
- Hirose, M. and Mawatari, S. F. (2011) Freshwater Bryozoa of Lake Biwa, Japan. *Species Diversity*, 16, 日本動物分類学会 : 1-37.
- 金子有子・東 善広・佐々木 寧・辰己 勝・橋本啓史・須川 恒・石川可奈子・芳賀裕樹・井上栄壮・西野麻知子 (2012) 湖岸生態系の保全・修復および管理に関する政策課題研究—湖岸地形と生物からみた琵琶湖岸の現状と変遷および保全の方向性—. *滋賀県琵琶湖環境科学研究センター研究報告*, 7, 滋賀県琵琶湖環境科学研究センター : 112-147.
- Kobayashi, T., Ohtaka, A, Kasuya, S. and Kaga, K. (2011) *Hydrobaenus tsugaruensis* sp.n. with extremely short male antenna from Tsugaru peninsula, northern Japan (Diptera: Chironomidae). Wang, X. and Liu, W. (eds.): *Contemporary Chironomid Studies – Proceedings of the 17th International Symposium on Chironomidae*, Nankai University Press, Tianjin : 73-87.
- Kuwahara, M., Takahashi, H., Kikko, T., Kurumi, S. and Iguchi, K (2012) Introgression of *Oncorhynchus masou* subsp. (Biwa salmon) genome into lake-run *O. m. ishikawae* (Amago salmon) introduced into Lake Biwa. *Ichthyological Research*, 59 (3), Springer: Online first, DOI : 10.1007/s10228-011-0270-y.
- 前迫ゆり・大場達之 (2011) カワウ営巣地竹生島に拡大する外来種アオスズメノカタビラ. *関西自然保護機構会誌*, 33, 関西自然保護機構会 : 45-52.
- 牧野厚史 (2011) 記憶の中にある資料の保存. 八尋克郎・布谷知夫・里口保文 編, *博物館でまなぶ 利用と保存の資料論*, 八坂書房, 東京 : 85-98.
- 中島経夫 (2011) 参加型調査による資料収集. 八尋克郎・布谷知夫・里口保文 編, *博物館でまなぶ 利用と保存の資料論*, 八坂書房, 東京 : 117-122.
- Nishimura, Y., Ohtsuka, T., Yoshiyama, K., Nakai, D., Shibahara, F. and Maehata, M. (2011) Cascading effects of larval Crucian carp introduction on phytoplankton and microbial communities in a paddy field: top-down and bottom-up controls. *Ecological Research*, 26, Springer : 615-626.
- Nunomura, N. (2011) A new species of the terrestrial isopod genus *Spherillo* (Crustacea: Isopoda: Armadillidae) from Kii Peninsula, Japan. *Bulletin of the Toyama Science Museum*, 34, 富山市科学博物館 : 67-71.
- 布谷知夫 (2011) 博物館資料とは. 八尋克郎・布谷知夫・里口保文 編, *博物館でまなぶ 利用と保存の資料論*, 八

- 坂書房, 東京 : 9-33.
- 布谷知夫 (2011) 博物館資料の新しい利用法. 八尋克郎・布谷知夫・里口保文 編, *博物館でまなぶ 利用と保存の資料論*, 八坂書房, 東京 : 123-145.
- 布谷知夫 (2011) 博物館資料の課題と展望. 八尋克郎・布谷知夫・里口保文 編, *博物館でまなぶ 利用と保存の資料論*, 八坂書房, 東京 : 147-151.
- 佐々木秀彦 (2011) 博物館法にみる資料のとらえ方. 八尋克郎・布谷知夫・里口保文 編, *博物館でまなぶ 利用と保存の資料論*, 八坂書房, 東京 : 41-57.
- 里口保文 (2011) 失われゆく資料の保存と利用法. 八尋克郎・布谷知夫・里口保文 編, *博物館でまなぶ 利用と保存の資料論*, 八坂書房, 東京 : 61-84.
- Scholz, T., Brabec, J., Král'ová-Hromadová, I., Oros, M., Bazsalovicsová, E., Ermolenko, A. and Hanzelová, V. (2011) Revision of *Khawia* spp. (Cestoda: Caryophyllidea), parasites of cyprinid fish, including a key to their identification and molecular phylogeny. *Folia Parasitologica*, 58 (3), Institute of Parasitology, Biology Centre of the Academy of Sciences of the Czech Republic : 197-223.
- 滋賀県チョウ類分布研究会 編 (2011) 滋賀県のチョウ類の分布. *琵琶湖博物館研究調査報告*, 27, 滋賀県立琵琶湖博物館, 草津 : 193 p.
- Shimazu, T., Urabe, M. and Grygier, M. J. (2011) Digeneans (Trematoda) parasitic in freshwater fishes (Osteichthyes of the Lake Biwa basin in Shiga Prefecture, central Honshu, Japan. *National Museum of Nature and Science Monographs*, 43, 国立科学博物館 : 1-105.
- Smith, R. J. (2011) Groundwater, spring and interstitial Ostracoda (Crustacea) from Shiga Prefecture, Japan, including descriptions of three new species of one new genus. *Zootaxa*, 3140, Magnolia Press : 15-37.
- Smith, R. J., Janz, H. and Okubo, I. (2011) Recent Cyprididae and Ilyocyprididae (Crustacea: Ostracoda) from Lake Biwa, Japan, including descriptions of two new species and a summary of the lake's ostracod fauna. *Zootaxa*, 2874, Magnolia Press : 1-37.
- 蘇 智慧・石渡啓介 (2011) 第16章 ゲノム情報から昆虫の起源と進化を探る—分子系統からみた昆虫類の系統関係および甲殻類との近縁性. 園部治之・長澤寛道 監修, *脱皮・変態の生物学—昆虫と甲殻類のホルモン作用の謎を追う*, 東海大学出版会, 秦野 : 353-375.
- Sun, P., Clamp, J. C., Xu, D., Kusuoka, Y. and Hori, M. (2011) Molecular phylogeny of the family Vorticellidae (Ciliophora, Peritrichia) using combined datasets with a special emphasis on the three morphologically similar genera *Carchesium*, *Epicarchesium* and *Apocarchesium*. *International Journal of Systematic and Evolutionary Morphology*, 61, Society for General Microbiology : 1001-1010.
- Sun, P., Clamp, J., Xu, D., Kusuoka, Y. and Wei, M. (2012) *Vorticella* Linnaeus, 1767 (Ciliophora, Oligohymenophora, Peritrichia) is a grade not a clade: Redefinition of *Vorticella* and the families Vorticellidae and Astylozoidae using molecular characters derived from the gene coding for small subunit ribosomal RNA. *Protist*, 163 (1), Urban & Fischer : 129-142.
- 富川 光・森野 浩 (2012) 日本産淡水ヨコエビ類の分類と見分け方. *タクサ*, 32, 日本動物分類学会 : 39-51.
- 内田明彦 (2012) 滋賀県におけるオオムラサキの分布変遷. *やどりが*, 232, 日本鱗翅学会 : 6-11.
- Vd'áčný, P., Orsi, W., Bourland, W. A., Shimano, S., Epstein, S. S. and Foissner, W. (2011) Morphological and molecular phylogeny of dileptid and tracheliid ciliates: Resolution at the base of the class Litostomata (Ciliophora, Rhynchostomatia). *European Journal of Protistology*, 47, Urban & Fischer : 295-313.
- 八尋克郎 (2011) なぜ今博物館で資料論なのか. 八尋克郎・布谷知夫・里口保文 編, *博物館でまなぶ 利用と保存の資料論*, 八坂書房, 東京 : 1-6.
- 八尋克郎 (2011) 博物館における資料研究のあゆみ. 八尋克郎・布谷知夫・里口保文 編, *博物館でまなぶ 利用と保存の資料論*, 八坂書房, 東京 : 35-39.

- 楊 平 (2012) 環境資源としての水を生かした村の実践—琵琶湖からみた太湖との比較研究の試み—, *日中社会学研究*, 19, 日中社会学会 : 142-158.
- 楊 平 (2012) 中国・太湖における暮らしと景観の保全. 内山純蔵・カティ リンドストロム 編, *東アジア内海文化圏の景観史と環境 第3巻 景観から未来へ*, 昭和堂, 東京 : 214-227.
- Yang, P., Zhu, W. and Tan, X. (2011) Comparative environmental analyses of paddy fields in two lake catchment areas: Lake TaiHu China and Lake Biwa Japan. *2011 International Symposium on Water Resource and Environmental Protection (ISWREP 2011)*, Vol. 4, IEEE, Piscataway : 2597-2600.
- 用田政晴 (2011) 太湖の家船と琵琶湖の「家船」, *淡海文化財論叢*, 3, 淡海文化財論叢刊行会 : 254-259.

*編集者注 : 著者の順番は、様々な分野で異なった様式があると思われるが、分野等は考慮せず、著者のアルファベット順に並べた。

2011 年度の研究活動をふり返って

琵琶湖博物館中長期基本計画では、琵琶湖博物館ならではの学際的・地域的研究の確立をはかることを目標にしている。今年度は、統合研究による成果報告の講演等開催1回、外部資金を得て行った学際的・地域的研究成果の展示1回を目標値とした。前者については、今年度は統合研究による成果報告の講演等は開催しなかったが、来年度に開催する見込みである。後者については、外部資金を得て行った学際的・地域的な研究に関する成果の公表として、ギャラリー展示「民具を科学する」を2012年1月7日～3月11日に開催し、好評を得た。また、科学研究費などの外部資金の獲得を組織的に取り組んでおり、今年度科学研究費については、新規に9件のうち4件が採択され、採択率44%と全国的にも高い数字を誇る結果となった。一方で科研費の経理事務体制が未整備で実態に追いついていないという課題もあり、事務部局を含めた体制の整備が望まれるところである。今後も科研費申請は研究を本務とする学芸職員の義務という位置づけは継続していく必要がある。

研究の発信は、学術論文28件、専門分野の著作57件、一般向けの著作153件、学会発表は71件で、学術論文は前年を数では上回った。こうした論文等による研究成果の発信数には、依然として個人差があるが、あらゆる媒体や方法を使って発信をしていきたい。「生命の湖 琵琶湖」（文一総合出版）や中日新聞連載コラム「湖岸より」、毎日新聞連載コラム「ここだけの湖の話」などへの執筆によって、一般向けの著作数は昨年度よりは増加した。今後も、研究の成果をわかりやすく一般の方に伝えることを継続するとともに、その充実を図っていきたい。

また、本年度は、昨年度の新琵琶湖学創造セミナーに続き、新琵琶湖学セミナー「時空を超えて湖と人の関係性をみる」と題したやや専門的な一般向けの講座を開催した。今回のセミナーでは、湖と人の関わりを歴史的な視点から探求し、その有様を時間軸に沿って見つめ直し、現在や将来を考える話題を提供することが目的であった。博物館の閑散期にあたる2月から3月まで計5日間にわたって、内部・外部の講師による10本の発表を行い、毎回定員70名を超える応募があるなど好評であった。今後も、湖と人の関わりについて視点を変えて探求していくセミナーの開催が望まれる。

研究部長 八尋克郎

琵琶湖博物館業績目録 第16号

2011年度

平成24年(2012年)8月発行

編集：滋賀県立琵琶湖博物館

発行：滋賀県立琵琶湖博物館

〒525-0001 滋賀県草津市下物町1091

電話 077-568-4811(代)